

# 研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係



# 第1章 研究抄録関係

## 1. 病院における研究（課題別研究費）

### <研究課題1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

### <研究者氏名>

所属部 放射線診断・IVR部

研究者氏名 稲葉吉隆

共同研究者 女屋博昭、山浦秀和、佐藤洋造、加藤弥菜、村田慎一、長谷川貴章、茶谷祥平、塚本裕一

### 【目的】

大腸癌は最も肝転移をきたす頻度の高い癌種であるが、切除不能大腸癌肝転移には、FOLFORI療法およびFOLFOX療法導入前までは5-FUによる肝動注化学療法が本邦では広く行われていた。肝動注化学療法の一次治療としての成績は、国内の第Ⅱ相試験で生存期間中央値が19～26ヵ月と報告され、また、IVR技術を用いた肝動注リザーバー・カテーテルシステムの設置による肝動注化学療法は副作用も軽微で、高い実行性が示されていたが、全身化学療法とのランダム化比較試験およびそれらのメタ分析で生存期間における優位性が示されなかったことより、肝動注化学療法が実施される機会は減少していった。

そういった状況ではあるが、肝動注の薬理学的有利性を前提に、肝動注療法を含めた治療戦略の検討がなされ、全身化学療法と肝動注化学療法の併用による良好な治療成績が報告されている。現在では、フッ化ピリミジン、オキサリプラチン、イリノテカンの3剤の殺細胞性抗癌剤に分子標的治療薬の2剤（抗血管内皮細胞増殖因子抗体薬と抗上皮成長因子受容体抗体薬）を加えた5剤を併用したレジメンが一次、二次治療として行われることが標準となっているが、この5剤使用後も肝動注療法により長期生存が得られたとする報告もみられる。三次治療以降の後方ライン治療として承認されているレゴラフェニブとトリフルリジン・チピラシル（TAS-102）の報告される副作用に比べて肝動注の副作用は軽微であるため、なお肝転移が予後規定因子である場合には、肝動注療法が選択される場合はあると思われる。

そこで、標準的化学療法としての5剤使用後の肝動注療法の実臨床での治療成績を把握するための多施設調査研究を計画した。

### 【方法】

#### 対象症例

以下の条件をすべて満たす症例を適確として情報を収集する。  
①予後規定因子と判断された切除不能大腸癌肝転移有する。  
②フッ化ピリミジン、オキサリプラチン、イリノテカン、ペバシズマブ、セツキシマブまたはパニツムマブの5剤（RAS遺伝子異常の場合はセツキシマブまたはパニツムマブを除く4剤）に

よる標準的全身化学療法実施している。③標準的全身化学療法後にリザーバー肝動注化学療法を実施している。

調査対象期間は、セツキシマブが使用可能となった2008年9月以降から2015年12月とした。

### 評価項目

主要評価項目は、肝動注化学療法開始からの全生存期間であり、副次的評価項目は、肝動注化学療法実施期間、腫瘍縮小割合、病勢制御割合、治療効果に影響を及ぼす因子の探索、有害事象の種類と頻度とした。

### 【結果】

7施設から137例の登録を得た。年齢中央値は62歳（28～89歳）で、男性85例・女性52例であり、肝外病変なしが40例、ありが97例であった。前治療は、5剤使用が78例、RAS遺伝子異常のためセツキシマブまたはパニツムマブを除く4剤使用が57例、血管病変合併のためペバシズマブを除く4剤使用が2例であった。肝動注のレジメンは、5FU単独が112例、CDDP+5FU併用療法が16例、その他が9例であった。

肝動注治療期間中央値は73日、肝動注開始からの全生存期間中央値は145日（4.8か月）、奏効割合は12.4%、病変制御割合は64.2%であった。Grade3-4有害事象は、血中ビリルビン増加2例、肝膿瘍1例、好中球減少1例であった。なお、後治療実施割合は30.7%であった。生存に影響する因子は、奏効・制御の有無（制御あり6.0か月、なし3.4か月）と肝外病変の有無（肝外病変なし6.5か月、あり4.4か月）であった。

### 【考察】

進行・再発大腸癌の3次治療以降で使用されるレゴラフェニブとトリフルリジン・チピラシル（TAS-102）の開発治験での全生存期間中央値は6.4か月と7.1か月であったが、それと比較すると肝動注の成績は4.8か月と劣るものであった。しかしながら、肝外病変がないと判断される症例では6.5か月と匹敵するものであった。また、肝動注の有害事象はレゴラフェニブとTAS-102での報告に比べ、明らかに軽微であった。

以上より、患者の病態によっては肝動注は十分利用できる代替治療法と考えられた。

### <研究課題2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk

### <研究者氏名>

所属部 乳腺科部

研究者氏名 岩田広治  
共同研究者 澤木正孝、服部正也、吉村章代、権藤なおみ、  
小谷はるる、安立弥生

### 【1年間の総括】

この1年間で乳癌の術前後薬物療法に関して、標準治療を変えるような重要な報告が日本からもいくつかされ、乳がん術後患者の予後はさらに改善の方向である。今後は無用な抗がん剤を省く de-escalation の方向と共に、サブタイプに応じた術前薬物療法による response guide therapy が主流になってくる時代の幕開けを感じる1年であった。

#### 1：術後内分泌療法

報告：閉経前乳癌に対しては TAM の5年投与、リスクの高い方や年齢の若い方（35歳以下）には LH-RHa + TAM の併用が標準治療として定着し、カンファレンスでも議論になることは少ない。5年から10年の長期投与についても、リンパ節転移陽性など再発リスクの高い方へは積極的に長期投与を推奨している状況である。閉経後乳癌に対しては日本で実施した AERAS 試験の結果が2018年末に報告され、AI剤10年投与の有用性（5年に比較して）が示された。2018年に NEJM に ER 陽性乳癌の長期フォローによる晩期再発リスクが予想以上に高いことが明確になった。術後20年の遠隔再発リスクは T1N0 で13%、T2N4-9 では41%にまで上昇する。AI剤の10年投与が多くの方に推奨される時代になってきている。さらに2018年度には再発リスクの高い方に、CDK4/6 阻害剤（Abemaciclib）を術後投与する治験（MonarchE 試験）が実施され、2019年登録はすべて終了した。

#### 2：術後化学療法に関する研究

報告：“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんにおける化学療法の適応を判断する OncotypeDX が世界標準として広く行われる時代に、2018年度時点で日本での保険承認が得られず普及に至っていないのは残念である。High risk 患者に対して術前化学療法を施行後 non pCR であった方へのゼロダ投与が、既に標準治療と位置付けられるにいたっている。G-CSF 併用による dose-dense therapy が日本の中でもハイリスクの方への標準治療となりつつあるが、当院では有害事象とのバランスが悪く、現時点では標準治療としての導入は見合わせている。2018年度、術後化学療法の副作用による QOL 低下を予防する目的で、paclitaxel の末梢神経障害を軽減するための surgical glove の有用性を検証する臨床試験や、脱毛予防のための Cool cap の有用性を検証する臨床試験を in house で実施した。

#### 3：術後分子標的治療に関する研究

報告：術後 Trastuzumab 1年投与が標準治療であることに変わりはないが、2018年度は再発リスクの高い方への Pertuzumab 併用が保険適応になり標準的として位置づけられた。逆に再発リスクの低い方へは、アドリアマイシンの心毒性を回避するために、ACP trial の結果を基に weekly Paclitaxel + Trastuzumab レジメンが積極的に実施されている。Neratinib が2018年度にUSに続きEUでも承認されたが、日本での承認はまだであり、今後 HER2

陽性・ER 陽性の再発リスクの高い方への保険承認が待たれる。さらに2018年末に術前薬物療法（抗がん剤+抗HER2療法）で non-pCR の患者に対して術後 T-DM1 の Trastuzumab に対する優越性が示された（KATHERINE 試験）。この試験に日本は不参加であり、残念ながら今後の保険承認の道筋が見えていない。

#### 4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する第III相多施設共同比較試験（NEOS study：PIは岩田）の長期予後の結果を2018年 ESMO で発表した。術前内分泌療法で PD になった方の予後は、それ以外（CR, PR, SD）の方と比較して有意に不良であった。現在論文文化を進めているところであり、2020年には primary endpoint の結果も報告する予定である。JBCRG では術前内分泌療法+CDK4/6 阻害剤（palbociclib）併用の医師主導治験も開始された。JCOG では HER2 陽性乳癌に対して化学療法+抗HER2療法で cCR になった症例での手術省略試験を2019年度に開始予定である。

今後は手術可能な乳癌に対しても、サブタイプに応じた術前薬物療法を積極的に実施して、効果による治療選択（response guide therapy：術後治療選択、非切除など）が標準治療となるような時代の流れを感じる。

### <研究課題3>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発  
Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

### <研究者氏名>

所属部 臨床検査部  
研究代表者 谷田部 恭  
共同研究者 亀井慶子、尾関順子、長谷川かおり、吉野 聡、  
藤田奈央、村上裕美、柴田典子

### 【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学部門では、FT3の測定試薬に関する検討を行った。より正確で再現性のある測定値を報告できるようキャリブレーションの方法を2ポイント法から6ポイント法に変更し、新試薬と現行試薬との相関をとった。また、新試薬の測定精度を検証した。相関は良好で、新試薬の測定精度も問題なく試薬変更を行った。これにより、より精度の高い正確な検査結果を報告可能となり、施設間差の是正もより確実となった。また、これまで生化学検体を凝固促進のために37℃で10分ほど加温していたが、それによる検査データへの影響がどのくらいあるのかを生化学検査項目全てで検討した。LDHが4例中1例で10%上昇し、GLUは4例中4例とも低値となり最大で6%であった。それ以外の項目については有意な差はなかった。LDHの結果から37℃で加温することで目には見えない程度の溶血が起き

たと考えられた。また、GLUの結果から、加温することで解糖系がより早く進むことが考えられた。特に臨床的には問題ない程度ではあるが、加温しても数分しか凝固時間が早くならないことから、37℃で加温することをやめることとした。

血液検査部門では、従来より用手法で行っていた骨髓穿刺液の有核細胞数カウントおよび網赤血球カウントを多項目自動血球分析装置（XN-3000、以下XN）で算定可能かどうかを検討した。従来、有核細胞数のカウントはチュルク液で希釈した検体を計算盤で目視カウントを、網赤血球はBKB染色液で超生体染色したものを顕微鏡下で目視カウントしていた。今回の検討ではEDTA-2Na採血管に採取した骨髓液を用いXNで計測した。XNでの有核細胞数カウントは96%が許容基準に入り、従来法からXNでの測定に置き換えることが可能と考えられた。また網赤血球カウントでは従来法は個人差によるばらつきが懸念されたが、XNでは解析細胞数が圧倒的に多いため再現性が高いと思われた。しかしサンプリング量が少量の場合には、従来法の用手法であれば必要検体量が微量でも検査可能なため、状況に応じて検体の処理を行えるようトレーニングを行っている。

生理検査部門では、マスター2階段負荷試験の依頼に対し、検査を安全に実施するためのチェックシートを利用した効果を検証した。対象は、マスター2階段負荷試験を中止した患者で、チェックシートの利用前後の負荷中止理由を比較した。患者の背景は消化器外科、呼吸器外科、頭頸部が多く、検査目的はほとんどが術前であった。チェックシートには、負荷を中止する既往（急性冠症候群、心房細動など）や心電図所見（左脚ブロック、ST異常など）及び注意して実施する症例を明文化し、検査時の体調や入室の様子、負荷中の自覚症状（胸痛・動悸など）や他覚症状（ふらつき・顔面蒼白など）を問診及び観察した結果を記入できるようにした。その結果、急性冠症候群の既往による負荷中止率が3%から16%に、ふらつきなどの体調不良例が15%から19%に増加した。チェックシートの活用により問診や観察を的確に行うことができ、心事故発生や転倒の防止につながる効果があると確認できた。

病理検査部門では、これまで薄切した検体切片をスライドガラスに貼付する際に、検体識別の手段として手書きによる記入を行ってきた。しかし、パラフィンブロックに標識しているラベルから写し書きをするため、見間違いや書き間違いがしばしばおこり、その確認手順を設ける必要があった。そこでゲノム診療用病理組織検体取扱い規程で推奨されている検体管理のバーコード化の検討を行った。まず上記規程を参考にスタッフに対しアンケート調査を実施した。その結果、運用次第との回答であったため、実際に運用している名古屋大学医学部付属病院へ視察に行った。結論として、標本作製プロセスのすべてをシステム管理する必要がある、当院としてはこれまで培ってきた手順・運用法とのバランスを考え、免疫染色のオートメーション化と今後のバーコード化の一助としてのスライド印字機導入が、今できる最適な手段であるという結論に至った。

実働には至っていないが、最適な方法が見つかったことは、今後の安全な検体処理作業に大きな成果である。

細胞診検査部門では、癌性胸水を呈した甲状腺癌の臨床像および細胞像の特徴について検討した。甲状腺癌は予後良好な腫

瘍として知られ、癌性胸水を呈することは極めて稀とされる。当センターにおいては2000年から現在までに癌性胸水を呈した甲状腺癌症例は10例であった。これは当該期間の癌性胸水の0.7%と報告の通り稀な病態であった。患者背景として、原発巣の組織型は乳頭癌が最も多く、局所浸潤傾向の強い腫瘍であった。また癌性胸水発症時、全例が肺転移を伴っていた。出現した腫瘍細胞の特徴としては、乳頭癌に特徴的な核内細胞質封入体や核溝は目立たず、核異型も軽度であった。甲状腺癌による癌性胸水は稀な病態であり、原発巣の細胞像とは差異がみられ診断には注意を要すると考えられた。今回の検討結果を日常の細胞診断業務に取り入れていく。

細菌検査部門では、血液培養時間（日数）と培養時間延長による陽性菌種の検討を行った。血液培養検査は、がん患者の感染症診療において重要な検査であり、また起因菌の特定は、適切な抗菌薬治療を可能にする。現在、当検査室では血液培養検査において、CLSI（米国臨床検査標準化委員会）推奨である7日間の培養を行っているが、免疫低下者から検出される*Helicobacter cinaedi*など一部の細菌においては、7日間以上の培養日数を要することが報告されている。今回、当院の培養時間（7日間）の妥当性、また発育した菌種から臨床的意義がある菌かどうかの評価を行った。研究対象検体は、2019年4月から6月まで845件の血液培養検査検体で、通常の7日間培養後、血液培養ボトルのまま3日間の培養延長を行い、さらに平板培地で3日間の培養延長をおこなった。対象期間のうち培養時間延長による陽性検体は7件で、検出菌種は、*Propionibacterium acnes* 3件、*Eggerthella lenta*、*Staphylococcus saccharolyticus*、*Clostridium clostridioforme*、*Klebsiella pneumoniae*がそれぞれ1件ずつであり、長期の培養時間を要すると報告されている菌種の検出はなく、現在の培養時間で妥当であると判断した。

菌種の評価としては、コンタミネーションが3件、起因菌の可能性のある（菌血症）ものが4件であった。このうち起因菌の可能性のある事例で、抗菌薬使用中が2件あり、抗菌薬の影響が検出時間（培養陽性時間）を遅らせた可能性がある。培養時間延長での検出時には、患者の状態はすでに安定しており、培養時間の延長による菌種の検出ではなく、血液培養ボトル内の抗菌薬の影響を少なくし、より早い培養時間での検出および迅速な報告が必要であると考えられた。

血液培養検査は、抗菌薬使用前に検査を行うことが原則であるが、当院では、免疫不全の患者が多く、抗菌薬の投与がすでに行われており、投与中での検査を行うことがしばしばある。今後は、より早い培養時間での菌検出、また抗菌薬により検出不可能であった菌の報告が行えるよう抗菌薬吸着ビーズ入りの血液培養ボトルの採用を検討し、より一層の感染症診療の向上を目指していきたい。

遺伝子検査部門では、これまで肺癌に限られていた免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大に対応するため、院内でのマイクロサテライト不安定性検査導入を検討した。多数の症例に対応可能とするため、免疫染色でスクリーニングした後に遺伝子検査を実施する（ユニバーサルスクリーニング）こととし、免疫染色の使用抗体についても検討を加えた。その結果、まずはPMS2、MSH6の2種類の免疫染色を実施し、その結果マイクロサテライト不安定性が疑われる症例に対して、MLH1免疫染



色、BRAF 遺伝子検査、MSI 遺伝子検査等の追加検査を実施するシステムとした。このシステムで2018年10月から2019年3月末までで334症例ものスクリーニング検査を実施し、内31症例でMSI 遺伝子検査を実施した。年々開発される新規治療薬に対するコンパニオン診断としての遺伝子検査の重要性を常に認識し、情報を収集し、臨床側の要望に対応できるよう検討を続けている。

#### <研究課題 4 >

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究  
Molecular approach to pathology diagnosis

#### <研究者氏名>

所 属 部 遺伝子病理診断部  
研究者氏名 谷田部 恭  
共同研究者 佐々木英一、村上善子、羽根田正隆、加藤省一、  
細田和貴、真砂勝泰、藤田史郎

#### 【目的】

2019年よりがんゲノム医療が本格的に始動するにあたって、組織学的な腫瘍細胞含有量の評価について検討した。hot-spot パネル、包括的がんゲノムプロファイリング検査いずれにおいてもパラレルシークエンサーをもちた検索では少なくとも20%以上の腫瘍細胞含有量が必要となる。その評価は病理診断医に委ねられているが、セルカウンターで細胞を計測する方法は実際には取られておらず、経験的に判断されているのが実情である。そこで、病理診断医の腫瘍細胞含有量評価の現状を把握するとともに、一定の指標をもとにすることでその評価がどのように変化するかを検討した。

#### 【方法】

東海地区のがんゲノム中核拠点病院、連携病院の9名の病理診断医により、18例の病理組織標本についての評価解析を行った。まずは現状を把握するために、現在それぞれの施設で行っている方法で評価した。次に、異なる9例を用いてどのように評価すべきかについての詳細なセミナーを行った後、その方法を用いて18例を再評価した。すべての評価対象症例はFoundationOne CDxで解析を行い、複数の遺伝子変異の allele fraction から腫瘍細胞含有量が推測することができる症例を用いた。そのため、腫瘍細胞含有量の比較標準として、結果から推測される腫瘍細胞含有量およびFoundation Medicine Instituteの病理医の評価を用いた。

#### 【結果】

2つの比較標準の間には大きな差は認められなかったが、がんゲノム医療関連病院の腫瘍細胞含有量の評価は、比較標準いずれからも統計的に有意に高い傾向を示した。セミナー後の評価においては、高い傾向は解消され、統計学的差異も認められなかった。

#### 【考察】

経験的になされる腫瘍細胞含有量の評価は過剰評価される傾向があることが判明した。このため、基準を満たすと考えられた検体が、実際は腫瘍細胞含有量が低く、遺伝子パネル検査の検出限界値以下にあたる場合は偽陰性を示してしまう可能性がある。これを解決するために、適切な評価基準を用いることで、正確な遺伝子パネル検査が施行可能となり得ることを示すことができた。

#### <研究課題 5 >

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用  
Clinical application of IMRT using Helical Tomotherapy

#### <研究者氏名>

所 属 部 放射線治療部  
研究者氏名 古平 毅  
共同研究者 立花弘之、田中 寛、小出雄太郎

#### 【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー（TomoTherapy 社 TomoTherapy Hi-Art System）が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

#### 【方法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィーを実施してきた。

2006/6より頭頸部癌のIMRTを実施してきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するととどめる。対象は2002年以降2015年までに化学放射線療法を行った上咽頭がん患者132名で年齢は中央値54.5歳（11-76）、男性：女性 = 98：34という内訳だった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は60月、5年粗生存率、無増悪生存率、局所制御率、無遠隔転移制御率は75.2%、64.2%、79.9%、86.9%であった。G2以上の唾液腺障害は1/2年で22/27%であった。治療成績は良好でありかつ従来法で得られなかった唾液腺機能温存が達成でき本治療法の有益性が確認できた。

#### 【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

## 2. 研究所における研究（人当研究費）

### がん情報・対策研究分野

#### <研究課題> 1

**（主題）** がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究

**（副題）** 多発性骨髄腫の罹患と死亡の動向

#### <研究者氏名>

碓井喜明<sup>1)</sup>、松尾恵太郎、小柳友理子、尾瀬 功、松田智大<sup>2)</sup>、片野田耕太<sup>2)</sup>、前田嘉信<sup>3)</sup>、伊藤秀美

#### 【目的・概要・進捗状況】

多発性骨髄腫（骨髄腫）は高齢者に好発する予後不良の造血器腫瘍である。骨髄腫の治療は2000年代に入り劇的に変化し、サリドマイド、レナリドマイド、ボルテゾミブなどの新規薬剤が導入された。それによる生存期間の改善が臨床試験によって示されている。

住民ベースの情報から得られる骨髄腫死亡率の経年変化を評価することで、新規治療の公衆衛生的な効果を評価できる可能性があるが、これまでにこのような視点での検討はなされていない。本研究の目的は、日米の住民ベースのがん登録と人口動態死亡統計データを用い、新規薬剤導入前後の期間における骨髄腫の死亡率・罹患率の推移の特徴を記述することである。

日米それぞれ人口動態統計と Surveillance, Epidemiology, and End Results (SEER) データベースから1995年から2015年に骨髄腫（ICD-O-3: 9731/3, 9732/3, 9734/3）で死亡した74,972名と229,290名の情報を入手した。死亡の動向に影響の与える罹患の動向を捉えるため、日本は全国がん罹患推計のために収集した情報から13府県で1995年から2015年に骨髄腫に罹患した33,688人、米国ではSEERデータベースから同期間に9州で骨髄腫に罹患した37,121人の情報を入手した。WHO2000-2025標準人口を用いて年齢調整罹患率・死亡率を算出し、Joinpoint解析により、経年変化の特徴を変曲点と年変化率で評価した。

日本では、罹患率は観察期間中一貫して増加していた [年変化率、-0.8% (0.5-1.1%) ]。それに対し、死亡率 (95% CI) は、2005年までは変化していなかったが、以後は減少に転じ、人口10万対1.23 (1.19-1.27) から年変化率-2.5% (-2.9- -2.1%) で減少していた。米国では、罹患率の増減は認められなかったが、死亡率は2002年まで年変化率が-0.9% (-1.4- -0.5%) であったが、その後2002年から2009年にかけて、人口10万人対2.54 (2.49-2.59) から年変化率-2.0% (-2.6- -1.5%) で減少しており減少の程度が大きくなっていった。

日米それぞれの2005年と2002年の変曲点は、最初の新規薬剤I/II相試験開始から認可されるまでの期間内にあり、新規薬剤の導入が骨髄腫の死亡率の低下に寄与している可能性が示唆された。

#### 【今後の方向】

今後は年齢群別に同様の解析を行い、年齢群別に新規薬剤導入の影響がどうかを検討する予定である。また、リンパ腫など他の造血器腫瘍においても同様の評価をする予定である。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント、<sup>2)</sup> 国立がん研究センターがん情報対策センター、<sup>3)</sup> 岡山大学医歯薬総合研究科

#### <研究課題> 2

**（主題）** 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信

**（副題）** 喫煙と膵臓がん：日本の10コホート研究のプール解析

#### <研究者氏名>

小柳友理子、伊藤秀美、松尾恵太郎、尾瀬 功、井上真奈美<sup>1)</sup>

#### 【目的・概要・進捗状況】

喫煙と膵臓がんリスクとの関連は、多くのエビデンスから確実であるとされている。しかしながら、喫煙の定量的なリスク評価に関して日本人を含むアジア人における大規模な前向き疫学研究は不十分である。本研究の目的は、日本人において、膵臓がんリスクと喫煙との関連を、特に性差に焦点を当てて、検討することである。

本研究では、日本を代表する10コホート研究を対象としたプール解析を行なった。アウトカムは膵臓がん罹患、追跡期間は各研究の観察開始～観察終了、死亡、転出または膵臓がん罹患とした。Cox比例ハザードモデルを用いて研究毎のハザード比 (HR) と95%信頼区間 (CI) を計算し、変量効果モデルにより統合HRを推定した。

354,154人の参加者を対象とし、4,695,593人年の追跡調査期間中に、1,779件の膵臓がん罹患症例が確認された。喫煙非経験者に比べ現在喫煙者の膵臓がんリスクは男女とも増加していた (男性: HR 1.59, 95% CI 1.32-1.91; 女性 HR 1.81, 95% CI 1.43-2.30)。一方で、過去喫煙者や累積喫煙量が20 pack-year未満という低容量暴露の喫煙者でのリスク上昇は女性のみで認められ、この関連は受動喫煙への暴露を考慮しても一貫していた。トレンド分析では、男女とも累積喫煙量が10 pack-year増えるごとに膵臓がんリスクは6%ずつ増加していたが、男性で統計学的に有意であったのに対し女性では有意ではなかった。また、男性では禁煙後5年で喫煙非経験者と同等までリスクが下がっていたのに対し、女性では禁煙によるリスク軽減は認められなかった。

本研究により、日本人においても、確立された喫煙と膵臓がんとの関連を確認できた。さらに、日本人では膵臓がんにおける喫煙の影響には性差がある可能性が示唆された。禁煙は、特に男性において、膵臓がん予防に効果的であることが分かった。

## 【今後の方向】

がん予防研究分野や国立がん研究センターと共同し、日本人の膀胱がんのリスク要因、予防要因に関するエビデンスを創出する。

<sup>1)</sup> 国立がん研究センター社会と健康センター

## がん予防研究分野

### ＜研究課題＞ 1-1

（主題） 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明

（副題） 乳がんに関する遺伝子多型を伴うリスク予測法の開発並びにその評価

### ＜研究者氏名＞

尾瀬 功、伊藤秀美、春日井由美子、郡山千早<sup>1)</sup>、岩崎 基<sup>2)</sup>、谷山祐香里<sup>3)</sup>、大野ゆう子<sup>2)</sup>、松尾恵太郎

## 【目的・概要・進捗状況】

遺伝子多型が乳がんのリスクと関連する報告が積み重なって来たが、実際にそれをどう予防に応用するかに関しては確立されていない。我々は、昨年度、乳がんのリスク予測モデルを、当センターで実施してきた病院疫学データ、鹿児島大学・国立がん研究センターのデータを用いて検討し、22個の遺伝子多型の情報と疫学情報の組み合わせを用いたリスク予測モデルを構築した。また、遺伝子多型によるリスクに基づく生涯リスクの推定も行った。これらの情報に基づき、乳がんリスクのフィードバック介入の意義を評価する無作為化比較試験の計画を行った。

## 【今後の方向】

今後、二つの方向性に基づき研究を進展させる必要がある。一つは、次世代シーケンサー等を用いた家族性乳がん関連遺伝子の情報も用いたリスク予測モデルの構築を進め、より精密な個別化予防につながるエビデンスを創出する事である。もう一つは、研究課題2に挙げた、個別化予防のための方策を開発する事である。

<sup>1)</sup> 鹿児島大学、<sup>2)</sup> 国立がん研究センター、<sup>3)</sup> 大阪大学

### ＜研究課題＞ 1-2

（主題） 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明

（副題） ALDH2遺伝子多型と卵巣癌リスクの関連

### ＜研究者氏名＞

鶴飼知嵩、松尾恵太郎

## 【目的・概要・進捗状況】

ALDH2遺伝子多型は、アセトアルデヒド代謝に重要な役割を果たす遺伝子多型であり、頭頸部・食道がんのように、飲酒習慣と組み合わせる事でがん罹患リスクを大きくする遺伝子環境要因交互作用という現象が認められる。その一方、飲酒とは関連のないがん種においてもALDH2多型が罹患に影響を示す事例も散見される。本検討では、卵巣がんに関する国際コンソーシアムOvarian Cancer Association Consortiumのアジア人データを利用し、卵巣がんリスクに対するALDH2多型の意義、飲酒の意義、両者の遺伝子環境要因交互作用の有無に関する検討を実施した。飲酒は既報同様、卵巣がんリスクとの関連は認められなかった。その一方で、ALDH2は卵巣がんの中でもmucinous typeの卵巣がんにおいて、Lysアレル保持者においてリスクが低減するという結果を認めた。遺伝子環境要因交互作用は認められなかった。ALDH2 Lysアレルの飲酒忌避作用を考慮すると、一部の卵巣癌は飲酒そのもの、あるいは飲酒に伴う曝露による発がんが隠れている可能性が示された。

## 【今後の方向】

今後、乳がんに関しても国際コンソーシアムデータを行った解析を実施する予定である。

### ＜研究課題＞ 2

（主題） 研究課題1の結果に基づく個別化予防プログラムの開発

（副題） 乳がんに関する遺伝子多型を伴うリスク予測法のフィードバック介入試験

### ＜研究者氏名＞

尾瀬 功、鶴飼知嵩、春日井由美子、伊藤秀美、松尾恵太郎

## 【目的・概要・進捗状況】

課題1-1に示すよう、我々は22個の遺伝子多型の情報と疫学情報の組み合わせを用いたリスク予測モデルを新たに構築し、遺伝子多型によるリスクに基づく生涯リスクの推定も行った。これらの情報に基づき、乳がんリスクのフィードバック介入の意義を評価する無作為化比較試験を実施し、既に200名の対象者集積を終え、追跡調査を実施している。

## 【今後の方向】

現在介入後6ヶ月、3年、6年間の追跡調査を実施し、リスクフィードバックの意義を明らかにする。またリスクフィードバックの方法、個別化予防の他の方向性についても検討し、より実地的な予防法の開発を行う必要がある。



## 分子遺伝学分野

### <研究課題> 1

(主 題) 統合的ゲノム・エピゲノム・トランスクリプトーム解析による新規がん関連遺伝子の同定と機能解析

(副 題) 胃がんにおける新規がん促進遺伝子の同定と機能解析

### <研究者氏名>

河本知大<sup>1) 2)</sup>、増田清士<sup>3)</sup>、大辻英吾<sup>4)</sup>、井本逸勢

### 【目的・概要・進捗状況】

胃がんは未だ分子標的となるドライバー遺伝子異常がほとんど見つかっておらず、予後診断や治療法の開発には新たなドライバー遺伝子の同定が喫緊の課題である。われわれは、公共データベース (TCGA) を用いて胃がんのRNAシーケンスによる網羅的遺伝子発現データを解析し、がん部で非がん部に比べて発現が高く、かつがんでの高発現が予後不良 (全生存期間の短縮) と関連する遺伝子を抽出し、*Claudin-6 (CLDN6)* をがん促進遺伝子候補として同定した。CLDN6は、非がん部や多くの胃がんでは発現が極端に低いものの、主にintestinal typeの胃がんで高発現し、一般に予後不良なdiffuse type並みに予後を増悪させていた。また、多変量解析により年齢や病期などとは独立した予後因子となっていた。同様の所見は、公共データベース (GEO) にあるマイクロアレイによる網羅的遺伝子発現データでも再現された。蛋白発現を、intestinal typeの胃がんの免疫染色で検討すると、発現例では独立した予後因子とはならなかったものの予後と相関していた。CLDN6高発現細胞株に対してsiRNAを用いてCLDN6をノックダウンすると、細胞の増殖、運動、浸潤が抑制され、YAP遺伝子の転写抑制を介したYAP/TAZ-TEAD転写調節複合体の下流標的遺伝子の転写抑制を広く起こしていた。このことから、*CLDN6*は、特定の胃がん亜型において、少なくとも一部はがん遺伝子YAPを介してがん化促進に働く新たながん関連遺伝子であることが示された。

### 【今後の方向】

公共データベースの遺伝子発現データを用いた重層的な解析と自験例を用いた蛋白発現解析、機能解析を組み合わせることにより、効率よくがん関連遺伝子が同定できることが示された。次世代シーケンサーなどを用いたがんの遺伝子変異解析でも未だ十分な分子標的は見出されておらず、がん種によってはほとんど見つからないものもあることから、がんに特異的な遺伝子発現に着目し、体系的な解析を行うことで、さらにがん関連遺伝子を見出していきたい。

<sup>1)</sup> 研修生、<sup>2)</sup> 徳島大・医学部、<sup>3)</sup> 川崎医大、<sup>4)</sup> 京府医大

### <研究課題> 2

(主 題) 生殖細胞系列変異のがん発症に及ぼす影響の解明と発がんリスクフィードバック法の開発・評価

(副 題) 日本人卵巣がんにおける*BRCA1/2*遺伝子の病的バリエーションの検出

### <研究者氏名>

阿部彰子<sup>1)</sup>、河本知大<sup>2) 3)</sup>、増田清士<sup>4)</sup>、井本逸勢

### 【目的・概要・進捗状況】

国内の遺伝性腫瘍の原因遺伝子の病的バリエーションの保持者頻度やがん発症の浸透率、病態などは、未だデータが少なく、診療やサーベイランスに関するガイドライン、ガイダンスも未整備のものが多い。がん遺伝子パネル検査が保険収載されるに至っても、臨床的有用性が確立し遺伝学的検査やサーベイランスが提供可能であるため開示が望ましい遺伝性腫瘍原因遺伝子としては11種類に限られるうえ、エビデンスのある対応法が示されているものはわずかである。われわれは既に慶應大学病院の婦人科がんのバイオバンクを用いた共同研究により、卵巣がん (卵管がん、腹膜がんを含む) 患者230例中の遺伝性卵巣がんの原因遺伝子の頻度 (*BRCA1/2*で11.8%) や病態との関連を報告してきた。そこで、徳島大学病院の婦人科においてフォローされる卵巣がん患者全例に説明の上、研究参加に同意の得られた患者125名を対象に*BRCA1/2*を含むパネルでの遺伝学的検査を実施した。*BRCA1/2*の病的バリエーションの検出率は19例 (15.2%) で、*BRCA2* (13例) が*BRCA1* (6例) に比べて多かった。これら以外にも*RAD50*と*RAD51C*の病的バリエーションが各1例検出された。*BRCA1/2*の病的バリエーション陽性例の半数で明確な家族歴はなかった。

### 【今後の方向】

日本でも人口集中地域である東京 (慶應大学病院) と人口減少地域である徳島 (徳島大学病院) のサンプリングバイアスが比較的少ないと考えられる2つの卵巣癌患者コホートを対象にした生殖細胞系列の遺伝子バリエーション解析により、欧米での報告と変わらない頻度で*BRCA1/2*の病的バリエーションを検出した。今後、愛知県がんセンターの病院コホート (HERPACC) を対象にした症例対象研究により、*BRCA1/2*を含めた遺伝性腫瘍症候群原因遺伝子の病的バリエーションの疾患ならびに一般健常者の保持者頻度の解明を進めていきたい。

<sup>1)</sup> 徳島大、<sup>2)</sup> 研修生、<sup>3)</sup> 徳島大・医学部、<sup>4)</sup> 川崎医大

## がん病態生理学分野

### <研究課題> 1-1

- (主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副題) 腸管腫瘍形成におけるMyd88経路の役割の解析

### <研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられている。APC遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス（以下APC変異マウス）では、腸上皮細胞のAPC遺伝子座でのヘテロ接合性の消失（LOH）によるAPCの機能欠損の結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々は、APC変異マウスの腸管ポリープの成長にはWnt経路の活性化に加えて、mammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1) 経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1の活性化はその構成因子であるRaptorがJNKによってリン酸化されて引き起こされることなどを報告してきた。その後、我々はこれまでに、JNKの活性化を引き起こす因子の一つとしてIL-1βを見出し、マウス腸管組織由来オルガノイド培養とヒト大腸がん細胞株を用いた解析から、IL-1βによるJNKの活性化はAPCに変異が生じた細胞においてより引き起こされることを明らかにした。また、IL-1βシグナル伝達経路の主要なアダプター因子であるMyD88の機能を腸管上皮特異的に欠損させたところ、APC変異マウスにおける腸管ポリープ形成数が減少し、JNKの活性化が減弱していた。そして、このポリープ数の減少は、細胞増殖の減少とアポトーシスの増加によることを示唆する結果を得た。一方、MyD88の機能欠損によるアポトーシスは、腫瘍上皮細胞では誘導されるが、正常上皮細胞では誘導されず、MyD88の機能欠損がAPCに変異を持つ細胞のみを死滅させる、合成致死を誘導する可能性が示唆された。本年度は、このMyD88の機能抑制によるAPC変異細胞合成致死の分子機序を明らかにするため、特にNF-κB経路に着目して解析し、NF-κB経路関連因子が正常上皮細胞に比べ腫瘍上皮細胞において活性化していること、NF-κBによって発現誘導される因子の一つであるHIF-1αの発現レベルも腫瘍上皮細胞において増加していることを見出した。腫瘍上皮細胞においてみられたNF-κBおよびHIF-1αの発現増加は、MyD88の機能欠損により減少したことから、MyD88/NF-κB/HIF-1α経路が腫瘍の増進に関与する可能性が考えられる。また、この経路以外で、MyD88の機能抑制によるAPC変異細胞合成致死に関わる因子を明らかにするためプロテオーム解析を行い、候補因子の探索を進行中である。

### 【今後の方向】

MyD88/NF-κB/HIF-1α経路が腫瘍形成を増進するメカニズムについて解析を進める。また、プロテオーム解析により得られた、MyD88の機能欠損によるAPC変異細胞の合成致死誘導

に関与する候補因子の中から、機能的に関与する因子を同定する。APCに変異を持つ大腸がん細胞を標的とした治療戦略にMyD88の阻害が寄与しうるかについても検討していきたい。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

### <研究課題> 1-2

- (主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副題) 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割の解析

### <研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、曾我朋義<sup>2)</sup>、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症のマウスモデルであるAPC変異マウスは良性の腺腫性ポリープを発症し、さらにSmad4遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つcis-APC/Smad4マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。cis-APC/Smad4マウスの腺がんの浸潤はeverolimusおよびmTORキナーゼ阻害薬AZD8055に対して抵抗性である。前年度までに、その抵抗性獲得の機序として、mTOR阻害薬に対するフィードバック経路活性化により、がん細胞自身ではEGFR経路が活性化すること、さらに浸潤部がん細胞周辺の線維芽細胞様間質細胞ではMEK/ERK経路が活性化し、サイトカイン・ケモカインの発現が上昇することを誌上発表している。本年度は、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施することで、mTOR阻害薬抵抗性に関わる分子や代謝経路の同定に取り組んだ。メタボローム解析により、mTOR阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンおよびその代謝産物である1メチルヒスタミン量の増大が認められた。mTOR阻害薬抵抗性腺がんにおけるヒスタミンの役割を検証するため、ヒスタミン受容体（H1からH4）の発現および産生酵素であるヒスチジン脱炭酸酵素（HDC）の発現をRT-PCRにより検証した。腫瘍組織においてHDCの発現が増大しており、また腸管では主にヒスタミンH1受容体およびH2受容体の発現が認められた。mTOR阻害薬とヒスタミンH1およびH2受容体拮抗薬の併用投与により腺がん浸潤が抑制されることを見出した。

### 【今後の方向】

mTOR経路阻害抵抗性大腸がんにおけるヒスタミン産生細胞を特定するため質量顕微鏡を用いて解析するとともに、抵抗性に関与するその他の分子や代謝経路についても検証して行く予定である。

<sup>1)</sup> 慶應大・先端生命科学研究所

<sup>2)</sup> 京大・国際高等教育院

### <研究課題> 1-3

- (主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副 題) 大腸がんマウスモデルを用いたMEK/ERK経路の役割の解析

### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

KRAS遺伝子の変異は大腸がんを含む多くのがん種で確認されている。KRASに変異のあるがんの治療標的としてKRASの下流の一つであるMEK/ERK経路に着目し、KRAS変異およびKRAS野生型大腸がんにおけるMEK/ERK経路の役割を解明し、新規治療法の開発に繋げることを最終目標としている。我々は以前に*Apc*変異マウスの腸管腺腫形成がMEK阻害薬trametinibの投与により抑制できることを明らかにしたが、現在、悪性度が高い*KRas*野生型および変異型の大腸がんにおけるMEK/ERK経路およびその上流のEGFR経路の個体レベルでの役割について種々のマウスモデルを用いて検討している。浸潤性大腸がんモデルマウスである*cis-Apc/Smad4*マウスにtrametinibまたはEGFR阻害薬erlotinibを投与したが、どちらの経路を阻害しても腺がん形成及び浸潤を抑制できなかったが、trametinibとerlotinibの併用投与により腺がん形成および浸潤が抑制された。サイトカインアレイ解析を実施したところ、併用投与した腫瘍組織においていくつかの成長因子の発現が減少しており、それらの減少が腫瘍形成の抑制に寄与している可能性が示唆された。また、併用投与により発現レベルが低下するタンパクを同定するため、プロテオーム解析を開始した。また、*Ctnnb1* ( $\beta$ -catenin)、*KRas*、*p53*、*Smad4*の変異を様々な組み合わせで導入した複合変異マウスを作成し、それらの腸管腫瘍由来オルガノイドの培養系を確立した。

### 【今後の方向】

大腸がんマウスモデル (*cis-Apc/Smad4*マウス) の腸管腺がん形成がEGFR阻害薬とMEK阻害薬の併用により抑制されるサイトカインの腫瘍組織での局在についてレーザーキャプチャーマイクロダイゼクションを用いて同定を行い、阻害薬の作用点を明らかにする。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

### <研究課題> 2-1

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副 題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* の機能解析

### <研究者氏名>

佐久間圭一郎、佐々木英一<sup>1)</sup>、木村賢哉<sup>2)</sup>、清水泰博<sup>2)</sup>、谷田部 恭<sup>1)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

昨年度に引き続き、当研究室で同定した新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* の機能解析に取り組んだ。

#### ① 大腸がん細胞の増殖と *HNRNPLL* の関係

昨年度までに、*HNRNPLL*は大腸がん細胞においてDNA複製制御因子PCNA、RFC3、FEN1のmRNAを安定化することで細胞増殖を促進することを見出し、学術誌に論文投稿した。本年度、若干の改稿を経て論文が掲載された。(Sakuma K, Aoki M, et al: *Cancer Science* 109 (8): 2458-2468, 2018)

#### ② *HNRNPLL* によってスプライシング制御を受ける遺伝子の同定

ヒト大腸がん細胞株SW480に*HNRNPLL*を強制発現あるいはノックダウンし、次世代シーケンサーによるmRNAの網羅的発現量比較解析により、*CTNND1*の特定のアイソフォームの発現量が*HNRNPLL*によって変化することを見出した。*HNRNPLL*の強制発現は*CTNND1*のあるエクソンのinclusionを促進し、*HNRNPLL*のノックダウンは逆にskippingを促進した。このエクソンは核外移行シグナルの配列を内包することから、*HNRNPLL*によるスプライシング制御は*CTNND1*の細胞内局在に影響を与えることが予想され、検討を進めている。

#### ③ 大腸がん細胞の上皮間葉転換 (EMT) に伴う *HNRNPLL* の発現低下機序の解明

*HNRNPLL*の発現はEMTに伴ってmRNAレベルで低下することから (Sakuma et al: *Gut*, 2018)、*HNRNPLL*の転写調節機構に着目している。前年度までに、*HNRNPLL*の転写開始点を同定し、プロモーター領域のレポーターコンストラクトを作成した。ルシフェラーゼアッセイの結果から、転写因子MYBが*HNRNPLL*の転写を促進する可能性が示唆され、検証を進めている。

### 【今後の方向】

*HNRNPLL*は転移を抑制する一方で細胞増殖を促進することから、*HNRNPLL*自体を薬剤標的とすることは困難が予想される。今後は、EMTによって発現が増加する*CTNND1*アイソフォームの機能を精査し、薬剤標的分子としての可能性を検討したい。

<sup>1)</sup> 遺伝子病理診断部、<sup>2)</sup> 消化器外科部

### <研究課題> 2-2

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副 題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移抑制因子の同定

### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸



がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は安定的に転移する大腸がんマウスモデルを作出することで、転移のメカニズムの解明及び、転移を標的とした治療法の確立を目指している。本研究では大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施している。これまでにヒト大腸がんを高頻度に変異や欠失が確認されている *Ctnnb1*、*Kras*、*p53*、*Smad4* 遺伝子をタモキシフェン依存的に改変できるマウス (*Villin-creER<sup>T2</sup>*、*Ctnnb<sup>+/loxEx3</sup>*、*Kras<sup>LSL-G12V</sup>*、*p53<sup>fllox/fllox</sup>*、*Smad4<sup>fllox/fllox</sup>*、KPSマウス) とトランスポゾンマウスを掛け合わせたマウス (VBAPKPS) において転移の頻度がトランスポゾン非導入マウスと比較して上昇することを見出している。そしてトランスポゾンの挿入部位に転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法として Semiquantitative transposon insertion site sequencing (Qiseq) を実施している。現在、VBAPKPSマウスの大腸がん原発巣、肝転移巣および周辺正常組織からDNAを精製し、トランスポゾン共通挿入部位 CISs (Common Integration Sites) をPCRにより増幅したライブラリーの作成しており、次世代シーケンサーによる解析に向け準備している。

#### 【今後の方向】

トランスポゾン共通挿入部位 CISs (Common Integration Sites) の同定に向けた次世代シーケンス解析を実施する。同定した CISs の近傍遺伝子の発現や機能、転移への関与について検討する予定である。

#### <研究課題> 2-3

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

#### <研究者氏名>

佐久間圭一郎、佐々木英一<sup>1)</sup>、谷田部 恭<sup>1)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

前年度までに、ヒト肺腺がん細胞株の A549 と PC-14 は TGF- $\beta$  処理下で一次線毛を発現することを見出した。今年度は、この一次線毛の発現を制御する分子の同定に取り組んだ。A549 細胞から限界希釈法でシングルセルクローンを複数樹立し、その中から TGF- $\beta$  処理下での一次線毛発現率が高いクローンと低いクローンを選択し、DNA マイクロアレイ解析により両者で発現量が異なる遺伝子群を同定した。それらの遺伝子の中から、既知の機能を参考に検証対象を決定し、A549 細胞への強制発現あるいはノックダウンにより、一次線毛の発現率を変化させるタンパク X を同定した。

#### 【今後の方向】

タンパク X による一次線毛の発現制御メカニズムや、X と上皮間葉転換の関係について検討を進める。

#### 1) 遺伝子病理診断部

#### <研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築

(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

#### <研究者氏名>

小島 康、三城恵美、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義<sup>1)</sup>、

武藤 誠<sup>2)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者の Performance Status (PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルの解析に取り組んでいる。現在、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いている。1つは、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマ SEKI 細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2~3週間で著名な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。

前年度までに、我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスを、キャピラリー質量分析法 (CE-MS) によって解析して、肝臓、骨格筋に関して悪液質に特徴的な代謝プロファイルが存在することを確認した。また、その代謝プロファイル発生メカニズムに関して、定量的プロテオミクスを用いて探索して、有望なタンパクレベルでの変動を特定した。平成30年度は、それらの変動の生物学的意義についての検討を開始した。また、悪液質モデルマウス血漿のプロテインアレイから同定した、悪液質発症に関連する可能性がある炎症関連因子について、マウスモデルや公共データベースを用いた解析を行った。

#### 【今後の方向】

定量的プロテオミクスによって明らかになったタンパク質変化に関して、その発症メカニズムをより詳細に解析する。また、悪液質発症に関連する可能性がある炎症関連因子について、臨床検体を用いた本格的な検討を開始する。

<sup>1)</sup> 慶應大・先端生命科学研究所、<sup>2)</sup> 京大・国際高等教育院



## 分子腫瘍学分野

### <研究課題> 1

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 悪性中皮腫細胞が有する特徴的な細胞特性の獲得機構の検討

### <研究者氏名>

奥田真帆<sup>1)</sup>、佐藤龍洋、向井智美、関戸好孝

### 【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A、NF2、BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2 遺伝子産物（転写産物はMerlinと呼ばれる）は細胞内の増殖抑制性のHippoシグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターであるYAPの活性を抑制する。悪性中皮腫細胞はNF2やHippoシグナル伝達系の構成因子をコードするLATS2 遺伝子等の変異により約70%の症例でYAPが恒常的に活性化していることを当分野は明らかにしてきた。

悪性中皮腫は中皮細胞由来の腫瘍であり、通常の上皮細胞由来のがんと異なり特徴的な細胞特性を有する。上皮細胞は基底膜から離脱すると細胞死が誘導される（アノイキス）。正常の中皮細胞自身もともとアノイキス抵抗性であるが、中皮腫細胞はそのアドバンテッジを利用して腫瘍の増殖（特に体腔内の胸水や腹水中での増殖、播種）や進展が進むと考えられる。さらに上皮間葉転換（EMT）の易移行性が認められ、同一腫瘍組織内に上皮様の細胞集団と肉腫様の細胞集団が混在（二相型）する組織型もしばしば認められ、さらに肉腫型はより薬剤耐性であることも示唆されている。

これらの2つの特徴的な細胞特性を賦与する機構を明らかにするために、in vitroでのアッセイ系の構築を試みた。患者腹水由来の中皮細胞を不死化してサブクローニングして樹立したHOMC-B（上皮型）、D（中間型）、A（肉腫型）細胞を用いた。最初にDNAマイクロアレイ解析で網羅的なmRNAの発現や、リン酸化受容体キナーゼアレイを用いて、3株における活性化したシグナル伝達系や上皮間葉マーカー発現等の共通性や差異を検討した。さらに、TGF-betaなどの成長因子・サイトカインをHOMC-B細胞に添加し、その組織学的な変化やEMTマーカーの発現の変化を検討した。アノイキス抵抗性に関しては、不死化中皮細胞HOMC-Bを用い、まずメチルセルロース含有RPMI培地内で超低接着表面ディッシュを用いて浮遊状態で培養を開始し、様々な条件下（メチルセルロース濃度、FCS濃度）で検討を行った。活性化型YAPを導入したHOMC-B株についても解析を行った。さらに、Cas9 遺伝子を恒常的に発現する細胞株をサブクローニングした。この細胞株を用い、ライブラリー

スクリーニングを行い、アノイキス抵抗性を賦与する遺伝子の同定を目指した。また、EMTに関してはHOMC-B細胞およびHOMC-B細胞にRac1 変異体（恒常的活性型およびドミナントネガティブ変異型）を導入した細胞株を用い、ポイデンチャンバー法やスクラッチアッセイで細胞の移動度に関して予備的な検討を行った。

### 【今後の方向】

本研究の予備的な結果から悪性集腫細胞が有する細胞特性、アノイキス抵抗性およびEMT易以降性に関する研究を進めていく上での足掛かりが得られた。今後、本研究を推進していくためには改めて実験系を改良する必要があることが示唆された。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

### <研究課題> 2

(主題) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究

(副題) SmgGDS発現抑制はmTORC1を抑制し、悪性胸膜中皮腫の増殖を阻止する

### <研究者氏名>

佐藤龍洋、向井智美、藤下晃章<sup>1)</sup>、三城恵美<sup>2)</sup>、青木正博<sup>1)</sup>、関戸好孝

### 【目的・概要・進捗状況】

悪性胸膜中皮腫はアスベスト曝露を主な原因とする希少がんである。悪性胸膜中皮腫の遺伝子異常はNF2などのがん抑制因子の不活性化が主体であり、がん遺伝子を活性化させる変異が稀である。このため既存の分子標的薬に対して感受性が低く、また、近年使用されている免疫チェックポイント阻害剤の奏効率も20-30%程度にとどまることなどから、新規治療標的因子の探索が求められている。我々は今回、NF2不活性化により活性化されると報告されているmTOR経路に着目し、中皮腫がん化への関与、および経路遮断によるがん増殖抑制効果について検討した。

mTOR経路は主にmTORC1とmTORC2の2つの経路に分類される。中でもmTORC1はタンパク質の翻訳促進、オートファジーの抑制など、がん細胞悪性化との関連が古くから知られており、中皮腫においてもその高活性化が報告されている。そこでmTORC1活性化の要因を調べるためにがんゲノムデータベースThe Cancer Genome Atlas (TCGA) を解析し、mTORC1構成因子Raptor、mTORC1活性化因子であるRheb、RhebL1、PIK3CA、およびmTORC1抑制因子PTENの発現量を検討した。その結果、TCGAに登録されたサンプルの約50%においてこれら遺伝子の発現量変動が見られた。また、Cancer Cell Line Encyclopedia (CCLE) データベースを参照すると、中皮腫細胞株におけるRhebの発現量は他の主要ながん細胞株と比較しても高い傾向にあることがわかり、遺伝子発現変動によるmTORC1活性化が示唆された。そこで正常不死化細胞株に

Rhebを過剰発現させ、細胞がん化への影響を検討した。その結果、mTORC1経路の活性化とともに細胞増殖の促進、足場非依存性の増殖が認められた。一方、Rhebを過剰発現させた正常不死化細胞株をマウス胸腔内に移植しても腫瘍は形成されなかった。これらの結果から、mTORC1活性化は中皮腫の発生よりも増殖に関与することが示唆された。

我々はこれまでに、Rhebに結合しmTORC1活性を促進する因子としてSmgGDSを同定している。そこで、SmgGDSの抑制が悪性胸膜中皮腫の増殖を阻害できるかどうか動物実験により検討した。ドキシサイクリン添加によりSmgGDS遺伝子がノックダウンされる悪性胸膜中皮腫細胞株を樹立し、さらに増殖を測定するためにルシフェラーゼ遺伝子を細胞に発現させてマウス胸腔内に移植した。腫瘍の増殖を経時的に観察したところ、ドキシサイクリンを摂取させたマウスはコントロールマウスと比較して腫瘍の形成が有意に抑制されており、SmgGDSが悪性胸膜中皮腫の治療標的となる可能性が示唆された。

#### 【今後の方向】

SmgGDSのノックダウンが悪性胸膜中皮腫の治療標的となるか、さらに詳細な検討を行う必要がある。また、SmgGDSによるRheb-mTORC1活性化機序の解析を実施し、他の薬剤との相乗効果や副作用の可能性、より有効な治療標的因子について検討する。

<sup>1)</sup> がん病態生理学分野、<sup>2)</sup> がん病態生理学分野 リサーチレジデント

### 腫瘍制御学分野

#### <研究課題> 1-1

- (主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用
- (副題) 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

#### <研究者氏名>

山内友恵、渡邊理沙代、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼc-Srcは、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においてもsrc遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞にはSrcの恒常性を維持し、不要なSrcシグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。昨年までに、がんにおける異常なSrcシグナルが、非受容体型チロシンキナーゼFerにより中継される新たなメカニズムを見出し、Ferの制御機構の破綻とがん進展との関わりを解明するためにFerに結合する分子のプロテオミクス解析を行ない、見出された9種の分子についてFerとの結合を確認することにより、4

種のFer制御因子候補を同定した。そこで今年度は、大腸がん細胞などSrc-Ferがんシグナルが活性化している細胞において、同定したFer制御因子候補の発現をノックダウンし、増殖能や浸潤能などのがん形質に対する作用を解析したところ、これらの分子はがん形質促進的な機能を示し、Ferの下流でがんシグナルを伝播する新規基質であることが示唆された。

#### 【今後の方向】

がん形質発現に関わるFer制御因子候補の役割を詳細に解析する。さらにFerのがん治療標的としての可能性を明らかにするため、Ferのリン酸化抗体を用いて様々な癌種におけるFer活性化を調べ、Ferが寄与するがん種を解析する。

#### <研究課題> 1-2

- (主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用
- (副題) microRNAによるシグナル分子の発現制御とがん進展

#### <研究者氏名>

小根山千歳、渡邊理沙代、宮田眞美子

#### 【目的・概要・進捗状況】

Src等によるがんシグナルの伝達やその制御機構については、主にリン酸化及びタンパク質間相互作用の側面から捉えられてきたが、我々はそれら直接的なシグナル伝達経路の陰に、複数のmicroRNA(miRNA)が協調してシグナル分子の発現を制御する、いわば隠れたネットワークが存在することを示してきた。今年度は、がん化初期に見られるSrc活性化に伴うmiRNAの役割を解明するため、これまでに作製したSrc発現誘導モデル細胞を用いてmiRNAの発現プロファイルの解析を行なった。その結果Src活性化初期に発現減少するmiRNAを見出し、このmiRNAの発現を保持するとSrcによるがん形質が見られなくなることを見出した。このmiRNAはSrcの発現が高いことが知られる大腸がん細胞において顕著に低下していることを見出し、大腸がん細胞にこのmiRNAを導入すると足場非依存的増殖能が抑制されると共に、ストレスファイバー及び細胞接着斑の形成が阻害され接着能や浸潤能が抑制された。詳細な解析の結果、当該miRNAはSrc自身およびその基質などSrcシグナルの伝播に関わる因子の発現を同時に抑制することにより、がん形質発現を制御していることが示唆された。すなわち、がんの初期における当該miRNAの発現低下がSrcシグナルの亢進を促し、がん悪性化に寄与していると考えられる。これまでの一連の研究と合わせて考えると、Srcシグナル経路では関連するタンパク質が複数のmiRNAによって同時に制御され細胞の恒常性の維持に寄与していると考えられるが、がんではその仕組みが破綻し、むしろ複数の機構がmiRNAを介して連携しがん進展を加速していると考えられる。

#### 【今後の方向】

がん進展過程におけるSrcシグナルネットワークを明らかに

するため、これまでに同定したSrc関連miRNA群の発現変動を誘導した際の遺伝子発現プロファイルの相関を明らかにし、miRNAを介したSrcシグナルネットワークの破綻とがん進展メカニズムを明らかにする。

#### <研究課題> 2-1

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) エクソソームの形成制御とがん進展

#### <研究者氏名>

疋田智也、宮田眞美子、渡邊理沙代、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質やRNA分子を含む直径30-100 nm程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、エクソソームの形成や分泌の分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。昨年度までにエクソソーム形成・分泌促進機構へのSrcの関与を明らかとするため、Srcがん化モデル細胞系から分泌されるエクソソームを解析し、Src活性化によりその粒子数が顕著に増加することを見出した。そこで今年度は、Srcがん化細胞から分泌されるエクソソームに内包される分子についてプロテオーム解析を行い、エクソソーム形成・分泌に関与する候補分子を同定した。中でもエクソソームマーカーとしても知られるAlixについて解析したところ、AlixはSrcとの結合を介して機能が亢進し、その結果エクソソームの分泌に繋がるメカニズムを解明した。さらに今年度は、がん特異的なエクソソーム産生機構を探求する過程において、新たなエクソソーム定量解析法として、エクソソームマーカーをルシフェラーゼ標識したエクソソーム産生細胞系を構築した。本細胞系の培養上清中における発光量は、エクソソーム数と高い相関性が見られ、現行のエクソソーム測定手法と比較して、精度、感度、操作性いずれの点においても優れた結果を示すことを見出した。さらに、本細胞系は産生機構だけでなく、取り込み機構や生体内動態・組織集積性などの解析にも有用であった。

#### 【今後の方向】

今年度に構築した新たなエクソソーム定量解析法を活用し、Srcによるエクソソーム形成・放出に関与する候補分子の評価を効率的に行う。候補分子の役割やがん形質におけるエクソソーム放出の意義を明らかとするため、Srcがん化モデル細胞に候補分子の発現を変化させた細胞を樹立し、分泌されるエクソソーム量及び内包される分子群の変化、及びエクソソームを放出したSrcがん化細胞のがん形質について解析する。

#### <研究課題> 2-2

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) エクソソームのmiRNA内包制御とがん進展

#### <研究者氏名>

内藤陽子、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質やRNA分子を含む直径30-100 nm程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。それらの機能に重要とされているのが、エクソソームに内包されているmiRNAである。エクソソームに内包されるmiRNAのプロファイルはがん種によって異なることから、がん診断への応用研究が進んでいるが、しかしそもそも、なぜ特定のmiRNAがエクソソームに内包されているか、選択的なmiRNAの積み込みに関する分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。今年度は、Srcがん化モデル細胞系から分泌されるエクソソーム内のmiRNAについて次世代シーケンズ解析を行い、Src活性化によりエクソソームに内包されるmiRNAのプロファイルが異なることを見出した。さらにSrc活性化により選択的に積み込まれるmiRNAの分子機構を明らかにするため、これらのmiRNAに結合するエクソソーム内分子を探索した。

#### 【今後の方向】

miRNAのエクソソーム内包に関わると考えられる候補分子の役割を明らかとするため、Srcがん化モデル細胞に候補分子の発現を変化させた細胞を樹立し、内包されるmiRNA群の変化、及びエクソソームを介した他細胞へのがん形質誘導について詳細な解析を行う。

### 腫瘍免疫応答研究分野

#### <研究課題> 1

(主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

(副題) オートファジーによって提示されるエピトープ特異的CTLのT細胞受容体の解析

#### <研究者氏名>

岡村文子、赤塚美樹<sup>1)</sup>、葛島清隆

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん免疫療法ではがん細胞を攻撃するエフェクターである細胞傷害性Tリンパ球(CTL)が認識する抗原の情報が治療に重要な役割を果たす。最近になって免疫チェックポイント阻害剤



を用いた治療において、がんが保有する変異抗原 (neoantigen) に由来するエピトープ (neoepitope) を認識するCTLががんの治療に有効であることが明らかになってきた。しかしながら、保有する変異抗原全てがCTLの標的エピトープとして抗原提示される訳ではないため、変異抗原が少ないがんでは、免疫チェックポイント阻害剤による治療効果が低いことが今後の課題となっている。

我々はK-ras変異遺伝子を有し、恒常的にオートファジーが亢進している膵臓癌細胞株において、ピューロマイシン感受性アミノペプチダーゼがオートファジーを介してMHCクラスI上に抗原提示されていることを見出している。一般的にはオートファジーによるMHCクラスI分子への抗原提示はされないため、K-ras変異遺伝子を有するがん細胞であることから身につけた高活性オートファジーによってのみエピトープが提示されている。一方、正常細胞では抗原提示装置として高活性オートファジーが備わっていないため抗原提示されない。このことから、正常細胞では抗原提示されず、がん細胞でのみ抗原提示される neoepitope 様であると考えている。

本エピトープ特異的CTLが有するT細胞受容体 (TCR) を解析することで、TCR移入Tのために、野生型とコドン変換型を用いて、T細胞の急性白血病細胞株であるJurkat細胞にレトロウイルスベクターでTCR遺伝子を導入したところ、野生型もコドン変換型もT細胞株の細胞表面上でTCRを発現した。特異性を調べるために、IFN- $\gamma$  応答性エレメントを搭載したJurkat細胞にTCR遺伝子をレトロウイルスベクターで導入してTCRからのシグナル伝達によって産生されるIFN- $\gamma$  の産生を測定した。結果として、CTLクローンよりは劣るものの、特異性を保持していることがわかった。また、TCR移入T細胞療法を想定して、健康人由来のヒト末梢血リンパ球にTCR遺伝子をレトロウイルスベクターで導入した。細胞表面上のTCRの発現は約50%と高く、その細胞の免疫応答を解析したところ、非特異反応は非常に低く、ほとんど無い状態であった。また特異的反応はCTLクローンの約半数の細胞で同等の、非常に高い免疫反応が検出された。このことから、本TCR遺伝子は内在するTCRによる非特異的TCR反応が非常に低い、TCR療法に適している可能性が高いことが明らかとなった。

#### 【今後の方向】

膵臓癌は予後不良で、新たな治療法の開発が期待されている。今回取得したTCRは治療に用いるには反応性が低いが、これを高親和性にするなど工夫して臨床応用できるようにしたい。

<sup>1)</sup> 客員研究員、名古屋大学大学院・医学系研究科・分子細胞免疫学分野

#### <研究課題> 2

(主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究  
(副題) NY-ESO1特異的T細胞受容体の親和性改良の試み

#### <研究者氏名>

岡村文子、中川晴子、葛島清隆

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん抗原に特異的なT細胞から単離した抗原受容体遺伝子 (TCR) を、レトロウイルスベクターなどを用いて患者のTリンパ球に導入することが可能である。このようにして作製したCTLを用いるがん免疫療法は有望な治療法の一つであり、これまでも様々な抗原を標的として開発が行われて来た。臨床的に最も成功しているTCRは、HLA-A\*02:01拘束性NY-ESO1特異的TCR $\alpha$ 鎖の相補性決定領域 (CDR) 3の2個のアミノ酸を変異して親和性を増強したものである。ヒトTCRの親和性を *in vitro* で増強する最も効果的な方法はファージディスプレイ法であるが、報告はほぼ一つのグループ (英国) からに限られているのが現状である。免疫治療のこれからの展開を鑑みるに、効率の良いTCR親和性成熟 (affinity maturation) システムを確立することは重要であると考えられる。本年度は、新たに確立した293T細胞を用いたTCRディスプレイ法を用いて、HLA-Cw3拘束性がん抗原の一つであるNY-ESO1蛋白由来のペプチドを認識するTCRの親和性改良を試みた。

#### 【方法と結果】

293T細胞を用いた新規のTCRディスプレイ法では、CD3遺伝子を導入した293T細胞表面に、任意の一つのCDR領域にランダムな変異を導入したTCRライブラリーを表出させ、HLA/ペプチド-テトラマーで染色する。これにより、CD8非依存的にテトラマーに結合する集団の出現をフローサイトメーターで解析とソーティング (回収) をする。HLA-Cw3拘束性NY-ESO1特異的TCR (名古屋大学大学院医学研究科・分子細胞免疫学・西川博嘉教授より分与) について12種類のライブラリーを作製し、スクリーニングをした結果、 $\beta$ 鎖CDR2ライブラリーの中に、テトラマーにより強く結合するTCRの集団があることが判明した。さらにフローサイトメーターを用いたソーティングにより、多数の高親和性候補クローンを得た。しかしながら、レトロウイルスを用いてヒトT細胞株にTCR遺伝子導入した実験では、これらの候補クローンは野生型とほぼ同程度の免疫応答を示し、すなわちTCRの親和性が改良されたとは言えなかった。

#### 【今後の方向】

今後の方針は、テトラマーに高い結合性を示すものの、T細胞に導入した時に免疫と応答の増強が見られなかった原因を検討する必要がある。

<sup>1)</sup> 名古屋大学・医学部



## がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

### <研究課題> 1

- (主題) 各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発  
(副題) KRAS変異腫瘍に対する新規治療開発

### <研究者氏名>

衣斐寛倫、細野祥之

### 【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍においてKRAS遺伝子は高頻度に変異を認めるが有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS変異腫瘍について、上皮間葉移行 (Epithelial Mesenchymal Transition: EMT) に基づく腫瘍のサブタイプ分類を行い、肺がん、膵がんが二相性に分類されるのに対し、大腸がんはほとんどが上皮型に分類されることを明らかにした。KRAS変異がんに対しMEK阻害薬を投与すると、フィードバック機構によるMAPKシグナルの再活性化が認められる。我々は、以前に肺がんにおいて上皮系の性質を示す腫瘍ではERBB3、間葉系の性質を示す腫瘍ではFGFR1がMAPKシグナルのフィードバック活性化に関与することを示していた。今年度は、膵がんにおいて解析を行い、膵がんにおいても上皮系ではERBB3、間葉系ではFGFR1が関与することを明らかにしたが、同時にその他の受容体に関与するケースも認められ、膵がんではより複雑なフィードバック機構が存在するものと考えられた。このため、受容体から変異KRASに伝達されるシグナルを遮断することでフィードバック機構を制御する方法を探索し、アダプタータンパクであるSHP2を新たな標的として同定した。上皮型・間葉型いずれのKRAS変異肺がんマウスゼノグラフトにおいても、SHP2阻害薬とMEK阻害薬の併用療法は腫瘍の縮小を達成し、薬力学的検討においてもERKリン酸化の抑制が確認された。MEK阻害薬投与後に活性化される受容体からのシグナルを伝達するSHP2を抑制することで、活性化される受容体の種類に関わらずフィードバック機構を制御できる可能性が示唆されたが、同様のコンセプトが複数のグループより報告されてしまった。一方で、併用効果については報告されたが、フィードバック機構におけるSHP2の詳細な役割については明らかにされていない。

### 【今後の方向】

現在、SHP2がKRAS変異腫瘍において、MEK阻害後のフィードバック機構に果たす役割について詳細な解析を試みており、結果が得られつつある。次年度中に知見をまとめ学術誌に投稿する予定である。

### <研究課題> 2

- (主題) 承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服  
(副題) 大腸がんにおける免疫チェックポイント阻害薬の初期耐性機序の解明

### <研究者氏名>

衣斐寛倫、細野祥之

### 【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害薬は、臓器により有効性が異なり、tumor mutation burdenおよびそれに伴うネオアンチゲンの多寡が有効性と関与することが示されているが、いわゆるcoldの腫瘍に対する有効な治療法は開発途上である。免疫チェックポイント阻害薬に対する併用療法の選択肢の1つとして、分子標的薬が挙げられるが、具体的な分子メカニズムに基づいた分子標的薬の選択については明確ではない。免疫チェックポイント阻害薬と併用すべきバスの阻害薬の探索のため、大規模な遺伝子発現プロファイルと遺伝子pathwayデータセットをベースとした網羅的な解析を行った。13の癌種におけるTCGA (The Cancer Genome Atlas) のデータセットをImmune pathwayについて網羅的に解析したところ、最も相反する遺伝子pathwayとしてMYC pathwayが同定された。さらにTCGAにおけるMYCの遺伝子発現情報を組み合わせたと、大腸がんにおいて特にMYCの腫瘍免疫における影響が大きいと考えられた。まず大腸がん細胞株を用いて、MYCの発現を抑制し、得られたRNA-seqのデータに対してGSEA (Gene Set Enrichment Analysis) を行ったところ、Immune pathwayに属する遺伝子群の発現上昇が確認された。さらにMYCの下流因子の腫瘍免疫に与える影響を調べるため、MYCの抗体を用いたChIP-seqを行い、先ほどのRNA-seqの結果と組み合わせたと、腫瘍免疫に深くかかわっている可能性が示唆される候補遺伝子を同定した。

### 【今後の方向】

今後はマウスを用いた実験系で、MYCとその下流の候補遺伝子を介した免疫系への関与を明らかにしていく予定である。

## 個別化医療トランスレーショナルリサーチ分野

### <研究課題> 1

- (主題) 個別化医療で見出した臨床的特徴のある遺伝子変異の解析 (リバーストランスレーショナル研究の推進)  
(副題) 頭頸部腫瘍における良性腫瘍からの腫瘍進展過程を判別できる遺伝子異常の解析

### <研究者氏名>

佐々木英一、二村元子、中井由希子、谷田部 恭

### 【目的・概要・進捗状況】

鼻腔・副鼻腔扁平上皮癌 (SNSCC) 頭頸部癌全体の3%程度と頻度が少ないが、扁平上皮乳頭腫、内反性乳頭腫などの良性病変が存在し、一部はそれら良性病変を前駆病変として発生すると考えられている。近年、一部の症例にEGFR変異が検出されることが報告された。そこで、SNSCCをはじめとする頭頸部扁平上皮癌について、遺伝子異常を指標に臨床的特徴のある腫瘍単位が存在するか、良性腫瘍から進展する扁平上皮がん

が存在するかについて検証を行った。SNSCC 80症例を含む頭頸部扁平上皮癌254症例、頭頸部の乳頭腫やポリープなどの良性病変53症例を検討対象とした。パラフィン検体からDNAを抽出し、次世代シーケンサーによる遺伝子パネル解析にて遺伝子変異を中心に解析を行った。EGFR変異は17症例(21%)に検出され、それらはすべてSNSCCであった。また、良性病変では内反性乳頭腫に特異的にEGFR変異が検出された。一部の症例では組織学的に良性病変から扁平上皮癌への移行が観察できる症例もあり、それら成分ごとに解析しても同一のEGFR変異が観察された。これらの結果は、頭頸部癌のおよそ6%、SNSCCの21%は内反性乳頭腫から進展する腫瘍であると推測された。これらの内反性由来頭頸部癌はEGFR変異の有無によって臨床病理学的特徴は、部位のみであったが、統計学的に有意な予後の差を認めた。

EGFR変異のほか、KRAS、HRAS変異は良性腫瘍である扁平上皮乳頭腫に特異的に検出され、これまでのマウスモデルを裏付ける結果であった。頭頸部腫瘍はHPVとの関与が高い腫瘍であるが、KRAS・HRAS変異とは相互排他的であり、HPVは喉頭、気管に発生した腫瘍のみに検出され、他の部位ではKRAS・HRAS変異を有していた。これらの領域に発生する扁平上皮癌ではKRAS・HRAS変異はほとんど見出されなかったことから、扁平上皮乳頭腫から扁平上皮癌への移行は極めてまれであると考えられた。

#### 【今後の方向】

頭頸部癌の前駆病変として考えられていた良性病変には、前駆病変になる腫瘍とならない腫瘍とがあり、遺伝子変異によって明瞭に区別できることが判明した。これはすなわち積極的に治療としての介入が必要な腫瘍とそれが不要でない腫瘍とを遺伝子変異によって分けることができることを示唆している。一方で、SNSCCの21%はEGFR変異に関連していると考えられるが、他の遺伝子異常については明らかとなっていない。対象をSNSCCに移してさらに解析を進めていきたい。

#### <研究課題> 2

(主 題) 各種腫瘍における臓器横断的分子生物学的特徴の検討

(副 題) 臓器横断的MSI-high腫瘍の検討

#### <研究者氏名>

真砂勝泰、藤田史郎、平松可帆、柴田典子、中井由希子、谷田部 恭

#### 【目的・概要・進捗状況】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一部は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。これまで病院 遺伝子病理診断部ではMicrosatellite instability (MSI)-high陽性腫瘍に対するペムプロリズマブ治療を見据えて、MSI検査について検討を進め病院内での通常検査として確立し

た。その過程でmismatch repair (MMR) タンパクの発現が確実に異常を示しているにもかかわらず、microsatellite stable (MSS) と評価される症例があることがわかった。そこでMMRタンパクとMSI検査によって得られる結果とを比較検討し、結果の乖離がどのような原因によるのかを検討した。これまで検討した487腫瘍のうち、MMRタンパクの異常は67例であった。それらの57%にあたる38例ではMSI-highを示したが、8例(12%)ではMSI-low、21例(31%)ではMSSであった。この乖離は大腸癌・非大腸癌とで比較すると、統計学的に有意な頻度の差を認めた。非大腸癌の検査対象としては、子宮内膜癌が多く、この腫瘍はメチル化異常によるMSI獲得が多く、また、MSH2/6が侵される頻度が他の腫瘍に比べ高いことが知られている。MSH2/6の異常では繰り返し配列の異常がMLH1などに比べ小さいことが知られており、非大腸癌でのMMR-MSIの乖離はこの繰り返し配列異常の程度によるのではと推測された。そこで、MSI-highの計測基準の見直しを行った。

現在のMSI計測法として、従来法であるBethesdaパネルに変わってQMVR法が用いられることが多い。これは腫瘍組織のみで計測できる点で優れており、NR-21、BAT-26、BAT-25、NR-24、MONO-27、Penta C、Penta Dの繰り返し配列が個人でほとんど変化しないことを利用している。Bethesdaパネルでは明確な定義はないが、QMVR方ではそれぞれのサイトにおける規定範囲以外にピークが認められた場合にそのサイトのマイクロサテライト不安定性ありとする明確な定義がある。しかしながら、ピークが重なった場合には規定範囲内に留まる場合があり、新しい定義としてピークの積分値を用いることでそれを解消できることがわかった。実際には解析症例のピーク積分値を、10例分の混合したDNAをもとに平均的な波型を描き、その積分値で除して数理的に処理できるようにし、適切なcut-off値を設定した。

新計測法を用いると、MMRタンパク異常例67例中MSI-highと再評価できた症例が21例あり、これまでMSI-low、MSSと評価されていた症例の半分程度は評価方法の違いに基づくことがわかった。

#### 【今後の方向】

これまで、MMR、MSIの結果乖離の最大の要因は、機能傷害をきたすMMR遺伝子のミスセンス変異であり、タンパク質としては発現するため、MMR検査陰性、MSI検査陽性となるためとされてきた。また、前述のように、大腸癌とは繰り返し配列異常に内膜癌では違いがあることが示され、大腸癌では平均して6bpの違いが出るのに対して、3bpの移動しか見られないことが示されている。この他、術前化法によりMSSにもかかわらずMSH6の発現消失を示すことがあることが報告されている。これらの違いを更に検討するため、新たな評価方法を用いても解明することができなかった症例について包括的がんゲノムプロファイリング解析を行い、さらなる原因を探索していきたい。

### 3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

#### <研究課題 1>

悪性中皮腫の原因遺伝子の同定と臨床応用  
Identification of genes responsible for the development and progression of mesothelioma and their clinical application

#### <研究者氏名>

所属部 分子腫瘍学分野  
研究者氏名 関戸好孝  
共同研究者 樋田豊明、堀尾芳嗣、谷田部恭

#### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

悪性中皮腫のゲノム異常の本体を明らかにするために、愛知県がんセンターで樹立された悪性中皮腫細胞株および兵庫医科大学で集積された悪性中皮腫検体を用いて網羅的ゲノム・エピゲノム解析を進めている。昨年度までの解析の結果は、悪性中皮腫は、1) CDKN2A, NF2, BAP1, TP53, SETD2, SETDB1 といった腫瘍抑制遺伝子の変異・欠失がドミナントな腫瘍であること、2) 他の固形腫瘍と比べ、遺伝子変異数は比較的小さいこと、3) 活性型のがん遺伝子変異（ドライバー変異）は稀であること、4) 染色体全般に広範囲に欠失が見られること、5) 遺伝子変異は、組織型（上皮型、二相型、肉腫型）によって頻度の違いが認められること、等であった。

東京大学先端科学技術研究センターの協力を得て、日本人由来の腫瘍75例と欧米から報告されデータベースに登録された症例180例を合わせ、合計255例を統合的に検討した。全エクソーム解析によって解析した結果、悪性中皮腫の遺伝子変異シグニチャーが抽出され、特に、日本人に特徴的なシグニチャーが存在することが示唆された。さらに、RNA シークエンシングにより免疫細胞関連の遺伝子発現に関して検討したところ、上皮型と肉腫型腫瘍では遺伝子発現パターンの違いが検出された。悪性中皮腫が病理組織学的違いにより、腫瘍組織内に存在する免疫担当細胞（リンパ球、マクロファージ）などの細胞数や活性化状態の差などが示唆された。免疫組織学的な検討においてもリンパ球の表面抗原（CD8など）やPD-L1などの発現の差が認められた。

以上の結果より、悪性中皮腫は、特徴的な活性型ドライバー変異を有しないが、特徴的なシグニチャーの違いや組織内の免疫学的応答レベルに差があることが示唆された。本研究結果を基軸に新たな治療戦略の構築に向けた取組みが重要であることが強く示唆された。

#### <研究課題 2>

頭頸部癌症例対照研究  
Case-control study of head and neck cancer.

#### <研究者氏名>

所属部 がん情報・対策研究分野  
研究者氏名 伊藤秀美

共同研究者 阿部真紀子<sup>1,5,6)</sup>、Nitin Shivappa<sup>2)</sup>、James A Herbert<sup>2)</sup>、尾瀬 功、安部哲也<sup>3)</sup>、清水泰博<sup>3)</sup>、長谷川泰久<sup>4)</sup>、清原千香子<sup>5)</sup>、野村政壽<sup>6)</sup>、小川佳宏<sup>7)</sup>、松尾恵太郎

#### 【目的・概要・進捗状況】

発がんにおいて炎症は重要なメカニズムの一つである。しかしながら炎症そのものの測定は難しい。近年、食事由来の炎症性を検討する指標としてDietary Inflammatory Index (DII)が開発され、食事性の炎症の各種がんリスクに対する評価がなされ初めてきた。本研究では、頭頸部がん並びに、類似したリスク要因を持つ食道がんを対象に大規模な症例対照研究を実施し、DIIを指標とした食事由来炎症の罹患リスクへの影響を日本で初めて検証した。

本研究では、愛知県がんセンターで実施他病院疫学研究システムより、1,028例の頭頸部・食道がん症例並びに、性・年齢を一致させた3,081例の非がん対照データを用いた症例対照研究である。DIIスコアは、自己投与食物摂取頻度調査票からの栄養素および微量栄養素の推定値に基づいて計算した。スコアはさらにコントロール内の分布に基づいて四分位数（Q1, Q2, Q3, Q4）に分類した。条件付きロジスティック回帰モデルにより、喫煙、エタノール消費、アルコールフラッシュ、菌数、および職業グループについて調整したオッズ比（OR）および95%信頼区間（CI）を推定した。

DIIスコア増加と頭頸部・食道がん全体のリスクの間に、正の相関が観察された。頭頸部・食道がん全体に対するオッズ比はQ 4vsQ 1=1.73 (95% CI: 1.37-2.20)であった。また頭頸部がんでは、Q 4vsQ 1で1.92 (95% CI: 1.42-2.59)、食道がんでは、ORQ 4vsQ 1は1.71 (95% CI: 1.54-1.90)であった。

より炎症誘発性の高い食事は、重要な交絡因子を考慮した上でも、頭頸部・食道がんのリスク増加と関連していた。炎症性の高い食事を避ける事により、頭頸部・食道がんの予防に繋がる可能性を示した。

- <sup>1)</sup> がん予防研究分野、<sup>2)</sup> 南カロライナ大学、  
<sup>3)</sup> 中央病院消化器外科、<sup>4)</sup> 中央病院頭頸部外科、  
<sup>5)</sup> 九州大学予防医学分野、<sup>5)</sup> 久留米大学内分泌内科、  
<sup>5)</sup> 九州大学病態制御内科学

#### <研究課題 3>

遺伝子多型を含めた乳がんリスク予測モデリング  
Risk modeling of breast cancer based on information on environment and genetic polymorphisms

#### <研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野  
研究者氏名 尾瀬 功、春日井由美子、松尾恵太郎  
共同研究者 伊藤秀美、郡山千早<sup>1)</sup>、岩崎 基<sup>2)</sup>、



### 【目的・概要・進捗状況】

遺伝子多型が乳がんのリスクと関連する報告が積み重なって来たが、実際にそれをどう予防に応用するかに関しては確立されていない。我々は、昨年度、乳がんのリスク予測モデルを、当センターで実施してきた病院疫学データ、鹿児島大学・国立がん研究センターのデータを用いて検討し、22個の遺伝子多型の情報と疫学情報の組合せを用いたリスク予測モデルを構築した。

具体的には、長野（389症例、389対照）、鹿児島（233症例、331対照）、愛知（697症例、1394対照）の3つの症例対照研究において、22遺伝子多型のリスクアレル数を用いて、低リスク群、中リスク群、高リスク群を設定した。低リスク群を基準とした場合の、中リスク群、高リスク群のオッズ比は、長野研究（中：1.61, 95%CI: 1.00-2.37,  $p=1.48 \times 10^{-2}$ , 高：3.72, 95%CI: 2.15-6.47,  $p=2.97 \times 10^{-6}$ ）、鹿児島研究（中：1.71, 95%CI: 1.06-2.78,  $p=2.88 \times 10^{-2}$ , 高：6.38, 95%CI: 2.89-14.1,  $p=4.47 \times 10^{-6}$ ）、愛知研究（中：1.47, 95%CI: 1.14-1.87,  $p=2.34 \times 10^{-3}$ , 高：2.04, 95%CI: 1.42-2.91,  $p=5.60 \times 10^{-5}$ ）であった。これらをMeta-analysisした全体の結果は、（中：1.54, 95%CI: 1.27-1.86,  $p=2.50 \times 10^{-6}$ , 高：3.39, 95%CI: 1.79-6.43,  $p=2.88 \times 10^{-5}$ ）であり、遺伝子多型に関する乳がんリスク層別が十分である事を示した。リスクモデルに関しても3つの症例対照研究に基づき、ROC解析を行い、そのメタ解析を行った。遺伝子多型だけのモデルでは、AUCは0.625 (95%CI: 0.583-0.666)、生活習慣要因だけのモデルでは、AUCは0.68 (0.567-0.792)、遺伝子+環境要因のモデルではAUCは0.715 (0.606-0.824)であり、遺伝子+環境要因のモデルが需要可能レベルの予測モデル出ある事が示された。

また、遺伝子多型によるリスクに基づく生涯リスクの推定も行った。前述の症例対照研究Meta-analysisにより得られた遺伝子多型による乳がんリスクカテゴリに対するオッズ比、グループ別の頻度、がん登録情報、死亡統計情報を組み合わせる事で、生涯乳がんリスクの推定を行ったところ、低リスク群で6.3%、中リスク群で9.8%、高リスク群で21.2%の推計を得た。この事は、リスク群別で予防行動を変える事の意義を示唆するものであった。またBMIに関してプール解析からの相対危険度、国民健康・栄養調査に基づく頻度情報を用い、BMI25未満の人の生涯リスクは9.2%、BMI25以上の人の生涯リスクは11.9%であった。BMI25以上か否かは、2.7%の生涯リスクの差をもたらす事が示された。

リスク予測モデルに関して判別能が十分であり、しかも生涯リスク推計を行う事で、フィードバックを行うに十分なエビデンスが構築できた。

<sup>1)</sup> 鹿児島大学、<sup>2)</sup> 国立がん研究センター、<sup>3)</sup> 大阪大学

### <研究課題4>

がんに結合する高親和性T細胞受容体の樹立

### <研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫応答研究分野  
研究者氏名 岡村文子  
共同研究者 葛島清隆、樋田豊明

### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

目的：腫瘍免疫応答研究分野では、病院呼吸器内科と共同研究でHLA-A24拘束性にヒトペプチド由来のペプチドを認識する細胞傷害性Tリンパ球(cytotoxic T lymphocyte, CTL)クローン(K3-1)を樹立した。K3-1は、HLA-A24を有する肺がん患者のがん性胸水中の肺がん細胞を傷害することができる。平成29年度は、293T細胞を用いた新規のTCRディスプレイ法を用いて、このK3-1から単離した抗原受容体遺伝子(TCR)の親和性増強を行った。本年度は、同じ手法を用いて、HLA-Cw3拘束性のがん抗原の一つであるNY-ESO1蛋白由来のペプチドを認識するTCRの親和性改良を試みた。

方法：HLA-Cw\*03:04拘束性NY-ESO-1特異的CTLクローン(G065;名古屋大学大学院医学研究科・分子細胞免疫学・西川博嘉教授より分与)から5'-RACE法でTCR遺伝子を単離し、プラスミド(pcDNA3.1)に挿入した。Overlapping PCR法を用いて、 $\alpha$ 鎖および $\beta$ 鎖の全てのCDRをカバーする変異ライブラリー( $\alpha$ 鎖5個、 $\beta$ 鎖5個)を作製した。それぞれのライブラリーでは、連続する5個のコドンにランダムな遺伝子変異を加えた。これらのうちのライブラリー中に高親和性TCRが存在するかを調べるため、CD3遺伝子導入済みHEK-293T細胞(CD3-293T)に上記ライブラリーの一つを、対となる野生型のTCR遺伝子と共に導入した。2日後、細胞表面に発現したTCRと特異的に結合するHLAテトラマー試薬で細胞を染色しフローサイトメーターにて蛍光強度を測定した。野生型に比べてテトラマー陽性細胞の割合がどの程度増加しているかをDivaソフトウェアで解析した。テトラマー結合性が増加していた変異遺伝子ライブラリーを導入したCD3-293T細胞からセルソーターを用いてTCR発現細胞を分取した。分取した細胞から抽出したプラスミドをもう一度CD3-293T細胞に導入し、上記と同様の方法でTCR発現細胞を分取することで濃縮した。さらに、2回目に分取した細胞からプラスミドを単離し、特異的なプライマーによるPCRを行って、 $\beta$ 鎖遺伝子をコードするプラスミドを取得した。同様の方法でCD3-293T細胞へ導入後、HLAテトラマー試薬で染色し、フローサイトメーターで蛍光強度を測定し野生型と比較した。変異導入部分の塩基配列をDNAシーケンシングしてアミノ酸配列を推定した。

結果： $\beta$ 鎖のCDR2に変異を導入したライブラリーを(野生型の $\alpha$ 鎖TCRとともに)導入したCD3-293T細胞において、野生型TCRよりもHLAテトラマーの染色性が増加している細胞集団が観察された。この細胞集団をセルソーターで回収して以下の実験を行った。分取したテトラマー



高結合性 TCR 発現細胞から TCR 遺伝子をコードするプラスミドを回収した。しかしながら、レトロウイルスを用いてヒト T 細胞株に TCR 遺伝子導入した実験では、これらの候補クローンは野生型とほぼ同程度の免疫反応を示した。

**考察：**がん抗原 NY-ESO-1 を特異的に認識する TCR の  $\beta$  鎖の CDR2 部分に変異を導入することで、テトラマーで高輝度に染色される TCR 遺伝子を複数取得した。これらの TCR 蛋白はコントロール HLA-Cw\*03:04 テトラマーとは結合しなかったため、少なくとも抗原特異性は保持されていると考えられた。しかしながら、レトロウイルスを用いてヒト T 細胞株に変異 TCR 遺伝子導入した実験結果からは、これらの TCR の親和性が改良されたとは断言できなかった。テトラマーに高い結合性を示すものの、T 細胞に導入した時に免疫と応答の増強が見られなかった原因を今後検討する必要がある。

#### <研究課題名 5>

大腸がん転移抑制遺伝子の同定およびその機能解析  
Identification and functional analysis of colon cancer metastasis suppressor genes

#### <研究者氏名>

所属部 がん病態生理学分野  
研究代表者 佐久間圭一朗  
共同研究者 佐々木英一、木村賢哉、清水泰博、谷田部 恭、青木正博

#### 【目的】

大腸がんの罹患数は年々増え続けており、その死因の大半に転移が関与するといわれる。転移の機序は未解明の点が多く、転移促進因子は数多く報告されている一方で、転移抑制因子はほとんど同定されていない。我々は、低転移性マウス大腸がん細胞株 CMT93 と shRNA ライブラリーを用いたマウス生体内スクリーニング法を確立し、新規大腸がん転移抑制遺伝子として pre-mRNA スプライシングファクターをコードする *Hnrnp11* を同定した。ヒトにも *Hnrnp11* のオルソログ *HNRNPLL* が存在する。本研究課題では、*HNRNPLL* の機能および発現制御機構の解明をおこなう。

#### 【研究成果】

平成30年度は、前年後に *Cancer Science* 誌に投稿した論文の査読コメントに対応した追加実験をおこない、若干の改稿を経て掲載された。論文の内容は、大腸がん細胞において、*HNRNPLL* は DNA 複製制御因子である *PCNA*、*RFC3*、*FEN1* の mRNA 安定化を介して細胞周期の進行を促進するというものである。さらに、臨床検体においても、*HNRNPLL* と *PCNA*、*RFC3*、*FEN1* の発現量が正の相関を認めた。先に *Gut* 誌に報告した内容と合わせると、*HNRNPLL* は大腸がんの転移を抑制する一方で増殖を促進する。このことから、*HNRNPLL* 自体を治療標的とすることは困難であると考えられ、今後は主

に *HNRNPLL* の下流で制御を受けるスプライズバリエーションを対象に、治療標的分子の探索を継続する予定である。

#### 【成果発表】

##### (1) 論文

1. Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, and Aoki M: *HNRNPLL*, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of *CD44* during epithelial-mesenchymal transition. *Gut* 67 (6): 1103-1111, 2018.
2. Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, and Aoki M: *HNRNPLL* stabilizes mRNAs for DNA replication proteins and promotes cell cycle progression in colorectal cancer cells. *Cancer Sci* 109 (8): 2458-2468, 2018.

##### (2) 学会発表

1. Aoki M, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, and Sakuma K: Identification of *HNRNPLL* as a novel metastasis suppressor of colorectal cancer. AACR Annual Meeting 2018, Chicago, USA, 2018.
2. Aoki M and Sakuma K: *HNRNPLL* is a novel metastasis suppressor of colorectal cancer, and modulates alternative splicing of *CD44* during epithelial-mesenchymal transition. 第70回日本細胞生物学会, 東京, 2018.
3. 佐久間圭一朗、青木正博: *HNRNPLL* promotes cell cycle progression in colon cancer cells by stabilizing mRNAs for regulators of DNA replication. 第77回日本癌学会学術総会, 大阪, 2018.
4. 青木正博、前田亮、小島康、佐久間圭一朗: The roles of tumor microenvironment in cancer metastasis. 第77回日本癌学会学術総会, 大阪, 2018.

## 4. プロジェクト研究（共同研究費）

### <研究課題 1>

組織構造を有した新規培養系による、前立腺がん検体の新評価

A new assessment of prostate cancers through a novel culture system presenting intact tissue architecture

### <研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 猪子誠人

共同研究者 林裕子、曾我倫久人、小倉友二、谷田部 恭

### 【目的】

生体内の細胞を体外で培養することは一般的に難易度が高い。それ故に生体内の上皮組織構造を保ったまま培養する試みは未だ開発途上にある。これらは臨床検体の活用を狭める壁となっている。

最近、上皮幹細胞の無限増殖培養が、特殊な線維芽細胞が出す未知の因子と ROCK inhibitor によるアポトーシス阻害で可能になった (Richard Schlegel ら)。報告者もこれに類似の方法で前立腺上皮幹細胞を得ることができた。さらに報告者はこの幹細胞を過密培養させることで世界初の前立腺の2層分化誘導法を確立し、検体を生体にもっとも近い状態で培養できるシステムを整えた。すなわち正常前立腺が示す、基底幹細胞層と上層分化上皮層の2層構造を再現できるのである。

本研究では、この報告者が新規開発した生体内にもっとも近い培養法で前立腺がん検体を培養し、さまざまな段階にあるがんの特性評価をきたまま分子レベルで達成することを主目的とする。これにより得た分子指標を総括し、今後増える前立腺がんへの個別対応化の礎を創る。

### 【方法】

高・中・低分化型腺がんに相当する Gleason score 6・7・8 以上の病理診断とこれに由来する培養細胞の基礎データを集めるため、以下のことを行う。

- (1) 新規前立腺腫瘍患者 100-200 名に対し、泌尿器科部で通常行う診断前生検に加え、研究用にごん部を2検体追加採取する。この病理診断と紐付された検体の培養細胞化を腫瘍医化学部で行う。必要に応じて混入した正常細胞を除去し、がん幹細胞を単離する。
- (2) 本法で培養した、生体内にもっとも近い状態でのがん細胞の特性を、詳細な免疫染色やウエスタンブロット、遺伝子解析で評価する。すなわち種々の上皮特性（細胞間接着、細胞極性、一次線毛）や圧迫に付随する細胞収縮や逸脱を表す分子マーカー（リン酸化ミオシン等）および遺伝子変異として評価し、正常分化状態との差を見出す。

### 【結果】

- (1) 本年度は検体数を大幅に増やすことができた。施設の倫理委員会の承認後2年目に入ったこともあり、泌尿器科スタッ

フの全面協力と患者さんの献身的なご協力で、全ての悪性度の前立腺が計約 40 検体まで増えた。

- (2) 昨年度はがん症例の免疫学的解析から細胞骨格や細胞周期の新規異常を見出していた。しかし、医療標的分子の抽出にはやはり網羅的探索が強力であるため、今年度は正常分化過程での遺伝子発現比較解析を実施した。これにより診断の基礎となる分子基盤の質が大幅に向上した。その下積みとして、昨年度は化合物 X の添加によってフィーダー細胞（線維芽細胞）に頼らない、純粋な幹細胞集団の維持を可能にしていた。さらに今年度は化合物 X を除去すると幹細胞がほぼ 100% 上皮に分化する新規分化培養法を開発した。この2つの発見を活かし、今回は正常細胞の分化の前後および途中で変動する遺伝子群を発現比較解析（アジレント社、マイクロアレイ）で抽出した。実験精度を高めるため、前立腺と乳腺の2種類の組織由来の幹細胞を用いたところ、両者に共通して、①幹細胞、②上皮分化後、③分化途中、のそれぞれに特徴的な遺伝子群として、既知分子だがこれまで関連性の報告がないものや未知の lncRNA が各 10 種類～抽出されてきた。一部は TCGA 解析などで、癌との相関が目ざされつつあるものもふくまれていた。また特定のイオンチャネルやサイトカインについて、実際に分化への強い影響力を持つことが RNA 干渉法により確認中にある。これらの結果は、癌の特性と密接に関わる新規遺伝子群が解析可能な数としてかなり絞り込まれたことを意味する。

### 【考察】

今回正常および癌細胞の特性と相関する変動遺伝子群が新たに抽出されたのには、報告者のサンプルや実験反応の高純度に起因するところが大きい。今後は詳細な学術的解析として以下を予定している。

正常株からのゲノム編集による遺伝子破壊でこれらの変動遺伝子の生物学的効果を明らかにする。同じことをがん検体で行い、結果を比較していくことで、新たな腫瘍マーカーの抽出に努める。また治療応用としての化合物や標的遺伝子の検索に努める。このように、今後もこのがん生検中の幹細胞をきたまま増幅・培養分化解析する新たな方法で、未知の表現型を簡便にあぶりだし、診断・治療・予防開発の新たな標的を次々と提示できるよう努める。

### <研究課題 2>

TAZ 活性化による中皮細胞がん化の分子機構の解明

Molecular mechanism of mesothelial cell transformation by TAZ activation

### <研究者氏名>

所属部 分子腫瘍学分野

研究者氏名 佐藤龍洋

共同研究者 向井智美、松下明弘、藤下晃章<sup>1)</sup>、奥田真帆、青木正博<sup>1)</sup>、関戸好孝

## 【目的】

悪性中皮腫はアスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍であり、主に胸膜に一層に存在する中皮細胞から発生する。また、多くの分子標的薬に感受性を示さず、近年臨床使用されている免疫チェックポイント阻害剤の効果も限定的である。次世代シーケンサーを用いたゲノム解析では、NF2、BAP1、CDKN2A 遺伝子といったがん抑制遺伝子に高頻度の不活化変異が認められたが、ドライバー遺伝子の変異は稀であることがわかった。NF2遺伝子産物（転写産物はMerlin）は細胞内のHippoシグナル伝達系を制御することで転写コアクチベーターであるYAP、TAZの活性を抑制し、増殖抑制シグナルを細胞に伝達する。当部で樹立した悪性中皮腫細胞株を用いた解析では、多くの悪性中皮腫細胞株においてTAZの発現および活性を検出しており、TAZの恒常的活性化が細胞増殖、運動・浸潤能を増強することを見出している。また、TAZの活性化型変異体によって発現誘導されるサイトカインとしてIL-1beta 遺伝子を同定し、IL-1betaがTAZと同様に細胞増殖、運動・浸潤能を増強し、細胞ががん化を促進することを示唆する知見をこれまでに得ている。

## 【方法】

悪性中皮腫細胞株もしくは不死化正常中皮腫細胞株はRPMI-1640培地に10% FBSを添加して培養した。TAZおよびIL-1betaのノックダウンはレンチウイルスを用いて行った。中皮腫モデルマウスはNOD/SCIDマウスにルシフェラーゼ遺伝子を導入した培養細胞を胸腔内に注入して作成し、腫瘍の増殖をIVIS imaging systemを用いて測定した。IL-1RAによる増殖抑制効果は、培養細胞へ添加して72時間後の細胞数を測定して評価した。

## 【結果】

TAZ-IL-1beta経路を抑制することが悪性中皮腫の増殖を抑制できるか検討した。TAZをRNA干渉法にてノックダウンした細胞をヌードマウスの胸腔に同所移植したところ、ノックダウンをしていないコントロール細胞と比較して腫瘍形成が顕著に抑制された。また、TAZの活性化型変異体を発現させて造腫瘍能を獲得した中皮細胞を用いてIL-1betaのノックダウンを行い、これをヌードマウス胸腔に同所移植した場合でも同様に腫瘍形成が抑制された。さらにIL-1beta受容体阻害剤（IL-1RA）を中皮腫細胞に投与してIL-1beta経路を遮断したところ、IL-1RAはHippoシグナル伝達系に異常のある中皮腫細胞株に特異的に増殖抑制効果を示した。

## 【考察】

本研究の結果からNF2遺伝子異常などによりHippoシグナル伝達系が不活性化した悪性中皮腫株ではTAZの活性化やIL-1betaの分泌亢進が起きており、これを阻害することが悪性中皮腫に対する新たな治療戦略となりうる事が強く示唆された。今後IL-1RAを代表とするIL-1beta経路の阻害剤の生体内での有用性、および既存の薬剤との併用療法の可能性など治療法の応用について検討を深める必要がある。

1) がん病態生理学教室

## ＜研究課題 3＞

漿液性嚢胞性腫瘍および悪性膵内分泌腫瘍に対するプローベ型共焦点内視鏡の検討

Needle based confocal laser endomicroscopy for SCN and pNET

## ＜研究者氏名＞

所属部 消化器内科部

研究者氏名 奥野のぞみ

共同研究者 原和生、桑原崇通、水野伸匡、松尾恵太郎

## 【目的】

膵病変に対する診断の進歩にはめざましいものがあり、主な診断法としては、1. CT・MRI・PETなどの画像検査 2. 超音波内視鏡および超音波内視鏡下穿刺吸引法 3. 内視鏡的逆行性膵胆管造影検査（ERCP）があげられる。膵病変に対し、当院では確定診断のために超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）を施行しており、正診率は95%以上と良好な成績を得ている。しかし、漿液性嚢胞性腫瘍（SCN）や膵管内乳頭粘液性腫瘍においては画像診断のみでは鑑別が困難である症例や10 mm以下の小病変においてはEUS-FNAによる検体採取が困難な症例を経験する。現在、生検診断のみに頼らず生体内で生きた状態の細胞を直接観察することができ、細胞レベルでの診断を可能にするプローベ型共焦点内視鏡に注目が集まっている。これまで行われてきた画像検査を大きく凌駕する可能性があり、漿液性嚢胞性腫瘍および膵内分泌腫瘍（pNET）に対するプローベ型共焦点内視鏡の有用性を明らかにすることを目的とした。

## 【方法】

病理組織学的診断が必要なSCNや10 mm以下のpNETが疑われる症例で、患者本人より文書同意が得られた症例に対しEUS-FNAの際に共焦点プローベ型内視鏡による観察を行う。プローベ型共焦点内視鏡については、EUS-FNAをおこなう際に19Gの穿刺針よりプローベを挿入し、10%フルオロセイン2.5 ml-5 mlを静脈内投与したのちに病変の観察をおこなう。15分以内に術者が病変部の診断が可能と思われる細胞像を得られた場合には手技の完遂とし、診断可能な細胞像が得られない場合には手技の不成功と定義した。

最終診断は、手術検体による病理組織学的診断あるいは半年以上の経過観察による臨床診断とした。

Primary endpointを安全性、Secondary endpointを手技の完遂率および有用性とし、予定症例数は10例を目標とした。

## 【結果】

結果1：SCNが疑われた1例の検討

処置前にSCNが疑われ、プローベ型共焦点内視鏡を施行した症例は1例であった。腫瘍径は30 mm大の体部病変であり、穿刺およびプローベ型共焦点内視鏡での観察が可能であったが、セルビジオは非典型所見のみであり診断にはいたらなかった。



EUS-FNAを施行し、悪性所見の有無は確認できたが、病理組織学的にもSCNの診断にはいたらなかった。画像所見からSCNが最も考えられるため経過観察をおこなっている。

#### 結果 2：10 mm 以下の pNET が疑われた 5 例の検討

年齢中央値 65 (30-70) 歳、男女比 3/2 であった。腫瘍径中央値は 10 mm であり、頭部/体部/尾部 3/1/1 例であった。全例穿刺およびプローベ型共焦点内視鏡の観察が可能であった。プローベ型共焦点内視鏡により pNET と診断可能であった症例は 80% (4/5 例) であった。EUS-FNA は全例で施行しており、検体採取率は 80.0% (4/5 例) であった。プローベ型共焦点内視鏡で pNET の診断が困難であった 1 例については EUS-FNA を施行し病理診断が solid pseudopapillary tumor であった。プローベ型共焦点内視鏡で pNET の診断が可能であったが、検体採取が困難であった 1 例は、EUS-FNA を再検し pNET の診断であった。偶発症は 1 例も認めなかった。

#### 【考察】

今回、小数例の検討ではあるが、偶発症は認めなかった。セルビジオで、診断が可能であった症例は 66.6% (4/6 例) であり、脾腫瘍に対する EUS-FNA の正診率に比較すると十分な成績ではなかった。しかしながら、SCN 症例においては EUS-FNA でも良悪性の診断にとどまり、確定診断はできておらず、10 mm 以下の pNET においても EUS-FNA では診断困難な症例を認めている。穿刺が可能であっても、EUS-FNA での組織採取が困難な症例はやはり存在するため、試薬の改善等によりセルビジオの正診率の向上が得られれば、安全な手技であり、臨床的に有用である可能性はある。

#### < 研究課題 4 >

次世代シーケンサーを用いた個別化医療の確立を目指した悪性リンパ腫の遺伝子変異解析

Genome-wide mutational analyses of malignant lymphomas leading to the establishment of individualized medicine

#### < 研究者氏名 >

所 属 部 血液・細胞療法部

研究者氏名 加藤 春美

共同研究者 山本 一仁

WHO 分類ではリンパ系前駆細胞腫瘍として同一範疇に定義づけられている急性リンパ芽球性白血病 (ALL) と比較して、成人リンパ芽球性リンパ腫 (LBL) は希少疾患であり分子病態に関する研究は十分進んでいない。本研究は、網羅的遺伝子解析によって LBL の病因に特徴的に関わる遺伝子変異およびシグナルパスウェイを明らかにし、臨床応用可能な分子病態を解明し、患者の層別化および個別化治療の確立、および分子標的治療へ発展するための研究基盤を確立することを目的としている。

希少疾患である成人 T 細胞リンパ芽球性リンパ腫に対しては、強力化学療法にひきつづく強化・維持療法での良好な治療成績

(Thomas et al. Blood 2004) の報告結果を受けて、当院でも 2005 年以降、成人 T 細胞リンパ芽球性リンパ腫に対して同様の治療を継続的に実施し、同等の良好な成績を得ている。小児 ALL・LBL では T 細胞の早期分化段階起源の腫瘍 (T 細胞表現型として CD1a 陰性、CD8 陰性、CD5dim を有する腫瘍細胞で、さらに myeloid/stem cell antigens として CD13、CD33、CD34、CD117、and/or HLA-DR を発現している腫瘍：early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia) では予後不良であることが報告されており、細胞起源の同定については前回報告したように以下の抗体、抗 CD1a、CD2、cCD3、sCD3、CD7、CD34 抗体を用いて腫瘍細胞の表現型の解析をおこなったところ、4 症例は cortical T-cell type、2 症例は medullary T-cell type、2 例は pro T/pre T-cell types であった。これら 8 症例のうち、2 例で再発をみとめ、再発を認めた症例は pro/pre T-cell types と診断された症例であるという結果であった。さらに pro T-cell type の症例が early T-cell precursors の表現型と一致し、本症例は強化化学療法中に早期再発を認め、化療抵抗性を有する症例であった (Kato H, Yamamoto K, et al. *Hematology*. 2018)。

Early T-cell precursors の表現型を含む上記 8 症例のうち、正常細胞からの DNA を抽出可能な症例について、次世代シーケンサーを用いた腫瘍細胞における遺伝子変異解析を実施した。腫瘍割合が 8 割以下の症例に関しては、磁気細胞分離法を用いて細胞純化を行った後に、DNA の抽出後にライブラリー作成し、全エクソン解析をおこなった。LBL 症例のうち、非寛解 (早期再発) をきたした Early T-cell precursors の表現型を示す症例において特徴的な遺伝子異常に着目し遺伝子解析を行って絞り込みを行ったところ、約 1000 の遺伝子異常が同定された。遺伝子変異のうち、約半数が exon における遺伝子変異であり、約 1% が splicing に関連した遺伝子異常であった。寛解に至った症例および非寛解で予後不良の early T-cell precursors LBL 症例の各群で抽出された遺伝子について現在、比較検討を行っており、さらに臨床的データと合わせた解析を進める予定である。



## 第2章 研究発表関係

### 1. 学会誌における研究発表テーマ調べ（総長，副総長）

総長

- 001 伊藤誠二，伊藤友一，三澤一成，檜垣栄治，大城泰平，植村則久，木下敬史，夏目誠治，千田嘉毅，安部哲也，小森康司，清水泰博，木下 平：胃全摘－開腹 vs 腹腔鏡－開腹. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 002 伊藤誠二，伊藤友一，三澤一成，植村則久，木下敬史，千田嘉毅，安部哲也，小森康司，清水泰博，木下 平：胃癌に対する腹部大動脈周囲リンパ節郭清の再考 腹腔内に限局した高度リンパ節転移陽性胃癌に対する初回治療としてS-1/CDDP療法を行った症例の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [パネルディスカッション]

副総長・総長

- 001 *Kajino T, Shimamura T, Gong S, Yanagisawa K, Nakatochi M, Griesing S, Shimada Y, Kano K, Suzuki M, Miyano S, Takahashi T*: Divergent lncRNA MYMLR regulates MYC by eliciting DNA looping and promoter-enhancer interaction. American Association for Cancer Research Annual Meeting, 2018, (Chicago), [口演]
- 002 *Takahashi T*: ROR1: An Achilles Heel of Lung Cancer. Japanese Cancer Association-American Association for Cancer Research Special Joint Conference, 2018, (Kyoto), [口演]
- 003 井田梨沙，山口知也，梶野泰祐，*Shi X*，林 美優，柳澤聖，島田友香子，鈴木 元，高橋 隆：SRC is involved in the ROR1-sustained ASK1 inhibition ROR1 によるASK1の抑制におけるSRCの関与. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 004 山口知也，林 美優，井田梨沙，*Can Lu*，梶野泰祐，*Jinglei Cheng*，磯村久徳，鈴木 元，藤本豊土，高橋 隆：肺腺がんでのROR1によるカベオラ依存的エンドサイトーシスを介した生存シグナル制御機構. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]

## 2. 学会誌における研究発表テーマ調べ (病院)

### 消化器内科部

- 001 **Hara K** : EUS-BD. AEG Kitasato interventional workshop, 2018, (横浜), [ワークショップ]
- 002 **Hara K** : EUS-FNA Hands-on training. AEG Kitasato interventional workshop, 2018, (横浜), [ワークショップ]
- 003 **Hara K** : Current Status and Future Vision of EUS-guided biliary drainage JGES-ESGE joint sympo. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [シンポジウム]
- 004 **Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Iwaya H, Toriyama K, Matsumoto S, Ito A, Kuraoka N, Obata M, Yasuda M, Bhatia V, Hara K, Niwa Y.** : Long-term outcome of metachronous adenomas and carcinoma as in the ileal pouch and rectum after surgical treatment in patients with familial adenomatous polyposis. DDW2018, 2018, (ワシントンDC), [ポスター]
- 005 **Hara K, Ji Kon Ryu** : Session 1. Advanced Diagnostic EUS. WISE 2018 (Module2) & 16th KSGE EUS Hands-on Workshop, 2018, (韓国), [座長]
- 006 **Hara K** : Session 2. EUS-guided Tissue Acquisition Technique and complication of EUS-FNA. WISE 2018 (Module2) & 16th KSGE EUS Hands-on Workshop, 2018, (韓国), [講演]
- 007 **Hara K** : Session 4. EUS-FNA Hands-on. WISE 2018 (Module2) & 16th KSGE EUS Hands-on Workshop, 2018, (韓国), [講演]
- 008 **Hara K** : EUS-BD and EUS-CPN. 10th AEG Local EUS Workshop, 2018, (タイ), [ワークショップ]
- 009 **Hara K** : Live Demo (Interventional EUS). 10th AEG Local EUS Workshop, 2018, (タイ), [ワークショップ]
- 010 **Hara K** : Current status & future of EUS-BD. The 21th Chinese Symposium on Endoscopic Ultrasonography, 2018, (上海), [サテライトシンポジウム]
- 011 **Hara K** : EUS for pancreatic malignancy. The 21th Chinese Symposium on Endoscopic Ultrasonography, 2018, (上海), [講演]
- 012 **Hara K** : EUS Video Competition. The 21th Chinese Symposium on Endoscopic Ultrasonography, 2018, (上海), [司会]
- 013 **Hara K** : EUS for pancreatobiliary malignancy. 2018 新華消化器内視鏡学会, 2018, (上海), [講演]
- 014 **Hara K** : EUS -FNA Pancreatic head mass. 2018 新華消化器内視鏡学会, 2018, (上海), [LIVE DEMO]
- 015 **Hara K** : International Poster. JDDW2018, 2018, (神戸), [Discusser]
- 016 **Hara K** : EUS Teaching sub-committee. Annual AEG meeting 2018, 2018, (韓国), [ワークショップ]
- 017 **Hara K** : EUS-Hands-on seminar. APDW-KDDW joint conference 2018, 2018, (韓国), [ワークショップ]
- 018 **Hara K** : EUS guided biliary drainage -who, when, which and how? (Scientific Program, CME). ISGCON2018, Kochi, 2018, (India), [講演]
- 019 **Hara K** : Linear EUS made easy. AEG Workshop, ISGCON2018, Kochi, 2018, (インド), [講演]
- 020 **Hara K** : EUS Hands-on. AEG Workshop, ISGCON2018 Kochi 2018, (インド), [ワークショップ]
- 021 **Hara K** : EUS-GBD, Technique and Indication (Scientific Program). ISGCON2018, Kochi, 2018, (インド), [講演]
- 022 **Okuno N, Kuwahara T, Mizuno N, Obata M, Kurita Y, Koda H, Hara K** : Primary EUS-guided hepaticenterostomy for the cases expected difficult ERCP with malignant biliary obstruction. EUS 2018, 2018, (バンコク), [ポスター]
- 023 **Hara K** : EUS Hands-On Workshop. TAGE Interventional EUS Hands-On Workshop, 2018, (バンコク), [ワークショップ]
- 024 **Hara K** : LIVE DEMO. Al Azhar Annual Congress of Advanced GI Endoscopy, 2018, (カイロ), [ワークショップ]
- 025 **Hara K** : EUS-BD. Al Azhar Annual Congress of Advanced GI Endoscopy, 2018, (カイロ), [特別講演]
- 026 **Hara K** : EUS for Pancreatic Malignancy. Al Azhar Annual Congress of Advanced GI Endoscopy, 2018, (カイロ), [特別講演]
- 027 **Hara K** : EUS-guided Biliary Drainage. The 24th Annual International Congress AL-Azhar Faculty of Medicine, 2018, (カイロ), [講演]
- 028 **Hara K** : ERCP Hands-On. Al Azhar Annual Congress of Advanced GI Endoscopy, 2018, (カイロ), [ワークショップ]
- 029 **Okuno N** : Basic EUS How to perform EUS. Al-Azhar Annual Congress of Advanced GI Endoscopy, 2018, (カイロ), [講演]
- 030 **Hara K** : EUS-guided pseudocyst drainage. 4th BASIC & INTERVENTIONAL EUS WORKSHOP OF DEST, 2019, (台北), [特別講演]
- 031 **Hara K** : EUS-guided biliary drainage. 4th BASIC & INTERVENTIONAL EUS WORKSHOP OF DEST, 2019, (台北), [特別講演]
- 032 **Hara K** : Hands-on workshop of EUS-FNA. 4th BASIC & INTERVENTIONAL EUS WORKSHOP OF DEST, 2019, (台北), [ワークショップ]
- 033 **Hara K** : Hands-on workshop of EUS-HGS. 4th BASIC & INTERVENTIONAL EUS WORKSHOP OF DEST, 2019, (台北), [ワークショップ]
- 034 **Hara K** : EUS-guided Drainage. ENDOCON 2019, 2019,

- (ニューデリー), [特別講演]
- 035 **Hara K**: ERCP Live Demo (Large CBD Stone). ENDO-CON 2019, 2019, (ニューデリー), [ワークショップ]
- 036 **Ueno M, Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Yuki-sawa S, Ishii H, Furuse J**: Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113, FUGA-BT). ASCO 2018, 2018, (シカゴ), [ポスターディスカッション]
- 037 **Takahashi H, Morizane C, Nomura S, Okano N, Tsuda M, Mizuno N, Satake H, Tsuji K, Shioji K, Ishii H, Yasui K, Miyakawa H, Ishiguro A, Ogura T, Ueno M, Ikeda A, Terashima T, Ikeda M, Okusaka T, Furuse J**: Phase II clinical trial of gemcitabine plus oxaliplatin combination therapy (GEMOX) in patients with advanced pancreatic enocarcinoma with a family history of pancreatic/breast/ovarian/prostate cancer or personal history of breast/ovarian/prostate cancer (FABRIC study), ESMO 2018, 2018, (ミュンヘン), [ポスター]
- 038 **Okuyama H, Ikeda M, Okusaka T, Furuse J, Furukawa M, Ohkawa S, Hosokawa A, Kojima Y, Yamaguchi K, Murohisa G, Shioji K, Ishii H, Mizuno N, Kojima M, Yamanaka T**: A phase II study of everolimus in patients with unresectable pancreatic neuroendocrine carcinoma refractory or intolerant to platinum-containing chemotherapy. ESMO 2018, 2018, (ミュンヘン), [ポスター]
- 039 **Yamada I, Morizane C, Okusaka T, Ogawa G, Sato Y, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Fukutomi A, Shimizu S, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Nishina T, Ishii H, Furuse J**: The clinical outcomes of combination chemotherapy in elderly patients with advanced biliary tract cancer: An exploratory subgroup analysis of JCOG1113. 2019 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2019, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 040 **Ueno M, Morizane C, Okusaka T, Ogawa G, Sato Y, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Nishina T, Ishii H, Furuse J**: The influence of renal function on gemcitabine-based chemotherapy for advanced biliary tract cancer: An exploratory subgroup analysis of JCOG1113. 2019 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2019, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 041 **Strosberg JR, Mizuno N, Doi T, Grande E, Delord J-P, Shapira-Frommer R, Bergsland EK, Shah MH, Fakih M, Takahashi S, Pihl-Paul SA, O'Neil B, Thomas S, Lolkema MP, Wang JD, Ibrahim N, Pruitt SK, Hadoux J**: Pembrolizumab treatment of advanced neuroendocrine tumors: Results from the phase II KEYNOTE-158 study. 2019 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2019, (サンフランシスコ), [ラビッド・アブストラクト・セッション]
- 042 **Kobayashi S, Ueno M, Ogawa G, Fukutomi A, Ikeda M, Okusaka T, Sato T, Ito Y, Kadota T, Ioka T, Sugimori K, Sata N, Nakamori S, Shimizu K, Mizuno N, Ishii H, Furuse J**: Impact of renal function on the efficacy and safety of S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. 2019 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2019, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 043 **Ioka T, Ueno M, Oh D-Y, Fujiwara Y, Chen J-S, Doki Y, Mizuno N, Park K, Asagi A, Hayama M, Nii M, Komuro K, Sugimoto M, Vlahovic G, Ikeda M**: Evaluation of safety and tolerability of durvalumab (D) with or without tremelimumab (T) in patients (pts) with biliary tract cancer (BTC). 2019 Gastrointestinal Cancers Symposium, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 044 **松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 小畑雅寛, 栗田裕介, 田中宏樹, 安田宗司, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山裕, 大西祥代, 鳥山和浩**: 当院における1型自己免疫性膵炎70例の検討. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [シンポジウム]
- 045 **原 和生**: 胆道 治療. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [座長]
- 046 **桑原崇通, 原 和生, 丹羽康正**: 人工知能を用いたIPMN術前良悪性スクリーニング. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [パネルディスカッション]
- 047 **奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生**: 術後腸管を有する悪性胆道狭窄に対するPrimary EUS-BD. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [胆PL-28]
- 048 **小畑雅寛, 桑原崇通, 原 和生**: 肝門部領域を含む胆管狭窄病変に対するプローブ型共焦点レーザー内視鏡検査の有用性. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [パネルディスカッション]
- 049 **田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正**: 内視鏡治療後に発見されたH.pylori除菌後胃癌の臨床病理学的検討. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [一般演題]
- 050 **大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田裕介, 原 和生, 丹羽康正**: 食道癌術前化学療法におけるサルコペニアの意義. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [ポスター]

- 051 栗田裕介, 桑原崇通, 原 和生: 嚢胞液解析を用いた膵嚢胞診断の現状とニューラルネットワークを用いた診断能向上の試み. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 052 原 和生: EUS標準化描出法 十二指腸球部. コンベックスEUS標準化描出委員会, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 053 原 和生: IPMNの診療. 胆膵症例検討会 in Nagoya Medical Center, 2018, (名古屋), [講演]
- 054 原 和生: 膵癌診療について. 臨床腫瘍セミナー 2018, 2018, (名古屋), [講演]
- 055 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡: 当院におけるEUS-CDSのトラブル予防法. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 056 原 和生: 進化したM-Through. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [特別講演]
- 057 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生: 自己免疫性膵炎における内視鏡の役割. 第95回消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [口演5膵一良性]
- 058 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田裕介, 原 和生, 丹羽康正: 深達度診断における食道造影の有用性の検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [ポスター]
- 059 小畑雅寛, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 栗田裕介, 丹羽康正, 原 和生: 膵頭十二指腸切除術後の良性胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療法の検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [一般演題]
- 060 原 和生: M-Through (プースカンファレンス). 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [司会]
- 061 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原和生, 田近正洋, 丹羽康正: 表在性食道胃接合部腺癌についての臨床病理学的検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [一般演題]
- 062 原 和生: デジタルポスター司会 ポスター 66, 膵-EUS-FNA2. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [司会]
- 063 栗田裕介, 桑原崇通, 原 和生: 慢性膵炎内視鏡診療におけるEUS-FNAの役割. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [シンポジウム]
- 064 原 和生: AXIOSセミナー. AXIOSセミナー, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 065 桑原崇通, 原 和生, 廣岡芳樹: 膵癌診断における造影US・EUSとエラストグラフィーの位置付け. 第91回日本超音波医学会学術集会, 2018, (神戸), [パネルディスカッション]
- 066 桑原崇通, 原 和生, 栗田裕介: 慢性膵炎様膵実質に併存した膵小腫瘍のEUS-FNAによる診断能とその背景膵実質の検討. 第91回日本超音波医学会学術集会, 2018, (神戸), [パネルディスカッション]
- 067 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生: 切除不能進行膵癌に対するFOLFIRINOX療法とnab-PTX/GEM療法の臨床的検討. 第128回日本消化器病学会東海支部例会, 2018, (三重), [シンポジウム]
- 068 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正: 当院におけるGI-NENに対するSRSの検出率に関する検討. 第128回日本消化器病学会東海支部例会, 2018, (三重), [シンポジウム]
- 069 原 和生: AXIOSセミナー. AXIOSセミナー, 2018, (大阪), [ワークショップ]
- 070 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 鳥山和浩, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 人工知能と嚢胞液解析を用いた膵嚢胞診断の診断能向上への試み. 第49回日本膵臓学会大会, 2018, (和歌山), [一般演題]
- 071 奥野のぞみ, 水野伸匡, 桑原崇通, 松本慎平, 栗田裕介, 小畑雅寛, 原 和生: Fully-covered self-expanding metal stentを用いたEUS-cyst drainageの有用性. 第49回日本膵臓学会大会, 2018, (和歌山), [口演-57]
- 072 小畑雅寛, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 栗田裕介, 孝田博輝, 原 和生: 当センターにおける膵全摘症例の長期成績の検討. 第49回日本膵臓学会大会 2018, (和歌山), [一般演題]
- 073 原 和生: Interventional Endoscopy 4. 第49回日本膵臓学会大会, 2018, (和歌山), [司会]
- 074 栗田裕介, 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和浩, 丹羽康正: 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するSRSの有用性に関する検討. 第49回日本膵臓学会大会, 2018, (和歌山), [司会]
- 075 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 鳥山和浩, 丹羽康正: 拡大内視鏡診断でSM1で浅の食道表在癌におけるFDG-PETの有用性. 第72回日本食道学会学術集会, 2018, (宇都宮), [ポスター]
- 076 原 和生: Interventional EUSの現況. 仙台内視鏡治療ライブセミナー 2018, 2018, (仙台), [講演]
- 077 原 和生: 仙台内視鏡治療ライブセミナー. 仙台内視鏡治療ライブセミナー 2018, 2018, (仙台), [司会]
- 078 原 和生: 仙台内視鏡治療ライブセミナー LIVE DEMO. 仙台内視鏡治療ライブセミナー 2018, 2018, (仙台), [ワークショップ]
- 079 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生: 転移性膵癌に対するOLFIRINOX療法とnab-PTX/GEM療法の臨床的検討. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [一般演題]
- 080 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 原和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 室 圭, 山本一仁, 谷田部 恭, 丹羽康正: B型肝炎の再活性化における検討. 第16回日本臨床腫瘍学会総会, 2018, (神戸), [ポスター]



- 081 原 和生：膵のう胞に関する最近の話題. 中部地区がん医療連携学術講演会, 2018, (名古屋), [講演]
- 082 孝田博輝, 奥野のぞみ, 栗田裕介, 小畑雅寛, 松本慎平, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生：胆道鏡による内視鏡診断が困難であったIgG4関連硬化性胆管炎の1例. 肝胆膵治療研究会, 2018, (名古屋), [口演]
- 083 小畑雅寛, 奥野のぞみ, 水野伸匡, 桑原崇通, 松本慎平, 栗田裕介, 孝田博輝, 細田和貴, 清水泰博, 原 和生：主膵管内進展を伴う膵体部腫瘍の1例. 第69回日本消化器画像診断研究会, 2018, (金沢), [ポスター]
- 084 栗田裕介, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 孝田博輝, 原 和生：小膵神経内分泌腫瘍における切除症例と経過観察症例の臨床経過. 第6回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2018, (京都), [一般演題]
- 085 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生, 丹羽康正：当院におけるGI-NENに対するSRSの検出率に関する検討. 第6回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2018, (京都), [ポスター]
- 086 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田裕介, 孝田博輝, 原 和生, 丹羽康正：胃底腺胃癌の一例. 第15回拡大内視鏡研究会, 2018, (東京), [一般演題]
- 087 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生：胆嚢筋筋症は胆嚢痛のリスクファクターか？第54回日本胆道学会学術集会, 2018, (千葉), [WS1-4]
- 088 小畑雅寛, 桑原崇道, 原 和生：膵頭十二指腸切除術後の良性胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療法の検討. 第54回日本胆道学会学術集会, 2018, (千葉), [シンポジウム]
- 089 栗田裕介, 桑原崇通, 原 和生：遠位胆管に限局する胆管狭窄を来し胆管癌との鑑別を要した好酸球性胆管炎の1例. 第54回日本胆道学会学術集会, 2018, (千葉), [パネルディスカッション]
- 090 原 和生：口演15 治療2. 第54回日本胆道学会学術集会, 2018, (千葉), [司会]
- 091 原 和生：膵NET NET SEMINAR NAGOYA. NET SEMINAR NAGOYA, 2018, (名古屋), [司会]
- 092 渡 二郎, 三谷誠一郎, 戸澤勝之, 富田寿彦, 大島忠之, 福井広一, 門脇重憲, 夏目誠治, 千田嘉毅, 田近正洋, 原和生, 谷田部 恭, 清水泰博, 廣田誠一, 三輪洋人：原発性非乳頭部十二指腸癌の臨床病理学的・分子病理学的検討. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜),
- 093 奥野のぞみ, 松本慎平, 原 和生：Primary EUS-guided hepaticocenterostomy for the cases estimated difficult ERCP with malignant biliary obstruction. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [IP-94]
- 094 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生：切除不能・再発膵癌に対するFOLFIRINOX療法とnab-PTX/GEM療法の一次/二次療法における有効性・安全性評価. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [パネルディスカッション]
- 095 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡：膵神経内分泌癌における外科手術の意義：Japan panNEN-G3 studyのサブグループ解析. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [ワークショップ]
- 096 小畑雅寛, 桑原崇道, 原 和生：胆管狭窄病変に対するプローブ型共焦点レーザー内視鏡検査の有用性. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 097 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原嵩通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原 和生, 丹羽康正：サルコペニアから考えるc StageIV食道癌治療. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 098 原 和生：Hirata Conference. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [座長]
- 099 栗田裕介, 桑原崇通, 原 和生：Usefulness and limitation of pancreatic cystic fluid analysis. 第26回日本消化器関連学会週間, 2018, (神戸), [パネルディスカッション]
- 100 鳥山和浩, 田中 努, 田近正洋：内視鏡治療後のH. pylori除菌後発見胃癌についての臨床病理学的検討. 第129回日本消化器病学会東海支部例会, 2018, (名古屋), [シンポジウム]
- 101 原 和生：シンポジウム2, 胃切除後の胆膵疾患の診断と内視鏡治療. 第129回日本消化器病学会東海支部例会, 2018, (名古屋), [座長]
- 102 奥野のぞみ, 松本慎平, 原 和生：胃切除後の悪性胆道狭窄に対するprimary EUS-HESの検討. 第129回日本消化器病学会東海支部例会, 2018, (名古屋), [シンポジウム2]
- 103 孝田博輝, 栗田裕介, 小畑雅寛, 松本慎平, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生：共焦点レーザー内視鏡が有用であった膵腫瘍の1例. 第129回日本消化器病学会東海支部例会, 2018, (名古屋), [口演]
- 104 原 和生：Hands-on. AXIOS Hands-on セミナー, 2018, (大阪), [講演]
- 105 桑原崇通：膵疾患検診としての超音波検査とその最新動向. 第41回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 2018, (岐阜), [教育講演]
- 106 原 和生：LIVE DEMO. 第8回関西消化器内視鏡ライブコース, 2018, (大阪), [ワークショップ]
- 107 原 和生：胆道病変に対するInterventional Endoscopy. 第8回関西消化器内視鏡ライブコース ランチョンセミナー, 2018, (大阪), [講演]
- 108 原 和生：超音波内視鏡の標準的描出法. 第3回岐阜EUS,ERCPHands-on workshop, 2019, (岐阜), [特別講演]
- 109 原 和生：Convex EUS Hands-on workshop. 第3回岐阜EUS,ERCPHands-on workshop, 2019, (岐阜), [ワークショップ]
- 110 鳥山和浩, 大内 晶, 大西祥代, 平山 裕, 田中 努, 大城泰平, 木下敬史, 小森康司, 田近正洋：当院におけるT1直腸癌に対する臨床病理学的検討. 第90回大腸癌研究会, 2019, (京都), [ポスター]
- 111 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 原

- 和生, 丹羽康正: 表在型食道癌に対する内視鏡治療前評価におけるFDG-PETの有用性の検討. 第15回消化管学会総会, 2019, (佐賀), [一般演題]
- 112 鳥山和浩, 大内 晶, 大城泰平, 木下敬史, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 小森康司, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正: T1結腸癌における腫瘍の局在(sidedness)の意義. 第15回消化管学会総会, 2019, (佐賀), [一般演題]
- 113 孝田博輝, 鳥山 和, 大西 祥, 平山 裕, 田中 努, 田近正洋: 化学療法後にサルベージ手術を行った食道腫瘍の1例. 第128回東海食道疾患症例検討会, 2019, (名古屋), [口演]
- 114 孝田博輝, 奥野のぞみ, 栗田裕介, 小畑雅寛, 松本慎平, 桑原崇通, 水野伸匡, 細田和貴, 原 和生: Nivolumabが原因と考えられた急性胆管炎の1例. 第70回日本消化器画像診断研究会, (東京), [ポスター]
- 115 原 和生: Hands-on. AXIOS Hands-on セミナー, 2019, (大阪), [講演]
- 116 原 和生: 魚沼ライブ EUS/ERCPセミナー. 魚沼ライブセミナー, 2019, (新潟), [ワークショップ]
- 117 原 和生: How to perform Convex EUS. 第1回 愛知EUS・ERCP ハンズオンセミナー, 2019, (名古屋), [特別講演]
- 118 原 和生: 膵疾患に関する最近の話題. リパクレオン学術講演会, 2019, (名古屋), [特別講演]

## 内視鏡部

- 001 *M. A. Shah, Kojima T, Enzinger P, Hochhauser D, Raimbourg J, Hollebecque A, Lordick F, Kim S.B, Tajika M, Kim H.T, Lockhart A.C, Arkenau H.T, El-Hajbi F, Gupta M, Pfeiffer P, Liu Q, Lunceford J, Kang S.P, Bhagia P, Kato K*: Pembrolizumab for patients with previously treated metastatic adenocarcinoma or squamous cell carcinoma of the esophagus: Phase 2 KEYNOTE-180. ASCO2018, 2018, (Chicago), [ポスター]
- 002 *Minashi K, Nihei K, Mizusawa J, Takizawa K, Yano T, Ezoe Y, Tsuchida T, Ono H, Iizuka T, Hanaoka N, Oda I, Morita Y, Tajika M, Fujiwara J, Yamamoto Y, Katada C, Hori S, Doyama H, Fukuda H, Muto M*: Final analysis of single-arm confirmatory study of diagnostic endoscopic resection (ER) plus selective chemoradiotherapy (CRT) for stage I esophageal squamous cell carcinoma (ESCC): JCOG0508. ASCO2018, 2018, (Chicago), [ポスター]
- 003 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Iwaya H, Toriyama K, Matsumoto S, Ito A, Kuraoka N, Obata M, Yasuda M, Bhatia V, Hara K, Niwa Y*: LONG-TERM OUTCOME OF METACHRONOUS ADENOMAS AND CARCINOMAS IN THE ILEAL POUCH AND RECTUM AFTER SURGICAL TREATMENT IN PATIENTS WITH FAMILIAL ADENOMATOUS POLYPOSIS. DDW 2018, 2018, (Washington DC), [ポスター]
- 004 *Kato K, Masuishi T, Fushiki K, Nakano S, Kawakami T, Kawamoto Y, Narita Y, Tsushima T, Nakatsumi H, Kadowaki S, Todaka A, Yuki S, Tajika M, Machida N, Komatsu Y, Muro K, Yasui H*: Impact of tumor growth rate during preceding treatment on tumor response to nivolumab or irinotecan in advanced gastric cancer. ASCO-GI 2018, 2019, (SanFrancisco), [ポスター]
- 005 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 小畑雅寛, 栗田裕介, 田中宏樹, 安田宗司, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山裕, 大西祥代, 鳥山和浩: 当院における1型自己免疫性膵炎70例の検討. 第49回日本膵臓学会大会, 2018, (東京), [シンポジウム]
- 006 桑原崇通, 原 和生, 丹羽康正: 人工知能を用いたIPMN術前良悪性スクリーニング. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [パネルディスカッション]
- 007 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原和生, 田近正洋, 丹羽康正: 内視鏡治療後に発見されたH.pylori除菌後胃癌の臨床病理学的検討. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [一般演題]
- 008 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田裕介, 原 和生, 丹羽康正: 食道癌術前化学療法におけるサルコペニアの意義. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [ポスター]
- 009 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田裕介, 原 和生, 丹羽康正: 深達度診断における食道造影の有用性の検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [ポスター]
- 010 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原和生, 田近正洋, 丹羽康正: 表在性食道胃接合部腺癌についての臨床病理学的検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [一般演題]
- 011 小畑雅寛, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 栗田裕介, 丹羽康正, 原 和生: 膵頭十二指腸切除術後の良性胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療法の検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 2018, (東京), [一般演題]

- 012 田近正洋：第577回東海胃腸疾患研究会，2018，（名古屋），[司会]
- 013 鳥山和浩，田近正洋，丹羽康正：当院におけるGI-NENに対するSRSの検出率に関する検討。第128回日本消化器病学会東海支部例会，2018，（津），[シンポジウム]
- 014 石原 誠，田近正洋，田中 努，鳥山和浩，丹羽康正：拡大内視鏡診断でSM1以浅の食道表在癌におけるFDG-PETの有用性。第72回日本食道学会学術集会，2018，（宇都宮），[ポスター]
- 015 桑原崇通，原 和生，水野伸匡，奥野のぞみ，松本慎平，小畑雅寛，栗田祐介，鳥山和浩，大西祥代，平山 裕，石原 誠，田中 努，田近正洋，丹羽康正：人工知能と嚢胞液解析を用いた膵嚢胞診断の診断能向上への試み。第49回日本膵臓学会大会，2018，（和歌山），[一般演題]
- 016 栗田裕介，桑原崇通，原 和生，水野伸匡，奥野のぞみ，田近正洋，田中 努，石原 誠，平山 裕，大西祥代，田中宏樹，安田宗司，小畑雅寛，松本慎平，倉岡直亮，伊東文子，岩屋博道，鳥山和浩，丹羽康正：当院における膵神経内分泌腫瘍に対するSRSの有用性に関する検討。第49回日本膵臓学会大会，2018，（和歌山），[一般演題]
- 017 三谷誠一郎，門脇重憲，舛石俊樹，谷口浩也，宇良 敬，安藤正志，田近正洋，古平 毅，安部哲也，室 圭：切除不能進行食道扁平上皮癌に対するmodified FOLFOX6療法の検討。第72回日本食道学会学術集会，2018，（宇都宮）
- 018 植村則久，安部哲也，檜垣榮治，細井敬泰，安 炳九，室圭，田近正洋，古平 毅，清水泰博：ステージIV食道癌はコンバージョン手術ができるか？当院におけるステージIV食道癌に対するコンバージョン手術の現状と治療成績。第72回日本食道学会学術集会，2018，（宇都宮）
- 019 Mitani S, Hashimoto N, Narita Y, Kato K, Masuishi T, Kadowaki S, Onishi S, Tajika M, Takahashi S, Shimomura K, Takahata C, Hotta E, Kobara M, Taniguchi H, Muro K：Safety of a shortened infusion of ramucirumab in patients with gastrointestinal cancer: a prospective study. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会，2018，（神戸）
- 020 大西祥代，田近正洋，田中 努，石原 誠，平山 裕，原和生，水野伸匡，桑原崇通，奥野のぞみ，室 圭，山本一仁，谷田部 恭，丹羽康正：B型肝炎の再活性化における検討。第16回日本臨床腫瘍学会学術集会，2018，（神戸），[ポスター]
- 021 田近正洋：大腸がんのリスクと早期診断・治療。平成30年度愛知県がんセンター公開講座，2018，（名古屋），[講演]
- 022 鳥山和浩，田近正洋，田中 努，石原 誠，大西祥代，水野伸匡，桑原崇通，奥野のぞみ，原 和生，丹羽康正：当院におけるGI-NENに対するSRSの検出率に関する検討。第6回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会，2018，（京都），[ポスター]
- 023 大西祥代，田近正洋，田中 努，石原 誠，水野伸匡，桑原崇通，奥野のぞみ，松本慎平，鳥山和浩，小畑雅寛，栗田裕介，孝田博輝，原 和生，丹羽康正：胃底腺胃癌の一
- 例。第15回拡大内視鏡研究会，2018，（東京），[一般演題]
- 024 渡 二郎，三谷誠一郎，戸澤勝之，富田寿彦，大島忠之，福井広一，門脇重憲，夏目誠治，千田嘉毅，田近正洋，原 和生，谷田部 恭，清水泰博，廣田誠一，三輪洋人：原発性非乳頭部十二指腸癌の臨床病理学的・分子病理学的検討。第56回日本癌治療学会学術集会，2018，（横浜）
- 025 安部哲也，植村則久，檜垣榮治，細井敬泰，門脇重憲，谷口浩也，室 圭，田中 努，石原 誠，田近正洋，丹羽康正，伊藤誠二，小森康司，清水泰博：高度局所進行食道癌に対する導入DCF療法後手術療法の成績。第56回日本癌治療学会学術集会，2018，（横浜）
- 026 田中 努，田近正洋，丹羽康正：SSBEとLSBE由来の表在性バレット腺癌の臨床病理学的検討。第26回日本消化器関連学会週間，2018，（神戸），[シンポジウム]
- 027 大西祥代，田近正洋，田中 努，石原 誠，平山 裕，水野伸匡，桑原崇通，奥野のぞみ，松本慎平，鳥山和浩，小畑雅寛，栗田裕介，原 和生，丹羽康正：サルコペニアから考えるc StageIV食道癌治療。第26回日本消化器関連学会週間，2018，（神戸），[ポスター]
- 028 鳥山和浩，田中 努，田近正洋：内視鏡治療後のH. pylori除菌後発見胃癌についての臨床病理学的検討。第129回日本消化器病学会東海支部例会，2018，（名古屋），[シンポジウム]
- 029 田近正洋：早期胃がんに対するESDの基本。第2回岐阜ESD倶楽部，2018，（岐阜），[講演]
- 030 田近正洋：食道癌治療の新展開。第29回日本消化器内視鏡学会東海セミナー，2019，（岐阜），[司会]
- 031 鳥山和浩，大内 晶，大西祥代，平山 裕，田中 努，大城泰平，木下敬史，小森康司，田近正洋：当院におけるT1直腸癌に対する臨床病理学的検討。第90回大腸癌研究会，2019，（京都），[ポスター]
- 032 鳥山和浩，田近正洋，田中 努，平山 裕，大西祥代，原 和生，丹羽康正：表在型食道癌に対する内視鏡治療前評価におけるFDG-PETの有用性の検討。第15回消化管学会総会，2019，（佐賀），[一般演題]
- 033 鳥山和浩，大内 晶，大城泰平，木下敬史，大西祥代，平山 裕，石原 誠，田中 努，小森康司，田近正洋，清水泰博，丹羽康正：T1結腸癌における腫瘍の局在(sidedness)の意義。第15回消化管学会総会，2019，（佐賀），[一般演題]
- 034 孝田博輝，鳥山和浩，大西祥代，平山 裕，田中 努，田近正洋：化学療法後にサルベージ手術を行った食道腫瘍の1例。第128回東海食道疾患症例検討会，2019，（名古屋），[一般演題]
- 035 田近正洋：大腸がんの撲滅を目指して。熱田区医師会学術講演会，2019，（名古屋），[講演]
- 036 Kumanishi R, Mitani S, Kadowaki S, Kato K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Muro K：The effect of antibiotics use on nivolumab treatment for advanced gastric cancer: A single-center retrospective study. 第91回日本胃癌学会総会，2019，（沼津）



037 田近正洋：大腸がんの撲滅を目指して。瑞穂区医師会学術講演会, 2019, (名古屋), [講演]

## 呼吸器内科部

001 *Oya Y, Yoshida T, Asada K, Oguri T, Inui N, Morikawa S, Ito K, Kimura T, Kunii E, Matsui T, Kubo A, Kato T, Shindo J, Tsuda T, Hida T* : Low detection rate of EGFR driver and T790M mutation in plasma by cobas EGFR Mutation Test v2 after acquired resistance to afatinib. IASLC, 2018, (Canton), [Oral]

002 *Halmos B, Tan EH, Soo R, Cadranell J, Lee MK, Foucher P, Hsia TC, Hochmair M, Griesinger F, Hida T, Kim ES, Melosky B, Marten A, Carcereny E* : Impact of afatinib dosing on safety and effectiveness in patients with EGFR mutation-positive advanced NSCLC in a real-world. COSA, 2018, (Western Australia), [Poster]

003 *Salanova R, Dietel M, Savelov N, Micke P, Bigras G, Hida T, Piperdi B, Burkr T, Ford SK, Deitz AC* : Real-World Prevalence of PD-L1 Expression in Locally Advanced or Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer. LALCA, 2018, (Cordoba), [Poster discussion]

004 *Yamaguchi T, Shimizu J, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Hanai N, Muro K, Yatabe Y, Hida T* : Risk factors of nivolumab-induced pneumonitis in patient with solid tumors. ESMO Asia, 2018, (Singapore), [Poster]

005 *Yamaguchi T, Morikawa S, Oya Y, Asada K, Oguri T, Inui N, Ito K, Kimura T, Kunii E, Matsui T, Kubo A, Kato T, Shindo J, Tsuda T, Okuno M, Hida T, Imaizumi K* : Efficacy of EGFR-TKIs in Patients Harboring EGFR Mutations with Non-Adenocarcinoma Histology. IASLC ASIA, 2018, (Guangzhou), [Poster]

006 *Wu YL, Park K, Bennouna J, Boyer M, Hida T, Hirsh V, Kato T, Lu S, Mok T, Nakagawa K, O'Byrne K, Schuler M, Sibilot DM, Tan EH, Tanaka H, Yang JCH, Zhang L, Zhou C, Marten A, Tang W, Yamamoto N, Yang J* : Sequencing of therapy following first-line afatinib in patients with EGFR mutation-positive (EGFRm+) non-small-cell lung cancer. CSCO, 2018, (Xiamen), [Oral]

007 *Nakano T, Okada M, Kijima T, Aoe K, Kato T, Fujimoto N, Nakagawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Imamura F, Oizumi S, Takahashi T, Takenoyama M, Tanaka H, Ohe Y* : Long-term efficacy and safety of nivolumab in second-or third-line Japanese malignant pleural mesothelioma patients (phase II: MERIT study). WCLC, 2018, (Toronto), [Oral]

008 *Halmos B, Tan EH, Soo P, Cadranell J, Lee MK,*

*Foucher P, Hsia TC, Hochmair M, Griesinger F, Hida T, Kim ES, Melosky B, Marten A, Carcereny E* : Impact of afatinib dosing on safety and effectiveness in real-world patients with EGFR mutation positive advanced NSCLC (RealGiDo). WCLC, 2018, (Toronto), [Poster]

009 *Shaw AT, Lee SH, Ramalingam SS, Bauer TM, Boyer MJ, Costa EC, Felip E, Han JY, Hida T, Hughes BGM, Kim SW, Nishino M, Seto T, Ezhel PI, Chakrabarti D, Wang J, Chang A, Fumagalli L, Solomon BJ* : Avelumab (anti-PD-L1) in combination with crizotinib or lorlatinib in patients with previously treated advanced NSCLC : phase 1b results from JAVELIN Lung 101. ASCO, 2018, (Chicago), [Oral]

010 *Kim DW, Tan DSW, Aix SP, Sequist LV, Smit EF, Hida T, Yang JCH, Felip E, Seto T, Grohe C, Wolf J, Ko J, Diallo M, Pulter P, Giovannini M, Kim SW* : Preliminary Phase II Results of a Multicenter, Open-label Study of Nazartinib (FGF816) in Adult Patients With Treatment-naive, EGFR-mutant NSCLC. ASCO, 2018, (Chicago), [Poster]

011 *Niho S, Umemura S, Hosomi Y, Okamoto H, Nihei K, Tanaka H, Hida T, Goto K, Akimoto T, Ohe Y* : Carboplatin, S-1 and concurrent thoracic radiotherapy for elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer : a phase II study. ASCO, 2018, (Chicago), [Poster]

012 *Wolf J, Seto T, Han JY, Reguart N, Garon EB, Groen HJM, Tan DSW, Hida T, Jonge Md, Orlov SV, Smit EF, Souquet PJ, Vansteenkiste J, Giovannini M, Mouhaer SL, Robeva A, Lynch MW, Heist RS* : RESULTS OF THE GEOMETRY MONO-1 PHASE II STUDY FOR EVALUATION OF THE MET INHIBITOR CAPMATINIB (INC280) IN PATIENTS WITH METAEX14 MUTATED ADVANCED NON-SMALL CELL LUNG CANCER. ESMO, 2018, (Munich), [Oral]

013 *Tan DSW, Kim SW, Sequist LV, Aix SP, Smit EF, Hida T, Yang JCH, Felip E, Seto T, Grohe C, Wolf J, Joshi A, Marriere E, Belli R, Giovannini M, Kim DW* : Phase II Results for Single-Agent Nazartinib (FGF816) in Adult Patients (Pts) With Treatment-Naive EGFR-Mutant Non-Small Cell Cancer (NSCLC). ESMO, 2018, (Munich), [Poster]

014 *Viteri S, Chang GC, Chiari R, Cho BC, Ciadiello F, Curigliano G, Hida T, Lee DH, Lim WTD, Lin CC, Martinez A, Murakami H, Natsume I, Nishio M, Ares LP, Soo RA, Cattani V, Gandossi E, Heck H, Park K* : Combination of the S49076 with gefitinib in NSCLC patients progressing on EGFR-TKI and harboring MET/AXL dysregulation. ESMO, 2018, (Munich), [Poster]



- 015 *Ito K, Murotani K, Kubo A, Kunii E, Tanigudhi H, Shindo J, Asada K, Imaizumi K, Tanaka K, Inui N, Okuno M, Hataji O, Hayai S, Abe T, Kimura T, Tsuda T, Yamaguchi T, Oya Y, Yoshida T, Hida T* : Comparative analysis of overall survival using propensity score between first-and second-generation EGFR-TKI:Real World Data of 1354 patients with EGFR mutant NSCLC. ESMO, 2018, (Munich), [Poster]
- 016 *Dietel M, Savelov N, Salanova R, Micke P, Bigras G, Hida T, Piperdi B, Burke T, Ford SK, Deitz AC* : Peal-World Prevalence of PD-L1 Expression in Locally Advanced or Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer. ELCC, 2018, (Geneva), [Oral]
- 017 *Aoe K, Okada M, Kijima T, Kato T, Fujimoto N, Nakagawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Imamura F, Oizumi S, Takahashi T, Takenoyama M, Tanaka H, Ohe Y* : A Phase II Study of Nivolumab:A Multicenter, Open-label, Single-arm Study in Malignant Pleural Mesothelioma (MPM) ; MERIT - Subset analysis by PD-L1 expreeion -. JSMO, 2018, (神戸), [口演]
- 018 *Takahashi T, Nishino M, Hida T, Nakagawa K, Sakai H, Nogami N, Atagi S, Horinouchi H, Saka H, Takenoyama M, Katakami N, Tanaka H, Sumiyoshi N, Tamura T* : Three-year follow-up results in phase II studies (ONO-4538-05 and ONO-4538-06 studies) of nivolumab in japeze patients with advanced/recurrent non-small cell lung cancer. JSMO, 2018, (神戸), [口演]
- 019 *Hida T, Tan EH, Soo R, Cadranel J, Lee MK, Foucher P, Hsia TC, Hochmair M, Griesinger F, Kim E, Melosky B, Marten A, Carcereny E, Halmos B* : Impact of afatinib dosing on safety and efficacy in real-world patients with EGFRm+ NSCLC (RealGiDo). 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 020 *Hida T, Dietel M, Savelov N, Salanova R, Micke P, Akita H, Piperdi B, Burke T, Ford SK, Deitz AC* : Real-World Prevalence of PD-L1 Expression in Advanced NSCLC : The Global EXPRESS Study. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 021 加藤晃史, 岡田守人, 木島貴志, 青江啓介, 藤本伸一, 中川和彦, 竹田雄一郎, 樋田豊明, 金井一修, 今村文生, 大泉聡史, 高橋利明, 竹之山光広, 田中洋史, 大江裕一郎 : 2nd/3rd ラインの悪性胸膜中皮腫 (MPM) に対するニボルマブの第II相試験 (MERIT試験). 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 022 神田慎太郎, 仁保誠治, 細見幸生, 岡本浩明, 田中洋史, 樋田豊明, 後藤功一, 秋本哲夫, 大江裕一郎 : 高齢者局所進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+S-1と胸部放射線同時併用療法の第II相試験. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 023 古田裕美, 香川友祐, 大矢由子, 山口哲平, 上村剛大, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 谷田部 恭, 樋田豊明 : 脳転移に対する抗PD-1抗体の治療効果と安全性について. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 024 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 坂尾幸則, 香川友祐, 大矢由子, 古田裕美, 上村剛大, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 小山 真, 松井琢哉, 杉田祐介, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 黒田浩章, 樋田豊明 : BRAF 変異陽性肺癌患者の臨床的特徴. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 025 上村剛大, 香川友祐, 大矢由子, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 仲西慶太, 小山 真, 松井琢哉, 杉田祐介, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則, 谷田部 恭, 樋田豊明 : MET exon14 skipping mutation 陽性肺癌患者の臨床的特徴の検討. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ポスター]
- 026 瀬戸克年, 羽根田正隆, 真砂勝泰, 藤田史郎, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 樋田豊明, 谷田部 恭 : BRAF V600E 免疫染色の有効性の検討. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ポスター]
- 027 古田裕美, 香川友祐, 大矢由子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 樋田豊明 : Osimertinib 治療前の増悪形式と治療の相関. 日本臨床腫瘍学会湯津集会, 2018, (神戸), [口演]
- 028 香川友祐, 古田裕美, 大矢由子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 樋田豊明 : 当院においてペムプロリズマブを投与した非小細胞肺癌の検討. 日本臨床腫瘍学会湯津集会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 029 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 香川友祐, 大矢由子, 古田裕美, 上村剛大, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 樋田豊明 : 全脳照射, 化学療法, ALK 阻害剤と左下葉区域切除後2.5年(初診より8.5年)の無担癌生存中のALK陽性肺腺癌の1症例. 日本臨床腫瘍学会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 030 山口哲平, 森瀬昌宏, 後藤康洋, 進藤 丈, 木村智樹, 小暮啓人, 杉野安輝, 池田拓也, 今泉和良 : 非小細胞肺癌に対するRAM+DTX療法のペグフィログラスチム併用時のFN発現割合に関する多施設共同前向き観察研究 (CJLSG1602) 日本臨床腫瘍学会, 2019, (京都), [ポスター]
- 031 古田裕美, 他 : 気管支肺カルチノイドに対するエベロリムスの使用経験. 日本肺癌学会中部支部学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 032 古川勝也, 小島勇貴, 入山智沙子, 加藤春美, 田地浩史, 堀尾芳嗣, 山本一仁 : ALK陽性肺癌に対してアレクチニブ投与中に2次性急性骨髄性白血病 (AML) を発症した1例. 日本血液学会東海地方会, 2018, (名古屋), [口演]
- 033 山口哲平, 清水淳市, 上村剛大, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 谷田部 恭, 樋田豊明 : 肺の気腫化は非小細胞肺癌における抗PD-1抗体の効果予測因子である. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 034 香川友祐, 大矢由子, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 長期間の抗PD-1抗体治療が可能であった症例の病勢進行の検討. 日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ポスター]

- 035 山口哲平, 香川友祐, 大矢由子, 古田裕美, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 坂尾幸則, 谷田部 恭, 樋田豊明: 抗PD-1抗体による薬剤性肺炎発症と肺野CTの線維化・気腫化所見の関連性に関する検討. 日本臨床腫瘍学会, 2018, (神戸), [口演]
- 036 山口哲平, 伊藤健太郎, 大矢由子, 樋田豊明: 実臨床においてオシメルチニブを投与された143例の検討. 日本呼吸器学会学術講演会, 2019, (東京), [口演]
- 037 山口哲平, 大矢由子, 古田裕美, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明: 肺扁平上皮癌術後再発に対し化学療法中に肺結核を合併した1例. 日本呼吸器学会東海地方学会, 2019, (名古屋), [口演]

## 血液・細胞療法部

- 001 *Kato H, Tange N, Kinoshita T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, and Yamamoto K*: Evaluation of tumor burden for predicting survival in patients with follicular lymphoma treated with first-line immune chemotherapy: comparison of different definition of GELF criteria: Annual Hematological Malignancies Summit in Tokyo: 2018 (Tokyo), [ポスター]
- 002 *Yamamoto K, Chou T, Doi T, Terui Y, Kato H, Hirose T, Seo S, Ogaki Y, Fujimoto H, Ohtsu T, Hatake K*: A phase I, multicenter, open-label dose-escalation study of CC-122, a novel cereblon-modulating agent, in adult Japanese patients with advanced non-Hodgkin lymphoma or solid tumor.: 23rd Congress of European Hematology Association (EHA), 2018, (Stockholm, Sweden), [poster]
- 003 *Takahashi N, Kizaki K, Miura M, Kawaguchi T, Suzuki R, Yamamoto K, Ohnishi K, Matsumura I, Naoe T, Akashi K*: Efficacy and Safety of Tyrosine Kinase Inhibitors for Treatment of Newly Diagnosed Chronic Myeloid Leukemia: Results Using Data Obtained with the New Target System from the Japanese Registry. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2018, (San Diego, USA), [poster]
- 004 *Takeshita A, Asou N, Atsuta Y, Furumaki H, Sakura T, Ueda Y, Sawa M, Dobashi N, Suzuki R, Taniguchi Y, Nakagawa M, Tamaki S, Hagihara M, Fujimaki K, Yokoyama Y, Fujita H, Yanada M, Maeda Y, Usui N, Kobayashi Y, Kiyoi H, Ohtake S, Matsumura I, Naoe T, Miyazaki Y*: CD56 is an unfavorable prognostic factor for acute promyelocytic leukemia: results by multivariate analysis in the JALSG-APL204 study. The 60th Annual Meeting of American Society of Hematology, December 2018, (San Diego), [ポスター]
- 005 *Ohmachi K, Kinoshita T, Tobinai K, Ogawa G, Mizutani T, Yamauchi N, Fukuhara N, Uchida T, Yamamoto K, Miyazaki K, Tsukamoto N, Iida S, Utsumi T, Yoshida I, Imaizumi Y, Tokunaga T, Yoshida S, Masaki Y, Murayama T, Yakushijin Y, Suehiro Y, Nosaka K, Dobashi N, Kuroda J, Takamatsu Y, Maruyama D, Ando K, Ishizawa K, Ogura M, Yoshino T, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H*: Randomized Phase II/III Study of Standard R-CHOP Versus CHOP Combined with Dose-Dense Weekly Rituximab (RW-CHOP) for Previously Untreated DLBCL: JCOG0601. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2018, (San Diego, USA), [poster]
- 006 *Yamamoto K: IS-9 New therapeutic strategies for lymphoid malignancies*: New therapeutic strategies for mantle cell lymphoma. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム, 英語, 口演]
- 007 古川勝也, 小島勇貴, 入山智沙子, 加藤春美, 田地浩史, 堀尾芳嗣, 山本一仁: ALK陽性非小細胞肺癌にて alec-tinib投薬中に発症した治療関連急性骨髄性白血病の一例. 第7回日本血液学会東海地方会 2018, (名古屋), [口演]
- 008 古川勝也, 加藤春美, 入山智沙子, 田地浩史, 清水淳市, 山本一仁: 肺がん治療経過中に多発性骨髄腫と診断された症例についての治療経験, 第58回日本リンパ網内系学会総会 2018, (名古屋), [口演]
- 009 古川勝也, 加藤春美, 入山智沙子, 田地浩史, 清水淳市, 山本一仁: 肺がん治療経過中に多発性骨髄腫と診断された症例についての治療経験. 第58回日本リンパ網内系学会総会 2018, (名古屋), [ポスター]
- 010 鏡味良豊, 内山 進, 加藤春美, 山本一仁, 瀬戸加太: 陽性荷電ポリマー存在下で樹立できたIL-2/IL-4依存性ATL細胞株の性状. 第58回日本リンパ網内系学会総会 2018, (名古屋), [ポスター]
- 011 加藤春美, 齋藤統子, 柳田正光, 加藤省一, 田地浩史, 谷田部 恭, 山本一仁: Implication of follow-up planning and characteristics of DLBCL achieving CR after first-line therapy 初回治療でCR到達したDLBCL症例の臨床的特徴と経過観察の方向性, 第80回日本血液学会学術集会 2018, (大阪国際会議場), [口演]
- 012 入山智沙子, 小島勇貴, 古川勝也, 加藤春美, 田地浩史, 加藤省一, 谷田部 恭, 山本一仁: 当院における初発低悪性度リンパ腫症例14例に対するBR療法の経験, Bend-amustine and rituximab as first-line treatment for 14 indolent lymphoma patients, 第80回日本血液学会学術集会 2018, (大阪国際会議場), [ポスター]
- 013 柳田正光, 増子正義, 森 甚一, 青木 淳, 水野昌平, 福田隆浩, 垣花和彦, 小澤幸泰, 太田秀一, 金森平和, 森毅彦, 中前博久, 衛藤徹也, 白鳥聡一, 前田哲生, 岩戸康治, 一戸辰夫, 神田善伸, 田中淳司, 熱田由子, 矢野真吾: 急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植成績の過去20年間の変遷. 第80回日本血液学会学術集会 2018, (大阪), [口演]
- 014 山崎 聡, 青木 淳, 森 甚一, 原田介斗, 澤 正史, 内田直之, 大橋一輝, 福田隆浩, 康 史朗, 金森平和, 小川啓恭, 奥村廣和, 一戸辰夫, 神田善伸, 田中淳司, 熱田由

- 子, 柳田正光, 矢野真吾: 最未分化型急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植に関する検討. 第80回日本血液学会学術集会 2018, (大阪), [口演]
- 015 小椋美知則, 大間知謙, 鈴木律朗, 熱田由子, 伊藤達也, 大屋敷一馬, 矢野真吾, 日高道弘, 安藤 潔, 福原規子, 森下剛久, 鈴木孝世, 塚崎邦弘, 小林直樹, 塚本憲史, 小澤幸泰, 山本一仁, 堀田知光, 木下朝博: 初発進行期, 末梢性T細胞リンパ腫に対するTHP-COP療法の第II相試験 (THP-3 試験) (A phase II study of THP-COP in newly diagnosed advanced peripheral T-cell lymphoma: THP-3 study). 第80回日本血液学会学術集会 2018, (大阪), [口演]
- 016 丸山 大, 鏡味良豊, 柴田大朗, 飛内賢正, 山本一仁, 今泉芳孝, 内田俊樹, 島田和之, 皆内康一郎, 福原規子, 小林泰文, 山内寛彦, 辻村秀樹, 半下石明, 富永 亮, 末廣陽子, 吉田真一郎, 井上佳子, 鈴木左知子, 得平道英, 楠本 茂, 黒田純也, 薬師神芳洋, 高松 泰, 久保田 寧, 野坂生郷, 森島聡子, 中村栄男, 堀田知光, 森島泰雄, 塚崎邦弘, 永井宏和: 大量化療前導入治療R-CHOP-14とR-CHOP-14/CHASERの比較試験 JCOG0908 (R-CHOP-14 vs. R-CHOP-14/CHASER induction prior to HDT in poor-risk untreated DLBCL: JCOG0908). 第80回日本血液学会学術集会 2018, (大阪), [口演]
- 017 水牧裕希, 石山 謙, 柳田正光, 青木 淳, 森 甚一, 水野昌平, 大橋一輝, 福田隆浩, 内田直之, 鬼塚真仁, 熱田由子, 矢野真吾: der (1;7) (q10;p10) を有する急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植の成績. 第41回日本造血細胞移植学会総会 2019, (大阪), [口演]
- 018 保仙直毅 (発表者), 山本一仁 (ディスカッサント): CAR T細胞療法 (CAR T cell therapy). 第77回日本癌学会総会 2018, (大阪), [口演]
- 019 山本一仁: B細胞リンパ腫に対する抗体療法 (維持療法, リツキシマブ療法の新知見を含む). 日本リンパ網内系学会リンパ腫エキスパート養成セミナー 2018 2018, (東京), [口演]

## 薬物療法部

- 001 *Shah MA, Shitara K, Lordick F, Bang Y-J, Tebbutt NC, Metges J-P, Muro K, Shen L, Tjulandin S, Hays JL, Xu R-h, Fontaine M, Brooks E, Xu B, Li W, Li C, Borodyansky L, Cutsem EV*: The BRIGHTER trial: A phase 3 randomized double-blind study of napabucasin (NAPA) plus paclitaxel (PTX) versus placebo (PBO) plus PTX in patients (pts) with pretreated advanced gastric and gastroesophageal junction (GEJ) adenocarcinoma. ASCO, 2018, (Chicago), [poster]
- 002 *Makiyama A, Sagara K, Kawada J, Kashiwada T, Hosokawa A, Horie Y, Satake H, Yamamoto Y, Tanioka H, Shinozaki K, Nishikawa K, Uchino K, Sukawa Y, Yamanaka T, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Hyodo I, Esaki T, Muro K*: A randomized phase II study of weekly paclitaxel ± trastuzumab in patients with HER2-positive advanced gastric or gastroesophageal junction cancer refractory to trastuzumab combined with uoropyrimidine and platinum: WJOG7112G (T-ACT). ASCO, 2018, (Chicago), [poster]
- 003 *Sukawa Y, Makiyama A, Esaki T, Hirano G, Komoda M, Kashiwada T, Kawada J, Hosokawa A, Tsuda T, Tsuji A, Moriwaki T, Tanioka H, Yonesaka K, Nishio K, Noshio K, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Hyodo I, Muro K*: Biomarker study for trastuzumab continuation beyond progression in a randomized phase II trial of weekly paclitaxel ± trastuzumab in patients with HER2-positive advanced gastric or gastroesophageal junction cancer refractory to trastuzumab combined with fluoropyrimidine and platinum (WJOG7112G). ASCO, 2018, (Chicago), [poster]
- 004 *Muro K, Yoshikawa T, Shitara K, Oh D-Y, Kang Y-K, Chung HC, Kudo T, Chin K, Kadowaki S, Hamamoto Y, Hironaka S, Yoshida K, Yen C-J, Omuro Y, Bai L-Y, Maeda K, Ozeki A, Yoshikawa R, Kitagawa Y*: Randomized, double-blind, phase 2 study of S-1 plus oxaliplatin (SOX) with or without ramucirumab (RAM) as second-line therapy in patients with advanced gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma (AGC). ASCO, 2018, (Chicago), [poster]
- 005 *Fuchs CS, Ozguroglu M, Bang Y-J, Bartolomeo MD, Mandala M, Ryu M-H, Fornaro L, Olesi ski T, Caglevic C, Chung HC, Muro K, Goekkurt E, Mansoor W, McDermott RS, Shmueli ES, Chen X, Kang SP, Mayo CA, Ohtsu A, Shitara K*: Pembrolizumab (pembro) vs paclitaxel (PTX) for previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction (G/GEJ) cancer: Phase 3 KEYNOTE-061 trial. ASCO, 2018, (Chicago), [poster]
- 006 *Rha SY, Muro K, Rider A, Maglante G, Contente M, Clarke B, Calvo E*: Real-world first-line advanced gastric cancer in western and Asian countries: Treatment patterns and impact on quality of life (QOL). ASCO, 2018, (Chicago), [publication only]
- 007 *Miura Y, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K, Boku N, Hyodo I*: Discrepancy between physician-assessed and patient-reported oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in patients with metastatic colorectal cancer who received mFOLFOX6 plus bevacizumab: A post-hoc analysis (WJOG4407GSS2). ASCO, 2018, (Chicago), [publication only]
- 008 *Sakai D, Boku N, Koderia Y, Komatsu Y, Fujii M, Iwasa S, Oki E, Koizumi W, Gamoh M, Muro K, Shimokawa T, Satoh T*: An intergroup phase III trial of ramucirumab plus irinotecan in third or more line beyond progression after ramucirumab for advanced gas-



- tric cancer (RINDBeRG trial). ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 009 **Kashiwada T, Saeki H, Uenosono Y, Makiyama A, Iwatsuki M, Narita Y, Satake H, Matsuda Y, Sonoda H, Oki E, Maehara Y** : Multicenter observational study on re-evaluation of HER2 status in patients with HER2-positive advanced or recurrent gastric cancer refractory to trastuzumab. ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 010 **Nakamura Y, Okamoto W, Shitara K, Kojima T, Morizane C, Naito Y, Yuki S, Kagawa Y, Narita Y, Nakashima Y, Takahashi H, Ueno M, Kato K, Komatsu Y, Ohtsu A, Akagi K, Yoshino T** : Large-scale analyses of tumor mutation burdens (TMBs) across various advanced gastrointestinal (GI) malignancies in the nationwide cancer genome screening project, SCRUM-Japan GI-SCREEN. ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 011 **Le DT, Kavan P, Kim TW, Burge ME, Cutsem EV, Hara H, Boland PM, Laethem J-LV, Geva R, Taniguchi H, Crocenzi TS, Sharma M, Atreya CE, Diaz LA, Liang LW, Marinello P, Dai T, O'Neil BH** : KEYNOTE-164: Pembrolizumab for patients with advanced microsatellite instability high (MSI-H) colorectal cancer. ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 012 **Honda K, Gyawal B, Ando M, Kato K, Kojima Y, Mitani S, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K** : A prospective survey of comprehensive score for financial toxicity (COST) in Japanese cancer patients. ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 013 **Yamada Y, Boku N, Mizusawa J, Iwasa S, Kadowaki S, Nakayama N, Azuma M, Sakamoto T, Shitara K, Okuno T, Chin K, Nozaki A, Nakamura M, Hara H, Katayama H, Fukuda H, Yoshikawa T, Sano T, Sasako M, Terashima M** : Phase III study comparing triplet chemotherapy with S-1 and cisplatin plus docetaxel versus doublet chemotherapy with S-1 and cisplatin for advanced gastric cancer (JCOG1013). ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 014 **Yuki S, Shitara K, Kadowaki S, Minashi K, Takeno A, Hara H, Kajiwara T, Sunakawa Y, Iwasa S, Yamamoto Y, Nagashima F, Nakanishi R, Esaki T, Yoshikawa T, Nomura S, Kuwata T, Fujii S, Okamoto W, Ohtsu A, Yoshino T** : The nationwide cancer genome screening project in Japan SCRUM-Japan GI-SCREEN: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced gastric cancer (GC). ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 015 **Nishina T, Hironaka S, Kadowaki S, Yamanaka T, Nakajima TE** : An investigator initiated multicenter phase I/II study of paclitaxel, ramucirumab with nivolumab as the second-line treatment in patients with metastatic gastric cancer. ASCO, 2018, (Chicago), [postar]
- 016 **Shitara K, Özgüro lu M, Bang Y, Bartolomeo MD, Mandalà M, Ryu M, Fornaro L, Olesi ski T, Caglevic C, Chung H, Muro K, Gökkurt E, Mansoor W, McDermott R, Shmueli ES, Chen X, Kang S, Mayo C, Ohtsu A, Fuchs C** : KEYNOTE-061: phase 3 study of pembrolizumab vs paclitaxel for previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction (G/GEJ) cancer. ESMO-GI, 2018, (Barcelona), [late-breaking]
- 017 **Le D, Kavan P, Kim T, Burge M, Cutsem EV, Hara H, Boland P, Laethem JV, Geva R, Taniguchi H, Crocenzi T, Sharma M, Atreya C, Diaz L, Liang L, Marinello P, Dai T, O'Neill B** : Safety and antitumor activity of pembrolizumab in patients with advanced microsatellite instability-high (MSI-H) colorectal cancer: KEYNOTE-164. ESMO-GI, 2018, (Barcelona), [Oral]
- 018 **Kato T, Satake H, Oba K, Kagawa Y, Yasui H, Nakamura M, Watanabe T, Matsumoto T, Hirata K, Muro K, Komatsu Y, Yoshino T, Yamazaki K, Mishima H, Kotaka M, Tsuji A, Kakeji Y, Oki E, Nagata N, Sakamoto J** : Multicenter phase Ib/ II study of biweekly TAS-102 with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study). ESMO-GI, 2018, (Barcelona), [Poster]
- 019 **Doi T, Iwasa S, Muro K, Satoh T, Hironaka S, Esaki T, Nishina T, Hara H, Machida N, Komatsu Y, Shimada Y, Otsu S, Shimizu S, Chand V, Watanabe M** : Avelumab (anti-PD-L1) in Japanese patients with advanced gastric or gastroesophageal junction cancer (GC/GEJC): Updated results from the phase Ib JAVELIN solid tumour JPN trial. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 020 **Bang Y-J, Doi T, Kondo S, Chung HC, Muro K, Dus-sault I, Helwig C, Osada M, Kang Y-K** : Updated results from a phase I trial of M7824 (MSB0011359C), a bifunctional fusion protein targeting PD-L1 and TGF- $\beta$ , in patients with pretreated recurrent or refractory gastric cancer. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 021 **Taniguchi H, Yamanaka T, Sakai D, Yamazaki K, Muro K, Peeters M, Price TJ** : Influence of treatment with prior bevacizumab: A combined analysis of individual patient data from ASPeCCT and WJOG6510G trial which compared panitumumab versus cetuximab in patients with wild-type KRAS exon 2 metastatic colorectal cancer. ESMO, 2018, ([München], [Discussion Session])
- 022 **Masuishi T, Kadowaki S, Hirano H, Kawai S, Yamada T, Moriwaki T, Machida N, Boku N, Muro K** : Impact of adding ramucirumab to paclitaxel in patients with advanced gastric cancer according to the



- level of ascites: A multicenter retrospective study. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 023 **Kadowaki S, Ishigami H, Muro K, Yoshida S, Hiro-no Y, Tomita T, Yabusaki H, Kusumoto T, Ota M, Koderu Y, Tsuji Y, Hidemura A, Hachiya O, Oba K, Kitayama J**: An exploratory study of intraperitoneal paclitaxel combined with mFOLFOX6 for peritoneal disseminated gastric cancer patients with inadequate oral intake. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 024 **Emi Y, Yamanaka T, Muro K, Uetake H, Oki E, Takahashi T, Katayose Y, Yoshida K, Sakamoto M, Aishima S, Ishida K, Imura J, Unno M, Hyodo I, Tomita N, Sugihara K, Maehara Y**: Histopathologic evaluation of patients with liver-limited metastatic colorectal cancer receiving mFOLFOX6 plus bevacizumab or mFOLFOX6 plus cetuximab: The ATOM trial. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 025 **Hosokawa A, Yamazaki K, Matsuda C, Ueda S, Fujii H, Baba E, Okamura S, Tsuda M, Tamura T, Shinozaki K, Tsushima T, Tsuda T, Shirakawa T, Yamashita H, Morita S, Muro K**: Morphologic response to chemotherapy containing bevacizumab in patients with colorectal liver metastases (CLM): A post hoc analysis of the WJOG4407G phase III study. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 026 **Kito Y, Yamada T, Matsumoto T, Yasui H, Murata K, Makiyama A, Hara H, Baba E, Nishio K, Yoshimura K, Hironaka S, Muro K, Yamazaki K**: Randomized phase II study of FOLFIRI plus ramucirumab (Rmab) versus FOLFOXIRI plus Rmab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer (mCRC): WJOG9216G. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 027 **Satoh T, Chen L-T, Kang Y-K, Chao Y, Kato K, Chung H C, Chen J-S, Muro K, Kang W K, Yoshikawa T, Oh S C, Tamura T, Lee K-W, Boku N**: A phase III study of nivolumab (nivo) in previously treated advanced gastric or gastric esophageal junction (G/GEJ) cancer (ATTRACTION-2): Two-years update data. ESMO, 2018, (München), [Poster Discussion]
- 028 **Lin C-C, Doi T, Muro K, Hou M-M, Esaki T, Hara H, Chung H-C, Osada M, Helwig C, Kondo S**: Phase I study results from an esophageal squamous cell carcinoma (ESCC) cohort treated with M7824 (MSB0011359C), a bifunctional fusion protein targeting transforming growth factor  $\beta$  (TGF- $\beta$ ) and PD-L1. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 029 **Muro K**: Anti-angiogenesis inhibitor combined with immunotherapy for metastatic gastric or gastroesophageal adenocarcinoma. ESMO, 2018, (München), [Symposium]
- 030 **Masuishi T, Taniguchi H, Kotani D, Bando H, Komasu Y, Yamaguchi K, Nakajima TE, Satoh T, Nishina T, Esaki T, Wakabayashi M, Nomura S, Sakamoto S, Ono H, Hirano N, Fujishiro N, Fuse N, Sato A, Ohtsu A, Yoshino T**: BRAVERY study: A multicenter phase II study of eribulin in patients with BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer (EPOC1701). ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 031 **Yoshino T, Iwata H, Tamura K, Takahashi S, Redfern C, Modi S, Doi T, Kawakami H, Taniguchi H, Takashima A, Yamaguchi K, Fisher J, Li B, Saito K, Fujisaki Y, Sugihara M, Tsurutani J**: Updated results of phase I study of trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in HER2-expressing advanced colorectal cancer. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 032 **Chin K, Takashima A, Minashi K, Kadowaki S, Nishina T, Nakajima TE, Amagai K, Machida N, Gotoh M, Taku K, Ishizuka N, Takahara D**: A phase II study of trastuzumab with S-1 plus oxaliplatin for HER2-positive advanced gastric cancer (HIGHSOX). ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 033 **Kato K, Kojima T, Saeki H, Hara H, Kajiwaru T, Hironaka S, Nakatsumi H, Kadowaki S, Kagawa Y, Esaki T, Moriwaki T, Kobayashi T, Izawa N, Nomura S, Kuwata T, Fujii S, Okamoto W, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T**: The nationwide cancer genome screening project in Japan, SCRUM-Japan GISCSCREEN: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced esophageal cancer. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 034 **Esaki T, Tsukuda H, Machida N, Ishida H, Kadowaki S, Minashi K, Tokunaga S, Ozaki Y, Kondoh C, Makiyama A, Sukawa Y, Yamanaka T, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K**: A randomized phase II study to assess trastuzumab beyond progression in HER2-positive advanced gastric cancer: WJOG7112G. ESMO, 2018, (München), [Oral]
- 035 **Kotani D, Bando H, Masuishi T, Komatsu Y, Yamaguchi K, Nakajima TE, Satoh T, Nishina T, Esaki T, Nomura S, Sakamoto S, Iida S, Matsuda S, Yonemura M, Fuse N, Sato A, Fujii S, Ebi H, Ohtsu A, Yoshino T**: BIG BANG study: A multicenter phase II study of the MEK inhibitor binimetinib + BRAF inhibitor encorafenib + anti-EGFR antibody cetuximab in patients with BRAF non-V600E mutated metastatic colorectal cancer (EPOC 1703). ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 036 **Masuishi T, Suzuki T, Sukawa Y, Imamura CK, Satake H, Kumekawa Y, Funakoshi S, Kotaka M, Horie Y, Kawai S, Okuda H, Terazawa T, Kondoh C, Kato K, Yoshimura K, Ishikawa H, Hamamoto Y, Boku N, Kanai T, Takaishi H**: Prospective evaluation of regorafenib dose escalation strategy with low

- starting dose in patients with colorectal cancer. ESMO, 2018, (München), [Poster]
- 037 室 圭: 消化管癌に対するがん免疫療法. JDDW, 2018, (神戸), [特別講演]
- 038 **Muro K**: Expanding the horizons in treatment of mCRC: How to choose the “right” second line. AACR-KCA Joint Conference, 2018, (Korea), [Luncheon Symposium]
- 039 **Muro K, Lordick F, Tsushima T, Pentheroudakis G, Baba E, Lu Z, Cho BC, Nor IM, Ng M, Chen L-T, Kato K, Li J, Ryu M-H, Zamaniah W.I.W, Yong W-P, Yeh K-H, Nakajima T.E, Shitara K, Kawakami H, Narita Y, Yoshino T, Cutsem EV, Martinelli E, Smyth EC, Arnold D, Minami H, Taberner J, Douillard J-Y**: Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with metastatic oesophageal cancer; a JSMO-ESMO initiative endorsed by CSCO, KSMO, MOS, SSO and TOS. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Special Article]
- 040 **Muro K, Cutsem EV, Narita Y, Pentheroudakis G, Baba E, Li J, Ryu M-H, Zamaniah W. I.W, Yong W-P, Yeh K-H, Kato K, Lu Z, Cho B.C, Nor I. M. Ng M, Chen L-T, Nakajima T. E, Shitara K, Kawakami H, Tsushima T, Yoshino T, Lordick F, Martinelli E, Smyth E.C, Arnold D, Minami H, Taberner J, Douillard J-Y**: Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with metastatic gastric cancer; a JSMO-ESMO initiative endorsed by CSCO, KSMO, MOS, SSO and TOS. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Special Article]
- 041 **Yamaguchi T, Hasegawa T, Hanai N, Inaba Y, Muro K, Hida T**: Risk factors of nivolumab-induced pneumonitis in patients with solid tumors. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Poster]
- 042 **Xu R, Muro K, Kim TW, Park YS, Wang W, Han S-W, Kotaka M, Deng Y-H, Ahn JB, Nakamura M, Bai Y, Cho S-H, Kato T, Zhang T, Lee K-W, Matsuoka H, Fang W-J, Morita S, Iwasa S, Junichi S**: Impact of UGT1A1 genotype on the efficacy and safety of irinotecan-based chemotherapy in metastatic colorectal cancer (mCRC): A preplanned analysis of the phase III AXEPT trial. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Poster]
- 043 **Kotani D, Kuboki Y, Yasuda K, Nakamura Y, Kawazoe A, Bando H, Taniguchi H, Shitara K, Yoshino T**: Safety and efficacy of trifluridine/tipiracil (TAS-102) plus bevacizumab in clinical practice for patients with refractory metastatic colorectal cancer. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Poster]
- 044 **Kagawa Y, Satake H, Kato T, Oba K, Yasui Y, Nakamura M, Watanabe T, Hirata K, Muro K, Komatsu Y, Yoshino T, Yamazaki K, Mishima H, Kotaka M, Tsuji A, Kakeji Y, Oki E, Nagata N, Junichi S**: Phase Ib/II study of biweekly TAS-102 with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study): Phase Ib results. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Poster]
- 045 **Horasawa S, Kaneko A, Kotani D, Nakashima S, Bando H, Yoshino T**: Effect on oxaliplatin-free interval for successful rechallenge of oxaliplatin in colorectal cancer patients who had experienced an oxaliplatin-related hypersensitivity reaction. ESMO ASIA, 2018, (Singapore), [Poster]
- 046 **Kojima T, Muro K, Francois E, Hsu C-H, Moriwaki T, Kim S-B, Lee S-H, Bennouna J, Kato K, Lin S, Qin S-Q, Ferreira P, Doi T, Adenis A, Enzinger PC, Shah MA, Wang R, Bhagia P, Kang SP, Metges J-P**: Pembrolizumab versus chemotherapy as second-line therapy for advanced esophageal cancer: Phase III KEYNOTE-181 study. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Oral Abstract Session]
- 047 **Kang Y-K, Satoh T, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen J-S, Muro K, Kang WK, Yoshikawa T, Oh SC, Tamura T, Lee K-W, Morita S, Chen L-T, Boku N**: Evaluation of efficacy of nivolumab by baseline factors from ATTRACTION-2. ASCO-GI, 2018, (San Francisco), [Oral Abstract Session]
- 048 **Muro K, Satoh T, Yamaguchi K, Takashima A, Kadowaki S, Sakai D, Ichimura T, Mitani S, Kudo T, Chin K, Kitano S, Bhargava P, Zavadovskaya M, Liu JJ, Fukui M, Boku N**: Phase Ib study of andecaliximab (GS-5745, ADX) in combination with S-1+platinum chemotherapy in Japanese subjects with advanced gastric or GEJ adenocarcinoma. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 049 **Tanigawara Y, Sugimoto S, Muro K**: Pretreatment metabolomic markers associated with therapeutic responses to FOLFOX with bevacizumab in chemotherapy-naive patients with colorectal cancer. ASCO-GI, 2018, (San Francisco), [Poster]
- 050 **Satoh T, Shitara K, Iwasa S, Yamaguchi K, Muro K, Komatsu Y, Nishina T, Esaki T, Hasegawa J, Kakurai Y, Kamiyama E, Nakata T, Nakamura K, Hyodo I**: Dose escalation and expansion cohort study for DS-8895a in patients with advanced solid tumors. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 051 **Kato K, Masuishi T, Fushiki K, Nakano S, Kawakami T, Kawamoto Y, Narita Y, Tsushima T, Nakatsumi H, Kadowaki S, Todaka A, Yuki S, Tajika M, Machida N, Komatsu Y, Muro K, Yasui H**: Impact of tumor growth rate during preceding treatment on tumor response to nivolumab or irinotecan in advanced gastric cancer. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]

- 052 *Narita Y, Shoji H, Kawai S, Mizukami T, Nakamura M, Moriwaki T, Yamanaka T, Sunakawa Y, Kawakami H, Nishina T, Misumi T, Yamashige Y, Yamashige A, Muro K* : REVIVE study: Prospective observational study of efficacy and safety in chemotherapy (CTx) after progREssiVe dIsease of niVolumab (NIV) thErapy for metastatic gastric cancer (mGC). ASCO-GI, 2019. (San Francisco), [Trial in Progress Poster]
- 053 *Pfeiffer P, Qvortrup C, Muro K, Lustberg MB, Nagahama F, Sonehara Y, Bengtson MH, Nittve M, Sonesson C, Carlsson CS* : The Global POLAR program: Calmangafodipir used on top of modified FOLFOX6 (5-FU/FA and oxaliplatin) to prevent chemotherapy induced peripheral neuropathy (CIPN) . ASCO-GI, 2019. (San Francisco) [Trial in Progress Poster]
- 054 *Yamaguchi K, Satoh T, Muro K, Takashima A, Ichimura T, Sakai D, Kadowaki S, Chin K, Kudo T, Mitani S, Kitano S, Bhargava P, Zavadovskaya M, Liu JJ, Fukui M, Boku N* : Phase 1b study of andecaliximab (GS-5745, ADX) as monotherapy and in combination with nivolumab (nivo) in Japanese subjects with gastric or GEJ adenocarcinoma. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 055 *Shitara K, Bang Y-J, Chung HC, Yabusaki H, Iwasa S, Sakai D, Muro K, Sugimoto N, Yasui H, Gamoh M, Murakawa Y, Negoro Y, Nishina T, Hosaka H, Omuro Y, Kawaguchi Y, Sugihara M, Saito K, Dalal R, Yamaguchi K* : A phase II, multicenter, open-label study of [fam-] trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in subjects with HER2-expressing gastric cancer. ASCO-GI, 2019. (San Francisco), [Trial in Progress Poster]
- 056 *Mise Y, Hasegawa K, Oba M, Yamaguchi K, Uetake H, Yoshino T, Morita S, Takahashi K, Unno M, Shimada Y, Muro K, Yoshida K, Mori M, Baba H, Shimada M, Saiura A, Matsumura M, Ishigure K, Sugihara K, Kokudo N* : EXPERT study: Randomized phase III trial of radical surgery and postoperative mFOLFOX6 versus perioperative mFOLFOX6 plus cetuximab in patients with KRAS wild-type resectable colorectal liver metastases (CLMs). ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 057 *Kim TW, Muro K, Xu R-h, Park YS, Wang W, Han S-W, Ota M, Ahn JB, Deng Y, Akiyoshi K, Cho SH, Ba Y, Denda T, Lee K-W, Zhang T, Matsuda C, Yamada Y, Morita S, Iwasa S, Sakamoto J* : Impact of the prior chemotherapy with two different fluoropyrimidines on the efficacy of CapeIRI or FOLFIRI in metastatic colorectal cancer: An exploratory analysis of the phase III AXEPT trial. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 058 *Nakamura Y, Komatsu Y, Kato K, Shinozaki E, Bando H, Kato T, Nishina T, Esaki T, Nomura S, Ogawa G, Sugama A, Fukutani M, Sato A, Odegaard J, Kuwata T, Matsushima K, Nakatsura T, Nakajima H, Yoshino T* : bTMB-High Basket trial: A multicenter phase II trial of nivolumab monotherapy in patients with advanced gastrointestinal cancers with high blood tumor mutational burden (bTMB). ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Trial in Progress Poster]
- 059 *Sunakawa Y, Fang X, Kotaka M, Tanioka H, Takagane A, Tani S, Yamaguchi T, Watanabe T, Masuishi T, Tsuda M, Okuno T, Tamura T, Furushima K, Kuramochi H, Koike J, Yonemura Y, Yasui H, Takeuchi M, Fujii M, Ichikawa W* : CEA response at four weeks as an early predictor for outcomes in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with 1st-line cetuximab-based chemotherapy: A STEP-analysis in the JACCRO CC-05/06 trials. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 060 *Kotani D, Mondaca S, Parikh A, Bando H, Seventer EV, Taniguchi H, Yoshino T, Corcoran RB, Yaeger R, Ebi H* : Clinicopathological features, efficacy of anti-EGFR therapy, and survival outcomes in patients with BRAF non-V600 mutated metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2019, (San Francisco), [Poster]
- 061 室 圭 (司会) : 切除不能大腸癌に対する化学療法・治療選択肢とその特徴について. 外科学会, 2018, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 062 室 圭 : Recent progress of systemic chemotherapy for metastatic colorectal cancer. The 9th Asian Pacific Topic Conference, 2018, (東京), [Speaker]
- 063 谷口浩也 : The impact of Glasgow Prognostic Scale on the survival of patients BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer in second line chemotherapy. The 9th Asian Pacific Topic Conference, 2018, (東京), [poster]
- 064 室 圭, 江見泰徳, 山中竹春, 植竹宏之, 沖 英次, 高橋孝夫, 坂井義治, 藤原俊義, 片寄 友, 吉田和弘, 海野倫明, 兵頭一之介, 富田尚裕, 杉原健一, 前原喜彦 : KRAS野生型大腸癌肝限局転移に対するmFOLFOX6+Bmab療法とmFOLFOX6+Cmab療法のランダム化第II相臨床試験. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 065 室 圭 (司会) : Impact of primary tumor location on treatment strategy in patients with mCRC. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 066 室 圭 (司会) : 胃癌治療update -最新の知見を日常臨床にどう活かすか? -. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [イブニングセミナー]
- 067 室 圭 : 進行胃癌に対する血管新生阻害剤と免疫チェックポイント阻害薬との併用療法. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 068 室 圭 (司会) : 消化器癌の治療ガイドライン日本, アジア, 世界. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シ



- ンポジウム]
- 069 室 圭: Pan-Asian Adapted ESMO Guidelines for the management of patients with Metastatic Oesophageal and Gastric Cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 070 安藤正志: 腫瘍内科医の悪性軟部腫瘍診療連携への関わり. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 071 安藤正志 (司会): 骨軟部腫瘍. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 072 安藤正志: 原発不明がんの診断, および治療. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018, (神戸), [教育講演]
- 073 安藤正志 (司会): 希少がん・希少フラクションにおける臨床開発. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 074 Kadowaki S, Shitara K, Takahashi S, Park H, Iwasa S, Modi S, Nonagase Y, Tamura K, Yamaguchi K, Muro K, Tsurutani J, Lee CC, Sugihara M, Kawaguchi Y, Doi T: Updated results of phase 1 study of DS-8201a in subjects with HER2-expressing gastric cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 075 谷口浩也: 大腸がん二次治療～ データを実地臨床に生かすには～. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 076 谷口浩也: 胃・大腸がんにおける分子標的薬の獲得耐性とその克服. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 077 谷口浩也: 大腸癌に対する薬物療法－最新の知見－. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [教育講演]
- 078 坂東英明: Tips for success in Precision medicine ～癌腫横断的な視野と院内体制整備に向けて～. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 079 舩石俊樹 (ファシリテーター): 第3部グループワーク「ケースカンファレンス」. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 080 本多和典, ギャワリビジュアル, 安藤正志, 加藤恭子, 小島勇貴, 三谷誠一郎, 舩石俊樹, 成田有季哉, 門脇重憲, 宇良敬, 室 圭: A prospective survey of COmprehensive Score for financial Toxicity (COST) in Japanese cancer patients. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 081 三谷誠一郎, 橋本直弥, 成田有季哉, 加藤恭子, 舩石俊樹, 門脇重憲, 大西祥代, 田近正洋, 高橋新次, 下村一景, 高畑知帆子, 堀田枝里, 小原真紀子, 谷口浩也, 室 圭: 消化管がん患者を対象としたラムシルマブ短時間投与の安全性試験. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 082 小島勇貴, 安藤正志, 加藤恭子, 三谷誠一郎, 舩石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 室 圭: vulnerableな進行軟部肉腫患者に対する pazopanib と eribulin 治療について. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 083 Shitara K, Muro K, Satoh T, Tamura T, Chin K, Machida N, Hara H, Hironaka S, Sugimoto N, Mayo C, Han SR, Shiratori S, Ohtsu A: KEYNOTE-061: Pembrolizumab vs paclitaxel for previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 084 Yoshino T, Obermannova R, Bodoky G, Prausova J, Carbonero RG, Ciuleanu T, Alfonso PG, Portnoy D, Cohn AL, Cutsem EV, Yamazaki K, Clingan PR, Muro K, Kim TW, Wijayawardana SR, Hozak RR, Nasroulah F, Tabernero J: 切除不能大腸癌を対象とした第III 相試験 (RAISE) における RAS/RAF 変異と臨床的効果との関連性. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [メディカルセミナー]
- 085 加藤健志, 賀川義規, 大田貢由, 牧山明資, 傳田忠道, 松田 宙, 山田康秀, 岩佐 悟, キムタエウォン, スールイフウア, パクユンスン, 森田智視, 坂本純一, 室 圭: 進行・再発大腸癌2次治療における mXELIRI+Bmab vs. FOLFIRI+Bmab の国際共同第III相臨床試験 (AXEPT) - 日本人対象集団解析 -. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 086 古瀬純司, 濱内 諭, 高野利実, 宗本義則, 古家 乾, 馬場秀夫, 竹内 学, 丁田泰宏, 東口高志, 内藤立暁, 室圭, 高山浩一, 田村和夫: 消化器がんに伴うがん悪液質患者における ONO-7643 の有効性及び安全性を確認するための多施設非盲検非対照試験. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [セミプレナリーセッション]
- 087 栗原幸司, 小島勇貴, 中井真由美, 室 圭, 坂 英雄, 前田章光, 水野靖也: がん拠点病院における看護師・医師による抗がん薬のミキシングについての実態調査. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 088 中井真由美, 小島勇貴, 栗原幸司, 乾 和江, 木下智恵美, 笹本奈美, 齋田かおり, 室 圭, 坂 英雄: がん診療連携拠点病院における看護師の抗がん薬曝露対策の現状について. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 089 花村菜月, 服部正也, 立松三千子, 澤木正孝, 吉村章代, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 大西 桜, 岩瀬まどか, 安藤正志, 水野靖也, 岩田広治: 「イブランス連絡帳」を用いたパルボシクリブの副作用発現状況調査. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 090 立松三千子, 服部正也, 小谷はるる, 萩原純孝, 水野靖也, 脇岡 範, 清水淳市, 安藤正志, 澤木正孝, 吉村章代, 権藤なおみ, 安立弥生, 岩田広治: 院内製剤で調製したステロイド含有含嗽薬使用患者におけるエペロリムスによる口内炎の発症時期の検討. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 091 草場仁志, 安藤正志, 江崎泰斗, 加藤俊介, 倉田宝保, 佐々木政興, 島田貴信, 高橋俊二, 津田 均, 長谷川依子, 山田遥子, 安井久晃, 向井博文: 原発不明がん診療ガイド



- ライン改訂版の解説. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 092 野口瑛美, 米盛 勸, 下井辰徳, 公平 誠, 須藤一起, 下村昭彦, 清水千佳子, 濱田哲暢, 山中康弘, 有岡 仁, 安藤正志, 藤原康弘, 田村研治: 原発不明癌に対するS-1 + カルボプラチン療法の多施設共同第II相試験. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 093 江崎泰斗, 佃 博, 町田 望, 石田博保, 門脇重憲, 三梨桂子, 徳永伸也, 尾崎由記範, 近藤千紘, 牧山明資, 須河恭敬, 山中竹春, 山崎健太郎, 廣中秀一, 室 圭: Trastuzumab 不応のHER2 陽性胃癌に対するtrastuzumab の継続投与の意義を検討するランダム化II相試験. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 094 山崎健太郎, 結城敏志, 谷口浩也, 砂川 優, 川添彬人, 浜本康夫, 足立雄太, 仁科智裕, 加藤健志, 奥山浩之, 濱口哲弥, 阿部由紀子, 野村尚吾, 大津 敦, 吉野孝之: 進行再発大腸癌におけるAngiogenesis Panel を検討する多施設共同研究: GI-SCREEN CRC-Ukit. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 095 土橋賢司, 伊東 守, 森脇俊和, 福岡聖大, 谷口浩也, 高島淳生, 糸川陽祐, 梶原猛史, 山崎健太郎, 相川智美, 牧山明資, 傳田忠道, 岸本淳司, 島田安博, 馬場英司: Later-line 化学療法対象の転移性大腸癌におけるmodified Glasgow Prognostic Score による予後評価. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 096 廣中秀一, 設楽紘平, 小松嘉人, 成田有季哉, 竹野 淳, 原浩樹, 梶原猛史, 砂川 優, 岩佐悟, 山本祥之, 長島文夫, 中西良太, 高吉琴絵, 岡本 渉, 吉野孝之: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-SCREEN:Advanced Gastric Cancer Cohort. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 097 土井俊彦, 坂東英明, 内藤陽一, 葉 清隆, 平井文彦, 牧山明資, 瀬戸貴司, 石原佳重, 柿爪智行, 夏目和人, マイヤースアンドレア, 江崎泰斗: Phase 1 dose-escalation study of capmatinib (INC280) in Japanese patients (pts) with advanced solid tumors. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 098 加藤 健, 小島隆嗣, 田近正洋, 岩佐 悟, 久保木恭利, 本間義崇, 坂東英明, 八束尚良, 岩上景一, 韓士栄, 高見朋子, カンピーター, マニシュチャー: 切除不能進行・再発食道がん患者を対象としたペムプロリズマブの安全性及び有効性評価~KEYNOTE-180試験日本人サブグループ解析. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 099 岡本 渉, 結城敏志, 賀川義規, 舛石俊樹, 高島淳生, 原浩樹, 傳田忠道, 水上拓郎, 安藤幸滋, 森脇俊和, 塩澤学, 工藤敏啓, 薦田正人, 川上尚人, 設楽紘平, 吉野孝之: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-SCREEN:Advanced Colorectal Cancer Cohort. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 100 鈴木 健, 舛石俊樹, 佐竹悠良, 糸川陽祐, 船越信介, 小高雅人, 堀江良樹, 河合貞幸, 奥田博介, 寺澤哲志, 吉村健一, 石川秀樹, 須河恭敬, 浜本康夫, 高石官均: A phase II dose modification study of regorafenib with planned escalation for patients with colorectal cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [口演]
- 101 河合貞幸, 舛石俊樹, 門脇重憲, 平野秀和, 山田武史, 森脇俊和, 朴 成和, 室 圭, 町田 望: 切除不能胃癌における腹水量別のパクリタキセルに対するラムシルマブ上乗せの有効性と安全性:多施設共同後方視的研究. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 102 川平正博, 新井裕之, 安井博史, 舛石俊樹, 室 圭, 中島貴子: フッ化ピリミジン不応・不耐の高度腹膜転移を伴う胃癌に対するタキサンを用いた二次治療の有効性・安全性の検討. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 103 新里悠輔, 福岡聖大, 舛石俊樹, 高島淳生, 糸川陽祐, 梶原猛史, 山崎健太郎, 江崎泰斗, 牧山明資, 傳田忠道, 簗智幸政, 須藤 剛, 杉本直俊, 島田安博, 森脇俊和: 合併症等のためTFTD/Regorafenibが好ましくない大腸癌に対するRegorafenib/TFTDの治療成績. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスターセッション]
- 104 原 浩樹, 小島隆嗣, 中島雄一郎, 加藤 健, 梶原猛史, 三梨桂子, 中積宏之, 三谷誠一郎, 竹野 淳, 相良浩輔, 山田武史, 小林敬明, 岡本 渉, 設楽紘平, 吉野孝之: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-SCREEN: Advanced Esophageal Cancer Cohort. 日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [セミプレナリーセッション]
- 105 室 圭: 分子標的治療薬登場による大腸癌薬物療法の進歩と変遷. 大腸癌研究会, 2019, (京都), [アフタヌーンセミナー]
- 106 室 圭 (座長): 局所進行下部直腸癌に対する術前治療の選択と治療成績. 大腸癌研究会, 2019, (京都), [主題II]
- 107 室 圭 (座長): 長期生存を目指した胃癌薬物療法. 胃癌学会, 2019, (沼津), [ランチョンセミナー]
- 108 室 圭 (座長): 患者アドボカシーセッション. 胃癌学会, 2019, (沼津), [スペシャルセッション]
- 109 室 圭 (座長): 胃癌領域におけるがん免疫療法とマイクロサテライト不安定性 (MSI). 胃癌学会, 2019, (沼津), [スポンサードシンポジウム]
- 110 室 圭 (座長): 腹膜播種に対する治療. 胃癌学会, 2019, (沼津), [ワークショップ]
- 111 舛石俊樹 (演者): 切除不能胃癌におけるFOLFOX療法的位置づけと可能性. 胃癌学会, 2019, (沼津), [ワークショップ]
- 112 成田有季哉 (演者), 中村路夫, 森脇俊和, 山中竹春, 砂川優, 川上尚人, 仁科智裕: ニボルマブ後の化学療法における有効性と安全性の前向き観察研究. 胃癌学会, 2019, (沼津), [口演]
- 113 伏木邦博, 川上武志, 加藤恭子, 舛石俊樹, 中野真太郎, 川本泰之, 對馬隆浩, 町田 望, 門脇重憲, 田近正洋, 室圭, 中積宏之, 結城敏志: 前治療の腫瘍増大に対するニ

ボルマブとイリノテカンの抗腫瘍効果に与える影響. 胃癌学会, 2019, (沼津), [口演]

- 114 戸澤勝之, 石神浩徳, 室 圭, 門脇重憲, 吉田俊太郎, 廣野靖夫, 富田寿彦, 藪崎 裕, 楠本哲也, 太田光彦, 大庭幸治, 北山丈二: 経口摂取困難な腹膜播種陽性胃癌に対するmFOLFOX6 + PTX腹腔内投与併用療法の臨床試験. 胃癌学会, 2019, (沼津), [ワークショップ]
- 115 門脇重憲, 山田康秀, 水澤純基, 朴 成和, 岩佐 悟, 中山昇典, 東 瑞智, 坂本岳史, 設楽絃平, 奥野達哉, 片山宏, 吉川貴己, 佐野 武, 笹子三津留: 切除不能進行・再発胃癌に対するDCS療法とCS療法を比較した第III相試験 (JCOG1013). 胃癌学会, 2019, (沼津), [特別企画]
- 116 熊西亮介, 三谷誠一郎, 門脇重憲, 加藤恭子, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 坂東英明, 安藤正志, 田近正洋, 室圭: 抗生剤投与歴がニボルマブの有効性に与える影響に関する後方視的検討. 胃癌学会, 2019, (沼津), [口演]
- 117 Yamaguchi K, Bang Y-J, Chung HC, Yabusaki H, Iwasa S, Sakai D, Muro K, Sugimoto N, Yasui H, Gamoh M, Murakawa Y, Negoro Y, Nishina T, Hosaka H, Yasushi Y, Kawaguchi Y, Sugihara M, Saito K, Dalal R, Shitara K: Phase 2 study of [fam-] trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in HER2-expressing gastric cancer. 胃癌学会, 2019, (沼津), [口演]
- 118 伊藤友一, 門脇重憲, 成田有季哉, 舩石俊樹, 伊藤誠二, 三澤一成, 檜垣榮治, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 室 圭, 清水泰博: 胃癌腹膜播種に対する腹腔内化学療法の治療成績. 胃癌学会, 2019, (沼津), [ポスター]
- 119 佐藤太郎, 坂井大介, 山口研成 (癌研有明病院), 室 圭, 市村 崇, 門脇重憲, 工藤敏啓, 陳勁松, 三谷誠一郎, 北野滋久, 福井雅人, 朴 成和, Bhargava P, Zavadovskaya M, Liu JJ, Fukui M: 進行胃, 胃食道接合部腺がんに対するandecaliximabとS-1+プラチナ製剤の併用臨床第I相試験. 胃癌学会, 2019, (沼津), [口演]
- 120 室 圭, 山口研成, 佐藤太郎, 門脇重憲, 市村 崇, 坂井大介, 三谷誠一郎, 陳勁松, 工藤敏啓, 北野滋久, Bhargava P, Zavadovskaya M, Liu JJ, 福井雅人, 朴 成和: Phase 1b study of andecaliximab (ADX) as monotherapy and in combination with nivolumab (nivo) in Japanese subjects with gastric or GEJ adenocarcinoma. 胃癌学会, 2019, (沼津), [口演]

## 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 Yatabe Y: Updated Molecular Testing Guideline for The Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors-2018. IASLC Webinar, 2018, (Vancouver), [口演]
- 002 Yatabe Y: Diagnostic immunohistochemistry. IASLC Pathology Committee, 2018, (Vancouver), [Workshop]
- 003 Yatabe Y: Updated Molecular Testing Guideline for Lung Cancer. US-Canada Academy of Pathology 2018 Annual Meeting, 2018, (Vancouver), [Workshop]
- 004 Yatabe Y: A New stage of the companion diagnostics of lung cancer. Asian Clinical Oncology Society, 2018, (Chiang Mai), [symposium]
- 005 Yatabe Y: Lung Cancer Classification, histology versus genomics. Asian Clinical Oncology Society, 2018, (Chiang Mai), [symposium]
- 006 谷田部 恭: クリニカルシーケンスの実際について. 第14回細胞検査研修会, 2018, (名古屋), [シンポジウム]
- 007 谷田部 恭: がんゲノム医療の実際と展望について. 第8回中部地区がん医療連携学術講演会, 2018, (名古屋), [シンポジウム]
- 008 谷田部 恭: 薬物療法に応じた病理診断—求められる検体と診断技術の進歩. 第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会2018, (東京), [シンポジウム]
- 009 谷田部 恭: 肺がんバイオマーカー検査のUP-to-date. 第59回日本細胞学会総会春期大会, 2018, (札幌), [教育講演]
- 010 谷田部 恭: 新たな時代のコンパニオン診断—アカデミーの立場から. 第107回日本病理学会総会, 2018, (札幌), [シンポジウム]
- 011 谷田部 恭: PD-L1検査の変遷. 第107回日本病理学会総会, 2018, (札幌), [ワークショップ]
- 012 谷田部 恭: 肺癌の病理とバイオマーカー. 第33回日本肺癌学会ワークショップ, 2018, (東京), [特別講演]
- 013 谷田部 恭: 2015 WHO分類と診断に必要な免疫染色. 第59回日本肺癌学会, 2018, (東京), [シンポジウム]
- 014 細田和貴: Genetic analyses of isolated high-grade PanIN using next-generation sequencing. 第107回日本病理学会総会, 2018, (札幌), [口演]
- 015 加藤省一: 成熟T/NK細胞リンパ腫の2017年WHO分類における変更点. 第21回日本血液病理研究会, 2018, (名古屋), [招待講演]
- 016 真砂勝泰, 藤田史郎, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 坂尾幸則, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部 恭: 非小細胞肺癌症例におけるROS1免疫染色法を用いたROS1融合遺伝子スクリーニング検査の実際. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2019, (東京), [ポスター]
- 017 西野和美, 真砂勝泰, 倉田宝保, 神田錦吾, 矢吹 豊, 秋田弘俊: 進行非扁平上皮非小細胞肺癌症例に対する一次治療前バイオマーカー検査の実態調査. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2019, (東京), [ポスター]

- 018 瀬戸克年：左下葉切除後に右上葉・下葉に発生した間質性肺炎合併肺癌に対して複雑区域切除を施行した一例。第35回日本呼吸器外科学会学術集会, 2018, (千葉), [口演]
- 019 瀬戸克年, 羽根田正隆, 真砂勝泰, 藤田史郎, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 植田豊明, 谷田部 恭：BRAF V600E免疫染色の有用性の検討。第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 020 柴田典子：がんゲノム医療での臨床検査技師の役割～核酸検体の品質確認法～。平成30年度日臨技中部圏支部医学検査学会, 2018, (三重), [口演]
- 021 吉野 聡, 井上麻衣, 柴田典子：病理検査手順施設間相互間チェックの試み。平成30年度日臨技中部圏支部医学検査学会, 2018, (三重), [口演]
- 022 石端裕一, 村上裕美：当院の細菌検査室におけるISO15189に対応した精度管理方法について。第57回中部圏支部医学検査学会, 2018, (三重), [口演]
- 023 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 村上善子, 谷田部 恭：胸水中に出現した甲状腺癌の臨床細胞学的特徴。第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 2018, (横浜), [一般口演]
- 024 中島梨花, 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 村上善子, 谷田部 恭：胸水に甲状腺癌の浸潤を認めた一例。第161回日本臨床細胞学会東海連合会例会, 2018, (名古屋), [一般口演]

## 頭頸部外科部

- 001 Suzuki H, Hanai N：Total Lesion glycolysis on FDG-PET/CT before salvage surgery predicts survival for laryngeal or pharyngeal cancer. 6th World congress of the international federation of head and neck oncologic societies, 2018, (ブエノスアイレス), [口演]
- 002 Nishikawa D, Sasaki E, Hanai N, Suzuki H, Koide Y, Beppu S, Terada H, Oguri K, Hasegawa Y：Clinical analysis of sinonasal squamous cell carcinoma with egfr tyrosine kinase mutations. 6th World congress of the international federation of head and neck oncologic societies. 2018, (ブエノスアイレス), [口演]
- 003 Hanai N, Asakage T, Homma A, Monden N, Fukushima H, Fujii T, Ogawa T, Tanaka K, Mizusawa J, Eba J, Hayashi R：Head and Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG), Japan. Randomized phase III study to evaluate the value of the omission of prophylactic neck dissection for stage I/II tongue cancer :Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1601 RESPOND). ESMO 2018 Congress, 2018, (ミュンヘン), [ポスター]
- 004 Hanai N, Terada H, Suzuki H, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S：Evaluation of depth of invasion by magnetic resonance imaging in stage I/II tongue cancer. 第6回アジア頭頸部腫瘍学会 (ASHNO2019), 2019, (ソウル), [ポスター]
- 005 花井信広：頭頸部癌に対するNivolumabの治療経験。第89回北北海道耳鼻咽喉科懇話会, 2018, (旭川), [講演]
- 006 花井信広：頭頸部癌に対するNivolumabの治療経験。新潟頭頸部セミナー, 2018, (新潟), [講演]
- 007 花井信広：エビデンスに基づいた頭頸部癌の治療戦略。第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2018, (横浜), [ランチョンセミナー]
- 008 丸尾貴志, 藤本保志, 鬼塚哲郎, 別府 武, 吉田昌史, 松浦一登, 長谷川泰久, 藤井 隆, 林 隆一：進行中咽頭側壁癌の治療後嚥下機能障害に関する多施設前向き試験 (中間報告)。第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2018, (横浜), [口演]
- 009 鈴木秀典, 藤本保志, 平松真理子, 花井信広, 古平 毅, 伊藤善之, 曾根三千彦, 長谷川泰久：FDG-PET/CTによる下咽頭癌の生存や肺転移の予測に関する多施設 後ろ向き研究。第42回日本頭頸部癌学会, 2018, (東京), [口演]
- 010 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 小栗恵介, 西川大祐：ニボルマブの効果予測因子の検討。第42回日本頭頸部癌学会, 2018, (東京), [口演]
- 011 村瀬貴幸, 齋田昂佑, 川北大介, 草深公秀, 長尾 徹, 花井信広, 丹生賢一, 稲垣 宏：唾液腺原発腺様嚢胞癌におけるEGFRたんぱく高発現とその臨床病理学的意義。第42回日本頭頸部癌学会, 2018, (東京), [口演]
- 012 丸尾貴志, 藤本保志, 鬼塚哲郎, 別府 武, 吉田昌史, 長谷川泰久, 藤井 隆, 松浦一登, 林 隆一：中咽頭側壁癌の治療戦略 根治性と機能温存から考える中咽頭がん治療の今後。第42回日本頭頸部癌学会, 2018, (東京), [口演]
- 013 花井信広：Voice prosthesis placement - practical management and problems. 第4回GPR アカデミー同窓会, 2018, (東京), [講演]
- 014 花井信広：頭頸部癌に対するNivolumabの治療経験。岩手頭頸部癌セミナー, 2018, (盛岡), [講演]
- 015 小栗恵介, 西川大輔, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 西川大祐, 佐々木英一, 花井信広：中下咽頭癌に対する経口的内視鏡手術の検討。第19回頭頸部表在癌研究会, 2018, (東京), [口演]
- 016 西川大輔：当院でのNivolumabの使用経験。オブジーボレクチャー (頭頸部癌), 2018, (名古屋), [講演]
- 017 西川大祐, 中川隆之, 鈴木秀典, 花井信広：鼻腔に発生したTeratocarcinomaに対して内視鏡手術を施行した1例。第30回日本頭蓋底外科学会, 2018, (東京), [口演]
- 018 花井信広：頭頸部癌の最新の治療について。H&N Cancer Summit in Hiroshima 2018, 2018, (広島), [講演]
- 019 西川大輔：頭頸部癌の最新の治療について。H&N Cancer Summit in Hiroshima 2018, 2018, (広島), [講演]
- 020 花井信広：上顎癌治療を考える。頭頸部外科 腫瘍免疫セミナー, 2018, (東京), [講演]
- 021 花井信広：長期生存を目指した再発/転移頭頸部がんに対する治療戦略。オブジーボ頭頸部がん全国講演会, 2018, (東京), [ディスカッサント]
- 022 長縄弥生：がん患者の適切な口腔粘膜炎マネジメントを



- 目指して. 第3回日本がんサポーターブケア学会学術集会, 2018, (福岡), [パネルディスカッション]
- 023 鈴木秀典, 花井信広, 曾根三千彦: 口腔扁平上皮癌の病理学退席による生存結果や局所再発の予測. 第31回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会, 2018, (名古屋), [口演]
- 024 花井信広: エビデンスに基づいた頭頸部癌の治療戦略. 群馬頭頸部癌治療セミナー, 2018, (群馬), [口演]
- 025 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 小出悠介, 寺田星乃, 西川大祐, 花井信広: 鼻副鼻腔扁平上皮癌に対する肉眼的腫瘍体積による予後予測. 第57回日本鼻科学会 総会・学術講演会, 2018, (旭川), [口演]
- 026 西川大祐, 鈴木秀典, 寺田星乃, 花井信広: ニボルマブが著効を示した再発上顎扁平上皮癌の一例. 第57回日本鼻科学会 総会・学術講演会, 2018, (旭川), [口演]
- 027 鈴木秀典, 高野 学, 花井信広, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎: 頭頸部粘膜悪性黒色腫の遠隔転移予測. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [ポスター]
- 028 鈴木秀典, 西川大輔, 花井信広: 甲状腺乳頭癌のUICC8版による予後解析. 第51回日本甲状腺外科学会, 2018, (横浜), [口演]
- 029 福田裕次郎, 小出悠介, 花井信広, 原 浩貴: Lenvatinib導入化学療法後に切除可能となった甲状腺乳頭癌の1例. 第51回日本甲状腺外科学会, 2018, (横浜), [口演]
- 030 西川大輔: 導入化学療法の役割 喉頭温存治療における導入化学療法の意義. 第11回喉頭機能温存治療研究会, 2018, (東京), [シンポジウム]
- 031 鈴木秀典, 玉木恒男, 西尾正美, 別府慎太郎, 向山宣昭, 西川大輔, 小出悠介, 寺田星乃, 西川大祐, 花井信広: 口腔扁平上皮癌における18F-Fluorodeoxyglucose集積と病理因子の関係. 第58回日本核医学会学術総会, 2018, (那覇), [ポスター]
- 032 花井信広: 甲状腺がんの診断と治療の向上. LENVIMA meet the Expert in Yamagata, 2019, (山形), [特別講演]
- 033 花井信広, 別府慎太郎, 西川大祐, 寺田星乃: 全身麻酔下の二次的シャント造設-福原変法の有用性-. 第34回日本西音声外科研究会, 2019, (那覇), [口演]
- 034 鈴木秀典, 別府慎太郎, 向山信昭, 西川大輔, 小出悠介, 長谷川泰久, 花井信広: 口腔扁平上皮癌におけるFDG-PET/CTによるリンパ節転移や節外進展の診断能. 第29回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2019, (仙台), [口演]
- 000 西川大輔, 佐々木英一, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 西川大祐, 齋 里紗, 花井信広, 曾根三千彦: 鼻副鼻腔扁平上皮癌におけるEGFR変異の臨床的意義. 第29回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2019, (仙台), [口演]
- 035 寺田星乃, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎, 花井信広: 早期舌癌におけるMRIによるDepth of invasionの評価. 第29回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2019, (仙台), [口演]
- 036 小出悠介, 齋 里紗, 西川大祐, 寺田星乃, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広: 当科における多発性内分泌腫瘍症の治療. 第29回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2019, (仙台), [口演]
- 037 小栗恵介, 西川大輔, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 西川大祐, 佐々木英一, 花井信広: 中下咽頭癌に対する経口的内視鏡手術の検討. 第29回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2019, (仙台), [口演]
- 038 萩原純孝, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎, 日比英晴: 口腔扁平上皮癌患者における血清CD109の定量解析と臨床的意義に関する検討. 第37回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2019, (長崎), [口演]
- 039 花井信広: 舌癌におけるDOI診断. 第24回頭頸癌化学療法研究会, 2019, (東京), [口演]
- 040 花井信広: 化学放射線治療における喉頭温存. 第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2019, (久留米), [シンポジウム]
- 041 花井信広: 頭頸部外科の診療内容と取り組みについて. 第10回中部地区がん医療連携学術講演会, 2019, (名古屋), [口演]
- 042 花井信広: 頭頸部癌の個別化治療とは -患者像から治療選択肢を考える-. Erbitux HN web seminar, 2019, (東京), [口演]
- 043 齋 里紗, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 萩原純孝, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 西川大祐: 当院における再発・転移頭頸部がんに対するセツキシマブ併用化学療法の効果. 第36回東海頭頸部腫瘍研究会, 2019, (名古屋), [口演]

## 形成外科部

- 001 *Ikuo Hyodo*: Microvascular Surgery in Previously Operated Neck The 4th Congress of Asian Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery 2018, (Turkey), [シンポジウム]
- 002 *Ikuo Hyodo, Seiko Okumura, Yuzuru kamei*: Microvascular reconstruction for total or subtotal glossectomy 2018, (Korea), [パネルディスカッション]
- 003 奥村誠子, 成田央良, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 初回乳房温存術施行後の全摘例に対して自家組織再建を行った症例の検討 第61会日本形成外科学会総会・学術集会 2018, (福岡), [一般演題]
- 004 成田央良, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 橋 五月, 亀井 譲: 下腹部手術歴のある遊離腹直筋皮弁による乳房再建症例における深下腹壁動静脈の損傷に対する検討 第61会日本形成外科学会総会・学術集会 2018, (福岡), [ポスター]
- 005 奥村誠子, 成田央良, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 初回乳房温存術施行後の全摘症例に対して1次乳房再建を行った症例の検討 第26回日本乳癌学会学術集会 2018, (大阪), [ポスター]
- 006 兵藤伊久夫: 当院における乳房1次再建の現状 豊橋外科医会生涯教育研修会 2018, (豊橋), [一般演題]

- 007 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 成田央良, 亀井 謙: 当院における舌亜全摘の再建 第42回日本頭頸部癌学会 2018, (東京), [シンポジウム]
- 008 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 亀井 謙, 筑紫 聡, 吉田雅博: 当院における骨・軟部腫瘍広範切除後の再建 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 2018, (静岡), [主題]
- 009 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小島空翔, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 謙: 第53回中部形成外科学会学術集会 2018, (長野), [一般演題]
- 010 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 小島空翔, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: インプラントによる再建の乳房形態に着目した整容性評価 第6回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会 2018, (大阪), [パネルディスカッション]
- 011 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 小島空翔, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: 1次/2次インプラント再建におけるIMF上方変位率の検討 第6回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会 2018, (大阪), [一般演題]
- 012 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小島空翔, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 謙: カラードプラエコーとドプラエコーを使用した術後皮弁モニタリングの有用性 第72回東海形成外科学会 2018, (名古屋), [一般演題]
- 013 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 小島空翔: 頻回の血管吻合を要した頭頸部遊離皮弁再建例の検討 第108回九州・沖縄形成外科学会学術集会 2018, (北九州), [一般演題]
- 014 中村亮太, 小島空翔, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: 当院におけるリンパ管静脈吻合術に関する検討 第89回東海マイクロサージャリー研究会 2018, (名古屋), [一般演題]
- 015 小島空翔, 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: 第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2018, (大阪), [特別企画]
- 016 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小島空翔, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 謙: 遊離空腸移植における術中所見による血流評価の重要性に関する検討 第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2018, (大阪), [特別企画]
- 017 丸山陽子, 奥村誠子, 武石明精, 中村亮太, 小島空翔, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: free TRAMでの乳房再建における術後放射線照射症例/非照射例の整容性の比較検討 第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2018, (大阪), [一般演題]
- 018 中村亮太, 小島空翔, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 当院におけるリンパ管静脈吻合術に関する検討 第12回がんのリンパ浮腫研究会 2018, (名古屋), [一般演題]
- 019 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 小島空翔, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: Silent Rupture ~乳房1次1期SBI再建後3年の定期健診にて破損を発見した1例~ 第73回東海形成外科学会 2019, (名古屋), [一般演題]
- 020 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小島空翔, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 謙: 遊離空腸移植における術中所見による血流評

価の検討 第36回東海頭頸部腫瘍研究会 2019, (名古屋), [一般演題]

## 呼吸器外科部

- 001 Matsui T, Kuroda H, Sugita Y, Koyama S, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y: Indocyanine green intersegmental visualization during fluorescence imaging of complete thoracoscopic anatomic segmentectomy: a novel approach. I ASLC 19th World Conference on Lung cancer, 2018, (カナダ), [ポスター]
- 002 黒田浩章, 杉田裕介, 小山 真, 松井琢哉, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 喫煙患者における術前FDGのびまん性集積が間質性肺炎増悪に及ぼす影響の検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [ポスター]
- 003 黒田浩章, 杉田裕介: 右肺癌に対する胸腔鏡下右上縦郭郭清の現状と成績. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演]
- 004 坂倉範昭, 水野鉄也, 有 隆明, 坂田省三, 松井琢哉, 小山 真, 杉田裕介, 福澤俊昭, 黒田浩章, 坂尾幸則: 根治的化学放射線治療後のサルベージ肺全摘: 導入療法後肺全摘, 通常全摘との比較. リスクと成績. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [要望ビデオ]
- 005 坂倉範昭, 水野鉄也, 有村隆明, 黒田浩章, 仲西慶太, 松井琢哉, 小山 真, 杉田裕介, 坂尾幸則: Transmanubrialアプローチによるパンコースト型肺癌の根治的放射線治療後の再発病変のサルベージ切除. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ビデオ]
- 006 水野鉄也, 福澤俊昭, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 坂田省三, 有村隆明, 黒田浩章, 坂倉 範昭, 谷田部 恭, 坂尾幸則: 非小細胞肺癌胸膜播種症例に対して肉眼的完全切除(MCR)は有効か. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [口演]
- 007 水野鉄也, 杉田裕介, 小山 真, 松井琢哉, 仲西慶太, 有村隆明, 黒田浩章, 坂倉範昭, 谷田部 恭, 坂尾幸則: 臨床病期IA期肺腺癌におけるリンパ節転移予測因子の同定. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ポスター]
- 008 有村隆明, 福澤俊昭, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 坂田省三, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉 範昭, 坂尾幸則: 下葉S6区域と底区域における転移リンパ節の検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [ポスター]
- 009 有村隆明, 坂尾幸則, 坂倉範昭, 黒田浩章, 水野鉄也, 小山 真, 松井琢哉, 杉田裕介, 仲西慶太: 当院における下葉S6肺癌切除例の検討. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ポスター]
- 010 小山 真, 水野鉄也, 杉田裕介, 松井琢哉, 福澤俊昭, 坂田省三, 有村隆明, 黒田浩章, 坂倉 範昭, 坂尾幸則: cN2非小細胞肺癌, 特に#5-6陽性左上葉肺癌の治療戦略を考える. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千

- 葉), [口演]
- 011 小山 真, 黒田浩章, 杉田裕介, 松井琢哉, 福澤俊昭, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 当院における1-2 ports segmentectomy 導入時の工夫. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [口演]
- 012 小山 真, 黒田浩章, 杉田裕介, 松井琢哉, 仲西慶太, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: ICG 静注法を用いた単孔式胸腔鏡下右肺S1区域切除. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演]
- 013 松井琢哉, 黒田浩章, 杉田裕介, 小山 真, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: ICG 蛍光観察を用いた完全胸腔鏡下肺区域間同定一最新蛍光描画法による区域間視認性の評価. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [シンポジウム]
- 014 松井琢哉, 坂倉範昭, 杉田裕介, 小山 真, 仲西慶太, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則: 当院における浸潤性粘液産性肺腺癌の切除後予後についての検討. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 015 杉田裕介, 黒田浩章, 松井琢哉, 小山 真, 福澤俊昭, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 当院における右上葉手術後呼吸機能に影響を及ぼす因子の検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [要望演題]
- 016 杉田裕介, 黒田浩章, 松井琢哉, 小山 真, 福澤俊昭, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 胸腔鏡下右肺手術における肺葉切除と区域切除が呼吸機能に及ぼす影響 3D再構築画像を用いた検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 2018, (千葉), [口演]
- 017 杉田裕介, 黒田浩章, 松井琢哉, 小山 真, 仲西慶太, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 胸腔鏡手術の教育体制 レジデントとして経験した当院の胸腔鏡下肺葉切除の教育体制. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [ワークショップ]
- 018 仲西慶太, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: サルベージ手術と導入化学放射線療法の術後成績. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [口演]
- 019 仲西慶太, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 当院における肺原発多形癌切除例の治療成績. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演]
- 020 仲西慶太, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 小細胞肺癌化学放射線遅漏後のサルベージ手術. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [口演]

## 乳腺科部

- 001 *Iwata H, Tamura K, Doi T, Tsurutani J, Modi S, Park H, Krop I. E., Sagara Y, Redfern C. H., Murthy R, Redman R. A., Shitara K, Fujisaki Y,*

- Sugihara M, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Takahashi S*: Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in subjects with HER2-expressing solid tumors: Long-term results of a large phase 1 study with multiple expansion cohorts. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [oral]
- 002 *Coleman R.E., Finkelstein D, Barrios C.H., Martin M, Iwata H, Glaspy J.A., Zhou Y, Jandial D, Chan A*: Adjuvant denosumab in early breast cancer: First results from the international multicenter randomized phase III placebo controlled D-CARE study. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [oral]
- 003 *Neven P, Rugo H.S., Tolaney S.M., Iwata H, Toi M, Goetz M.P., Kaufman P.A., Barriga S, Lin Y, Sledge G.W.*: Abemaciclib for pre/perimenopausal women with HR+, HER2- advanced breast cancer. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [oral]
- 004 *Tolaney S.M., Leo A.D., Cussack A.L., Dickler M.N., Campone M, Iwata H, Toi M, Kaufman P.A., Andre V.A., Barriga S, Goetz M.P., Sledge G.W.*: Impact of abemaciclib on the time to subsequent chemotherapy and the time to second disease progression across the MONARCH 2 and 3 studies. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [oral]
- 005 *Baselga J, Tamura K, Yamashita T, Modi S, Tokunaga E, Ito Y, Iwata H, Charif M, Lee C.C., Sugihara M, Jikoh T, Andre F*: A phase 2, multicenter, open-label study of trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in subjects with HER2-positive, unresectable and/or metastatic breast cancer previously treated with T-DM1. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [oral]
- 006 *Kogawa T, Yonemori K, Masuda N, Takahashi S, Takahashi M, Iwase H, Nakayama T, Saeki T, Toyama T, Takano T, Onuma H, Ogawa H, Tanaka Y, Igari Y, Sugihara M, Vigliotti M, Yu C, Olivo M.S., Ueno S, Iwata H*: Single agent activity of U3-1402, a HER3-targeting antibody-drug conjugate, in breast cancer patients: Phase 1 dose escalation study. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [oral]
- 007 *Sawaki M, Saito T, Baba S, Kobayashi K, Kawashima H, Tsuneizumi M, Sagawa N, Bando H, Takahashi M, Yamaguchi M, Takashima T, Nakayama T, Kashiwaba M, Mizuno T, Yamamoto Y, Taira N, Iwata H, Uemura Y, Ohashi Y, Mukai H*: Evaluation of trastuzumab without chemotherapy as a postoperative adjuvant therapy in HER2-positive elderly breast cancer patients: Randomized controlled trial (RESPECT). ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [poster discussion]
- 008 *Gnant M, Iwata H, Bashford A.E., Separovic R, Murias A, Vicente E, Means-Powell J.A., Mayer I.A., Senecal F.M., Hui R, Boer R.H., Chiu J, Armstrong A, Ruiz A, Bryce R, Ye Y, Chan A*: Duration of ex-



- tended adjuvant therapy with neratinib in early-stage HER2+ breast cancer after trastuzumab-based therapy: Exploratory analyses from the phase III ExteNET trial. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [poster]
- 009 **Iwata H, Masuda N, Yamamoto Y, Fujisawa T, Toyama T, Taira N, Kashiwaba M, Ohtani S, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Ohashi Y**: Distant disease-free survival (DDFS) according to response category in neoadjuvant endocrine therapy (NET) : 6-year analysis in phase III NEOS trial. ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [poster]
- 010 **Iwata H**: HER2 and HER3 as predictor of new ADC (DS-8201a and U2-1402). ESMO, 2018, (Munich), [symposium]
- 011 **Masuda N, Yonemori K, Takahashi S, Kogawa T, Nakayama T, Iwase H, Takahashi M, Toyama T, Saeki T, Saji S, Inoue K, Onuma H, Tajima N, Shi-ose Y, Chen S, Guevara F, Yu C, Ueno S, Iwata H**: Single agent activity of U3-1402, a HER3-targeting antibody-drug conjugate, in HER3-overexpressing metastatic breast cancer : Updated results of a phase 1/2 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2018, (San Antonio), [poster]
- 012 **Modi S, Tsurutani J, Tamura K, Park H, Sagara Y, Murthy R, Iwata H, Krop IE, Doi T, Redfern C, Moreno-Aspitia A, Redman R, Lee C, Sugihara M, Fujisaki Y, Takahashi S**: Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in subjects with HER2-low expressing breast cancer : Updated results of a large phase 1 study. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2018, (San Antonio), [poster]
- 013 **Tamura K, Modi S, Tsurutani J, Takahashi S, Krop IE, Iwata H, Wada R, Yin O, Garimella T, Sugihara M, Zhang L, Lee C, Yver A, Baselga J**: Dose justification for DS-8201a, a HER2-targeted antibody-drug conjugate, for HER2-positive breast cancer : Observed clinical data and exposure-response analyses. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2018, (San Antonio), [poster]
- 014 **Sawaki M, Saito T, Baba S, Kobayashi K, Kawashima H, Tsuneizumi M, Sagawa N, Bando H, Takahashi M, Yamaguchi M, Takashima T, Nakayama T, Kashiwaba M, Mizuno T, Yamamoto Y, Taira N, Iwata H, Uemura Y, Ohashi Y, Mukai H**: Evaluation of trastuzumab without chemotherapy as a postoperative adjuvant therapy in HER2 positive elderly breast cancer patients: Randomized controlled trial (RESPECT). ASCO Annual Meeting, 2018, (Chicago), [poster]
- 015 **Mori M, Gondo N, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino S, Hori-  
sawa N, Terada M, Ozaki Y, Iwata H**: Microdochec-  
tomy experience for patients with nipple discharge from  
a single institution. 16th St. Gallen International Breast  
Cancer Conference, 2019, (Vienna), [poster]
- 016 **Horisawa N**: The comparison of prognosis between  
clinical axillary lymph node positive and negative in ear-  
ly breast cancer patients with one or two pathological  
lymph node metastases. 16th St. Gallen International  
Breast Cancer Conference, 2019, (Vienna), [poster]
- 017 **岩田広治**: How can we apply The Japanese Breast Can-  
cer Society Guideline 2018 to clinical practice ?. 第16回  
日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 018 **岩田広治, 佐治重衡**: Precision endocrine therapy for  
advanced / metastatic breast cancer ; best choice and  
best sequence. 進行再発乳癌に対するホルモン療法 ; 最  
適な投与順序と個別化. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集  
会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 019 **岩田広治, 堀井理絵, 植松孝悦, 池田雅彦, 遠山竜也, 井  
口雅史, 山内智香子**: 乳癌診療ガイドライン改訂のポイ  
ント. 第26回日本乳癌学会学術総会, 2018, (京都), [シン  
ポジウム]
- 020 **岩田広治**: BRCA 変異陽性転移性乳癌に対するオラパリ  
ブ単独療法と化学療法を比較する第Ⅲ相試験 (Olympi-  
AD). 第26回日本乳癌学会学術総会, 2018, (京都), [口演]
- 021 **澤木正孝**: 診・病歴の取り方, 家族歴, 家族集積性, 治療  
のプランニング, 乳癌以外の悪性腫瘍, 良性疾患の治療.  
日本乳癌学会第7回乳腺専門医セミナー, 2018, (東京), [口  
演]
- 022 **吉村章代**: 乳がん患者の生殖医療連携に関する現状と課  
題. 第9回日本がん・生殖医療学会, 2019, (岐阜), [口演]
- 023 **安立弥生**: 術前化学療法後一次乳房再建時の合併症に関  
する検討. 第6回オンコプラスチックサージェリー学会,  
2018, (大阪), [口演]
- 024 **森 万希子, 小谷はるる, 寺田満雄, 堀澤七恵, 杉野香世  
子, 大西 桜, 岩瀬まどか, 片岡愛弓, 安立弥生, 権藤な  
おみ, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治**: ステロ  
イド含有のミラクルマウスウォッシュ使用によるエベロ  
リムスの薬物動態への影響の検討. 第26回日本乳癌学会  
学術総会, 2018, (京都), [ポスター]
- 025 **森 万希子, 吉村章代, 尾崎友理, 寺田満雄, 堀澤七恵,  
杉野香世子, 大西 桜, 片岡愛弓, 安立弥生, 小谷はるる,  
権藤なおみ, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治**: 再発乳癌治  
療中にPulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy  
(PTTM) を発症した一例. 第15回日本乳癌学会中部地方  
会, 2018, (三重), [口演]
- 026 **堀澤七恵**: 当院における浸潤性小葉癌と浸潤性乳管癌に  
おけるセンチネルリンパ節生検についての検討. 第26回  
日本乳癌学会学術総会, 2018, (京都), [ポスター]
- 027 **堀澤七恵**: Li-Fraumeni症候群に対して予防的乳房切除  
を施行した若年性乳癌の1例. 第15回日本乳癌学会中部  
地方会, 2018, (三重), [口演]
- 028 **尾崎友理**: 乳癌肺転移に対して ベバシズマブ+パクリタ

キセル療法中に 気胸を認めた 1 例. 第 15 回日本乳癌学会中部地方会, 2018, (三重), [口演]

## 消化器外科部

- 001 *Shimizu Y* : Predictors of malignancy in BD-IPMN-Mural nodules as a predictive factor in the 2012 and 2017 guideline algorithms. AOPA&KPBA&KPSC 2018 (Joint Meeting of the Asian-Oceanic Pancreatic Association, the Korean Pancreatobiliary Association, and the Korean Pancreas Surgery Club, 2018, (Seoul), [口演].
- 002 *Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, An B, Hayashi D, Tanaka H, Uchino T, Kunitomo A, Shimizu Y* : The prognosis of surgical curability B in Stage IV colorectal cancers with synchronize peritoneal metastasis in terms of pathological findings. The 64th Annual Congress of International College of Japan Section, 2018, (長崎), [口演].
- 003 *Ouchi A, Ikoma N, Y. Nancy You, Komori K, Shida D, Brian K, Bednarski, Kinoshita T, Tsukamoto S, Miguel A. Rodriguez-Bigas, Oshiro T, John Michael Skibber, Ochiai H, Shimizu Y, Kanemitsu Y, George J. Chang* : Optimizing treatment strategy for advanced rectal cancer in the West and Japan: International multicenter cohort study. 2018 ASCO ANNUAL MEETING, 2018, (Chicago), [示説].
- 004 *Misawa K Hayashi Y, Mori K* : PORT PLACEMENT NAVIGATION SYSTEM USING CT IMAGES AND 3D POSITIONAL SENSOR FOR LAPAROSCOPIC GASTRECTOMY. 3rd Triangle Scientific Meeting of the Japan-Hungary-Poland Surgical Society, 2018, (Budapest), [口演].
- 005 *Ito S, Imano M, Uenosono Y, Arigami T, Yabusaka H, Hirono Y, Ueda S, Matsumura T, Fukushima R, Takeno A, Kishi K, Chiba Y, Chiba S, Imamoto H, Ito Y, Matsuki A, Ishigami H, Yamaguchi H, Kitayama J, Furukawa H, Japan intraperitoneal chemotherapy study group (JIPG)* : A phase II study of perioperative intraperitoneal paclitaxel plus S-1/paclitaxel for curatively resectable gastric cancer with serosal invasion: The GAPS study. 2018 ASCO ANNUAL MEETING, 2018, (Chicago), [示説].
- 006 *Natsume S, Shimizu Y, Senda Y* : Real conversion surgery rate for unresectable pancreatic cancer. 第 30 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2018, (横浜), [シンポジウム].
- 007 *Hayashi D, Natsume S, Senda Y, Komori K, Shimizu Y* : Treatment of Pancreatic head cancer in patients Over 80 years old. 第 30 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2018, (横浜), [示説].
- 008 *Senda Y, Shimizu Y, Natsume S, Komori K, Hayashi D, Tanaka H* : Usefulness of invagination pancreaticojejunostomy for patient with a soft pancreas and non-dilated pancreatic duct after pancreaticojejunostomy. 第 30 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2018, (横浜), [示説].
- 009 *Morinaga S, Takahashi S, Ikeda M, Toyama H, Shimizu Y, Nakamori S, Hishinuma S, Takakura N, Takayama W, Hirano S, Otubo T, Nagino M, Kimura W, Sugimachi K, Uesaka K* : Phase 2 trial of neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy for borderline resectable pancreatic cancer: Results of JASPAC05. 第 30 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2018, (横浜), [シンポジウム].
- 010 *Toyama H, Takahashi S, Morinaga S, Shimizu Y, Nakamori S, Hishinuma S, Takakura N, Takayama W, Hirano S, Uesaka K* : Phase II trial of neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy for BR pancreatic cancer (JASPAC05). 第 73 回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [シンポジウム].
- 011 *Senda Y, Shimizu Y, Natsume S* : Outcome of Hepatectomy Following Chemotherapy for Synchronous Liver Metastasis of Colorectal Cancer. 13th IHPBA World Congress, 2018, (Geneva), [示説].
- 012 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Hirono S, Sano T, Senda Y, Natsume S, Yanagisawa A* : Surgical indication for BD-IPMN Mural Nodule in Algorithm of 2012 & 2017 international Consensus Guidelines. 13th IHPBA World Congress, 2018, (Geneva), [口演].
- 013 *Uemura N, Abe T, Higaki E, Hosoi T, An B* : The Impact of Preoperative Skeletal Muscle Mass on Postoperative Outcomes after Esophagectomy for Esophageal Cancer. The International Society for Diseases of the Esophagus 16th World Congress, 2018, (Vienna), [示説].
- 014 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Hirono S, Senda Y, Natsume S, Yanagisawa A* : Surgical indication for BD-IPMN-Mural Nodule as a Predictive Factor in the 2012 & 2017 International Consensus Guidelines-. 第 80 回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [シンポジウム].
- 015 *Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Kojima H, Sasaki T, Agata M* : Standardized procedure for diverting loop ileostomy at a high-volume cancer center in Japan. 11th Congress of the Asian Society of Stoma Rehabilitation, 2019, (大阪), [シンポジウム].
- 016 *Ouchi A* : 11th Congress of the Asian Society of Stoma Rehabilitation, 2019, (大阪), [座長].
- 017 *Kawashima Y, Ito S, Morita S, Sano T, Takahari D, Kinoshita T, Terashima M, Nashimoto A, Yamagami H, Sasako M, Fukushima N, Yamada M, Fujiwara Y, Kimura Y, Ikeda A, Yamamura T,*

- Katayama H, Mizusawa J*: Long-term outcome of neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin and S-1 followed by para-aortic lymph node dissection for gastric cancer with extensive nodal metastasis (JCOG1002) (高度リンパ節転移胃癌に対する術前化学療法後膨大動脈リンパ節郭清). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [ビデオ].
- 018 *Ito Y, Kadowaki S, Narita Y, Masuishi T, Ito S, Misawa K, Higaki E, Ooshiro T, Natsume S, Kinoshita T, Senda Y, Abe T, Komori K, Muro K, Shimizu Y*: Clinical outcomes of intraperitoneal chemotherapy for gastric cancer with peritoneal metastasis (胃癌腹膜播種に対する腹腔内化学療法の治療成績). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [示説].
- 019 *Arigami T, Imano M, Uenosono Y, Ito S, Yabusaki H, Hirono Y, Ueda S, Matsumura T, Chiba Y, Chiba S, Ito Y, Matsuki A, Ishigami H, Kitayama J, Furukawa H*: Intraperitoneal paclitaxel plus S-1/paclitaxel for resectable gastric cancer with serosal invasion. (切除可能な漿膜浸潤を伴う胃癌に対する周術期化学療法 (TS-1, パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [口演].
- 020 *Suenaga Y, Misawa K, Ito Y, Ito S*: Diagnostic value and optimal indication of staging laparoscopy for advanced gastric cancer (進行胃癌に対する審査腹腔鏡の診断的意義と適応基準について). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [口演].
- 021 *Misawa K, An B, Ito Y, Ito S, Shimizu Y*: The surgical procedure and short-term outcome of robotic gastrectomy in the introduction period (ロボット支援胃切除術の導入期における手技の工夫と短期成績). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [ビデオ].
- 022 *Ito S, Sano T, Takahari D, Tsuburaya A, Terashima M, Sasako M*: Development of multi-disciplinary treatment for gastric cancer with extensive lymph node metastasis (高度リンパ節転移陽性胃癌に対する集学的治療開発). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [シンポジウム].
- 023 *Iizuka A, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kadera Y*: Proposal of a scoring scale to estimate risk for the discontinuation of S-1 adjuvant monotherapy (S-1術後化学療法の忍容性予測因子). 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [口演].
- 024 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 林 大介, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久: 切除不能膀胱癌に対する conversion surgery 「真の施行率」と成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [ワークショップ].
- 025 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 安 炳九, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博, 杉原健一: 下部進行直腸癌に対する TNM 分類の適応. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 026 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久: 脾手術と短期成績 脾頭十二指腸切除後の脾空腸吻合における嵌入法の有用性 (Usefulness of invagination technique for pancreaticojejunostomy after pancreaticoduodenectomy). 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [シンポジウム].
- 027 國友愛奈, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 夏目誠治, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 下部進行直腸癌の側方リンパ節再発症例の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 028 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 当院における80歳以上の高齢者膀胱癌症例の検討～手術と化学療法の比較～. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 029 小林大介, 石樽 清, 望月能成, 中山裕史, 阪井 満, 伊藤誠二, 小島 宏, 梶川真樹, 安藤昌彦, 小寺泰弘: 胃癌術後患者を対象とした Oral nutritional supplements の有効性に関する多施設共同臨床試験 (CCOG1301) 【Gastric Cancer】第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [アンコール発表].
- 030 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する側方郭清の適応と成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 031 安部哲也, 細井敬泰, 植村則久, 檜垣栄治, 安 炳九, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 胸部食道癌手術において, GFO (グルタミン+プレババイオティクス) 療法は術後早期の手術侵襲を軽減する. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [複数領域セッション].
- 032 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 細井敬泰, 安 炳九, 林 大介, 田中秀治, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 病理組織学的所見からみた腹膜転移巣完全切除 (根治度B) を施行した Stage IV 大腸癌の予後について. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 033 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 安 炳九, 細井敬泰, 國友愛奈, 内野大倫, 田中秀治, 林 大介, 重吉 到, 筒山将之, 大内 晶, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌根治切除後早期に発症する肺炎に対する治療戦略. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 034 内野大倫, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安



- 部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 清水泰博: 大腸癌肝肺転移症例に対する外科的切除の治療成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 035 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 檜垣榮治, 安柄九, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平: 食道癌手術における吻合部狭窄が術後栄養状態に与える影響. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 036 清水泰博: 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [座長].
- 037 植村則久, 安部哲也, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安柄九, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 80歳以上の高齢者食道癌に対する治療成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 038 安柄九, 安部哲也, 植村則久, 檜垣榮治, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 重吉到, 林 大介, 田中秀治, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 食道癌根治術後再発症例における予後予測因子についての検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 039 田中秀治, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣榮治, 清水泰博: 胃癌肝転移切除例の治療成績の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [示説].
- 040 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 檜垣榮治, 大城泰平, 植村則久, 木下敬史, 夏目誠治, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 開腹. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [ディベート].
- 041 中田浩二, 池田正視, 三澤一成, 川平 洋, 稲田高男, 並川 努, 寺島雅典, 高橋正純, 木南伸一, 吉田 昌, 上之園芳一, 小寺泰弘: PGSAS スタディからみた各胃切除術における至適な手術手技. 第118回日本外科学会定期学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 042 安柄九, 植村則久, 檜垣榮治, 細井敬泰, 國友愛奈, 内野大倫, 田中秀治, 林 大介, 重吉到, 筒山将之, 大内晶, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 左肺癌根治術と同時に左側アプローチ胸腔鏡下にて核出した食道神経鞘腫の1例. 第295回東海外科学会, 2018, (名古屋), [口演].
- 043 國友愛奈, 木下敬史, 大城泰平, 小森康司, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 植村則久, 檜垣榮治, 清水泰博: 肺癌小腸転移の1切除例. 第295回東海外科学会, 2018, (名古屋), [口演].
- 044 林 大介, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣榮治, 清水泰博: 胆嚢肝癌術後に発症した膵内遺残胆管癌の1例. 第295回東海外科学会, 2018, (名古屋), [口演].
- 045 内野大倫, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 大城泰平, 檜垣榮治, 清水泰博: 胃に限局した非閉塞性虚血性壊死の1例. 第295回東海外科学会, 2018, (名古屋), [口演].
- 046 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉到, 安柄九, 林 大介, 田中秀治, 内野大倫, 清水泰博: 同時性腹膜転移巣を完全切除した(根治度B)を施行したStage IV大腸癌の予後について-特に腹膜転移巣の病理組織学的所見から-. 第104回日本消化器病学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 047 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 大内晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉到, 安柄九, 林 大介, 田中秀治, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 大腸癌腹膜転移巣の病理組織学的所見から予後を層別化する. 第39回癌免疫外科研究会, 2018, (岐阜), [口演].
- 048 安部哲也: 第61回関西胸部外科学会学術集会, 2018, (名古屋), [座長].
- 049 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 檜垣榮治, 安柄九: 食道切除後の胃管再建におけるICG蛍光法による胃管血流評価の有用性. 第61回関西胸部外科学会学術集会, 2018, (名古屋), [パネルディスカッション].
- 050 中西速夫, 伊藤誠二, 服部正也: 血中循環細胞 (CTC) を明視野で検出できるCTC検出システムの開発とCTC細胞診. 第107回日本病理学会, 2018, (札幌), [口演].
- 051 清水泰博: 第49回日本膵臓学会大会, 2018, (和歌山), [座長].
- 052 清水泰博: 手術適応. 第49回日本膵臓学会, 2018, (和歌山), [パネルディスカッション].
- 053 清水泰博, 高橋進一郎, 外山博近, 森永聡一郎, 中森正二, 菱沼正一, 小林達伺, 池田公史, 上坂克彦: 術前S-1併用放射線療法によるBR膵癌の制御: J A S P C 05の解析結果より. 第49回日本膵臓学会, 2018, (和歌山), [口演].
- 054 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 原和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道: 動脈摂食膵癌 (BRA, URLA) の検討 早期再発と前治療期間との関係について. 第49回日本膵臓学会, 2018, (和歌山), [口演].
- 055 國友愛奈, 夏目誠治, 千田嘉毅, 原和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除後, 膵管チューブにおける膵液感染の臨床的意義. 第49回日本膵臓学会, 2018, (和歌山), [口演].
- 056 安部哲也, 植村則久, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安柄九: 3D内視鏡システムを用いた当科における胸腔鏡下食道切除術. 第72回日本食道学会学術集会, 2018, (宇都宮), [ビデオシンポジウム].
- 057 檜垣榮治, 細井敬泰, 安柄九, 植村則久, 安部哲也: 食道癌根治術後の早期炎症性合併症を術後の血中CRP値から予測する. 第72回日本食道学会学術集会, 2018, (宇都宮), [示説].

- 058 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 安 炳九: 胸部食道癌におけるCollard変法を用いた頸部食道胃管吻合の成績. 第72回日本食道学会学術集会, 2018, (宇都宮), [示説].
- 059 植村則久, 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 室圭, 田近正洋, 古平毅, 清水泰博: 当院におけるステージIV食道癌に対するコンバージョン手術の現状と治療成績. 第72回日本食道学会学術集会, 2018, (宇都宮), [パネルディスカッション].
- 060 三谷誠一郎, 門脇重憲, 外石俊樹, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 古平 毅, 安部哲也, 室 圭: 切除不能進行食道扁平上皮癌に対するmodified FOLFOX6療法の検討. 第72回日本食道学会学術集会, 2018, (宇都宮), [示説].
- 061 重吉 到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一: 胃粘膜下腫瘍に対するReduced port surgeryの工夫. 第31回日本小切開・鏡視外科学会, 2018, (広島), [シンポジウム].
- 062 小森康司: 第89回大腸癌研究会, 2018, (新潟), [座長].
- 063 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博: 肺癌小腸転移切除例の検討. 第89回大腸癌研究会, 2018, (新潟), [口演].
- 064 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久: 切除不能膵癌に対するconversion surgery真のconversion rateと治療成績. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [口演].
- 065 内野大倫, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 右側及び左側結腸癌の初回切除後および再発後の治療成績の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 066 安 炳九, 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 清水泰博: 食道癌に対する術前補助療法の臨床的治療効果と予後についての検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 067 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 胃癌内視鏡治療非治療切除後に経過観察となった症例に関する検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [口演].
- 068 重吉 到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 清水泰博: 当院における幽門保存胃切除症例の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 069 中田浩二, 池田 正, 高橋正純, 木南伸一, 上之園芳一, 三澤一成, 寺島雅典, 小寺泰弘: 腹腔鏡アプローチが幽門側胃切除 Billroth I 法再建後のQOLに及ぼす影響. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [口演].
- 070 清水泰博: 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [座長].
- 071 伊藤誠二: 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [座長].
- 072 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 腹腔内に限局した高度リンパ節転移陽性胃癌に対する初回治療としてS-1/CDDP療法を行った症例の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [パネルディスカッション].
- 073 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 多方向アプローチによるSMAに沿った腹腔鏡下結腸切除術. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 074 田中秀治, 夏目誠治, 千田嘉毅, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 胃癌肝転移に対する肝切除治療成績の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 075 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 重吉到, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下噴門側胃切除, 7cm間置空腸・残胃後壁吻合再建の手術と長期成績. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 076 円谷 彰, 吉川貴己, 伊藤誠二, 片山宏, 山田貴允, 寺島雅典: 高度リンパ節転移胃癌に対する術前化学療法と拡大郭清のリスクベネフィット. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [パネルディスカッション].
- 077 小森康司: 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [座長].
- 078 國友愛奈, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除後, 膵管チューブにおける膵液感染の臨床的意義. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 079 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 清水泰博: Soft pancreas. 主膵管非拡張症例に対する陥入法 (invagination technique) による簡便な膵腸吻合. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 080 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 清水泰博: 当院における80歳以上の高齢者膵癌症例の検討～手術と非手術療法の比較～. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 081 塩澤学, 瀧井康公, 小森康司, 大植雅之, 西村洋治, 池田聡, 水澤純基, 片山宏, 島田安博, 金光幸秀: 大腸癌切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験 (JCOG1006試験) の短期成績. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 082 小森康司, 木下敬史, 大城泰平 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 腹膜転移 (P1) 巣完全切除した根治度B, Stage IV大腸癌の予後～病理組織学的所見から層別化は可能か?～. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 083 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 下部進行直腸癌



- に対する手術～開腹手術の立場から～. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [パネルディスカッション].
- 084 大内 晶, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 横行結腸癌に対する腹腔鏡下中結腸動脈D3郭清の定型化. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [ビデオ].
- 085 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 安 炳九, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博: 食道癌根治術後にomega-3系脂肪酸を投与することは早期肺炎を減少させる. 第73回日本消化器外科学会総会, 2018, (鹿児島), [示説].
- 086 小澤英史, 吉田雅博, 林 卓馬, 安藤正志, 水野美香, 室圭, 清水泰博, 谷田部恭, 小森康司, 本多和典, 筑紫 聡: 進行性平滑筋肉腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演].
- 087 沼田佳久, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 腺癌および神経内分泌腫瘍成分を伴った成人仙尾部奇形腫の1例. 第50回愛知臨床外科学会, 2018, (名古屋市), [口演].
- 088 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 松井隆則, 廣田政志, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 胃上部癌に対する臍切開+2で行うReduced port total/proximal gastrectomy (RP-TG/PG). 7th Reduced Port Surgery Forum 2018 in Sapporo 第12回単孔式内視鏡手術研究会 第19回Needlescopic Surgery Meeting, 2018, (札幌), [ワークショップ].
- 089 清水泰博: 第45回日本瘻切研究会, 2018, (札幌), [座長].
- 090 清水泰博: 第69回日本消化器画像診断研究会, 2018, (金沢), [座長].
- 091 中西速夫, 筒山将之, 服部正也, 黒田浩章, 谷田部 恭, 伊藤誠二, 坂尾幸則, 岩田広治: 3Dフィルタ型CTC分離デバイスをを用いたCTC細胞診の試みと大腸, 肺, 乳がん血中循環癌細胞 (CTC) に関する臨床的検討 Pilot study on the CTC cytology for colon, lung and breast cancer patients using a 3D metal filter-based platform. 第77回日本癌学会学術集会, 2018, (大阪), [口演].
- 092 大島 貴, 吉川貴己, 森田智視, 宮城洋一, 田邊和照, 西川和宏, 伊藤友一, 青山 徹, 利野 靖, 益田宗孝, 坂本純一: 局所進行胃癌に対する術前補助化学療法の効果予測マーカー検索 COMPASS試験バイオマーカー研究 (Search for predictive biomarkers of response to neoadjuvant chemotherapy in locally advanced gastric cancer). 第77回日本癌学会学術集会, 2018, (大阪), [口演].
- 093 清水泰博: 第54回日本胆道学会学術集会, 2018, (千葉), [座長].
- 094 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 林 大介: 瘻頭十二指腸切除における肝管空腸吻合部狭窄発生率 連続吻合と結節吻合の比較. 第54回日本胆道学会学術集会, 2018, (千葉), [口演].
- 095 茶谷祥平, 女屋博昭, 出嶋育朗, 塚本裕一, 高橋大雄, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 稲葉吉隆, 大城泰平, 小森康司, 加藤省一, 谷田部 恭: 奇形腫由来の体細胞系悪性腫瘍を発症したCurrarino症候群疑いの1例. 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2018, (福岡), [口演].
- 096 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平: 切除不能膀胱癌に対するFOLFIRINOXとGem+nab-paclitaxelの比較 conversion surgery施行率の検討. 第13回膀胱癌術前治療研究会, 2018, (福岡), [シンポジウム].
- 097 沖 哲, 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 遊離空腸採取後の空腸-空腸吻合部を先進部とする腸重積の1例. 第296回東海海外科学会, 2018, (浜松), [口演].
- 098 前田真吾, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 当院における肺癌小腸転移切除例の検討. 第296回東海海外科学会, 2018, (浜松), [口演].
- 099 出井秀幸, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 糖原病に合併した肝細胞癌に対して肝切除を施行した1例. 第296回東海海外科学会, 2018, (浜松), [口演].
- 100 夏目誠治: 第296回東海海外科学会, 2018, (浜松), [座長].
- 101 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 同時性腹膜転移を有する大腸癌切除症例-病理組織学的所見から予後を層別化する-. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [示説].
- 102 渡 二郎, 三谷誠一郎, 戸澤勝之, 富田寿彦, 大島忠之, 福井広一, 門脇重憲, 夏目誠治, 千田嘉毅, 田近正洋, 原和生, 谷田部 恭, 清水泰博, 廣田誠一, 三輪洋人: 原発性非乳頭部十二指腸癌の臨床病理学的・分子病理学的検討. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [口演].
- 103 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 門脇重憲, 谷口浩也, 室 圭, 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正, 伊藤誠二, 小森康司, 清水泰博: 高度局所進行食道癌に対する導入DCF療法後手術療法の成績. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [シンポジウム].
- 104 小林大介, 石上浩徳, 藪崎裕, 大森 健, 小寺泰弘, 福島亮治, 今野元博, 有上貴明, 富田寿彦, 岸健太郎, 松村卓樹, 三澤一成, 廣野晴夫, 山口博紀, 北山丈二 (腹腔内化学療法研究会): 胃癌腹膜播種に対する全身化学療法と腹腔内化学療法および胃切除術による集学的治療. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [口演].
- 105 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅: 切除不能膀胱癌に対するconversion surgery施行率向上の可能性 新規抗癌剤導入前後の比較と手術成績. 第26回日本消化器関連学会会JDDW2018KOBE, 2018, (神戸), [パネルディスカッション].
- 106 大城泰平, 木下敬史, 大内 晶, 前田真吾, 沼田佳久, 小森康司: 手術治療の立場から見た側方領域の治療戦略.



- 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [シンポジウム].
- 107 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博: 当院における腹腔鏡下結腸~安全な切除・吻合のための工夫. 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 108 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 同時性腹膜転移を有する大腸癌切除症例(根治度B) - 転移巣の病理組織学的所見から予後層別化は可能か? - The prognosis of colorectal cancers with peritoneal metastasis from pathological findings. 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [パネルディスカッション].
- 109 沼田佳久, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博: 下部直腸癌に対するISRの治療成績と適応. 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 110 前田真吾, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 小森康司: 当院における一時的回腸人工肛門造設の工夫と成績. 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 111 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 内野大倫, 沖哲, 前田真吾, 沼田佳久: 当科での若年発症大腸癌に対する遺伝性大腸癌サーベイランスの現状. 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [ワークショップ].
- 112 塩田規帆, 佐藤美信, 船橋公彦, 小森康司, 花井恒一, 舛森宏次, 松岡 宏, 勝野秀稔, 遠藤智美, 水野真広, 鄭榮哲, 前田耕太郎, 宇山一朗: ストーマ合併症の発生率とリスク因子に関する多施設共同研究. 第73回日本大腸肛門病学会学術集会, 2018, (東京), [口演].
- 113 三澤一成: 第27回日本コンピューター外科学会大会, 2018, (奈良), [座長].
- 114 鉄村悠介, 林 雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: CT像より自動抽出された動脈領域に対応した機械学習に基づく腹部動脈血管名自動命名法. 第27回日本コンピューター外科学会大会, 2018, (奈良), [口演].
- 115 蔣 師, 林 雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡把持ロボットのための自動ハンドアイキャリブレーションの検討. 第27回日本コンピューター外科学会大会, 2018, (奈良), [口演].
- 116 林 雄一郎, 杉野貴明, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: ディープラーニングを用いた腹腔鏡映像からの腹腔鏡下胃切除術の手術工程解析の検討. 第27回日本コンピューター外科学会大会, 2018, (奈良), [口演].
- 117 小澤卓也, 小田紘久, 伊東隼人, 北坂孝幸, *Holger R. Roth*, 小田昌宏, 林雄一郎, 三澤一成, 伊藤雅昭, 竹下修由, 森 健策: U-Netを用いた腹腔鏡動画像における出血領域検出に関する検討. 第27回日本コンピューター外科学会大会, 2018, (奈良), [口演].
- 118 國友愛奈, 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 膈膜上憩室部に発生し横隔膜肺肝合併切除を要した進行食道癌の1切除例. 日本消化器病学会東海支部第129回例会, 2018, (名古屋), [口演].
- 119 高野 仁, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 異所性胃粘膜を背景に発生した十二指腸癌の1切除例. 日本消化器病学会東海支部第129回例会, 2018, (名古屋), [口演].
- 120 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 前田真吾, 沼田佳久, 清水泰博: TaTMEの手術手技と短期成績. 日本消化器病学会東海支部第129回例会, 2018, (名古屋), [口演].
- 121 内野大倫, 千田嘉毅, 夏目誠治, 林 大介, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 十二指腸乳頭部癌に対して膵頭十二指腸切除術後に残膵癌を発症した1例. 日本消化器病学会東海支部第129回例会, 2018, (名古屋), [口演].
- 122 清水泰博: 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [座長].
- 123 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治: 切除不能膵癌に対する1次治療著効例に対するconversion surgeryの意義. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [ワークショップ].
- 124 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 林 大介: Soft pancreas, 膵管非拡張症例に対する陥入法による膵腸吻合. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [ビデオワークショップ].
- 125 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 右側結腸癌に対するD3郭清. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [シンポジウム].
- 126 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 前田真吾, 沼田佳久, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する両側側方郭清+オキサリプラチンレジメンによる補助化学療法の治療成績. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [シンポジウム].
- 127 伊藤誠二: 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [座長].
- 128 安部哲也: 胸部食道がん術後疼痛管理にアセトアミノフェン静注液を使う理由とは?. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [学術セミナー].
- 129 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 胃癌取扱い規約第15版によるステージ分類についての検討. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].

- 130 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 清水泰博: がん専門病院における直腸切除術後の難治性直腸腔瘻の治療戦略. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 131 大内 晶, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: デバイスを適切に使い分ける安全かつ確実な開腹側方郭清. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [ビデオ].
- 132 沼田佳久, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 根治切除不能大腸癌に対する原発原発巣切除後の予後因子の検討. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 133 國友愛奈, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 臍頭十二指腸切除後, 臍管チューブにおける臍液感染の臨床的意義. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 134 高野 仁, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 臍腫瘍と鑑別に苦慮した胃癌術後遅発性再発の1切除例. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 135 小森康司: 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [座長].
- 136 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 当院における80歳以上の高齢者切除可能臍癌症例の検討. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 137 出井秀幸, 夏目誠二, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 大腸癌同時性両葉多発肝転移に対するconversion surgery～肝切除により得られるChemo-Vacation 期間～. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 138 前田真吾, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 当院における一時的回腸人工肛門造設の工夫と成績. 第80回日本臨床外科学会総会, 2018, (東京), [口演].
- 139 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 細井敬泰, 安 炳九, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌根治術後の早期免疫栄養剤投与は炎症性合併症を抑制する. 第31回日本外科感染症学会総会, 2018, (大阪), [口演].
- 140 三澤一成: 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [座長].
- 141 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 細井敬泰, 國友愛奈, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 胸腔鏡下食道亜全摘術における腹腔鏡補助下胃管作成の有用性の検討～開腹胃管作成との比較～. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 142 三澤一成, 林 雄一郎, 森 健策, 伊藤友一, 伊藤誠二, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 術前CT, 3次元位置センサを用いた腹腔鏡下胃切除術ポート位置決定ナビテーションシステムの開発. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 143 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下胃切除術における術中合併症と対処法. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 144 大内 晶, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 下行結腸癌に対する腹腔鏡下全結腸間膜切除(CME)+D3郭清. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 145 沖 哲, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 当科における腹腔鏡下大腸手術での創感染対策の工夫. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 146 前田真吾, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 腹腔鏡下手術における中結腸動脈領域のD3郭清の工夫. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 147 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 高齢者食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の検討. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 148 内野大倫, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 下部直腸癌に対する腹腔鏡下ISR. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 149 國友愛奈, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治: 鏡視下手術用ガーゼを用いた腹腔鏡下直腸切除術における術野展開の工夫. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 150 安部哲也: 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [座長].
- 151 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における微細縦隔解剖に基づく反回神経麻痺の少ない上縦隔郭清. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].

- [口演].
- 152 植村則久, 安部哲也, 檜垣榮治, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 胸腔鏡下食道切除術における左反回神経損傷ヒヤリハット症例. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 153 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 腹腔鏡下直腸癌手術における骨盤内出血偶発症への対応. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [ワークショップ].
- 154 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 清水泰博: 腹腔鏡下直腸切除術におけるエネルギーデバイスの選択. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 2018, (福岡), [口演].
- 155 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 清水泰博: 膿瘍形成性進行直腸癌に対する治療戦略. 第90回大腸癌研究会, 2019, (京都), [示説].
- 156 鳥山和浩, 大内 晶, 大西祥代, 平山 裕, 田中 努, 大城泰平, 木下敬史, 小森康司, 田近正洋, 丹羽康正: 当院におけるT1直腸癌に対する臨床病理学的検討. 第90回大腸癌研究会, 2019, (京都), [示説].
- 157 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安炳九, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 直腸切除術後の難治性直腸膿瘍の治療戦略. 第15回日本消化管学会総会学術集会, 2019, (佐賀), [口演].
- 158 大内 晶, 鳥山和浩, 大城泰平, 木下敬史, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 小森康司, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正: T1結腸癌における腫瘍の局在 (sidedness) の意義. 第15回日本消化管学会総会, 2019, (佐賀), [口演].
- 159 末永泰人, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 檜垣榮治, 細井敬泰, 奥野正隆, 清水泰博: 腹腔鏡下幽門側胃切除術後1年で発生した胃十二指腸動脈仮性動脈瘤出血の一例. 第51回愛知臨床外科学会, 2019, (名古屋), [口演].
- 160 高野 仁, 千田嘉毅, 夏目誠治, 奥野正隆, 林 大介, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 細井敬泰, 檜垣榮治, 大内 晶, 安 炳九, 内野大倫, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 出井秀幸, 沼田佳久, 原 和生, 清水泰博: 臍IPMN経過観察中に発生した臍尾部癌の1例. 第51回愛知臨床外科学会, 2019, (名古屋), [口演].
- 161 奥野正隆: 第51回愛知臨床外科学会, 2019, (名古屋), [座長].
- 162 出井秀幸, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 奥野正隆, 細井敬泰, 安 炳九, 大内 晶, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 高野 仁, 前田真吾, 沼田佳久, 清水泰博: 会陰部類上皮肉腫切除後, 骨盤内リンパ節再発の1例. 第51回愛知臨床外科学会, 2019, (名古屋), [口演].
- 163 小森康司: 難治性直腸膿瘍におけるカバーリングストーマの意義について. 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [パネルディスカッション].
- 164 國友愛奈, 大内 晶, 木下敬史, 大城泰平, 前田真吾, 沼田佳久, 小島 瞳, 佐々木照美, 安形真由美, 小森康司: 当科のcovering ileostomyに伴う合併症の検討 (回腸人工肛門は安全である). 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [パネルディスカッション].
- 165 沼田佳久, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 前田真吾, 小島 瞳, 佐々木照美, 安形真由美: 高齢者における一時的回腸人工肛門造設術後合併症の検討. 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [口演].
- 166 前田真吾, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 小島 瞳, 佐々木照美, 安形真由美: 当院における一時的回腸人工肛門造設・閉鎖の工夫と成績. 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [ビデオシンポジウム].
- 167 西川敬子, 安形真由美, 小島 瞳, 佐々木照美, 小森康司: ダブルストーマ造設後, 腹壁の変化に伴い管理困難を生じた後腹膜腫瘍症例. 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [示説].
- 168 小森康司: 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [座長].
- 169 柴田佳久, 前田耕太郎, 小森康司: 愛知県における広域災害ネットワークの構築・基幹病院担当者-地域における行政との関係構築. 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019, (大阪), [口演].
- 170 伊藤誠二: 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [座長].
- 171 伊藤誠二: 第91回日本胃癌学会総会, 2019, (沼津), [パネルディスカッション].
- 172 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安 炳九, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後, 回腸導管壊死をきたした1例. 第55回日本腹部救急医学会総会, 2019, (仙台), [口演].

## 整形外科部

- 001 *Tsukushi S, Hayashi T, Kozawa E, Yoshida M*: Endoprosthetic reconstruction for metastatic bone disease of the proximal femur: Intentional intralesional procedure. 12th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society (APMSTS) Meeting (APMSTS2018), 2018, (Jaipur),



- [口演]
- 002 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 林 卓馬: 大腿骨近位転移性骨腫瘍に対する腫瘍用人工骨置換術. 中部日本整形外科学会災害外科学会, 2018, (松山), [口演]
- 003 吉田雅博, 筑紫 聡, 小澤英史, 林 卓馬: 乳腺発生血管肉腫の診断と治療についての検討. 中部日本整形外科学会災害外科学会, 2018, (松山), [口演]
- 004 林 卓馬, 小澤英史, 吉田雅博, 筑紫 聡: 当院における単径部軟部腫瘍症例の検討. 中部日本整形外科学会災害外科学会, 2018, (松山), [口演]
- 005 小澤英史, 筑紫 聡, 吉田雅博, 林 卓馬, 山田芳久, 杉浦英志: 橈骨に発生した骨膜性軟骨肉腫の1症例. 中部日本整形外科学会災害外科学会, 2018, (松山), [ポスター]
- 006 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 林 卓馬: 初診時原発不明癌骨転移の臨床病理学的検討. 第91回日本整形外科学会学術総会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 007 林 卓馬, 筑紫 聡, 坂倉範昭, 小澤英史, 吉田雅博, 石村大輔, 山田治基: 胸壁合併切除を要したがん患者の術後成績の検討. 第91回日本整形外科学会学術総会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 008 大田剛広, 西田佳弘, 筑紫 聡, 山田芳久, 山田健志, 浦川 浩, 新井英介, 生田国大, 濱田俊介, 石黒直樹: 再発性骨巨細胞腫症例の検討. 第91回日本整形外科学会学術総会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 009 濱田俊介: 腎癌両側上腕骨病的骨折症例報告. 第10回自由ヶ丘整形医会, 2018, (名古屋), [口演]
- 010 藤原那沙: 骨頸部病的骨折症例報告. 第10回自由ヶ丘整形医会, 2018 (名古屋), [口演]
- 011 永野昭仁, 松本誠一, 川井 章, 大隈知威, 平賀博明, 松本嘉寛, 西田佳弘, 米本 司, 保坂正美, 高橋 満, 吉川秀樹, 尾崎敏文, 浅沼邦洋, 中 紀文, 江森誠人, 久保忠彦, 川島寛之, 河本旭哉, 横山良平, 筑紫 聡: 中高年齢者原発性悪性骨腫瘍に対する補助化学療法への検討—JCOG骨軟部腫瘍グループアンケート結果より—. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 012 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 林 卓馬, 西田佳弘: 悪性骨・軟部腫瘍の患肢温存手術-困難症例に対する基本手術戦略. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 013 生田国大, 西田佳弘, 杉浦英志, 筑紫 聡, 山田健志, 山田芳久, 浦川 浩, 新井英介, 濱田俊介, 大田剛広, 石黒直樹: 加温処理骨を用いた骨軟部腫瘍切除再建の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 014 吉田雅博, 筑紫 聡, 小澤英史, 林 卓馬: 頭頸部癌の骨転移における治療成績. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 015 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 亀井 讓, 筑紫 聡, 吉田雅博: 当院における骨・軟部腫瘍広範切除後の再建. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 016 生田国大, 西田佳弘, 杉浦英志, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 濱田俊介, 大田剛広, 石黒直樹: 悪性末梢神経鞘腫瘍における不適切切除症例の検討. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [ポスター]
- 017 林 卓馬, 小澤英史, 吉田雅博, 筑紫 聡: 当院におけるサルコーマセンター開設前後の患者受診行動の変化についての検討. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [ポスター]
- 018 小澤英史, 吉田雅博, 林 卓馬, 安藤正志, 水野美香, 室圭, 清水泰博, 谷田部 恭, 小森康司, 本多和典, 筑紫聡: 進行性平滑筋肉腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2018, (静岡), [口演]
- 019 生田国大, 西田佳弘, 杉浦英志, 筑紫 聡, 山田健志, 山田芳久, 浦川 浩, 新井英介, 濱田俊介, 大田剛広, 石黒直樹: 加温処理骨を用いた骨・軟部腫瘍切除再建の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, (静岡), [口演]
- 020 生田国大, 大田剛広, 山田芳久, 筑紫 聡, 中島浩敦, 山田健志, 浦川 浩, 新井英介, 濱田俊介, 石黒直樹, 西田佳弘: 骨形成促進のための整形外科バイオマテリアル  $\beta$ -TCP配向連通多孔体を用いた骨腫瘍切除後欠損部再建の臨床成績—多施設共同前向き研究. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 2018, (奈良), [シンポジウム]
- 021 藤原那沙: 大腿骨近位転移性骨腫瘍に対しCHS固定術後に腫瘍用人工骨置換を要した一例. 第65回東海整形外科学外傷研究会, 2018, (名古屋), [口演]
- 022 中島浩敦, 高津哲郎, 筑紫 聡: 前立腺癌の放射線治療後に発生した骨盤部放射線誘発性肉腫の治療経験. 第131回中部日本整形外科学会災害外科学会学術集会, 2018, (倉敷), [口演]
- 023 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 安藤正志, 本多和典: 日常診療における進行肉腫に対するパゾパニブの治療成績. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [口演]
- 024 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 各科におけるデスマイド型線維腫瘍症に対する治療実態. 第56回日本癌治療学会学術集会, 2018, (横浜), [口演]
- 025 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙: 胸壁骨巨細胞腫の治療方法の検討. 第40回骨軟部腫瘍治療法検討会, 2018, (名古屋), [口演]
- 026 吉田雅博: 転移性骨腫瘍に対するリハビリテーションの有効性と課題. 第76回八事整形会, 2018, (名古屋), [口演]
- 027 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 安藤正志, 本多和典, 曾我倫久人: 日常診療における進行肉腫に対するパゾパニブの治療成績. 第2回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2019, (東京), [ポスター]
- 028 杉浦英史, 西田佳弘, 筑紫 聡, 吉田雅博, 山田健志, 小澤英史: 初回広範切除後の局所再発に対する手術治療後の予後因子について. 第2回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2019, (東京), [ポスター]

## リハビリテーション部

- 001 中嶋誠也, 吉田雅博, 山崎康司, 清水泰博: 当院における下部消化器癌患者の周術期呼吸リハビリテーションの有効性. 第8回日本がんリハビリテーション研究会, 2018, (北海道), [口演]
- 002 山崎康司, 吉田雅博, 中嶋誠也, 清水泰博: 75歳以上消化器がん患者の握力と身体機能の関係. 第8回日本がんリハビリテーション研究会, 2018, (北海道), [口演]
- 003 伊藤敬太, 吉田雅博, 前田明弘, 高津 淳, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安部哲也: 食道がん周術期管理～当院の現状と課題～. 第8回日本がんリハビリテーション研究会, 2018, (北海道), [口演]
- 004 南島翔太, 吉田雅博, 宮谷美智子: がん患者における不安傾向と作業療法アプローチの可能性. 第8回日本がんリハビリテーション研究会, 2018, (北海道), [口演]
- 005 前田明弘, 吉田雅博, 伊藤敬太, 灰本章一: 転移性脊椎腫瘍患者の術後歩行機能についての検討. 第8回日本がんリハビリテーション研究会, 2018, (北海道), [口演]
- 006 高津 淳, 青山寿昭, 山本正彦, 吉田雅博, 安部哲也: 食道癌術後の嚥下障害増悪因子に関する検討. 第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2018, (宮城県), [ポスター]
- 007 吉田雅博, 杉浦英志: 食道癌術期管理におけるリハビリテーションの役割. 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2018, (仙台), [口演]
- 008 吉田雅博, 杉浦英志: がんのリハビリテーションを行った骨転移症例の転帰について. 第55回日本リハビリテーション医学会, 2018, (福岡), [口演]

## 泌尿器科部

- 001 Soga N, Furusawa J, Wakita T, Ogura Y: The impact of high GP score (Gleason score X PSA level) in pre-and post operative Gleason score for biochemical failure after prostatectomy for prostate cancer, 16th Urological Association of Asia (UAA) Congress, 2018, (Kyoto), [ポスター]
- 002 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二, 景山拓海: 投与前テストステロン値により, 前立腺がんでのエンザルタミド治療効果が予測できる. 第56回日本癌治療学会, 2018, (横浜), [口演]
- 003 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二, 脇田利明: 術前後の Gleason score からなる, 高 GP score は, 前立腺全摘除後の生化学的再発を有意に予測する因子である. 第68回日本泌尿器科学会中部総会, 2018, (名古屋), [ポスター]
- 004 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: ロボット補助下腎部分切除での, ICG 近赤外蛍光による腫瘍部位と正常部位の蛍光量比較. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 2018, (仙台), [ポスター]

- 005 小倉友二, 古澤 淳, 曾我倫久人: 前立腺肥大症に対する経尿道的手術施行後にロボット支援前立腺全摘除術を施行した4例. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 2018, (仙台), [ポスター]
- 006 曾我倫久人, 景山拓海, 古澤 淳, 小倉友二: 2018年度, 愛知県がんセンター中央病院の手術統計. 第64回三重泌尿器科医会, 2019, (津), [口演]
- 007 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: 高BMI, cT1b腎がんに対するRAPN施行後, 腹壁ヘルニアが発症した1例. The 10th Tokai Robotic Urology Symposium, 2019, (名古屋), [口演]

## 婦人科部

- 001 Mizuno Mika: New minimally invasive treatment of cervical intraepithelial Neoplasia: A clinical trial of Photodynamic therapy using 5-Aminolevulinic acid. 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS2018), 2018, (Kyoto), [Workshop]
- 002 Masahiko Mori, Hirofumi Tsubouchi, Jun Sakata, Mika Mizuno: The impact of history of tamoxifen therapy in patients with endometrial cancer. 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS2018), 2018, (Kyoto), [Poster]
- 003 Hirofumi Tsubouchi, Jun Sakata, Masahiko Mori, Mika Mizuno: The analgesia of regular administration of intravenous acetaminophen after surgery for gynecological malignancy. 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS2018), 2018, (Kyoto), [Poster]
- 004 水野美香: ひと卵黄嚢腫瘍細胞株を用いた癌幹細胞様細胞に対するALA-PDTの有効性検討. 第8回ポルフィリンALA学会, 2018, (東京), [口演]
- 005 坪内寛文, 水野美香, 近藤紳司, 森 正彦, 服部諭美: 進行・再発子宮頸部小細胞癌に対してBevacizumabを使用した15例の検討. 第70回日本産科婦人科学会学術講演会, 2018, (仙台), [ポスター]
- 006 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 水野美香: 進行・再発子宮頸癌に対してBevacizumabを使用した3例. 第107回愛知産科婦人科学会学術講演会, 2018, (名古屋), [口演]
- 007 竹下 奨, 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 水野美香: 肺癌子宮転移の1例. 第59回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2018, (札幌), [口演]
- 008 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 水野美香: 腹腔鏡下子宮体癌術後の発生したポートサイトヘルニアの一例. 第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2018, (島根), [口演]
- 009 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 水野美香: 頸部細胞診AGC判定により分葉状頸管性過形成の診断に苦慮した一例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 2018, (横浜), [ポスター]

- 010 水野美香：子宮頸がん 初期がん・早期がんの治療法. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 2018, (横浜), [市民公開講座]
- 011 坪内寛文：当院での遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するリスク低減卵管卵巣摘出術の取り組み. 第6回遺伝性腫瘍研究会, 2019, (岐阜), [口演]

## 脳神経外科部

- 001 灰本章一：脊椎転移に対する集学的治療. 第10回自由ヶ丘整形医会, 2018, (名古屋), [講演]
- 002 灰本章一, 西村由介, 服部和良, *Ginsberg Howard*：脊椎後方固定術におけるバンコマイシン筋膜上散布によるSSI予防. 第33回日本脊髄外科学会, 2018, (奈良), [口頭]
- 003 灰本章一, 服部和良, *Ginsberg Howard*：不安定胸腰椎移行部外傷に対する後方固定術の術後アライメント. 第33回日本脊髄外科学会, 2018, (奈良), [ポスター]
- 004 灰本章一, 田中 寛, 服部和良：放射線通常照射後に再発し圧迫骨折を伴った胸腰椎転移の2例. 第61回中部脊髄ワークショップ, 2018, (名古屋), [口頭]
- 005 灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 安藤 遼, 服部和良：がん脊椎転移に対する集学的治療. 第2回Nagoya Neurospine Knowledge Forum, 2018, (名古屋), [講演]
- 006 灰本章一, 田中 寛, 佐藤洋造, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 安藤 遼, 服部和良：がん脊椎転移に対する集学的治療 - 脊髄麻痺予防に向けた取り組み -. 日本脳神経外科第77回学術総会, 2018, (仙台), [ポスター]
- 007 灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 安藤 遼, 服部和良：高度脊髄圧迫 (ESCC scale 3) を呈する胸椎転移の臨床的検討と手術成績. 第53回日本脊髄障害医学会, 2018, (名古屋), [ポスター]
- 008 灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 安藤 遼, 服部和良：放射線通常照射後再発性脊椎転移に対する治療. 第53回日本脊髄障害医学会, 2018, (名古屋), [ポスター]

## 放射線診断 I V R 部

- 001 *Sato Y, Inaba Y*：Imaging and percutaneous intervention of ureteral complication in cancer patients. Genitourinary Imaging and Intervention, The 5<sup>th</sup> International Forum 2018, (Ulaanbaatar Mongolia), [Oral presentation]
- 002 *Sato Y*：Uroradiology and IR session. Genitourinary Imaging and Intervention, The 5<sup>th</sup> International Forum 2018, (Ulaanbaatar Mongolia), [Chairman]
- 003 *Inaba Y*：Vascular Intervention; Transarterial treatment for unresectable colorectal liver metastasis. The Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2018, (Yokohama Japan), [Oral presentation]

- 004 *Sato Y*：Non-vascular intervention management. The 47<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology and The 13<sup>th</sup> International Symposium of Interventional Radiology 2018, (Tokyo Japan), [Oral presentation]
- 005 *Inaba Y*：Tips & Tricks of using central venous access ports in various cases. The 47<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology and The 13<sup>th</sup> International Symposium of Interventional Radiology 2018, (Tokyo Japan), [Chairman]
- 006 *Sato Y, Inaba Y, Aramaki T, Sone M, Arai Y, Morita Y, Nishiofuku H, Tanaka T, Matsueda K, Miyazaki M*：Hepatic arterial infusion chemotherapy in patients with liver metastases from colorectal cancer. The 47<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology and The 13<sup>th</sup> International Symposium of Interventional Radiology 2018, (Tokyo Japan), [Oral presentation]
- 007 *Hasegawa T, Kuroda H, Sakata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Murata S, Imai Y, Kato M, Sakakura N, Mizuno T, Arimura T, Sakao Y*：The utility of mixture of indigo carmin and lipiodol for preoperative pulmonary nodule localization. The 47<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology and The 13<sup>th</sup> International Symposium of Interventional Radiology 2018, (Tokyo Japan), [Oral presentation]
- 008 *Murata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Hasegawa T, Imai Y, Kimura K, Dejima I*：Long tube insertion via PTEG route for patients with malignant bowel obstruction. The 47<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology and The 13<sup>th</sup> International Symposium of Interventional Radiology 2018, (Tokyo Japan), [Oral presentation]
- 009 *Takahashi M, Sato Y, Inaba Y, Murata S, Dejima I, Hasegawa T, Chatani S, Tsukamoto H, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Hara K, Okuno N*：Massive hemobilia caused by portal vein pseudoaneurysm with porto-biliary fistula; successful treatment by stentgraft placement in portal vein. The 12<sup>th</sup> Annual Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention 2018, (Nanjing China), [Oral presentation]
- 010 *Sato Y, Murata S, Hasegawa T, Onaya H, Yamaura H, Kato M, Dejima I, Takahashi M, Chatani S, Tsukamoto H, Inaba Y*：transarterial chemoembolization using cisplatin-loaded hepasphere for patients with unresectable hepatocellular carcinoma. Global Embolization Symposium and Technologies 2018, (Hong Kong), [Oral presentation]
- 011 *Chatani S, Sato Y, Haimoto S, Murata S, Hasegawa T, Dejima I, Takahashi M, Tsukamoto H, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Hattori K, Inaba Y*：Preoperative transcatheter arterial embolization for metastatic



- spinal cord compression. Global Embolization Symposium and Technologies 2018, (Hong Kong), [Oral presentation]
- 012 **Sato Y**: Image Guided Biopsy Drug Eluting Bead-TACE Percutaneous Gastrostomy, My worst nightmare case transarterial chemoembolization for HCC. The 4th Vascular Interventional Radiology with APSCVIR and Myanmar Radiology Society 2019, (Yangon Myanmar), [Oral presentation]
- 013 **Matsushima S, Murata S, Sato Y, Onaya H, Yamaura H, Kato M, Hasegawa T, Kinoshita Y, Inaba Y**: The relative tumor enhancement based on tumor heterogeneity for prediction of response to bevacizumab-containing treatment in liver metastases of colorectal cancer. European Congress of Radiology 2019, (Vienna Austria), [Poster]
- 014 **女屋博昭, 小林秀章, 里見介史, 平岡伸介, 荒井保明, 楠本昌彦, 加藤雅志, 若尾文彦**: がん診療画像レファレンスデータベース・モバイル端末対応と現況. 第77回日本医学放射線学会, 2018, (横浜), [ポスター]
- 015 **浅井 翼, 服部寿史, 松島 秀, 米澤祐司, 安部忠臣, 岩政裕昭, 稲葉吉隆**: 血管塞栓術における parametric imaging の有用性. 第74回日本放射線技術学会, 2018, (横浜), [口演]
- 016 **浅井 翼, 服部寿史, 松島 秀, 米澤祐司, 安部忠臣, 岩政裕昭, 稲葉吉隆**: 血管塞栓術における parametric imaging の有用性. 第47回日本IVR学会, 2018, (東京), [ポスター]
- 017 **佐藤洋造**: EGFR陽性非小細胞肺癌の再生検の重要性一次の治療に繋げるために. 第4回日本穿刺ドレナージ研究会, 2018, (大阪), [口演]
- 018 **佐藤洋造, 稲葉吉隆, 新橋 剛, 曾根美雪, 荒井保明, 森田吉多佳, 西尾福英之, 田中利洋, 松枝 清, 宮崎将也**: 全身化学療法不応後の切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法の実態調査. 第40回日本癌局所療法研究会, 2018, (東京), [口演]
- 019 **稲葉吉隆**: 肝細胞癌治療の新しい選択肢 レンビマについて. 第35回日本胆膵病態・生理研究会, 2018, (名古屋), [講演]
- 020 **佐藤洋造, 西尾福英之, 保本 卓, 中塚豊真, 松尾国弘, 児玉芳尚, 大久保裕直, 阿保大介, 高木治行, 稲葉吉隆, 山門享一郎**: BCLC stage Cを対象としたソラフェニブと肝動脈化学塞栓療法の併用療法の第2相試験 (STAB study). 第54回日本肝癌研究会, 2018, (久留米), [口演]
- 021 **村田慎一, 松島 秀, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 稲葉吉隆**: EOB-MRIを用いた大腸癌肝転移に対する初期治療効果予測. 第54回日本肝癌研究会, 2018, (久留米), [口演]
- 022 **茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 木村佳奈子, 出嶋育朗, 高橋大雄, 塚本裕一, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 腸骨動脈尿管瘻に対してカバードステントを留置した3例. 第64回中部IVR研究会, 2018, (岐阜), [口演]
- 023 **佐藤洋造, 村田慎一, 出嶋育朗, 木村佳奈子, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 膝頭十二指腸切除術後の総肝動脈瘤に対してバイアバーンを留置した1例. 第64回中部IVR研究会, 2018, (岐阜), [口演]
- 024 **村田慎一, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 木村佳奈子, 出嶋育朗, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 古田裕美, 樋田豊明, 谷田部 恭**: 肺癌における画像誘導下経皮的生検の有用性についての検討. 第64回中部IVR研究会, 2018, (岐阜), [口演]
- 025 **村田慎一, 松島 秀, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 木村佳奈子, 出嶋育朗, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 室 圭**: EOB-MRIを用いた大腸癌肝転移に対する初期治療効果予測. 第164回日本放射線学会中部地方会, 2018, (岐阜), [口演]
- 026 **古谷雄一郎**: SPECT核種に対する防護衣の遮蔽能力評価. 第185回日本核医学技術学会東海地方会, 2018, (名古屋), [口演]
- 027 **稲葉吉隆**: 治療困難症例に対する各施設の工夫. 第23回肝動脈塞栓療法研究会, 2018, (東京), [座長]
- 028 **稲葉吉隆, 長谷川貴章, 佐藤洋造, 村田慎一, 茶谷祥平, 高橋大雄, 出嶋育朗, 山浦秀和**: 膝頭部仮性動脈瘤の1例. 第68回東海IVR懇話会, 2018, (名古屋), [口演]
- 029 **稲葉吉隆, 茶谷祥平, 長谷川貴章, 佐藤洋造, 村田慎一, 高橋大雄, 出嶋育朗, 山浦秀和**: 塞栓術を施行した解離性脾動脈瘤の1例. 第68回東海IVR懇話会, 2018, (名古屋), [口演]
- 030 **稲葉吉隆**: がん診療におけるIVR. 第18回IVR技術交流会, 2018, (東京), [特別講演]
- 031 **稲葉吉隆**: 肝動注リザーバー療法に関するガイドライン作成プロジェクト報告. 第43回リザーバー研究会, 2018, (前橋), [座長]
- 032 **稲葉吉隆**: 肝動注リザーバーの現況について. 第43回リザーバー研究会, 2018, (前橋), [講演]
- 033 **稲葉吉隆**: 臨床から考えるCVポートのリスクマネジメント. 第43回リザーバー研究会, 2018, (前橋), [座長]
- 034 **佐藤洋造, 村田慎一, 稲葉吉隆, 出嶋育朗, 木村佳奈子, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭**: Child-Pugh Aの進行肝細胞癌 (BCLC stage C) に対する low dose FP療法の治療成績. 第43回リザーバー研究会, 2018, (前橋), [口演]
- 035 **Matsushima S, Murata S, Sato Y, Ogura H, Kimura M, Inaba Y**: Prediction of response to bevacizumab-containing treatment in liver metastases of colorectal cancer using the relative tumor enhancement. 第46回日本磁気共鳴医学会, 2018, (金沢), [ポスター]
- 036 **高橋大雄, 長谷川貴章, 佐藤洋造, 村田慎一, 木村佳奈子, 茶谷祥平, 塚本裕一, 出嶋育朗, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: CVポートへの圧力によりセプトラム破損を生じた一例. 第43回リザーバー研究会, 2018, (群馬), [口演]

- 037 長谷川貴章, 佐藤洋造, 黒田浩章, 板倉範昭, 女屋博昭, 山浦秀和, 加藤弥菜, 村田慎一, 出嶋育朗, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 稲葉吉隆: 多発肺病変に対し外科切除と経皮的ラジオ焼灼術を組み合わせる治療戦略についての後方視的検討. 第19回RFA・凍結療法研究会, 2018, (東京), [口演]
- 038 佐藤洋造: 一般演題 セッション3 肺・その他2. 第19回RFA・凍結療法研究会, 2018, (東京), [座長]
- 039 岩政裕昭, 安部忠臣, 古谷勇一郎, 浅井 翼, 服部寿史, 松島 秀: I V Rで使用するオーバーチューブ型X線TV装置での線量および画質の評価. 第34回日本診療放射線技師学会, 2018, (山口), [口演]
- 040 Chatani S, Onaya H, Kato S, Oshiro T, Dejima I, Tsukamoto H, Takahashi M, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Yamaura H, Komori K, Yatabe Y, Inaba Y: A case of the somatic-type malignant tumor arising from presacral teratoma associated with Currarino syndrome. 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2018, (福岡), [ポスター]
- 041 佐藤洋造: 骨軟部腫瘍診療におけるIVRの役割. 第8回名古屋運動器腫瘍セミナー, 2018, (名古屋), [講演]
- 042 茶谷祥平, 佐藤洋造, 灰本章一, 村田慎一, 長谷川貴章, 塚本裕一, 出嶋育朗, 高橋大雄, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 転移性脊椎腫瘍への除圧術に対する術前TAEの検討. 第8回緩和IVR研究会, 2018, (奈良), [口演]
- 043 中村早紀, 浅井 翼, 岩間功訓, 松島 秀: 新しいアルゴリズムを使用したピッチ可変型スキャンの物理特性. 第11回中部放射線医療技術学会, 2018, (富山), [口演]
- 044 木村昌裕, 岩間功訓, 浅井 翼: MPR画像に使用する異方性を考慮した鮮鋭化フィルタの考案. 第11回中部放射線医療技術学会, 2018, (富山), [口演]
- 045 稲葉吉隆: TACE・局所治療と画像評価. 第25回肝血流動態・機能イメージ研究会, 2019, (東京), [座長]
- 046 黒田ひとみ, 坪田恵理, 松島 秀, 岩田広治: ステレオガイド下生検におけるマーカー留置の位置ずれの検討. 第28回日本乳癌画像研究会, 2019, (仙台), [ポスター]
- 047 村田慎一: 腹部(合併症). 第65回中部I V R研究会, 2019, (名古屋), [座長]
- 048 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 出嶋育朗, 村田慎一, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭: 肝細胞癌に対するRFA治療3年後に局所出血を認めた1例. 第65回中部I V R研究会, 2019, (名古屋), [口演]
- 049 出嶋育朗, 長谷川貴章, 今井勇伍, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 村田慎一, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 右胃大網脈仮性瘤に対する塞栓時にNBCA・リピオドール混合液が膵管へ流出した1例. 第65回中部I V R研究会, 2019, (名古屋), [口演]
- 050 稲葉吉隆: 肝癌に対するDEB-TACEの現状と今後の展望. 第65回中部I V R研究会, 2019, (名古屋), [座長]
- 051 高橋大雄, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 村田慎一, 出嶋育朗,

長谷川貴章, 茶谷祥平, 塚本裕一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 原 和生, 奥野のぞみ: 門脈胆管瘻に対してステントグラフト留置で治療した一例. 第65回中部I V R研究会, 2019, (名古屋), [口演]

## 放射線治療部

- 001 Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Tanaka H, Koide Y, Kato D, Adachi S: Long term outcome of definitive chemo-IMRT for locally advanced nasopharyngeal cancer patients using Helical Tomotherapy. 60th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015, 2018, (San Antonio), [ポスター]
- 002 Nishimura Y, Kodaira T, Ito Y, Tsuchiya K, Murakami Y, Saitoh J, Akimoto T, Nakata K, Yoshimura M, Teshima T, Toshiyasu T, Ota Y, Ishikawa K, Shimizu H, Minemura T, Ishikura S, Shibata T, Nakamura K, Shibata T, Hiraoka M: A Phase II Study of Two-step Intensity Modulated Radiation Therapy (IMRT) with Chemotherapy for Locoregionally Advanced Nasopharyngeal Cancer (NPC) (JCOG1015). 60th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015, 2018, (San Antonio), [ポスター]
- 003 Kawaguchi Y, Nozaki M, Kagami Y, Shibata T, Nakamura K, Ito Y, Nishimura Y, Saito Y, Nagata Y, Matsumoto Y, Akimoto T, Nishimura T, Uno T, Tsujino K, Kataoka M, Kodaira T, Shiraishi K, Inoue K, Isohashi F, and Hiraoka M: A Multicenter Single-arm Confirmatory Trial on Hypofractionated Whole-breast Irradiation after Breast-conserving Surgery. 60th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015, 2018, (San Antonio), [ポスター]
- 004 Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Matsushima S, Isomura T, Kitagawa T, Fukuma H, Tachibana H, Kodaira T: Development of the twist-correction system for radiotherapy of head and neck cancer patients. ESTRO ASIA, 2018, (Singapore), [口頭]
- 005 Aoyama T, Shimizu H, Yokoi K, Tachibana H, Kodaira T: Comparison of two different atlas-based auto segmentation approaches for prostate cancer. ASCO-Gastrointestinal Cancer Symposium, 2019 ASCO GI annual meeting, 2019, (San Francisco), [口頭]
- 006 Takashima A, Ito Y, Hamaguchi T, Mizusawa J, Shimada Y, Shiozawa M, Kodaira T, Ohue M, Kinouchi M, Murata K, Fujita F, Watanabe M, Moriya Y, Iinuma G, Ishida F, Saida Y, Matsuda T, Katayama H, Fukuda H, Kanemitsu Y: Dose-finding and single-arm confirmatory study of definitive chemo-

- radiotherapy with S-1/mitomycin-C in patients with clinical stage II/III squamous cell carcinoma of the anal canal: JCOG0903, SMART-AC. Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG), 2019, (JAPAN), [ポスター]
- 007 **Kodaira T**: IMRT with Tomotherapy. IAEA-HICARE-CC international training course on advance radiation therapy, 2019, (Hiroshima), [講演]
- 008 **Kodaira T**: New Approach of HPV (+) vs HPV (-) Oropharyngeal Cancer De-Escalate Treatment for HPV (+) Oropharyngeal Cancer; Radiation Therapy. 6th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology, 2019, (Seoul), [講演]
- 009 **Koidaira T**: Treatment strategy for oropharyngeal cancer Radiotherapy. 6th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology, 2019, (Seoul), [講演]
- 010 **田中 寛**: 転移性骨腫瘍に対する放射線治療. 第77回日本医学放射線学会総会, 2018, (横浜), [講演]
- 011 **野田純代, 澤木正孝, 宮本健志, 藤澤知巳, 角田伸行, 川村麻里子, 江原 威, 立花弘之, 古平 毅, 菊森豊根, 柳田康弘, 岩田広治**: 早期乳癌に対する乳房温 存手術・術中単回高線量照射の多施設共同第II相試験 (UMIN000003578). 第26回日本乳癌学会学術総会, 2018, (京都), [口演]
- 012 **古平 毅, 立花弘之, 田中 寛, 小出雄太郎, 別府慎太郎, 小出悠介, 西川大輔, 鈴木 秀典, 花井信広, 長谷川泰久**: IMRTを用いた上咽頭癌の化学放射線療法の治療成績. 第42回日本頭頸部癌学会, 2018, (東京), [口演]
- 013 **小出雄太郎, 古平 毅, 立花弘之, 田中 寛, 長谷川泰久, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎**: 高齢者の頭頸部癌術後放射線治療における化学療法併用の意義. 第42回日本頭頸部癌学会, 2018, (東京), [口演]
- 014 **三谷誠一郎, 門脇重憲, 加藤恭子, 舩石俊樹, 本多和典, 小島勇貴, 成田有季哉, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 古平 毅, 安部哲也, 室 圭**: 切除不能進行食道扁平上皮癌に対するmodified FOLFOX6療法の検討. 第71回日本食道学会, 2018, (宇都宮), [演者]
- 015 **古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 田中 寛, 小出雄太郎, 足達 崇**: 上咽頭癌のChemo-IMRTによる治療成績. 日本医学放射線学会164回中部地方会, 2018, (岐阜), [口演]
- 016 **Kodaira T**: Role of Radiotherapy for multidisciplinary treatment of Head and Neck Cancer 頭頸部癌の集学的治療における放射線治療の役割. 第15回日本臨床腫瘍学会2018, (神戸), [演者]
- 017 **古平 毅**: 放射線治療の現状と展望 - 高精度治療が癌治療に期待される役割 -. 八千代病院病院祭, 2018, (安城), [講演]
- 018 **立花弘之**: 「輪郭入力 (GTV, CTV)」。第1回 日本放射線治療専門放射線技師認定機構統一講習会, 2018, (東海), [講演]
- 019 **古平 毅**: 非小細胞肺癌における放射線療法の現状～Ⅲ期治療を中心に～. 豊田肺癌講演会, 2018, (豊田), [講演]
- 020 **古平 毅**: 非小細胞肺癌における放射線療法の現状～Ⅲ期治療を中心に～. Lung Cancer Seminar in OWARI, 2018, (小牧), [講演]
- 021 **古平 毅**: 教育講演「治療2」IMRT. 第54回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 2018, (福岡), [口演]
- 022 **Kodaira T**: JASTRO-ESTRO joint symposium (international session) Role of the altered fractionated radiotherapy for head and neck cancer. The practical value and clinical limitation. 第31回日本放射線腫瘍学会, 2018, (京都), [演者]
- 023 **田中 寛, 立花弘之, 富田夏夫, 小出雄太郎, 足達 崇, 清水秀年, 青山貴洋, 古平 毅**: 門脈完全閉塞を伴うbulky HCCに体幹部定位放射線治療を適応した1例. 第31回日本放射線腫瘍学会, 2018, (京都), [ポスター]
- 024 **小出雄太郎, 田中 寛, 足達 崇, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅**: 高齢者の頭頸部癌術後放射線治療における化学療法併用の意義. 第31回日本放射線腫瘍学会, 2018, (京都), [口演]
- 025 **足達 崇, 小出雄太郎, 田中 寛, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅**: 当院における早期喉頭癌の加速照射法の後方視解析. 第31回日本放射線腫瘍学会, 2018, (京都), [ポスター]
- 026 **清水秀年, 佐々木浩二, 伊藤 誠, 青山貴洋, 立花弘之, 富田夏夫, 田中 寛, 小出雄太郎, 岩田 徹, 古平 毅**: ビームレット制限を使用した治療計画の位置ずれによる線量分布の変化. 第31回日本放射線腫瘍学会, 2018, (京都), [口演]
- 027 **古平 毅**: 頭頸部癌治療の非手術治療の進歩と限界-粒子線治療, 陽子線治療, BNCT, IMRT. 第56回癌治療学会, 2018, (横浜), [演者]
- 028 **立花弘之**: 「がんの放射線治療」. 愛知県立大看護学部講義, 2018, (名古屋), [講演]
- 029 **青山貴洋, 清水秀年, 荏原充宏, 大島幸彦, 金田直樹**: 常温で変形可能な放射線治療用マスクの開発. 第60回日本小児血液・がん学会学術集合同第23回公開シンポジウム, 2018, (京都), [ポスター]
- 030 **田中健登, 田中 寛, 清水秀年, 青山貴洋, 磯村泰己, 北川智基, 岩田 徹, 古平 毅**: 骨転移に対し緩和的照射を行った患者における痛みの評価尺度と患者移動量の関係. 第11回中部放射線医療技術学術大会, 2018, (富山), [口演]
- 031 **北川智基, 清水秀年, 青山貴洋, 中山雅詞, 磯村泰己, 田中健登, 小出雄太郎, 宮内理世, 古平 毅**: 左乳房深吸気息止め照射における自発的深吸気息止め法のセットアップ再現性. 第11回中部放射線医療技術学術大会, 2018, (富山), [口演]
- 032 **磯村泰己, 清水秀年, 青山貴洋, 北川智基, 田中健登**: 異なる材質のマスク固定台が線量へ与える影響の検討. 第11回中部放射線医療技術学術大会, 2018, (富山), [口演]
- 033 **清水秀年, 佐々木浩二, 田中 寛, 青山貴洋, 立花弘之, 小出雄太郎, 磯村泰己, 北川智基, 田中健登, 古平 毅**: 救済体幹部定位放射線治療における計算グリッドサイズ



- が脊柱管内線量に与える影響. 第11回中部放射線医療技術学術大会, 2018, (富山), [口演]
- 034 永田順也, 安井啓祐, 金森菜衣乃, 大内一輝, 下村 朗, 清水秀年, 青山貴洋, 桂田昌輝, 真栄城守斗, 林 直樹: 陽子線治療における蛍光ガラス線量計の応答特性の検討. 第11回中部放射線医療技術学術大会, 2018, (富山), [口演]
- 035 清水秀年: 『IMRT線量検証実習講習会』. 2018医学物理士セミナー in 名古屋, 2018, (名古屋), [講演]
- 036 古平 毅: 高精度治療の現状と展望—IMRTを中心に—. 札幌医科大学腫瘍診療センター講演会, 2018, (札幌), [講演]
- 037 古平 毅: 化学放射線療法への適応を考える コメンテーター. Chemoradiation Expert Seminaor, 2018, (名古屋), [講演]
- 038 古平 毅: 局所進行頭頸部癌に対する放射線治療の現状と今後の展望. 近畿がん治療合同カンファランス・学術講演会, 2019, (大阪), [講演]
- 039 古平 毅: 頭頸部癌に対する放射線治療. 蒲郡勉強会, 2019, (蒲郡), [講演]
- 040 足達 崇, 小出雄太郎, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅: 当院における早期喉頭癌の加速照射法の後方視解析. 日本医学放射線学会165回中部地方会, 2019, (名古屋), [ポスター]
- 041 宮内理世, 田中 寛, 清水秀年, 青山貴洋, 足達 崇, 小出雄太郎, 富田夏夫, 立花弘之 灰本章一, 古平 毅: A case series of post operative spine SBRT (re-RT) for MESCC. 日本医学放射線学会165回中部地方会, 2019, (名古屋), [ポスター]
- 042 伊藤 誠, 浅井あゆみ, 阿部壮一郎, 森 俊恵, 竹内亜里紗, 大島幸彦, 鈴木耕次郎, 小出雄太郎, 古平 毅, 奥田隆仁, 水松真一郎: 少数個腹骨盤部リンパ節再発癌 に対する救済放射線治療に関する臨床調査研究. 日本医学放射線学会165回中部地方会, 2019, (名古屋), [ポスター]
- 043 田中 寛: 『最新の医学的知見の普及』. 一宮エリア Lung Cancer Workshop, 2019, (一宮), [講演]
- 044 小出雄太郎, 青山貴洋, 清水秀年, 足達 崇, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅: 局所進行食道癌に対する3D-CRT optimizationを活用した治療計画の臨床応用. 第32回日本高精度外部照射研究会, 2019, (東京), [口演]
- 045 田中 寛, 清水秀年, 青山貴洋, 立花弘之, 小出雄太郎, 足達 崇, 大島幸彦, 古平 毅: A contouring study of spinal cord comparing myelo-CT and MRI fusion. 第32回日本高精度外部照射研究会, 2019, (東京), [口演]
- 046 古平 毅: 頭頸部がんに対する放射線治療の現状と展望. 中部放射線治療技術セミナー, 2019, (名古屋), [講演]
- 047 古平 毅: 放射線治療の現状と展望 高精度放射線治療の果たす役割. 石川県がん診療拠点病院研修会, 2019, (金沢), [講演]
- 048 田中 寛: 『転移性骨腫瘍に対するサイバーナイフ治療』. サイバーナイフ研究会第13回学術集会, 2019, (東京), [講演]
- 049 足達 崇, 小出雄太郎, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅:

当院における早期喉頭癌の加速照射法の後方視解析. 第37回頭頸部腫瘍研究会, 2019, (名古屋), [口演]

- 050 古平 毅: 非小細胞肺癌における放射線治療の現状 ～III期治療を中心に～. Lung Cancer Seminar in 内ヶ島, 2019, (名古屋), [講演]

## 緩和ケア部

- 001 下山理史: 本学会のこれからの利益相反マネジメントを考える. 第23回日本緩和医療学会学術大会, 2018, (神戸), [委員会企画]
- 002 下山理史: がん疼痛に対してオピオイドを選択する際のタベンタドールの位置づけ. 第48回日本慢性疼痛学会, 2018, (岐阜), [ランチョンセミナー]

## 精神腫瘍科部

- 001 Komori Y: Re-writing life stories, Narrative approaches in oncology and palliative care. Internationale Fachtagung. Neueste Entwicklungen in der narrative, systemischen Psychotherapie. Wien, 2018, (invited speech)
- 002 Komori Y: How do we do the Dignity Therapy NARRATIVELY? Kyung Hee Cyber University, Department of Counseling, 2018, (Seoul), [講演] [http://khcu.ac.kr/webzine\\_new/board/view.jsp?m=10008&BRD\\_NO=787264](http://khcu.ac.kr/webzine_new/board/view.jsp?m=10008&BRD_NO=787264)
- 003 小森康永: 手作りのサイコオンコロジー. 第65回豊橋がん診療フォーラム, 2018, (豊橋市), [講演]
- 004 小森康永: マンガでわかるがんサバイバル. 愛知県高校保健主事向けがん教育研修, 2018, (名古屋市), [講演]
- 005 小森康永, 安達映子, 団 士郎: グラフィック・メディスン入門. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ, 2017, (高崎), [ワークショップ]
- 006 小森康永: ナラティブ. その物語と語り. 日本精神神経病理学会, シンポジウムⅡ 語り narrative と対話 dialogue, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 007 小森康永: 「あたかも」症例検討会. 桜ヶ丘病院リフレクティング研修会, 2018, (熊本市), [講演]
- 008 小森康永: 手作りのサイコオンコロジー. 鹿児島緩和ケア・ネットワーク第21回, 2018, (鹿児島市), [講演]
- 009 小森康永: コメント, 『ナラティブ・セラピー・クラシックス』勉強会, 2018, (東京), [講演]
- 010 小森康永: ナラティブ・メディスン入門. 宇部市 地域緩和ケア研究会, 2018, (宇部市), [講演]
- 011 小森康永, 奥野 光, 矢原隆行: ナラティブ・セラピー (基礎講座). 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ, 2018, (神戸), [ワークショップ]
- 012 小森康永: ソーシャルワーカーのためのナラティブ・アプローチ入門. 金城学院大学MSW研究会, 2018, (名古屋市) [講演]

- 013 小森康永：マンガでわかるがんサバイバル，第10回中部地区がん医療連携学術講演会，2019，(名古屋市)，[講演]
- 014 小森康永：死を前に人が語ること，いのちの電話講演会，2019，(浦添市)，[講演]

## 看護部

- 001 宮谷美智子，高木佳世，戸田桂子，木下敬史，田中 努，長谷川かおり，深堀慎一郎，宮尾 毅，林 美子：事例オリジナルビデオ教材を活用したTeam STEPPSコミュニケーションツール学習会の試み，第13回医療の質・安全学会学術集会，2018，(愛知)，[示説]
- 002 青山寿昭：摂食嚥下障害看護研究会の会員に行ったアンケート調査の結果，第12回日本摂食嚥下障害看護研究会，2018，(大阪)，[口演]
- 003 高木佳世，若杉和子，田中 努，木下敬史，戸田桂子，宮谷美智子，深堀慎一郎，長谷川かおり，宮尾 毅，林 美子：がん専門病院における全職員への医療安全管理に対する意識啓発とTeam STEPPS導入の取り組み，第13回医療の質・安全学会，2018，(愛知)，[示説]
- 004 高木佳世，松原久美子，吹上志保子，樋口佐知，安藤元美，西尾充代，日置みさき：全室個室病棟におけるTeam STEPPSコミュニケーションツールの活用に向けた3年間の取り組み，第13回医療の質・安全学会，2018，(愛知)，[示説]
- 005 柴原由佳，小松万喜子，荻 あや子：初めて新卒看護師を指導する実地指導者が受けた支援と求める支援，第22回日本看護管理学会学術集会，2018，(兵庫)，[示説]

## 講演・講義講師，学会座長，シンポジスト

- 001 亀島里美：保健医療福祉政策論，保健医療福祉政策演習，愛知県立大学看護実践センター認定看護管理者教育課程「サードレベル」，2018，(愛知)，[講師]
- 002 亀島里美：管理者のための倫理，名古屋市看護管理研修会なごやナースキャリアサポートセンター，2018，(愛知)，[講義講師]
- 003 南谷志野：グループマネジメント：チーム医療と連携カンファレンスの運営ファシリテーション，認定看護管理者教育課程ファーストレベル，2018，(愛知)，[講師]
- 004 南谷志野：看護管理の基礎，愛知県立病院看護職員研修看護管理(基礎)研修，2018，(愛知)，[講師]
- 005 南谷志野：看護管理学特論Ⅰ・リーダーシップ論・看護管理学特論演習，聖泉大学大学院看護学研究科，2018，(滋賀)，[非常勤講師]
- 006 小原真紀子：医看薬薬連携で目指すチーム医療の輪～看護師の役割～，第10回地域連携薬剤管理指導研究会，2018，(愛知)，[講演]
- 007 青山寿昭：食べる・飲む・話すことへの評価とサポートの実際～看護師の対応～，メディカ出版セミナー，2018，(東京・京都)，[講師]
- 008 青山寿昭：頭頸部がん看護セミナー～術後の障害とアプ

ローチ～，メディカ出版セミナー，2018，(東京・兵庫)，[講師]

- 009 青山寿昭：食べることは生きる源，第54回日本赤十字社医学会総会，2018，(愛知)，[シンポジスト]
- 010 青山寿昭：アセスメントをその道のプロに聞いてみよう，第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会，2018，(宮城)，[企画・座長]
- 011 青山寿昭：輪状咽頭筋切除を行ったが経口摂取に難渋したワレンベルグ症候群患者，日本嚥下障害臨床研究会，2018，(兵庫)，[座長]
- 012 向井未年子：シンポジウム24「苦痛スクリーニング：どのように実施し，患者ケアにつなげるか」，第23回日本緩和医療学会学術大会，2018，(兵庫)，[座長]
- 013 向井未年子：特別講演「高齢がん患者の意思決定支援」，第12回三重がん看護フォーラム，2018，(三重)，[座長]
- 014 向井未年子：コンサルテーション論，愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん化学療法看護」，2018，(愛知)，[講師]
- 015 向井未年子：コンサルテーション論，愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん性疼痛看護」，2018，(愛知)，[講師]
- 016 向井未年子：コンサルテーション論，愛知県立大学大学院看護学研究科，2018，(愛知)，[講師]
- 017 向井未年子：一般演題・口演Ⅰ，日本緩和医療学会第1回東海・北陸支部学術大会，2018，(愛知)，[座長]
- 018 岩井美世子：在宅医療病態論，愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程，2018，(愛知)，[講師]
- 019 岩井美世子：がん看護，愛知県看護協会訪問看護職員養成講習会，2018，(愛知)，[講師]
- 020 岩井美世子：成人看護学概論，蒲郡市立ソフィア看護専門学校，2018，(愛知)，[講師]
- 021 岩井美世子：がん看護(専門看護師)の役割，愛知医科大学看護学部，2018，(愛知)，[講師]
- 022 岩井美世子：がん看護外来，愛知県立大学看護学部，2018，(愛知)，[講師]
- 023 岩井美世子：がん看護(がん患者を生活者として支える看護)，愛知県立総合看護専門学校，2018，(愛知)，[講師]
- 024 岩井美世子：緩和ケア・ターミナル看護論，人間環境大学，2018，(愛知)，[講師]
- 025 岩井美世子：頭頸部がん看護セミナー，メディカ出版，2018，(兵庫)，[講師]
- 026 井上さよ子：看護倫理研修，心身障害者コロニー中央病院，2018，(愛知)，[講師]
- 027 井上さよ子：コンサルテーション論，日本赤十字豊田看護大学，2018，(愛知)，[講師]
- 028 井上さよ子：対象者のニーズをとらえるためのコミュニケーション能力向上研修，愛知県看護協会，2019，(愛知)，[講師]
- 029 井上さよ子：自分らしく生きるためのヒント探しがん治療における外見の変化とアビランスクエア，With you NAGOYA あなたのプレストケアを考える会，2018，(愛知)，[講師]

- 030 井上さよ子：死生観 緩和ケア。人間環境大学, 2018, (愛知), [講師]
- 031 千種智之, 河村大一：感染対策。新人看護職員合同研修, 愛知県看護研修センター, 2018, (愛知), [講師]
- 032 千種智之：看護職カムバック研修 (年2回実施) 感染対策。愛知県看護研修センター, 20018, (愛知), [講師]
- 033 千種智之：看護職カムバック研修；感染対策, 愛知県ナースセンター, 20018, (愛知), [講師]
- 034 千種智之：みんなの健康相談 (年1回実施) 冬の感染対策について。愛知県看護協会, 2018, (愛知), [講師]
- 035 小島 瞳：IADについて。平成30年度尾張東部地区皮膚・排泄ケア在宅研修会, 2018, (愛知), [講師]
- 036 小島 瞳：イレオストミーのケアについて。ダンサクイレオストミーケアセミナー, 2018, (愛知), [講師]
- 037 小島 瞳：化学療法中のストマケアについて。がん患者のためのストマ・スキンケアの心得, 2019, (愛知), [講演]
- 038 宮谷美智子：「がん看護Ⅰ～化学療法を受ける患者の看護～」, 愛知県看護協会研修, 2018, (愛知), [講師]
- 039 宮谷美智子：「がん化学療法看護～妊孕性～」, 平成30年度がん看護ジェネラリスト研修, 2018, (愛知), [講師]
- 040 笹川良子：看護特別セッション。リザーバー研究会, 2018, (群馬), [座長]
- 041 福嶋敬子：クリニカルパスの基本。愛知クリニカルパス研究会第5回研修セミナー, 2018, (愛知), [講師]
- 042 福嶋敬子：パス作成の基本。飯田市立病院院内研修会, 2018, (長野), [講師]
- 043 福嶋敬子：CVポート設置術におけるクリニカルパスの活用。第43回リザーバー研究会, 2018, (群馬), [講演]
- 044 福嶋敬子：インシデントとその対策。第11回IVR看護師ステップアップセミナー, 2018, (兵庫), [講師]
- 045 福嶋敬子：メディカルスタッフセッション, 第64回中部IVR研究会, 2018, (岐阜), [座長]
- 046 福嶋敬子：メディカルスタッフ看護師セッション, 第47回日本IVR学会総会, 2018, (東京), [座長]
- 047 中山衣代：内視鏡治療を受ける患者の看護。愛知県立大学, 2018, (愛知), [講師]
- 048 藤田 恵：疼痛マネジメント, 中日病院緩和ケア勉強会, 2018, (愛知), [講師]
- 049 久保 知：がん放射線療法の治療計画管理における看護, がん放射線療法看護認定看護師養成課程, 2018, (東京), [講師]
- 050 久保 知：日本の放射線治療。がん患者に貢献するためどう展開していくか。2018 遠州・愛知放射線治療講演会, 2018, (愛知), [シンポジスト]
- 051 久保 知：頭頸部がん看護セミナー, 2018, (東京), [講師]
- 052 久保 知：頭頸部がん看護セミナー, 2018, (兵庫), [講師]
- 053 新田都子：がん看護総論演習。がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案。認定看護師教育過程「がん性疼痛看護」, 2018, (愛知), [ファシリテータ]
- 054 新田都子：がん医療チームにおける看護の役割, 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育過程「がん性疼痛看護」, 2018, (愛知), [講師]
- 055 山口真由美：術後せん妄の予防と対策。第3回道道周術期管理セミナー, 2019, (東京), [講師]
- 056 山田健司：手術室における看護について。愛知県立大学, 2018, (愛知), [講師]
- 057 山田健司：がん基礎研修。手術療法における看護について。小牧市民病院, 2018, (愛知), [講師]
- 058 山田健司：術前看護Ⅱ, 日本手術看護学会年次大会, 2018, (横浜), [座長]
- 059 山田健司：周術期における看護師の役割と薬剤師への期待。愛知県立病院薬剤師研修会, 2019, (愛知), [講師]
- 060 高木礼子：乳房再建術選択における看護～乳がん看護認定看護師の関わり～, 第4回東海乳房再建研究会, 2018, (愛知), [講演]
- 061 深谷恭子：緩和ケアについて。名古屋医専 疼痛専攻, 2018, (愛知), [講師]
- 062 山田英光子：パネルディスカッション。患者を中心とするIVR医療のための他職種間連携。中部IVR研究会, 2018, (岐阜), [シンポジスト]
- 063 中島貴子：がん性疼痛に対する治療と看護。認定看護師教育課程「がん性疼痛」分野, 2018, (愛知), [講師]
- 064 中島貴子：がん基礎研修「放射線看護」。小牧市民病院, 2018, (愛知), [講師]
- 065 福田沙季：乳房再建 術式決定における意思決定支援～外来看護師としての関わり～。第15回日本乳癌学会中部地方会, 2018, (三重県), [講義]
- 066 美濃屋亜矢子：がん教育における緩和ケア。第23回日本緩和医療学会学術大会, 2018, (兵庫), [シンポジスト]
- 067 美濃屋亜矢子：人生の最終段階にむけた意思決定の支援～自分らしい生き方の選択～。愛知県看護協会, 2018, (愛知), [講師]
- 068 美濃屋亜矢子：小中学校におけるがん教育の進め方。南知多町主任養護教諭連絡会研修会, 2018, (愛知), [講師]
- 069 永田智子：がん看護ジェネラリストナース育成研修。愛知県がんセンター中央病院, 2018, (愛知), [講師]
- 070 永田智子：ELNEC-J研修会。愛知がんセンター愛知病院, 2018, (愛知), [講師]
- 071 永田智子：がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ。愛知県大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん性疼痛」分野, 2018, (愛知), [講師]
- 072 永田智子：ELNEC-J研修会。名古屋徳洲会病院, 2018, (愛知), [講師]
- 073 永田智子：在宅医療・介護施設等への出前講座。JA愛知厚生連足助病院介護医療院, 2018, (愛知県), [講師]
- 074 田崎智子：乳房再建を受けた患者へのセルフケア支援。第15回日本乳癌学会中部地方会, 2018, (三重県), [講師]
- 075 田崎智子：アピアランスケア。東海乳癌チーム医療研究会, 2019, (愛知), [パネリスト]



## 薬剤部

- 001 橋本直弥, 立松三千子, 稲熊一英, 梶田正樹: 外来治療における経口抗がん剤介入回数の実際とがん患者指導料3算定に関する考察. 第28回医療薬学会年会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 002 橋本直弥: 細胞障害性抗がん剤の臨床薬理①. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [エッセンシャルセミナー]
- 003 高橋新次: 症例サマリのまとめ方 (3): 膀胱. 第28回医療薬学会年会, 2018, (神戸), [シンポジウム]
- 004 栗原幸司, 室 圭, 前田章光, 水野靖也: がん拠点病院における看護師・医師による抗がん薬のミキシングについての実態調査. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 005 原 かをり, 前田章光, 尾瀬 功, 稲熊一英, 梶田正樹: フルオロウラシル注「トーワ」の血管関連有害事象に対する5-FU注との比較検討. 第28回日本医療薬学会年会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 006 内川詩野, 山崎 研, 栗原幸司, 曾根裕美子, 石川知奈美, 浦沢奈央, 武馬裕美子, 池田桂子, 深谷幸代, 梶田正樹: 当院と近隣3保険薬局における「疑義照会に関する簡素化プロトコール」の取り組みと成果. 第51回東海薬剤師学術大会, 2018, (静岡), [ポスター]
- 007 立松三千子, 服部正也, 小谷はるる, 萩原純孝, 水野靖也, 脇岡 範, 清水淳市, 安藤正志, 澤木正孝, 吉村章代, 権藤なおみ, 安立弥生, 岩田広治: 院内製剤で調製したステロイド含有含嗽薬使用患者におけるエベロリムスによる口内炎の発症時期の検討. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 008 立松三千子, 服部正也, 小谷はるる, 萩原純孝, 水野靖也, 脇岡 範, 清水淳市, 安藤正志, 澤木正孝, 吉村章代, 権藤なおみ, 安立弥生, 岩田広治: エベロリムスによる口内炎予防を目的とした院内製剤(ステロイド含有含嗽薬)使用患者における口内炎発症時期の検討. 第3回日本がんサポートイブケア学会学術集会, 2018, (福岡), [口演], [ポスター]
- 009 立松三千子: 薬剤師がつなぐチーム医療の輪～医看薬薬連携による外来がん患者サポート～. メディカルー光がんと化学療法研修会, 2018, (津), [講演]
- 010 立松三千子: 医看薬薬連携で目指すチーム医療～病院薬剤師の役割～. 第10回地域連携薬剤管理指導研究会・講演会. 2018, (名古屋), [講演]
- 011 立松三千子: 薬剤師がつなぐチーム医療の輪～経口抗がん薬の多職種連携～. 第1回多職種連携講演会, 2019, (松山), [講演]

### 3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

#### がん情報・対策研究分野

- 001 *Ito H, Matsuo K*: Risk modeling of breast cancer and its application to personalized cancer prevention in Japan. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [一般口演]
- 002 *Kanemura S, Ito H, Oki I, Inoue M, Shibata A*: Japanese SEER Program: Requirements Nationwide Cancer Epidemiological Studies Based on the National Cancer Registry. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 003 *Ito H, Masaoka H, Koyanagi Y, Matsuo K*: Potential overtreatment among men aged 80 years and older with localized prostate cancer in Japan. 40th IACR Scientific Conference. Arequipa, 2018, (ペルー), [ポスター]
- 004 *Usui Y, Oze I, Koyanagi Y, Ugai T, Ito H, Matsuo K*: A prostate stem cell antigen (PSCA) polymorphism associated with duodenal/gastric ulcer risk: candidate gene cross-sectional evaluation in the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. 第11回NAGOYA グローバルリトリート, 2019, (愛知), [ポスター]
- 005 伊藤秀美: がん登録の未来－患者・地域に解決をもたらすデータサイエンスへの進化のために－(3)医療・研究ができること. 日本がん登録協議会第27回学術集会, 2018, (沖縄), [口演]
- 006 伊藤秀美: がん登録資料を活用した医療・がん対策の評価に資する記述疫学研究. 日本がん登録協議会第27回学術集会, 2018, (沖縄), [口演]
- 007 小井手佳代子, 川浦正規, 榊原康時, 小久保拓馬, 山口通代, 小柳友理子, 野田 司, 伊藤秀美, 杉浦喜一郎: 全国がん登録への移行における課題と工夫. 日本がん登録協議会第27回学術集会, 2018, (沖縄), [ポスター]
- 008 山口通代, 小柳友理子, 小井手佳代子, 杉浦喜一郎, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 愛知県の二次医療圏における生存率の地域差－Funnel Plots法を用いた5年相対生存率の検討. 日本がん登録協議会第27回学術集会, 2018, (沖縄), [ポスター]
- 009 碓井喜明, 松岡賢市, 岩本美紀, 廻勇輔, 三道康永, 坂本真衣子, 藤原悠紀, 近藤 匠, 谷勝 真, 佐伯恭昌, 岡本幸代, 浅田 颯, 西森久和, 藤井伸治, 近藤英生, 前田嘉信: Mechanistic Analysis of Cytokine Release Syndrome after Autologous HSCT following PD-1 blockade. 第80回日本血液学会学術集会, 2018, (大阪), [口演]
- 010 成田智晴, 伊藤秀美, 丸山晋時, 杉浦良伸, 夏目恵子, 吉田 宏: 愛知県がん登録データを用いた県内胃がん労働損失の推計. 2018, 第77回日本公衆衛生学会総会, 2018, (福島), [口演]
- 011 山口通代, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 愛知県がん登録資料に基づくがん患者5年生存率の医療圏間格

差－Funnel Plots法を用いた評価－. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [口演]

- 012 小柳友理子, 春日井由美子, 鶴飼知嵩, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: Aldehyde dehydrogenase 2遺伝子多型と大腸がんリスク: 媒介分析による評価. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [口演]
- 012 佐藤 光, 碓井喜明, 坂本真依子, 藤原悠紀, 神原由衣, 住居優一, 牛尾総一郎, 江角 悟, 北村佳久, 藤井伸治, 松岡賢市, 前田嘉伸, 千堂年明: 急性の腸管GVHDに対してブデソニド腸溶性顆粒充填カプセルを投与した3症例. 第41回日本造血細胞移植学会総会, 2019, (大阪), [ポスター]

#### がん予防研究分野

- 001 *Matsuo K, Ito H*: Alcohol and Cancer in Asia. The14th Japan-Korea Join Symposium on Cancer and Ageing Research, 2018, (佐賀), [一般口演]
- 002 *Ugai T, Matsuo K*: Association of body mass index, smoking and alcohol with multiple myeloma mortality in Asians: a pool analysis of over 800,000. The14th Japan-Korea Join Symposium on Cancer and Ageing Research, 2018, (佐賀), [一般口演]
- 003 *Matsuo K*: Cancer Risk and Alcohol: Gene-environment Interaction among Asian. 19th Congress of the International Society for Biomedical Research on Alcoholism, 2018, (京都), [シンポジウム]
- 004 *Hirano M, Melissa R, Ohka F, Aoki K, Yamamichi A, Kato T, Matsuo K, Enomoto A*: Aberrant active-enhancers associated with downregulation of HDAC1-RFP complex overcome chemoresistance in glioblastoma. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [一般口演]
- 005 *Kasugai Y, Ugai T, Oze I, Koyanagi Y, Ito H, Matsuo K*: Impact of dietary folate intake on the risk of gastric cancer. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 006 *Saito E, Inoue M, Tsugane S, Ito H, Matsuo K, Wakai K, Wada K, Nagata C, Tamakoshi A, Tanaka K*: Smoking cessation and subsequent risk of cancer: A pooled analysis of eight population-based cohort studies in Japan. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 007 *Moaz E Elshair*: Impact of Socioeconomic Status (SES) and Sibling Number (SN) on Prevalence of Helicobacter Pylori Infection: a Cross-Sectional Study in a Japanese Population. 第11回NAGOYA グローバルリトリート, 2019, (愛知), [ポスター]

- 008 岩瀬まどか, 服部正也, 澤木正孝, 吉村章代, 小谷はるる, 権藤なおみ, 安立弥生, 片岡愛弓, 大西 桜, 杉野香世子, 堀澤七恵, 森 万希子, 寺田満雄, 岩田広治: 乳癌術前化学療法後の真の病理学的完全奏功についての検討, 第26回日本乳癌学会学術総会, 2018, (京都), [シンポジウム]
- 009 鶴飼知嵩, 松尾恵太郎, 澤田典絵, 岩崎 基, 山地太樹, 島津太一, 後藤 温, 井上真奈美, 津金昌一郎: コーヒー, 緑茶摂取と骨髄系腫瘍罹患との関連: 多目的コホート研究. がん予防学術大会2018, 2018, (高松), [口演]
- 010 鶴飼知嵩, 松尾恵太郎, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 若井健志, 和田恵子, 永田知里, 喜多村祐里, 玉腰暁子, 澤田典絵, 田中恵太郎, 島津太一: 喫煙は急性骨髄性白血病の重大な危険因子である: 日本のコホート研究のプール解析. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 011 菱田朝陽, 藤井亮輔, 中 昌弘, 川合紗世, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 渡邊美貴, 鈴木貞夫, 栗山長門, 内藤真理子, 若井健志: GWASとSNP-set Kernel Association Tests (SKAT) により見出されたPSCA 遺伝子とピロリ菌関連胃粘膜萎縮の関連. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 012 碓井嘉明, 小柳友里子, 松田智大, 片野田耕太, 松尾恵太郎, 伊藤秀美: 日米における多発性骨髄腫の死亡率の経年変化と新規薬剤導入の影響. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [口演]
- 013 松尾恵太郎: Gene-environment interaction. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [シンポジウム]
- 014 鶴飼知嵩, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: ALDH2 遺伝子多型, 飲酒と乳がんリスク: Breast Cancer Association Consortium アジア人データの解析. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [口演]
- 015 尾瀬 功, 春日井由美子, 小柳友里子, 鶴飼知嵩, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: 胃がん・大腸がん患者の診断時の社会経済的要因とその心理的影響. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [ポスター]
- 016 後藤 温, 中枋昌弘, 成田 暁, 久保充明, 桃沢幸秀, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 丹野高三, 清水厚志, 寶澤 篤, 木下賢吾, 若井健志, 津金昌一郎, 岩崎 基: 大規模分子疫学コンソーシアムによる日本人一般集団を対象とした体格指標のゲノムワイド関連解析. 第29回日本疫学会学術総会, 2019, (東京), [ポスター]
- pound heterozygous missense variants in the *ADAM17* gene cause neonatal inflammatory skin and bowel disease 1. Annual meeting of American Society of Human Genetics 2018, 2018, (SanDiego USA), [ポスター]
- 003 高磯伸枝, 吉村章代, 大瀬戸久美子, 岩田広治, 井本逸勢: 遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減乳房切除後の心理・QOL調査. 第24回日本家族性腫瘍学会学術集会, 2018, (神戸), [ポスター]
- 004 高磯伸枝, 原 和生, 吉村章代, 大瀬戸久美子, 柴田重矢子, 岩田広治, 井本逸勢: 病理解剖により神経線維腫症1型と診断された患者の小児を含む家族への情報提供をがん専門看護師との連携で支援した1例. 第42回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2018, (仙台), [口演]
- 005 増田清士, 藤田悠司, 河本知大, 濱田隼一, 庄田勝俊, 丹下正一郎, 井本逸勢: KHSRP は癌促進型miRNA 発現を誘導し食道癌の進展を促進する. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 006 河本知大, 藤田悠司, 庄田勝俊, 丹下正一郎, 増田清士, 市川大輔, 大辻英吾, 井本逸勢: *in silico* 解析による新規治療標的候補遺伝子 *OEGCI* の同定と機能解析. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 007 丹下正一郎, 河本知大, 増田清士, 井本逸勢: 肺腺癌の予後を予測可能な遺伝子群の探索. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 008 松下洋輔, 小松正人, 清谷一馬, 吉丸哲郎, 新沼 猛, 鈴木 拓, 本田純子, 井本逸勢, 丹黒 章, 三好康雄, 笹三徳, 片桐豊雅: トリプルネガティブ乳癌におけるSALL3の高頻度なエピジェネティックな不活化機構. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 009 阿部彰子, 井本逸勢, 丹下正一郎, 成戸卓也, 苛原 稔: 徳島県の卵巣癌患者における遺伝学的検査への意識調査と遺伝子変異頻度. 日本人類遺伝学会 第63回大会, 2018, (横浜), [口演]
- 010 高磯伸枝, 大瀬戸久美子, 井本逸勢: 症例ごとに対応する多科参加型遺伝性腫瘍タスクフォース構築の試み. 日本人類遺伝学会 第63回大会, 2018, (横浜), [口演]
- 011 森田圭一, 丹下正一郎, 井本逸勢, 及川 悠, 栢森 高, 柴田恵里, 外内えり奈, 道 泰之, 池田 通, 原田浩之, 依田哲也: FFPE サンプルのRNA シークエンス解析による融合遺伝子検出の条件検討. 日本人類遺伝学会 第63回大会, 2018, (横浜), [ポスター]

## 分子遺伝学分野

- 001 *Imoto I, Hirasawa A, Akahane T, Yamagami W, Nomura H, Susumu N, Tsuda H, Aoki D*: Prevalence of Pathogenic Germline Variants of Cancer Susceptibility Genes in Japanese Patients with Ovarian, BRCA2018, 2018, (Mont-Royal Canada), [ポスター]
- 002 *Imoto I, Saito M, Suga K, Naruto T, Kohmoto T, Otsu M, Horiuchi K, Nakayama H, Higashiyama S, Nakagawa R, Tange S, Masuda K, Kagami S*: Com-

## がん病態生理学分野

- 001 *Aoki M, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Sakuma K*: Identification of HNRNPLL as a novel metastasis suppressor of colorectal cancer. AACR Annual Meeting 2018, 2018, (Chicago USA), [ポスター]
- 002 小島 康: がん悪液質の病態生理理解明を目指した研究. 第6回がんと代謝研究会, 2018, (奄美), [口演]



- 003 青木正博, 梶野リエ: Apc変異マウスの腸管腫瘍形成におけるMyD88の役割の解析. 第22回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 004 青木正博, 佐久間圭一朗: HNRNPLL is a novel metastasis suppressor of colorectal cancer, and modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. 第70回日本細胞生物学会大会, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 005 青木正博: HistamineはmTOR阻害薬抵抗性大腸がんの浸潤に関与する. 第27回日本がん転移学会学術集会, 2018, (横浜), [ワークショップ]
- 006 青木正博, 前田 亮, 小島 康, 佐久間圭一朗: がんの転移における腫瘍微小環境の役割. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 007 佐久間圭一朗, 青木正博: HNRNPLLはDNA複製制御因子のmRNAを安定化することで大腸がん細胞の細胞周期を促進する. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 008 小島 康, 藤下晃章, 三城恵美, 梶野リエ, 武藤 誠, 青木正博: 大腸がん形成におけるDio2の役割. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 009 藤下晃章, 小島 康, 三城恵美, 曾我朋義, 武藤 誠, 青木正博: 大腸がんのmTOR阻害薬抵抗性獲得にヒスタミンが関与している. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 010 梶野リエ, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博: Apc変異マウスの腸管腫瘍形成において腸上皮細胞のMyD88が果たす役割の解明. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 011 向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: 悪性中皮腫においてLATS2はO-GlcNAc化を抑制する. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 012 青木正博: 腸管腫瘍形成におけるMyD88とHIFsの役割. 第16回がんとハイポキシア研究会, 2018, (千葉), [招待講演]
- 013 佐藤清敏, 谷内田真一, 杉本昌弘, 田畑 祥, 梶野リエ, 小島 康, 藤下晃章, 青木正博, 曾我朋義: MYCによる大腸がんの代謝リプログラミング. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [ワークショップ]
- 014 青木正博, 藤下晃章, 武藤誠, 小島 康: 大腸がん微小環境におけるDIO2(II型脱ヨード酵素)の役割. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [ポスター]
- 015 向井智美, 松下明弘, 佐藤龍洋, 藤下晃章, 三城恵美, 奥田真帆, 青木正博, 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるHippo経路の破綻による腫瘍進展機構. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [ワークショップ]

## 分子腫瘍学分野

- 001 *Seikido Y*: TAZ Activation by NF2-Hippo Pathway Dysregulation Induces Cytokine Expression and Provides Growth Advantage to Mesothelioma. iMig, 2018, (Ottawa), [シンポジウム]
- 002 向井智美, 松下明弘, 佐藤龍洋, 藤下晃章, 青木正博, 関戸好孝: IL-1受容体拮抗薬はHippo経路の破綻した悪性中皮腫細胞の進展を抑制する. 第22回日本がん分子標的治療学会, 2018, (東京), [ポスター]
- 003 佐藤龍洋, 向井智美, 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるRheb-SmgGDS-mTORシグナル伝達経路の解析. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 004 向井智美, 佐藤龍洋, 三城(佐藤)恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: 悪性中皮腫においてLATS2はO-GlcNAc化を抑制する. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 005 *Hoang T.D. Nguyen*, 峯 裕一, 関戸好孝, 藤井万紀子: がん細胞におけるCTGFの役割. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 006 村上優子, 清成信一, 田部陽子, 門松健治, 三井田孝博, 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるBAP1遺伝子変異に対する合成致死遺伝子の網羅的探索. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [シンポジウム]
- 007 佐藤光夫, 田中一大, 後藤大輝, 加藤俊夫, 各務智彦, 宮沢亜矢子, 與語直之, 長谷哲成, 森瀬昌弘, 関戸好孝, 近藤征史, 長谷川好規: 非小細胞肺癌にする新規治療標的としての転写開始因子EIF2サブユニットEIF2b. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [口演]
- 008 竹下純平, 辰野健二, 松本大地, 栗林康造, 近藤展行, 長谷川誠紀, 佐藤鮎子, 辻村 亨, 大多茂樹, 河上 祐, 中野孝司, 関戸好孝, 油谷浩幸: 255症例の悪性胸膜中皮腫の網羅的遺伝子解析. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 009 中村敦子, 伊東剛, 田中一大, 中島 淳, 森川鉄平, 深山正久, 関戸好孝, 仁木利郎, 松原大祐, 村上善則: 肺腺がんにおけるHippo経路の細胞接着分子CADM1による制御. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [ポスター]
- 010 村上優子, 天野美希, 小木曾杏奈, 清成信一, 紅 朋浩, 田部陽子, 金田典雄, 門松健治, 三井田孝博, 村上浩士, 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるBAP1遺伝子変異に対する合成致死遺伝子の網羅的探索. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [ポスター]
- 011 向井智美, 松下明弘, 佐藤龍洋, 藤下晃章, 三城恵美, 奥田真帆, 青木正博, 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるHippo経路の破綻による腫瘍進展機構. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [ワークショップ]
- 012 田中一大, 佐藤光夫, 加藤俊夫, 後藤大輝, 各務智彦, 宮沢亜矢子, 與語直之, 長谷哲成, 森瀬昌宏, 関戸好孝, 近藤征史, 長谷川好規: eIF2b is a Potential Therapeutic

Target for Non-small Cell Lung Cancer. 第59回日本肺癌学会学術集会, 2018, (東京), [ポスター]

- 013 向井智美: The mechanism of tumor progression caused by perturbation of the Hippo pathway in malignant mesothelioma. 第11回NAGOYAグローバルリトリート, 2019, (愛知), [口演]

### 腫瘍制御学分野

- 001 小根山千歳: Srcがんシグナルによるエクソソーム形成亢進メカニズム. 第22回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2018, (東京), [ワークショップ]
- 002 小根山千歳, 疋田智也: Src in endosomal membranes promotes secretion of exosomes and tumor progression. 第70回日本細胞生物学会大会, 2017, (東京), [ポスター]
- 003 疋田智也, 小根山千歳: Srcによるエクソソーム形成亢進とがん形質発現. 第10回日本RNAi研究会・第5回日本細胞外小胞学会, 2018, (広島), [ポスター]
- 004 疋田智也, 小根山千歳: Endosomal Src promotes exosome secretion and tumor progression. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 005 小根山千歳: Mechanisms underlying upregulation of exosomes in cancer cells. 第41回日本分子生物学会年会, 2018, (横浜), [シンポジウム]
- 006 小根山千歳: エクソソーム形成分泌制御とがん進展. 岡山大学医歯薬総合研究科特別セミナー, 2019, (岡山), [特別講演]

### 腫瘍免疫応答研究分野

- 001 *Tanimoto K, Fujiwara K, Tawara I, Masuya M, Kageyama S, Nishida T, Murata M, Terakura S, Akatsuka Y, Ikeda H, Miyahara Y, Nukaya I, Takesako K, Emi N, Katayama N, Shiku H, Yasukawa M*: Phase 1 Clinical Trial of Adoptive Immunotherapy for Acute Myelogenous Leukemia and Myelodysplastic Syndrome, Using Gene-Modified Autologous Lymphocytes Expressing WT1-Specific T-Cell Receptor. The 58th ASH Annual meeting, 2016, (San Diego, USA), [口演]
- 002 太田里永子, 岡村文子, 赤塚美樹, 葛島清隆: ヒト培養細胞を用いたTCR親和性成熟システムの樹立. 第22回日本がん免疫学会総会, 2018, (岡山), [口演]
- 003 桑原一彦, 葛島清隆, 塚本徹哉: TREX2複合体欠損によって化学療法感受性上昇はRループに依存するか? 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [ポスター]
- 004 赤塚美樹, 堀口徳之, 後藤康洋, 楯屋良子, 白石圭子, 柴田 知, 今泉 和, 大宮直木, 恵美宣彦: 免疫チェックポイント阻害抗体治療後の免疫パラメーターの変化の検討. 第10回日本血液疾患免疫療法学会学術集会, 2018, (東京),

[ポスター]

### 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Matsushita H*: Mutation-derived neoantigens as a promising target for cancer vaccine development. 19th Symposium for Gene Design and Delivery, 2019, (Chiba), [招待講演]
- 002 *Matsushita H*: The role of mutation-derived neoantigens in cancer therapy: A possible Immune evasion mechanism through reduced neoantigen expression in glioma, Nagoya Immunology Network in NCU, 2019, (Nagoya), [招待講演]
- 003 松下博和: 高悪性度漿液性腺癌 (HGSC) におけるネオアンチゲンの多寡と予後との関連, 第16回 日本免疫治療学会学術集, 2019, (東京都), [ポスター]
- 004 松下博和: 次世代シーケンサーを活用したネオアンチゲンに対する免疫応答の検討 第31回 日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2019, (東京都), [招待講演]

### 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Tanaka I, Dayde D, Tai MC, Solis L, Tripathi S, Fahrman J, Unver N, Cuentas E, Wang H, Katayama H, Dennison J, Lorenzi P, Do KA, Fujimoto J, Behrens C, Ostrin E, Rodriguez-canales J, Yatabe Y, Hasegawa Y, Gazdar A, Wistuba I, Hanash S, Taguchi A*: SRGN-triggered aggressive and immunosuppressive phenotype in TTF-1-negative lung adenocarcinomas. 11th AACR-JCA Joint Conference, 2019, (Maui), [ポスター]

### がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Ebi H*: Overcome resistance by regulating feedback signaling pathway. The 34th Nagoya International Cancer Treatment Symposium, 2019, (名古屋), [シンポジウム]
- 002 *Kotani D, Mondaca S, Parikh A, Bando H, Seventer EV, Taniguchi H, Yoshino Y, Corcoran RB, Yaeger R, Ebi H*: Clinicopathological features, efficacy of anti-EGFR therapy, and survival outcomes in patients with BRAF non-V600 mutated metastatic colorectal cancer. Journal of Clinical Oncology 37, no. 4\_suppl. 659-659, 2019, ASCO-GI., (サンフランシスコ), [ポスター]
- 003 *Ebi H*: Combination Therapies Targeting KRAS Mutant Lung Cancer. The 6th JCA-AACR Special Joint Conference, 018, (京都), [シンポジウム]
- 004 衣斐寛倫: MEK 阻害薬に対する耐性機序, 第59回日本肺

癌学会学術集会, 2018, (東京), [シンポジウム]

- 005 **衣斐寛倫**: MAPK変異腫瘍における初期・獲得耐性機構と治療開発 第77回日本癌学会学術総会 インターナショナルシンポジウム (10) 治療抵抗性の分子基盤解明と新たな治療薬の開発 2018, (大阪), [シンポジウム]
- 006 **細野祥之**: 非小細胞肺癌において発生・進展を調節する新規遺伝子の同定と機能解析. 第77回日本癌学会学術総会, 2018, (大阪), [奨励賞受賞講演]

## バイオバンク部門

- 001 **中田 舞, 伊藤智子, 井本逸勢, 伊藤秀美, 松尾恵太郎**: キャンサーバイオバンク愛知の紹介. 第4回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2018, (京都), [ポスター]



#### 4. 学会誌・その他の誌上発表テーマ調べ（総長、副総長）

##### 総長

- 001 *Iwata Y, Ito S, Misawa K, Ito Y, Komori K, Abe T, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Yoshida K, Kinoshita T*: Incidence and treatment of metachronous gastric cancer after proximal gastrectomy. *Surgery Today*, 48: 552-557, 2018
- 002 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 重吉 到, 清水泰博, 木下 平: 機能温存と機能再建をめざした消化器外科手術 - 術後QOL向上のために 早期胃癌に対する機能温存手術 腹腔鏡下幽門保存胃切除・体腔内胃胃端々吻合再建. *臨床外科*, 73: 437-442, 2018

##### 副総長・総長

- 001 *Yamaguchi T, Hayashi M, Ida L, Yamamoto M, Lu C, Kajino T, Cheng J, Nakatochi M, Isomura H, Yamazaki M, Suzuki M, Fujimoto T, Takahashi T*: ROR1-CAVIN3 interaction required for caveolae-dependent endocytosis and pro-survival signaling in lung adenocarcinoma. *Oncogene* 38: 5142-5157, 2019.
- 002 *Lin E, Hsiao T, Lu J, Wong S, Lu T, Peck K, Takahashi T, Yang, P*: Translating gene signatures into a pathological feature: Tumor necrosis predicts disease relapse in operable and stage I lung adenocarcinoma. *JCO Precis Oncol*. doi: 10.1200/PO.18.00043 *JCO*, 2018.
- 003 *Nishizuka S, Tamura G, Nakatochi M, Fukushima N, Ohmori Y, Sumida C, Iwaya T, Takahashi T, Koeda K*: Northern Japan Gastric Cancer Study Consortium. Helicobacter pylori infection is associated with favorable outcome in advanced gastric cancer patients treated with S-1 adjuvant chemotherapy. *J Surg Oncol*, 117: 947-956, 2018.
- 004 *Takeshita S, Yamashita Y, Shiomi K, Suzuki N, Yoshida J, Naiki-I A, Suzuki S, Akatsuka S, Toyokuni S, Takahashi T, Mase S, Arakawa A, Sugiura-O M, Takahashi S*: Expression of P-REX2a is associated with poor prognosis in endometrial malignancies. *Oncotarget* 9: 24778-24786, 2018.

## 5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

### 病院長

- 001 *Yamada S, Fujii T, Yokoyama Y, Kawashima H, Maeda O, Suzuki K, Okada T, Ono E, Yamaguchi J, Takano N, Takami H, Hayashi M, Niwa Y, Hirooka Y, Ito Y, Naganawa S, Ando Y, Nagino M, Goto H, Koderu Y* : Phase I study of chemoradiotherapy using gemcitabine plus nab-paclitaxel for unresectable locally advanced pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 81(5): 815-821, 2018
- 002 *Suzuki H, Takizawa K, Hirasawa T, Takeuchi Y, Ishido K, Hoteya S, Yano T, Tanaka S, Endo M, Nakagawa M, Toyonaga T, Doyama H, Hirasawa K, Matsuda M, Yamamoto H, Fujishiro M, Hashimoto S, Maeda Y, Oyama T, Takenaka R, Yamamoto Y, Naito Y, Michida T, Kobayashi N, Kawahara Y, Hirano M, Jin M, Hori S, Niwa Y, Hikichi T, Shimazu T, Ono H, Tanabe S, Kondo H, Iishi H, Ninomiya M, Ichiro Oda for J-WEB/EGC group* : Short-term outcomes of multicenter prospective cohort study of gastric endoscopic resection: 'Real-world evidence' in Japan. *Digestive Endoscopy*, 31(1): 30-39, 2019
- 003 水口昌伸, 宮川国久, 藤谷幹浩, 大泉晴史, 入口陽介, 小川真広, 丹羽康正, 中島滋美, 大黒隆司, 松浦隆志, 平井都始子, 北川晋二 : 日本消化器がん検診学会全国集計委員会. 平成27年度消化器がん検診全国集計 胃がん検診全国集計 内視鏡検診全国集計 大腸がん検診全国集計 超音波検診全国集計(解説). *日本消化器がん検診学会雑誌*, 56巻6号 : 1009-1053, 2018

### 消化器内科部

- 001 *Niikura R, Nagata N, Yamada A, Doyama H, Shiratori Y, Nishida T, Kiyotoki S, Yada T, Fujita T, Sumiyoshi T, Hasatani K, Mikami T, Honda T, Mabe K, Hara K, Yamamoto K, Takeda M, Takata M, Tanaka M, Shinozaki T, Fujishiro M, Koike K* : A multicenter, randomized controlled trial comparing the identification rate of stigmata of recent hemorrhage and rebleeding rate between early and elective colonoscopy in outpatient-onset acute lower gastrointestinal bleeding: study protocol for a randomized controlled trial. *Trials*, 19: 214, 2018
- 002 *Kubota K, Kamisawa T, Hirano K, Hirooka Y, Uchida K, Ikeura T, Shiomi H, Ohara H, Shimizu K, Arakura N, Kanno A, Sakagami J, Itoi T, Ito T, Ueki T, Nishino T, Inui K, Mizuno N, Yoshida H, Sugiyama M, Iwasaki E, Irisawa A, Okazaki K, Kawa S, Shimosegawa T, Takeyama Y, Chiba T* : Clinical course of type 1 autoimmune pancreatitis patients without steroid treatment: a Japanese multicenter study of 97 patients. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 25: 223-230, 2018
- 003 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Iwaya H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Obata M, Yasuda M, Kurita Y, Tanaka H, Niwa Y* : Infectious peritonitis after endoscopic ultrasound-guided biliary drainage in a patient with ascites. *Gastrointestinal Intervention*, 7: 40-43, 2018
- 004 *Todaka A, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Yukisawa S, Nakamori S, Yachi Y, Henmi T, Kobayashi M, Boku N, Mori K, Fukutomi A* : Nationwide Multicenter Observational Study of FOLFIRINOX Chemotherapy in 399 Patients With Unresectable or Recurrent Pancreatic Cancer in Japan. *Pancreas*, 47: 631-636, 2018
- 005 *Ozaka M, Ishii H, Sato T, Ueno M, Ikeda M, Uesugi K, Sata N, Miyashita K, Mizuno N, Tsuji K, Okusaka T, Furuse J* : A phase II study of modified FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve patients with metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 81: 1017-1023, 2018
- 006 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Iwaya H, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Niwa Y* : Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metal stent during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy as a primary biliary drainage for the cases estimated difficult endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A prospective clinical study. *J Gastroenterol Hepatol*, 33: 1413-1421, 2018
- 007 *Kobayashi S, Terashima T, Shiba S, Yoshida Y, Yamada I, Iwadou S, Horiguchi S, Takahashi H, Suzuki E, Moriguchi M, Tsuji K, Otsuka T, Asagi A, Kojima Y, Takada R, Morizane C, Mizuno N, Ikeda M, Ueno M, Furuse J* : Multicenter retrospective analysis of systemic chemotherapy for unresectable combined hepatocellular and cholangiocarcinoma. *Cancer Sci*, 109: 2549-2557, 2018
- 008 *Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y, Hara K* : A Rare Case of Ampullary Goblet Cell Carcinoid. *Intern Med*, 57: 2489-2496, 2018
- 009 *Hanada K, Kurihara K, Itoi T, Katanuma A, Sasa-*

- ki T, Hara K, Nakamura M, Kimura W, Suzuki Y, Sugiyama M, Ohike N, Fukushima N, Shimizu M, Ishigami K, Gabata T, Okazaki K* : Clinical and Pathological Features of Solid Pseudopapillary Neoplasms of the Pancreas: A Nationwide Multicenter Study in Japan. *Pancreas*, 47: 1019-1026, 2018
- 010 *Kuraoka N, Hara K, Terai S, Yatabe Y, Horio Y* : Peroral cholangioscopy of nivolumab-related (induced) ulcerative cholangitis in a patient with non-small cell lung cancer. *Endoscopy*, 50: E259-E261, 2018
- 011 *Nakatochi M, Lin Y, Ito H, Hara K, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao, H, Wang C, Nishiyama T, Kawaguchi T, Takahashi M, Matsuda F, Kikuchi S, Matsuo K* : Prediction model for pancreatic cancer risk in the general Japanese population. *Plos One*, 13: E0203386, 2018
- 012 *Shibuya H, Hijioka S, Sakamoto Y, Ito T, Ueda K, Komoto I, Kobayashi N, Kudo A, Yasuda H, Miyake H, Arita J, Kiritani S, Ikeda M, Imaoka H, Ueno M, Kobayashi S, Furuta M, Nagashio Y, Murohisa G, Aoki T, Matsumoto S, Motoya M, Azemoto N, Itakura J, Horiguchi S, Yogi T, Kawagoe T, Miyaoka Y, Imamura F, Senju M, Arioka H, Hara K, Imamura M, Okusaka T* : Multicenter-clinical evaluation of streptozocin-based chemotherapy for advanced pancreatic neuroendocrine tumors in Papan: focus on weekly regimens and monotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol*, 82: 661-668, 2018
- 013 *Mizusawa J, Fukutomi A, Katayama H, Ishii H, Ioka T, Okusaka T, Ueno H, Ueno M, Ikeda M, Mizuno N, Ozaka M, Fukuda H, Furuse J* : Protocol digest of randomized phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy for locally advanced pancreatic cancer: Japan clinical oncology group study (JCOG1407). *Pancreatology*, 18: 841-845, 2018
- 014 *Yasuda M, Hara K, Kurita Y, Tanaka H, Obata M, Kuraoka N, Matsumoto S, Ito A, Iwaya H, Toriyama K, Okuno N, Kuwahara T, Hijioka S, Mizuno N, Onishi S, Hirayama Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y* : A Novel Method of Diagnosing Aberrant Pancreas: Needle-based Confocal Laser Endomicroscopy. *Intern Med*, 57: 2827-2831, 2018
- 015 *Toriyama K, Hijioka S, Komoto I, Kobayashi N, Okusaka T, Ku Y, Sudo K, Furukawa M, Tachibana Y, Takahashi M, Yasuda H, Nakamori S, Honma Y, Kida M, Fujimori N, Kashiwada T, Masui T, Ishii H, Tsuchiya Y, Isaji S, Mizuno N, Hara K, Sakamine M, Imamura M, Kagimura T, Ito T* : Study Protocol for Prospective Observational Study 1 on the Prognosis of Patients with Unresectable Advanced Gastrointestinal and Pancreatic Neuroendocrine Tumors (PROP-UP 1 Study) in Japan. *J Clin Trials*, 8:2018
- 016 *Tanaka H, Hijioka S, Iwaya H, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Obata M, Kurita Y, Yasuda M, Shimizu Y, Kuroda H, Sato Y, Haneda M, Sasaki E, Yatabe Y, Hara K* : Fibrolamellar Hepatocellular Carcinoma with Multiple Lung Metastases Treated with Multidisciplinary Therapy. *Intern Med*, 57: 3537-3543, 2018
- 017 *Kurita Y, Kobayashi N, Tokuhisa M, Goto A, Kubota K, Endo I, Nakajima A, Ichikawa Y* : Sarcomatous is a reliable prognostic factor in patients with advanced pancreatic cancer receiving FOLFIRINOX chemotherapy. *Pancreatology*, 19:127-135, 2019
- 018 *Hijioka S, Sakuma K, Aoki M, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Hara K, Yatabe Y* : Clinical and in vitro studies of the correlation between MGMT and the effect of streptozocin in pancreatic NET. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83: 43-52, 2019
- 019 *Ito T, Kawa S, Matsumoto A, Kubota K, Kamisawa T, Okazaki K, Hirano K, Hirooka Y, Uchida K, Masuda A, Ohara H, Shimizu K, Arakura N, Masamune A, Kanno A, Sakagami J, Itoi T, Ito T, Ueki T, Nishino T, Inui K, Mizuno N, Yoshida H, Sugiyama M, Iwasaki E, Irisawa A, Shimosegawa T, Chiba T* : Risk Factors for Pancreatic Stone Formation in Type 1 Autoimmune Pancreatitis: A Long-term Japanese Multicenter Analysis of 624 Patients. *Pancreas*, 48: 49-54, 2019
- 020 *Polmanee P, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Okuno N, Iwaya H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Ohnishi S, Toriyama K, Bhanthomkomol P, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Niwa Y* : Outcomes of EUS-FNA in patients receiving antithrombotic therapy. *Endosc Int Open*, 7: E15-E25, 2019
- 021 *Ioka T, Ueno M, Ueno H, Park JO, Chang HM, Sasahira N, Kanai M, Chung IJ, Ikeda M, Nakamori S, Mizuno N, Omuro Y, Yamaguchi T, Hara H, Sugimori K, Furuse J, Maguchi H, Furukawa M, Fukuzawa K, Kim JS, Yukisawa S, Takeuchi M, Okusaka T, Boku N, Hyodo I* : TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: a randomised, open-label, phase 3 study (GRAPE trial). *Eur J Cancer*, 106: 78-88, 2019
- 022 *Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Toriyama K, Kurita Y, Obata M, Koide Y, Hasegawa Y, Hara K, Niwa Y* : Superficial Esopha-



- geal Cancer in a Fanconi Anemia Patient That Was Treated Successfully by Endoscopic Submucosal Resection. Intern Med, 58: 529-533, 2019
- 023 Shirasu H, Todaka A, Omae K, Fujii H, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Yukisawa S, Kobayashi M, Fukutomi A : Impact of UGT1A1 genetic polymorphism on toxicity in unresectable pancreatic cancer patients undergoing FOLFIRINOX. Cancer Sci, 110: 707-716, 2019
- 024 Iwaya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Tamada K, Ido A, Hara K : Usefulness of septal thickness measurement on endoscopic ultrasound as a predictor of malignancy of branched-duct and mixed-type intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. Dig Endosc, 2019
- 025 Matsumoto I, Kamei K, Omae K, Suzuki S, Matsuoka H, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A : OLFIRINOX for locally advanced pancreatic cancer: Results and prognostic factors of subset analysis from a nation-wide multicenter observational study in Japan. Pancreatology, 19: 296-301, 2019
- 026 Kobayashi S, Ueno M, Omae K, Kuramochi H, Terao M, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Uesugi K, Kobayashi N, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A : Influence of initial dose intensity on efficacy of FOLFIRINOX in patients with advanced pancreatic cancer. Oncotarget, 10: 1775-1784, 2019
- 027 岩屋博道, 原 和生, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 水野伸匡 : IPMN IPMNのフォローアップ. 消化器内視鏡, 30: 597-605, 2018
- 028 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 岩屋博道 : 膵嚢胞性疾患に対する嚢胞液解析を用いた診断の現状と限界. 消化器内視鏡, 30: 628-629, 2018
- 029 奥野のぞみ, 水野伸匡, 桑原崇通, 岩屋博道, 原 和生 : その他の膵嚢胞性腫瘍. 臨床消化器内科, 33: 916-923, 2018
- 030 原 和生, 奥野のぞみ, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 桑原崇通, 岩屋博道, 水野伸匡 : 膵癌関連疾患に対する内視鏡治療の進歩. 癌の臨床, 64: 25-34, 2018
- 031 栗田裕介, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 孝田博輝, 小畑雅寛, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正 : 膵癌の早期画像診断 EUSおよびEUS-FNAの有用性. 胆と膵, 39: 805-812, 2018
- 032 水野伸匡, 原 和生 : 胆膵 膵癌診療ガイドライン 内視鏡の役割を中心に. 消化器内視鏡, 30: 1286-1291, 2018
- 033 奥野のぞみ : 経皮経肝胆道ドレナージ(PTBD)・経皮経肝胆囊ドレナージ(PTGBD). 消化器外科Nursing, 秋季増刊号: 218-221, 2018
- 034 奥野のぞみ : 内視鏡的経鼻膵管ドレナージ術(ENPD)・内視鏡的膵管ステント留置術(EPS). 消化器外科Nursing, 秋季増刊号: 212-217, 2018
- 035 奥野のぞみ : 内視鏡的経鼻胆道ドレナージ術(ENBD)・内視鏡的胆道ステント留置術(EBS). 消化器外科Nursing, 秋季増刊号: 206-211, 2018
- 036 奥野のぞみ : 内視鏡的膵胆管造影(ERCP)関連治療(EST・内視鏡的胆管結石除去術). 消化器外科Nursing, 秋季増刊号: 194-199, 2018
- 037 奥野のぞみ, 水野伸匡, 桑原崇通, 松本慎平, 原 和生 : 消化管粘膜下腫瘍に対するEUS-FNAの実際. 臨床消化器内科, 33: 1485-1492, 2018
- 038 原 和生, 奥野のぞみ, 松本慎平, 桑原崇通, 水野伸匡 : EUSガイド下biliary access ERCP vs EUS-CDS, EUS-CDSはprimary drainageとなり得るか?. 胆と膵, 39: 1109-1110, 2018
- 039 栗田裕介, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 孝田博輝, 小畑雅寛, 清水泰博, 丹羽康正 : 嚢胞液解析の現況・有用性. 肝胆膵, 77: 981-986, 2018
- 040 光山俊行, 内田一茂, 住本貴美, 福井由里, 池浦 司, 福井寿朗, 西尾彰功, 四方伸明, 植村芳子, 里井壮平, 水野伸匡, 能登原憲司, 下瀬川徹, ジュセッペ・ザンポーニ, ルカ・フルローニ, 岡崎和一 : 1型自己免疫性膵炎(LPSP)と2型自己免疫性膵炎(IDCP)の好中球浸潤の比較. 関西医科大学雑誌, 69: 7-18, 2018
- 041 竹山宜典, 岡崎和一, 新倉則和, 池浦 司, 糸井隆夫, 伊藤鉄英, 乾 和郎, 井上 大, 入江裕之, 入澤篤志, 岩崎栄典, 植木敏晴, 上原 剛, 内田一茂, 大原弘隆, 神澤輝実, 川茂 幸, 菅野 敦, 窪田賢輔, 洪 繁, 児玉裕三, 阪上順一, 清水京子, 全 陽, 多田 稔, 中沢貴宏, 西野隆義, 能登原憲司, 浜野英明, 平野賢二, 廣岡芳樹, 正宗淳, 増田充弘, 水野伸匡, 吉田 仁, 井戸章雄, 下瀬川徹, 妹尾 浩, 滝川 一, 千葉 勉, 仲瀬裕志, 伊佐山浩通, 伊藤哲也, 梅村武司, 太田正穂, 鎌田 研, 河邊 顕, 菅野 敦, 木村 理, 栗山勝利, 小山 貴, 塩川雅広, 田妻進, 田中 篤, 玉木長良, 露口利夫, 内藤 格, 仲野俊成, 濱田 晋, 藤永康成, 村木 崇, 本谷雅代, 渡邊貴之, 渡邊智裕 : 報告 自己免疫性膵炎臨床診断基準2018 自己免疫性膵炎臨床診断基準2011改訂版. 膵臓, 33: 902-913, 2018
- 042 奥野のぞみ, 水野伸匡, 桑原崇通, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原 和生 : EUS-CDSにおける粘膜二重穿刺の予防と対処. 消化器・肝臓内科, 4: 465-469, 2018
- 043 奥野のぞみ, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 丹羽康正 : 消化管粘膜下腫瘍のEUS診断EUS-FNAを含めて. 胃と腸, 53: 1756-1767, 2018
- 044 水野伸匡, 原 和生 : 病理と基礎 膵神経内分泌腫瘍の遺伝子異常. 肝・胆・膵, 78: 33-38, 2019
- 045 桑原崇通 : 悪性腫瘍の化学療法 膵臓がん. Medicina, 56: 140-142, 2019

- 046 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 小畑雅寛, 栗田裕介, 孝田博輝, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 丹羽康正: 胆道癌の危険因子と予防対策. 消化器・肝臓内科, 5: 222-231, 2019
- 047 水野伸匡, 原 和生: 神経内分泌腫瘍の薬物療法-新規薬剤の開発と動向. 腫瘍内科, 23: 250-255, 2019
- 048 水野伸匡: 膵癌における二次治療の最新情報. 医学のあゆみ, 268: 927-932, 2019
- 049 原 和生: EUS下胆道ドレナージ-ここに注意-. 消化器内視鏡, 31: 522-527, 2019

## 内視鏡部

- 001 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Iwaya H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Obata M, Yasuda M, Kurita Y, Tanaka H, Niwa Y*: Infectious peritonitis after endoscopic ultrasound-guided biliary drainage in a patient with ascites. *Gastrointestinal Intervention*, 7: 40-43, 2018
- 002 *Iwata Y, Ito S, Misawa K, Ito Y, Komori K, Abe T, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Yoshida K, Kinoshita T*: Incidence and treatment of metachronous gastric cancer after proximal gastrectomy. *Surg Today*, 48: 552-557, 2018
- 003 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Iwaya H, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Niwa Y*: Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metal stent during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy as a primary biliary drainage for the cases estimated difficult endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A prospective clinical study. *J Gastroenterol Hepatol*, 33: 1413-1421, 2018
- 004 *Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y, Hara K*: A Rare Case of Ampullary Goblet Cell Carcinoid. *Intern Med*, 57: 2489-2496, 2018
- 005 *Yasuda M, Hara K, Kurita Y, Tanaka H, Obata M, Kuraoka N, Matsumoto S, Ito A, Iwaya H, Toriyama K, Okuno N, Kuwahara T, Hijioka S, Mizuno N, Onishi S, Hirayama Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y*: A Novel Method of Diagnosing Aberrant Pancreas: Needle-based Confocal Laser Endomicroscopy. *Intern Med*, 57: 2827-2831, 2018
- 006 *Sugiyama K, Narita Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K*: Baseline Sarcopenia and Skeletal Muscle Loss During Chemotherapy Affect Survival Outcomes in Metastatic Gastric Cancer. *Anticancer Res*, 38: 5859-5866, 2018
- 007 *Ishioka K, Masaoka H, Ito H, Oze I, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Nakamura S, Matsuo K*: Association between ALDH2 and ADH1B polymorphisms, alcohol drinking and gastric cancer: a replication and mediation analysis. *Gastric Cancer*, 21, 38: 936-945, 2018
- 008 *Masuishi T, Taniguchi H, Eto T, Komori A, Mitani S, Hasegawa H, Narita Y, Ishihara M, Tanaka T, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Nomura M, Sato Y, Mishima H, Muro K*: Morphologic Response and Tumor Shrinkage as Early Predictive Markers in Unresectable Colorectal Liver Metastases. *Anticancer Res*, 38: 6501-6506, 2018
- 009 *Shah MA, Kojima T, Hochhauser D, Enzinger P, Raimbourg J, Hollebecque A, Lordick F, Kim SB, Tajika M, Kim HT, Lockhart AC, Arkenau HT, El-Hajji F, Gupta M, Pfeiffer P, Liu Q, Lunceford J, Kang SP, Bhagia P, Kato K*: Efficacy and Safety of Pembrolizumab for Heavily Pretreated Patients With Advanced, Metastatic Adenocarcinoma or Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus: The Phase 2 KEYNOTE-180 Study. *JAMA Oncol*, 2018
- 010 *Maeda A, Irie K, Ando H, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Aoki M, Inaguma K, Kajita M, Fujimura A, Fukushima S*: Associations among regorafenib concentrations, severe adverse reactions, and ABCG2 and OATP1B1 polymorphisms. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83: 107-113, 2019
- 011 *Polmanee P, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Okuno N, Iwaya H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Bhanthomkomol P, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Niwa Y*: Outcomes of EUS-FNA in patients receiving antithrombotic therapy. *Endosc Int Open*, 7: E15-E25, 2019
- 012 *Mitani S, Taniguchi H, Sugiyama K, Masuishi T, Honda K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Yatabe Y, Muro K*: The impact of the Glasgow Prognostic Score on survival in second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer patients with BRAF V600E mutation. *Ther Adv Med Oncol*, 2019
- 013 *Hashimoto N, Mitani S, Taniguchi H, Narita Y, Kato K, Masuishi T, Kadowaki S, Onishi S, Tajika M, Takahashi S, Shimomura K, Takahata C, Hotta E, Kobara M, Muro K*: A Prospective Trial Evaluating the Safety of a Shortened Infusion of Ramucirumab in Patients with Gastrointestinal Cancer. *Oncologist*, 24: 159-e66, 2019
- 014 *Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Toriyama K, Kurita Y, Obata M, Koide Y,*

- Hasegawa Y, Hara K, Niwa Y* : Superficial Esophageal Cancer in a Fanconi Anemia Patient That Was Treated Successfully by Endoscopic Submucosal Resection. *Intern Med*, 58: 529-533, 2019
- 015 *Iwaya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polamane P, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Tamada K, Ido A, Hara K* : Usefulness of septal thickness measurement on endoscopic ultrasound as a predictor of malignancy of branched-duct and mixed-type intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Dig Endosc*, 2019
- 016 栗田裕介, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 孝田博輝, 小畑雅寛, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正 : 膵癌の早期画像診断 EUSおよびEUS-FNAの有用性. *胆と膵*, 39: 805-812, 2018
- 017 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 原 和生, 丹羽康正 : 消化器全般におよぶもの 膵・消化管神経内分泌腫瘍 (NET) 診療ガイドライン WHO分類2017を含めて. *消化器内視鏡*, 30: 1272-1279, 2018
- 018 奥野のぞみ, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 丹羽康正 : 消化管粘膜下腫瘍のEUS診断 EUS-FNAを含めて. *胃と腸*, 53: 1756-1767, 2018
- 019 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 小畑雅寛, 栗田裕介, 孝田博輝, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 丹羽康正 : 胆道癌の危険因子と予防対策. *癌の臨床*, 64: 235-242, 2019
- 2018.
- 005 *Kuroda H, Sugita Y, Ohya Y, Yoshida T, Arimura T, Sakakura N, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y* : Importance of avoiding surgery delays after initial discovery of suspected non-small-cell lung cancer in clinical stage IA patients. *Cancer Manag Res*, 11: 107-115, 2018.
- 006 *Oya Y, Yoshida T, Uemura T, Murakami Y, Inaba Y, Hida T* : Serum ProGRP and NSE levels predicting small cell lung cancer transformation in a patient with-ALK rearrangement-positive non-small cell lung cancer: A case report. *Oncol Lett*, 16: 4219-4222, 2018.
- 007 *Furuta H, Uemura T, Yoshida T, Kobara M, Yamaguchi T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y, Hida T* : Efficacy and Safety Data of Osimertinib in Elderly Patients with NSCLC Who Harbor the EGFR790M Mutation After Failure of Initial EGFR-TKI Treatment. *Anticancer Res*, 38: 5231-5237, 2018.
- 008 *Seto K, Kuroda H, Yoshida T, Sakata S, Mizuno T, Sakakura N, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y* : Higher frequency of occult lymph node metastasis in clinical N0 pulmonary adenocarcinoma with ALKrearrangement. *Cancer Manag Res*, 10: 2117-2124, 2018.
- 009 *Furuta H, Yoshida T, Natsume A, Hida T, Yatabe Y* : Inflammation Flare and Radiation Necrosis Around a Stereotactic Radiotherapy-Pretreated Brain Metastasis Site After Nivolumab Treatment. *J Thorac Oncol*, 13: 1975-1978, 2018.
- 010 *Hida T, Seto T, Horinouchi H, Maemondo M, Takeda M, Hotta K, Hirai F, Kim YH, Matsumoto S, Ito M, Ayukawa K, Tokushige K, Yonemura M, Mitsudomi T, Nishio M* : Phase II study of ceritinib in alec-tinib-pretreated patients with anaplastic lymphoma kinase-rearranged metastatic non-small-cell lung cancer in Japan: ASCEND-9. *Cancer Sci*, 109(9): 2863-2872, 2018.
- 011 *Uemura T, Hida T* : Durvalumab showed long and durable effects after chemoradiotherapy in stage III non-small cell lung cancer: results of the PACIFIC study. *J Thorac Dis*, 10(Suppl 9): S1108-S1112, 2018.
- 012 *Azuma K, Nishio M, Hayashi H, Kiura K, Satouchi M, Sugawara S, Hida T, Iwamoto Y, Inoue A, Takeda K, Ikeda S, Nakagawa T, Takeda K, Asahina S, Komatsu K, Morita S, Fukuoka M, Nakagawa K* : ASP8273 tolerability and antitumor activity in tyrosine kinase inhibitor-naïve Japanese patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer. *Cancer Sci*, 109(8): 2532-2538, 2018.
- 013 *Fehrenbacher L, von Pawel J, Park K, Rittmeyer A, Gandara DR, Ponce Aix S, Han JY, Gadgeel SM, Hida T, Cortinovis DL, Cobo M, Kowalski DM, De Marinis F, Gandhi M, Danner B, Matheny C, Kowanetz M, He P, Felizzi F, Patel H, Sandler A, Ball-*

## 呼吸器内科部

- 001 *Yamaguchi T, Shimizu J, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Yatabe Y, Hida T* : Pre-existing pulmonary fibrosis is a risk factor for anti-PD-1-related pneumonitis in patients with non-small cell lung cancer: A retrospective analysis. *Lung Cancer*, 125: 212-217, 2018.
- 002 *Dejima H, Nakanishi H, Kuroda H, Yoshimura M, Sakakura N, Ueda N, Ohta Y, Tanaka R, Mori S, Yoshida T, Hida T, Sawabata N, Yatabe Y, Sakao Y* : Detection of abundant megakaryocytes in pulmonary artery blood in lung cancer patients using a microfluidic platform. *Lung Cancer*, 125: 128-135, 2018.
- 003 *Uemura T, Hida T* : Liquid biopsy for tumor mutational burden predicts the effectiveness of atezolizumab in non-small cell lung cancer treatment. *Precis Cancer Med*, 1: 21, 2018.
- 004 *Hida T* : Nivolumab for the treatment of Japanese patients with advanced metastatic non-small cell lung cancer: a review of clinical trial evidence for efficacy and safety. *Ther Adv Respir Dis*, 12: 1753466618801167,



- inger M, Barlesi F* : Updated Efficacy Analysis Including Secondary Population Results for OAK: A Randomized Phase III Study of Atezolizumab versus Docetaxel in Patients with Previously Treated Advanced Non-Small Cell Lung Cancer. *J Thorac Oncol*, 13 (8): 1156-1170, 2018.
- 014 *Akamatsu H, Katakami N, Okamoto I, Kato T, Kim YH, Imamura F, Shinkai M, Hodge RA, Uchida H, Hida T* : Osimertinib in Japanese patients with EGFR T790M mutation-positive advanced non-small-cell lung cancer: AURA3 trial. *Cancer Sci*, 109(6): 1930-1938, 2018.
- 015 *Hida T, Kaji R, Satouchi M, Ikeda N, Horiike A, Nokihara H, Seto T, Kawakami T, Nakagawa S, Kubo T* : Atezolizumab in Japanese Patients With Previously Treated Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer: A Subgroup Analysis of the Phase 3 OAK Study. *Clin Lung Cancer*, 19(4): e405-e415, 2018.
- 016 *Nishio M, Satouchi M, Horiike A, Horio Y, Sunaga Y, Ecstein-Fraisse E, Hida T* : Phase 1 study of ombrabulin in combination with docetaxel and cisplatin in Japanese patients with advanced solid tumors. *Jpn J Clin Oncol*, 48(4): 322-328, 2018.
- 017 *Kiura K, Imamura F, Kagamu H, Matsumoto S, Hida T, Nakagawa K, Satouchi M, Okamoto I, Takenoyama M, Fujisaka Y, Kurata T, Ito M, Tokushige K, Hatano B, Nishio M* : Phase 3 study of ceritinib vs chemotherapy in ALK-rearranged NSCLC patients previously treated with chemotherapy and crizotinib (ASCEND-5): Japanese subset. *Jpn J Clin Oncol*, 48(4): 367-375, 2018.
- 018 *Uemura T, Hida T* : Additive effects of atezolizumab and bevacizumab plus chemotherapy for patients with non-small cell lung cancer regardless of presence EGFR mutations, ALK rearrangements, or PD-L1 expression. *Transl Cancer Res*, 7(Suppl 7): S796-S801, 2018.
- 019 *Dejima H, Kuroda H, Oya Y, Sakakura N, Inaba Y, Tamaki T, Yatabe Y, Sakao Y* : Evaluation of lobar lymph node metastasis in non-small cell lung carcinoma using modified total lesion glycolysis. *J Thorac Dis*, 10 (12): 6932-6941, 2018.
- 020 *Kondoh C, Horio Y, Hayashi Y, Ebi H, Hida T, Hasegawa Y, Yatabe Y* : Anaplastic lymphoma kinase expression in small-cell lung cancer. *Histopathology*, 75 (1): 20-28, 2019.
- 021 *Kuraoka N, Hara K, Terai S, Yatabe Y, Horio Y* : Peroral cholangioscopy of nivolumab-related (induced) ulcerative cholangitis in a patient with non-small cell lung cancer. *Endoscopy*, 50(9): E259-E261, 2018.
- 022 *Halmos B, Tan EH, Soo RA, Cadranel J, Lee M, Foucher P, Hsia TC, Hochmair M, Griesinger F, Hida T, Kim E, Melosky B, Märten A, Carcereny E* : Impact of Afatinib Dose Modification on Safety and Effectiveness in Patients with EGFR Mutation-Positive Advanced NSCLC: Results from a Global Real-World Study (RealGiDo). *Lung Cancer*, 127: 103-111, 2019.
- 023 *Park K, Bennouna J, Boyer M, Hida T, Hirsh V, Kato T, Lu S, Mok T, Nakagawa K, O'Byrne K, Paz-Ares L, Schuler M, Sibilot DM, Tan EH, Tanaka H, Wu YL, Yang JCH, Zhang Li, Zhou C, M'arten A, Tang W, Yamamoto N* : Sequencing of therapy following first-line afatinib in patients with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer. *Lung Cancer*, 132: 126-131, 2019.
- 024 *Ahn MJ, Tsai CM, Shepherd FA, Bazhenova L, Sequist LV, Hida T, Yang JCH, Ramalingam SS, Mitsudomi T, Janne PA, Mann H, Cantarini M, Goss G* : Osimertinib in patients with T790M mutation-positive advanced non-small cell lung cancer: Long-term follow-up from a pooled analysis of two phase 2 studies. *Cancer*, 125: 892-901, 2019.
- 025 *Katsuya Y, Horinouchi H, Seto T, Umemura S, Hosomi Y, Satouchi M, Nishio M, Kozuki T, Hida T, Sukigara T, Nakamura K, Kuchiba A, Ohe Y* : Single-arm, multi-center, phase II trial of nivolumab for unresectable or recurrent thymic carcinoma: PRIMER study. *Eur J Cancer*, 113: 78-86, 2019.
- 026 *Nakanishi K, Mizuno T, Arimura T, Sakakura N, Kuroda H, Shimizu J, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y* : Salvage surgery for small cell lung cancer after chemoradiotherapy. *Jpn J Clin Oncol*, 49: 389-392, 2019.
- 027 *von Pawel J, Bordoni R, Satouchi M, Fehrenbacher L, Cobo M, Han JY, Hida T, Moro-Sibilot D, Conkling P, Gandara DR, Rittmeyer A, Gandhi M, Yu W, Matheny C, Patel H, Sandler A, Ballinger M, Kowanetz M, Park K* : Long-term survival in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with atezolizumab vs docetaxel : results from the randomized phase III OAK study. *Eur J Cancer*, 107: 124-132, 2019.
- 028 清水淳市 : クリニカルシーケンスの実際 肺がん(解説/特集). *病理と臨床*, 36(7): 685-688, 2018.
- 029 堀尾芳嗣 : 肺癌手術例の遺伝子変異とCT画像 : oncogenic driver 遺伝子変異を読み取ることができるか?. *呼吸臨床*, 2(8): e00051, 2018.
- 030 堀尾芳嗣 : KRAS変異陽性肺がんの薬物療法は開発されるか?(総説). *肺癌*, 58(7): 953-958, 2018.

## 血液・細胞療法部

- 001 *Kato H, Kato K, et al.* : Clinical outcomes of hepatitis B or C virus infections in patients with malignant lymphoma receiving autologous stem cell transplantation:

- on behalf of the Adult Lymphoma Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT). *Br J Haematol*. 2019, [in-press].
- 002 **Takeshita A, Asou N, Atsuta Y, Sakura T, Ueda Y, Sawa M, Dobashi N, Taniguchi Y, Suzuki R, Nakagawa M, Tamaki S, Hagihara M, Fujimaki K, Furumaki H, Obata Y, Fujita H, Yanada M, Maeda Y, Usui N, Kobayashi Y, Kiyoi H, Ohtake S, Matsumura I, Naoe T, Miyazaki Y** : Tamibarotene maintenance improved relapse-free survival of acute promyelocytic leukemia: a final result of prospective, randomized, JALSG-APL204 study. *Leukemia*. 2019; 33: 358-370.
- 003 **Konuma T, Yanada M, Yamasaki S, Kuwatsuka Y, Fukuda T, Kobayashi T, Ozawa Y, Uchida N, Ota S, Hoshino T, Takahashi S, Kanda Y, Ueda Y, Takahashi M, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation for adult acute myeloid leukaemia in second remission: a retrospective study of the Adult Acute Myeloid Leukaemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT). *Br J Haematol*. 2018; 182: 245-250.
- 004 **Abe A, Yamamoto Y, Katsumi A, Okamoto A, Tokuda M, Inaguma Y, Yamamoto K, Yanada M, Kanie T, Tomita A, Akatsuka Y, Okamoto M, Kamayama T, Mayeda A, Emi N** : Rearrangement of VPS13B, a causative gene of Cohen syndrome, in a case of RUNX1-RUNX1T1 leukemia with t(8;12;21). *Int J Hematol*. 2018; 108: 208-212.
- 005 **Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, Miyamoto K, Maruyama D, Yamamoto K, Takatsuka Y, Kusumoto S, Kuroda J, Ando K, Kikukawa Y, Masaki Y, Kobayashi M, Hanamura I, Asai H, Nagai H, Shimada K, Tsukamoto N, Inoue Y, Tobinai K** : Bortezomib plus dexamethasone vs thalidomide plus dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma. *Cancer Sci*, 109: 1552-1561, 2018.
- 006 **Ogura M, Yamamoto K, Morishima Y, Wakabayashi M, Tobinai K, Ando K, Uike N, Kurosawa M, Gomyo H, Taniwaki M, Nosaka K, Tsukamoto N, Shimoyama T, Fukuhara N, Yakushijin Y, Ohnishi K, Miyazaki K, Sawada K, Takayama N, Hanamura I, Nagai H, Kobayashi H, Usuki K, Kobayashi N, Ohyashiki K, Utsumi T, Kumagai K, Maruyama D, Ohmachi K, Matsuno Y, Nakamura S, Hotta T, Tsukasaki K** : Japan Clinical Oncology Group- Lymphoma Study Group (JCOG-LSG): R-High-CHOP/CHASER/LEED with autologous stem cell transplantation in newly diagnosed mantle cell lymphoma: JCOG0406 STUDY. *Cancer Sci*, 109: 2830-2840, 2018.
- 007 **Ohara A, Furui T, Shimizu C, Ozono S, Yamamoto K, Kawai A, Tatara R, Higuchi A, Horibe K** : Current situation of cancer among adolescents and young adults in Japan. *Int J Clin Oncol*, 23: 1201-1211, 2018 (Correction: *Int J Clin Oncol*, 23: 1212-1216, 2018).
- 008 **Ishida T, Jo T, Takemoto S, Suzushima H, Suehiro Y, Choi I, Yoshimitsu M, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Kobayashi Y, Yamamoto K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Imada K, Kato K, Moriuchi Y, Yoshimura K, Takahashi T, Tobinai K, Ueda R** : Follow-up of a randomised phase II study of chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma: impact on allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Br J Haematol*, 184: 479-483, 2019.
- 009 **Itonaga H, Ota S, Ikeda T, Taji H, Amano I, Hasegawa Y, Ichinohe T, Fukuda T, Atsuta Y, Tanizawa A, Kondo T, Miyazaki Y** : Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for the treatment of BCR-ABL1-negative atypical chronic myeloid leukemia and chronic neutrophil leukemia: A retrospective nationwide study in Japan. *Leuk Res*. 2018 Dec; 75: 50-57
- 010 **Yamasaki S, Chihara D, Kim SW, Kawata T, Mizuta S, Ago H, Chou T, Yamane T, Uchiyama H, Oyake T, Miura K, Saito B, Taji H, Nakamae H, Miyamoto T, Fukuda T, Kanda J, Atsuta Y, Suzuki R** : Risk factors and timing of autologous stem cell transplantation for patients with peripheral T-cell lymphoma. *Int J Hematol*. 2019 Feb; 109(2): 175-186
- 012 **古井辰郎, 高井 泰, 木村文則, 北島道夫, 中塚幹也, 森重健一郎, 山本一仁, 橋本大哉, 松本公一, 大園誠一郎, 堀部敬三, 鈴木 直** : 本邦におけるAYA世代がん患者に対する妊孕性に関する支援体制 がん専門医調査の結果より. *癌と化学療法*, 45:841-846, 2018.
- 013 **古川勝也, 山本一仁** : 【リンパ系腫瘍の治療開発で明らかになったことと今後の課題】 未治療マンテル細胞リンパ腫に対する標準導入療法と今後の課題. *血液内科*, 76:732-737, 2018.
- 014 **古川勝也, 山本一仁** : 【診断と治療のABC [133] 悪性リンパ腫】 (第4章)管理・治療 組織型別の経過・予後. 最新医学別冊悪性リンパ, 177-186, 2018.
- 015 **山本一仁** : 【期待される新薬-分子標的治療薬の効果と副作用】 小分子薬 ポナチニブ(BCR-ABL TKI). *腫瘍内科*, 21: 713-717, 2018.
- 016 **山本一仁** : 【リンパ系腫瘍に対する新薬開発状況と今後の展開2018】 B細胞リンパ腫に対する抗CD79b抗体薬物複合体 polatuzumab vedotinの開発状況と今後の課題. *血液内科*, 77:468-473, 2018.

## 薬物療法部

- 001 **Muro K, Cho JY, Bodoky G, Goswami C, Chao Y, Dos Santos LV, Shimada Y, Topuzov E, Van Cutsem E, Tabernero J, Zalcborg J, Chau I, Cascinu S, Cheng R, Hsu Y, Emig M, Orlando M, Fuchs C** : Age does not influence efficacy of ramucirumab in advanced gastric cancer: subgroup analyses of REGARD and RAINBOW. *J Gastroenterol Hepatol*, 33(4): 814-824, 2018.
- 002 **Hara H, Kadowaki S, Asayama M, Ooki A, Yamada T, Yoshii T, Yamaguchi K** : First-line bolus 5-fluorouracil plus leucovorin for peritoneally disseminated gastric cancer with massive ascites or inadequate oral intake. *Int J Clin Oncol*, 23(2): 275-280, 2018.
- 003 **Corcoran RB, André T, Atreya CE, Schellens JHM, Yoshino T, Bendell JC, Hollebecque A, McRee AJ, Siena S, Middleton G, Muro K, Gordon MS, Tabernero J, Yaeger R, O'Dwyer PJ, Humblet Y, De Vos F, Jung AS, Brase JC, Jaeger S, Bettinger S, Mookerjee B, Rangwala F, Van Cutsem E** : Combined BRAF, EGFR, and MEK Inhibition in Patients with BRAFV600E-Mutant Colorectal Cancer. *Apr*; 8(4): 428-443C, 2018.
- 004 **Tahara M, Kiyota N, Yokota T, Hasegawa Y, Muro K, Takahashi S, Onoe T, Homma A, Taguchi J, Suzuki M, Minato K, Yane K, Ueda S, Hara H, Saijo K, Yamanaka T** : Phase II trial of combination treatment with paclitaxel, carboplatin and cetuximab (PCE) as first-line treatment in patients with recurrent and/or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (CSPOR-HN02). *Ann Onco*, 29(4): 1004-1009, 2018.
- 005 **Grothey A, Yoshino T, Bodoky G, Ciuleanu T, Garcia-Carbonero R, García-Alfonso P, Van Cutsem E, Muro K, Mytelka DS, Li L, Lipkovich O, Hsu Y, Sashegyi A, Ferry D, Nasroulah F, Tabernero J** : Association of baseline absolute neutrophil counts and survival in patients with metastatic colorectal cancer treated with second-line antiangiogenic therapies: exploratory analyses of the RAISE trial and validation in an electronic medical record data set. *ESMO Open*, 3(3): e000347, 2018.
- 006 **Xu RH, Muro K, Morita S, Iwasa S, Han SW, Wang W, Kotaka M, Nakamura M, Ahn JB, Deng YH, Kato T, Cho SH, Ba Y, Matsuoka H, Lee KW, Zhang T, Yamada Y, Sakamoto J, Park YS, Kim TW** : Modified XELIRI (capecitabine plus irinotecan) versus FOLFIRI (leucovorin, fluorouracil, and irinotecan), both either with or without bevacizumab, as second-line therapy for metastatic colorectal cancer (AX-EPT): a multicentre, open-label, randomised, non-inferiority, phase 3 trial. *Lancet Oncol*, 19(5): 660-671, 2018.
- 007 **Masuishi T, Taniguchi H, Sugiyama K, Kato K, Mitani S, Honda K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Muro K** : Eribulin in BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer: Case series and potential rationale. *Ann Oncol*, 29(5): 1330-1331, 2018.
- 008 **Fuchs CS, Doi T, Jang RW, Muro K, Satoh T, Machado M, Sun W, Jalal SI, Shah MA, Metges JP, Garrido M, Golan T, Mandala M, Wainberg ZA, Catenacci DV, Ohtsu A, Shitara K, Geva R, Bleeker J, Ko AH, Ku G, Philip P, Enzinger PC, Bang YJ, Levitan D, Wang J, Rosales M, Dalal RP, Yoon HH** : Safety and Efficacy of Pembrolizumab Monotherapy in Patients With Previously Treated Advanced Gastric and Gastroesophageal Junction Cancer: Phase 2 Clinical KEYNOTE-059 Trial. *JAMA Oncol*, 4(5): e180013, 2018.
- 009 **Kimura Y, Fujii M, Masuishi T, Nishikawa K, Kunisaki C, Matsusaka S, Segawa Y, Nakamura M, Sasaki K, Nagao N, Hatachi Y, Yuasa Y, Asami S, Takeuchi M, Furukawa H, Nakajima T: JACCRO GC-06 Study Group** : Correction to: Multicenter phase II study of trastuzumab plus S-1 alone in elderly patients with HER2-positive advanced gastric cancer (JACCRO GC-06). *Gastric Cancer*, 21(3): 428, 2018.
- 010 **Sato Y, Inaba Y, Ura T, Nishiofuku H, Yamaura H, Kato M, Takahari D, Tanaka T, Muro K** : Outcomes of a Phase I/II Trial of Hepatic Arterial Infusion of Oxaliplatin Combined with Intravenous 5-Fluorouracil and L-Leucovorin in Patients with Unresectable Liver Metastases from Colorectal Cancer After Systemic Chemotherapy Failure. *J Gastrointest Cancer*, 49(2): 132-137, 2018.
- 011 **Oki E, Kato T, Bando H, Yoshino T, Muro K, Taniguchi H, Kagawa Y, Yamazaki K, Yamaguchi T, Tsuji A, Iwamoto S, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Sakisaka H, Yamanaka T, Kanazawa A** : A Multicenter Clinical Phase II Study of FOLFOXIRI Plus Bevacizumab as First-line Therapy in Patients With Metastatic Colorectal Cancer: QUATTRO Study. *Clin Colorectal Cancer*, 17(2): 147-155, 2018.
- 012 **Yamazaki K, Taniguchi H, Yoshino T, Akagi K, Ishida H, Ebi H, Nakatani K, Muro K, Yatabe Y, Yamaguchi K, Tsuchihara K** : Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines: Molecular Testing for Colorectal Cancer Treatment, Third Edition. *Cancer Sci*, 109(6): 2074-2079, 2018.
- 013 **Yen CJ, Muro K, Kim TW, Kudo M, Shih JY, Lee KW, Chao Y, Kim SW, Yamazaki K, Sohn J, Cheng R, Zhang Y, Binder P, Mi G, Orlando M, Chung**



- HC* : Ramucirumab Safety in East Asian Patients: A Meta-Analysis of Six Global, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Phase III Clinical Trials. *J Glob Oncol*, (4): 1-12, 2018.
- 014 *Tachimori Y, Ozawa S, Numasaki H, Ishihara R, Matsubara H, Muro K, Oyama T, Toh Y, Udagawa H, Uno T* : Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society : Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2011. *Esophagus*, 15(3): 127-152, 2018.
- 015 *Mehra R, Seiwert TY, Gupta S, Weiss J, Gluck I, Eder JP, Burtness B, Tahara M, Keam B, Kang H, Muro K, Geva R, Chung HC, Lin CC, Aurora-Garg D, Ray A, Pathiraja K, Cheng J, Chow LQM, Haddad R* : Efficacy and safety of pembrolizumab in recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma: pooled analyses after long-term follow-up in KEYNOTE-012. *Br J Cancer*, 119(2): 153-159, 2018.
- 016 *Honda K, Gyawali B, Ando M, Sugiyama K, Mitani S, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K* : A prospective survey of comprehensive score for financial toxicity in Japanese cancer patients: report on a pilot study. *Ecancermedalscience*, 12: 847, 2018.
- 017 *Shitara K, Özgüroğlu M, Bang YJ, Bartolomeo MD, Mandalà M, Ryu MH, Fornaro L, Olesiński T, Caglevic C, Chung HC, Muro K, Goekkurt E, Mansoor W, McDermott RS, Shacham-Shmueli E, Chen X, Mayo C, Kang SP, Ohtsu A, Fuchs CS* : Pembrolizumab versus paclitaxel for previously treated, advanced gastric or gastro-oesophageal junction cancer (KEYNOTE-061): a randomised, open-label, controlled, phase 3 trial. KEYNOTE-061 investigators. *Lancet*, 392(10142): 123-133, 2018.
- 018 *Taniguchi H, Baba Y, Sagiya Y, Gotou M, Nakamura K, Sawada H, Yamanaka K, Sakakibara Y, Mori I, Hikichi Y, Soeda J, Baba H. Van Cutsem* : Biologic Response of Colorectal Cancer Xenograft Tumors to Sequential Treatment with Panitumumab and Bevacizumab. *Neoplasia*, 20(7): 668-677, 2018.
- 019 *Ishigami H, Fujiwara Y, Fukushima R, Nashimoto A, Yabusaki H, Imano M, Imamoto H, Kodera Y, Uenosono Y, Amagai K, Kadowaki S, Miwa H, Yamaguchi H, Yamaguchi T, Miyaji T, Kitayama J* : Phase III Trial Comparing Intraperitoneal and Intravenous Paclitaxel Plus S-1 Versus Cisplatin Plus S-1 in Patients With Gastric Cancer With Peritoneal Metastasis: PHOENIX-GC Trial. *J Clin Oncol*, 36(19): 1922-1929, 2018.
- 020 *Yoshino T, Oki E, Nozawa H, Eguchi-Nakajima T, Taniguchi H, Morita S, Takenaka N, Ozawa D, Shirao K* : Rationale and design of the TRUSTY study: a randomised, multicentre, open-label phase II/III study of trifluridine/tipiracil plus bevacizumab versus irinotecan, fluoropyrimidine plus bevacizumab as second-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer progressive during or following first-line oxaliplatin-based chemotherapy. *ESMO Open* 3(5): e000411, 2018.
- 021 *Makiyama A, Kunieda K, Noguchi M, Kajiwara T, Tamura T, Takeda K, Sugiyama J, Minashi K, Moriwaki T, Sugimoto N, Nagase M, Negoro Y, Tsuda T, Shimodaira H, Okano N, Tsuji A, Sakai D, Yanagihara K, Ueda S, Tamura S, Otsu S, Honda T, Matsushita Y, Okuno T, Kashiwada T, Nozaki A, Ebi M, Okuda H, Shimokawa M, Hironaka S, Hyodo I, Baba E, Boku N, Muro K, Esaki T* : First-line chemotherapy with S-1 alone or S-1 plus cisplatin for elderly patients with advanced gastric cancer: a multicenter propensity score matched study. *Gastric Cancer*, 21(5): 792-801, 2018.
- 022 *Van Cutsem E, Yoshino T, Lenz HJ, Lonardi S, Falcone A, Limón ML, Saunders M, Sobrero A, Park YS, Ferreiro R, Hong YS, Tomasek J, Taniguchi H, Ciardiello F, Stoehr J, Oum'Hamed Z, Vlassak S, Studeny M, Argiles G* : Nintedanib for the treatment of patients with refractory metastatic colorectal cancer (LUME-Colon 1): a phase III, international, randomized, placebo-controlled study. 512. *Ann Oncol*, 29(9): 1955-1963, 2018.
- 023 *Tachimori Y, Ozawa S, Numasaki H, Ishihara R, Matsubara H, Muro K, Oyama T, Toh Y, Udagawa H, Uno T* : Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society. Correction to: Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2011. *Esophagus*, 15(4): 304-305, 2018.
- 024 *Hasegawa H, Ando M, Yatabe Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K* : Site-specific Chemotherapy Based on Predicted Primary Site by Pathological Profile for Carcinoma of Unknown Primary Site. *Clin Oncol (R Coll Radiol)*, 30(10): 667-673, 2018.
- 025 *Kojima T, Yamazaki K, Kato K, Muro K, Hara H, Chin K, Goddemeier T, Kuffel S, Watanabe M, Doi T* : Phase I dose-escalation trial of Sym004, an anti-EGFR antibody mixture, in Japanese patients with advanced solid tumors. *Cancer Sci*, 109(10): 3253-3262, 2018.
- 026 *Sugiyama K, Narita Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K* : Baseline Sarcopenia and Skeletal Muscle Loss During Chemotherapy Affect Survival Outcomes in Metastatic Gastric Cancer. *Anticancer Res*, 38(10): 5859-5866, 2018.
- 027 *Kondoh C, Kadowaki S, Komori A, Narita Y, Tan-*

- iguchi I, Ura T, Ando M, Muro K* : Salvage chemotherapy with the combination of oxaliplatin, leucovorin, and 5-fluorouracil in advanced gastric cancer refractory or intolerant to fluoropyrimidines, platinum, taxanes, and irinotecan. *Gastric Cancer*, 21(6): 1050-1057, 2018.
- 028 *Masuishi T, Taniguchi H, Eto T, Komori A, Mitani S, Hasegawa H, Narita Y, Ishihara M, Tanaka T, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Nomura M, Sato Y, Mishima H, Muro K* : Morphologic Response and Tumor Shrinkage as Early Predictive Markers in Unresectable Colorectal Liver Metastases. *Anticancer Res*, 38(11): 6501-6506, 2018.
- 029 *Nishikawa D, Suzuki H, Koide Y, Beppu S, Kadowaki S, Sone M, Hanai N* : Prognostic Markers in Head and Neck Cancer Patients Treated with Nivolumab. *Cancers (Basel)*, 10(12), 2018.
- 030 *Tsuchihashi K, Ito M, Moriwaki T, Fukuoka S, Taniguchi H, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama A, Denda T, Satake H, Suto T, Sugimoto N, Katsumata K, Ishikawa T, Kashiwada T, Oki E, Komatsu Y, Okuyama H, Sakai D, Ueno H, Tamura T, Yamashita K, Kishimoto J, Shimada Y, Baba E* : Role of Predictive Value of the Modified Glasgow Prognostic Score for Later-line Chemotherapy in Patients With Metastatic Colorectal Cancer. *Clin Colorectal Cancer*, 17(4): e687-e697, 2018.
- 031 *Taniguchi H, Okamoto W, Muro K, Akagi K, Hara H, Nishina T, Kajiwara T, Denda T, Hironaka S, Kudo T, Satoh T, Yamanaka T, Abe Y, Fukushima Y, Yoshino T* : Clinical Validation of Newly Developed Multiplex Kit Using Luminex xMAP Technology for Detecting Simultaneous RAS and BRAF Mutations in Colorectal Cancer: Results of the RASKET-B Study : NEO PLASIA, Volume 20 Number 12, 1219-1226, 2018.
- 032 *Yoshino T, Yamazaki K, Shinozaki E, Komatsu Y, Nishina T, Baba H, Tsuji A, Tsuji Y, Yamaguchi K, Sugimoto N, Denda T, Muro K, Takayama T, Esaki T, Hamamoto Y, Moriwaki T, Shimada Y, Goto M, Nakayama N, Fujii H, Tanase T, Ohtsu A* : Relationship Between Thymidine Kinase 1 Expression and Trifluridine/Tipiracil Therapy in Refractory Metastatic Colorectal Cancer: A Pooled Analysis of 2 Randomized Clinical Trials. *Clin Colorectal Cancer*, 17(4): e719-e732, 2018.
- 033 *Murata S, Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Hasegawa T, Muro K, Inaba Y* : Predicting chemotherapeutic response for colorectal liver metastases using relative tumor enhancement of gadoteric acid disodium-enhanced magnetic resonance imaging. *Abdom Radiol (NY)*, 43(12): 3301-3306, 2018.
- 034 *Doi T, Iwasa S, Muro K, Satoh T, Hironaka S, Esaki T, Nishina T, Hara H, Machida N, Komatsu Y, Shimada Y, Otsu S, Shimizu S, Watanabe M* : Phase I trial of avelumab (anti-PD-L1) in Japanese patients with advanced solid tumors, including dose expansion in patients with gastric or gastroesophageal junction cancer: the JAVELIN Solid Tumor JPN trial. *Gastric Cancer*, 22(1): 155-163, 2019.
- 035 *Hayashi K, Mitani S, Taniguchi H, Yasui H, Muro K, Mori K, Gotoda T, Yamazaki K* : Panitumumab Provides Better Survival Outcomes Compared to Cetuximab for Metastatic Colorectal Cancer Patients Treated with Prior Bevacizumab within 6 Months. *Oncology*, 96(3): 132-139, 2019.
- 036 *Takashima A, Shitara K, Fujitani K, Koeda K, Hara H, Nakayama N, Hironaka S, Nishikawa K, Kimura Y, Amagai K, Fujii H, Muro K, Esaki T, Choda Y, Takano T, Chin K, Sato A, Goto M, Fukushima N, Hara T, Machida N, Ohta M, Boku N, Shimura M, Morita S, Koizumi W* : Peritoneal metastasis as a predictive factor for nab-paclitaxel in patients with pretreated advanced gastric cancer: an exploratory analysis of the phase III ABSOLUTE trial. *Gastric Cancer*, 22(1): 155-163, 2019.
- 037 *Maeda A, Irie K, Ando H, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Aoki M, Inaguma K, Kajita M, Fujimura A, Fukushima S* : Associations among regorafenib concentrations, severe adverse reactions, and ABCG2 and OATP1B1 polymorphisms. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83(1): 107-113, 2019.
- 038 *Murono K, Nagata H, Ishimaru K, Emoto S, Kaneko M, Hiyoshi M, Sasaki K, Otani K, Shuno Y, Nishikawa T, Tanaka T, Hata K, Kawai K, Nozawa H, Muro K, Ishihara S* : Safety of intraperitoneal paclitaxel combined with conventional chemotherapy for colorectal cancer with peritoneal carcinomatosis: a phase I trial. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83(1): 145-150, 2019.
- 039 *Yoshino T, Portnoy DC, Obermannová R, Bodoky G, Prausová J, Garcia-Carbonero R, Ciuleanu T, García-Alfonso P, Cohn AL, Van Cutsem E, Yamazaki K, Lonardi S, Muro K, Kim TW, Yamaguchi K, Grothey A, O'Connor J, Taieb J, Wijayawardana SR, Hozak RR, Nasroulah F, Tabernero J* : Biomarker analysis beyond angiogenesis: RAS/RAF mutation status, tumour sidedness, and second-line ramucirumab efficacy in patients with metastatic colorectal carcinoma from RAISE-a global phase III study. *Ann Oncol*, 30(1): 124-131, 2019.
- 040 *Muro K, Lordick F, Tsushima T, Pentheroudakis G, Baba E, Lu Z, Cho BC, Nor IM, Ng M, Chen LT, Kato K, Li J, Ryu MH, Zamanih WIW, Yong WP,*

- Yeh KH, Nakajima TE, Shitara K, Kawakami H, Narita Y, Yoshino T, Van Cutsem E, Martinelli E, Smyth EC, Arnold D, Minami H, Tabernero J, Douillard JY* : Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with metastatic oesophageal cancer: a JSMO-ESMO initiative endorsed by CSCO, KSMO, MOS, SSO and TOS. *Ann Oncol*, 30(1): 34-43, 2019.
- 041 *Muro K, Van Cutsem E, Narita Y, Pentheroudakis G, Baba E, Li J, Ryu MH, Zamaniah WIW, Yong WP, Yeh KH, Kato K, Lu Z, Cho BC, Nor IM, Ng M, Chen LT, Nakajima TE, Shitara K, Kawakami H, Tsushima T, Yoshino T, Lordick F, Martinelli E, Smyth EC, Arnold D, Minami H, Tabernero J, Douillard JY* : Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with metastatic gastric cancer: a JSMO-ESMO initiative endorsed by CSCO, KSMO, MOS, SSO and TOS. *Ann Oncol*, 30(1): 19-33, 2019.
- 042 *Mitani S, Taniguchi H, Sugiyama K, Masuishi T, Honda K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Yatabe Y, Muro K* : The impact of the Glasgow Prognostic Score on survival in second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer patients with BRAF V600E mutation. *Ther Adv Med Oncol*, eCollection 2019, 2019.
- 043 *Hashimoto N, Mitani S, Taniguchi H, Narita Y, Kato K, Masuishi T, Kadowaki S, Onishi S, Tajika M, Takahashi S, Shimomura K, Takahata C, Hotta E, Kobara M, Muro K* : A Prospective Trial Evaluating the Safety of a Shortened Infusion of Ramucirumab in Patients with Gastrointestinal Cancer. *Oncologist*, 24(2): 159-e66, 2019.
- 044 *Maeda H, Nagata N, Nagasaka T, Oba K, Mishima H, Kato T, Yoshida K, Muro K, Sakamoto J* : A multicenter single-arm Phase II clinical trial of second-line FOLFIRI plus panitumumab after first-line treatment with FOLFOX plus panitumumab for initial RAS wild-type colorectal cancer with evaluation of circulating tumor DNA: A protocol study. *Oncol Lett*, 17(2): 1980-1985, 2019.
- 045 *Fujita Y, Taguri M, Yamazaki K, Tsurutani J, Sakai K, Tsushima T, Nagase M, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T, Tsuji Y, Murata K, Taira K, Denda T, Moriwaki T, Funai S, Nakajima TE, Muro K, Tsuji A, Yoshida M, Suyama K, Kurimoto T, Sugimoto N, Baba E, Seki N, Sato M, Shimura T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Nishio K* : aCGH Analysis of Predictive Biomarkers for Response to Bevacizumab plus Oxaliplatin- or Irinotecan-Based Chemotherapy in Patients with Metastatic Colorectal Cancer. *Oncologist*, 24(3): 327-337, 2019.
- 046 *Kato K, Satoh T, Muro K, Yoshikawa T, Tamura T, Hamamoto Y, Chin K, Minashi K, Tsuda M, Yamaguchi K, Machida N, Esaki T, Goto M, Komatsu Y, Nakajima TE, Sugimoto N, Yoshida K, Oki E, Nishina T, Tsuji A, Fujii H, Kunieda K, Saitoh S, Omuro Y, Azuma M, Iwamoto Y, Taku K, Fushida S, Chen LT, Kang YK, Boku N* : A subanalysis of Japanese patients in a randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial of nivolumab for patients with advanced gastric or gastro-esophageal junction cancer refractory to, or intolerant of, at least two previous chemotherapy regimens (ONO-4538-12, ATTRACTION-2). *Gastric Cancer*, 22(2): 344-354, 2019.
- 047 *Muro K, Jen MH, Cheng R* : Is ramucirumab and paclitaxel therapy beneficial for second-line treatment of metastatic gastric or junctional adenocarcinoma for patients with ascites? Analysis of RAINBOW phase 3 trial data. *Cancer Manag Res*, 11: 2261-2267, 2019.
- 048 *Harada K, Okamoto W, Mimaki S, Kawamoto Y, Bando H, Yamashita R, Yuki S, Yoshino T, Komatsu Y, Ohtsu A, Sakamoto N, Tsuchihara K* : Comparative sequence analysis of patient-matched primary colorectal cancer, metastatic, and recurrent metastatic tumors after adjuvant FOLFOX chemotherapy. *BMC Cancer*, 19(1): 255, 2019.
- 049 三谷誠一郎, 室 圭 : 2)大腸がんの各種ガイドライン(特集 ガイドライン改訂にみるがん診療の変遷 臓器別がん診療・治療ガイドライン). 腫瘍内科, 第21巻 第4号, 化学評論社 : 383-90, 2018.
- 050 室 圭(座談会) : 進行再発大腸癌の二次化学療法における分子標的治療薬の使い分け. 大腸がん perspective, Vol.4 No.1, メディカルレビュー社 : 18-26, 2018
- 051 本多和典 : がん治療に伴う“経済毒性”の評価.(がん治療とわが国の医療経済). 癌と化学療法, Vol.45 No.5 : 785-8, 2018.
- 052 成田有季哉 : 消化器癌に対する免疫チェックポイント阻害薬-現在までのエビデンスと今後の展開. 別冊・医学のあゆみ がん免疫療法の躍進 : 87-91, 2018.
- 053 三谷誠一郎, 門脇重憲, 室 圭 : 頭頸部がんに対するCetuximab(EGFR抗体)の臨床試験と適正使用. 腫瘍内科, 第22巻第4号, 化学評論社 : 374-379, 2018.
- 054 室 圭 : Current Organ Topic ~ Lower G.I./Colon and Rectum Cancer ~ 総括. 癌と化学療法, 第45巻 第11号 : 1587-8, 2018.
- 055 舩石俊樹 : Current Organ Topic ~ Lower G.I./Colon and Rectum Cancer ~ 下部消化管腫瘍-希少領域の治療-. 癌と化学療法, 第45巻 第11号 : 1594-7, 2018.
- 056 舩石俊樹 : がん薬物療法専門医のための模擬テスト104. 腫瘍内科 第22巻第5号, 化学評論社 : 594-5, 2018.
- 057 坂東英明 : 未承認抗がん薬を用いた医師主導治験-TAS-102の経験. 腫瘍内科, 第23巻第1号, 化学評論社 : 55-58, 2018.



058 成田有季哉 : KEYNOTE-061 試験と JAVELIN Gastric300 試験. がん分子標的治療, Vol.16 No.4, (419), 93-96, 2019.

#### 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Dejima H, Kuroda H, Oya Y, Sakakura N, Inaba Y, Tamaki T, Yatabe Y and Sakao Y* : Evaluation of lobar lymph node metastasis in non-small cell lung carcinoma using modified total lesion glycolysis. *J Thorac Dis*, 10: 6932-6941, 2018.
- 002 *Kuroda H, Sugita Y, Ohya Y, Yoshida T, Arimura T, Sakakura N, Hida T, Yatabe Y and Sakao Y* : Importance of avoiding surgery delays after initial discovery of suspected non-small-cell lung cancer in clinical stage IA patients. *Cancer Manag Res*, 11: 107-115, 2019.
- 003 *Yatabe Y, Dacic S, Borczuk AC, Warth A, Russell PA, Lantuejoul S, Beasley MB, Thunnissen E, Pelosi G, Rekhman N, Bubendorf L, Mino-Kenudson M, Yoshida A, Geisinger KR, Noguchi M, Chirieac LR, Bolting J, Chung JH, Chou TY, Chen G, Poleri C, Lopez-Rios F, Papotti M, Sholl LM, Roden AC, Travis WD, Hirsch FR, Kerr KM, Tsao MS, Nicholson AG, Wistuba I and Moreira AL* : Best Practices Recommendations for Diagnostic Immunohistochemistry in Lung Cancer. *J Thorac Oncol*, 14: 377-407, 2019.
- 004 *Yamaguchi T, Shimizu J, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Yatabe Y and Hida T* : Pre-existing pulmonary fibrosis is a risk factor for anti-PD-1-related pneumonitis in patients with non-small cell lung cancer: A retrospective analysis. *Lung Cancer*, 125: 212-217, 2018.
- 005 *Dejima H, Nakanishi H, Kuroda H, Yoshimura M, Sakakura N, Ueda N, Ohta Y, Tanaka R, Mori S, Yoshida T, Hida T, Sawabata N, Yatabe Y and Sakao Y* : Detection of abundant megakaryocytes in pulmonary artery blood in lung cancer patients using a microfluidic platform. *Lung Cancer*, 125: 128-135, 2018.
- 006 *Hakiri S, Fukui T, Mori S, Kawaguchi K, Nakamura S, Ozeki N, Kato T, Goto M, Yatabe Y and Yokoi K* : Clinicopathologic Features of Thymoma With the Expression of Programmed Death Ligand 1. *Ann Thorac Surg*, 107: 418-424, 2019.
- 007 *Matsui T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Arimura T, Yatabe Y and Sakao Y* : Spontaneous regression of lung squamous cell carcinoma with synchronous mediastinal progression: A case report. *Thorac Cancer*, 9: 1778-1781, 2018.
- 008 *Hijioka S, Sakuma K, Aoki M, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Hara K and Yatabe Y* : Clinical and in vitro studies of the correlation between MGMT and the effect of streptozocin in pancreatic NET. *Cancer*

*Chemother Pharmacol*, 83: 43-52, 2019.

- 009 *Yamamoto H, Yatabe Y and Toyooka S* : Inherited lung cancer syndromes targeting never smokers. *Transl Lung Cancer Res*, 7: 498-504, 2018.
- 010 *Kuroda H, Yoshida T, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Yatabe Y and Sakao Y* : Contribution of smoking habit to the prognosis of stage I KRAS-mutated non-small cell lung cancer. *Cancer Biomark*, 23: 419-426, 2018.
- 011 *Hasegawa H, Ando M, Yatabe Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T and Muro K* : Site-specific Chemotherapy Based on Predicted Primary Site by Pathological Profile for Carcinoma of Unknown Primary Site. *Clin Oncol (R Coll Radiol)*, 30: 667-673, 2018.
- 012 *Furuta H, Uemura T, Yoshida T, Kobara M, Yamaguchi T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y and Hida T* : Efficacy and Safety Data of Osimertinib in Elderly Patients with NSCLC Who Harbor the EGFR T790M Mutation After Failure of Initial EGFR-TKI Treatment. *Anticancer Res*, 38: 5231-5237, 2018.
- 013 *An B, Abe T, Uemura N, Higaki E, Hosoi T, Kuroda H, Matsui T, Ishihara M, Kurita Y, Yatabe Y and Shimizu Y* : Simultaneous resections of left lung cancer and esophageal schwannoma using video-assisted thoracoscopic surgery: A case report. *Asian J Endosc Surg*, 2018.
- 014 *Sasaki E, Nishikawa D, Hanai N, Hasegawa Y and Yatabe Y* : Sinonasal squamous cell carcinoma and EGFR mutations: a molecular footprint of a benign lesion. *Histopathology*, 73: 953-962, 2018.
- 015 *Tanaka H, Hijioka S, Iwaya H, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Obata M, Kurita Y, Yasuda M, Shimizu Y, Kuroda H, Sato Y, Haneda M, Sasaki E, Yatabe Y and Hara K* : Fibrolamellar Hepatocellular Carcinoma with Multiple Lung Metastases Treated with Multidisciplinary Therapy. *Intern Med*, 57: 3537-3543, 2018.
- 016 *Song KA, Hosono Y, Turner C, Jacob S, Lochmann TL, Murakami Y, Patel NU, Ham J, Hu B, Powell KM, Coon CM, Windle BE, Oya Y, Koblinski JE, Harada H, Levenson JD, Souers AJ, Hata AN, Boikos S, Yatabe Y, Ebi H and Faber AC* : Increased Synthesis of MCL-1 Protein Underlies Initial Survival of EGFR-Mutant Lung Cancer to EGFR Inhibitors and Provides a Novel Drug Target. *Clin Cancer Res*, 24: 5658-5672, 2018.
- 017 *Seto K, Kuroda H, Yoshida T, Sakata S, Mizuno T, Sakakura N, Hida T, Yatabe Y and Sakao Y* : Higher frequency of occult lymph node metastasis in clinical N0 pulmonary adenocarcinoma with ALK rearrange-

- ment. *Cancer Manag Res*, 10: 2117-2124, 2018.
- 018 **Terada M, Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Naomi G, Kotani H, Iwase M, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Sasaki E, Yatabe Y and Iwata H** : Occult breast cancer may originate from ectopic breast tissue present in axillary lymph nodes. *Breast Cancer Res Treat*, 172: 1-7, 2018.
- 019 **Masago K, Fujita S and Yatabe Y** : Targeting minimal residual disease after surgery with molecular targeted therapy: the real path to a cure? *J Thorac Dis*, 10: S1982-S1985, 2018.
- 020 **Furuta H, Yoshida T, Natsume A, Hida T and Yatabe Y** : Inflammation Flare and Radiation Necrosis Around a Stereotactic Radiotherapy-Pretreated Brain Metastasis Site After Nivolumab Treatment. *J Thorac Oncol*. 13: 1975-1978, 2018.
- 021 **Kuraoka N, Hara K, Terai S, Yatabe Y and Horio Y** : Peroral cholangioscopy of nivolumab-related (induced) ulcerative cholangitis in a patient with non-small cell lung cancer. *Endoscopy*, 50: E259-E261, 2018.
- 022 **Masago K, Irie K, Fujita S, Imamichi F, Okada Y, Katakami N, Fukushima S and Yatabe Y** : Relationship between Paronychia and Drug Concentrations of Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitors. *Oncology*, 95: 251-256, 2018.
- 023 **Yamazaki K, Taniguchi H, Yoshino T, Akagi K, Ishida H, Ebi H, Nakatani K, Muro K, Yatabe Y, Yamaguchi K and Tsuchihara K** : Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines: Molecular Testing for Colorectal Cancer Treatment, Third Edition. *Cancer Sci*, 109: 2074-2079, 2018.
- 024 **Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y and Aoki M** : HNRNPLL stabilizes mRNA for DNA replication proteins and promotes cell cycle progression in colorectal cancer cells. *Cancer Sci*, 109: 2458-2468, 2018.
- 025 **Tsao MS, Kerr KM, Kockx M, Beasley MB, Borczuk AC, Botling J, Bubendorf L, Chirieac L, Chen G, Chou TY, Chung JH, Dacic S, Lantuejoul S, Mino-Kenudson M, Moreira AL, Nicholson AG, Noguchi M, Pelosi G, Poleri C, Russell PA, Sauter J, Thunnissen E, Wistuba I, Yu H, Wynes MW, Pintilie M, Yatabe Y and Hirsch FR** : PD-L1 Immunohistochemistry Comparability Study in Real-Life Clinical Samples: Results of Blueprint Phase 2 Project. *J Thorac Oncol*, 13: 1302-1311, 2018.
- 026 **Matsushita M, Yatabe Y, Koyama A, Katsuya A, Ijichi D, Miyagawa Y, Ikezaki H, Furukawa N, Ikeda M and Hashimoto M** : Are saving appearance responses typical communication patterns in Alzheimer's disease? *PLoS One*, 13: e0197468, 2018.
- 027 **Mizuno T, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y and Sakao Y** : Current outcomes of postrecurrence survival in patients after resection of non-small cell lung cancer. *J Thorac Dis*, 10: 1788-1796, 2018.
- 028 **Saida K, Murase T, Ito M, Fujii K, Takino H, Masaki A, Kawakita D, Ijichi K, Tada Y, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Shinomiya H, Nibu KI, Shimozato K and Inagaki H** : Mutation analysis of the EGFR pathway genes, EGFR, RAS, PIK3CA, BRAF, and AKT1, in salivary gland adenoid cystic carcinoma. *Oncotarget*, 9: 17043-17055, 2018.
- 029 **Ito A, Ohta M, Kato Y, Inada S, Kato T, Nakata S, Yatabe Y, Goto M, Kaneda N, Kurita K, Nakanishi H and Yoshida K** : A Real-Time Near-Infrared Fluorescence Imaging Method for the Detection of Oral Cancers in Mice Using an Indocyanine Green-Labeled Podoplanin Antibody. *Technol Cancer Res Treat*, 17: 1533033818767936, 2018.
- 030 **Ghousaini M, Edwards SL, Michailidou K, Nord S, Cowper-Sal Lari R, Desai K, Kar S, Hillman KM, Kaufmann S, Glubb DM, Beesley J, Dennis J, Bolla MK, Wang Q, Dicks E, Guo Q, Schmidt MK, Shah M, Luben R, Brown J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Lambrechts D, Thienpont B, Neven P, Wildiers H, Broeks A, Van't Veer LJ, Rutgers EJT, Couch FJ, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Gibson L, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomaki K, Blomqvist C, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Yatabe Y, Guenel P, Truong T, Mengaux F, Sanchez M, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Benitez J, Pilar Zamora M, Perez JIA, Menendez P, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai Q, Cox A, Cross SS, Reed MWR, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Lindblom A, Margolin S, Teo SH, Yip CH, Lee DSC, Wong TY, Hoening MJ, Martens JWM, Collee JM, van Deurzen CHM, Hopper JL, Southey MC, Tsimiklis H, Kapuscinski MK, Shen CY, Wu PE, Yu JC, Chen ST, Alnaes GG, Borresen-Dale AL, Giles GG, Milne RL, McLean C, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Hartman M, Miao H, Buhari S, Teo YY, Fasching PA, Haeberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Swerd-**

- low A, Ashworth A, Orr N, Schoemaker MJ, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Simard J, Goldberg MS, Labreche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Brauch H, Bruning T, Koto YD, Radice P, Peterlongo P, Bonanni B, Volorio S, Dork T, Bogdanova NV, Helbig S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Devilee P, Tollenaar R, Seynaeve C, Van Asperen CJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Slager S, Toland AE, Ambrosone CB, Yannoukakos D, Sangrajrang S, Gabrieleau V, Brennan P, McKay J, Hamann U, Torres D, Zheng W, Long J, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Maranian M, Healey CS, Gonzalez-Neira A, Pita G, Rosario Alonso M, Alvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, de Santiago I, Carroll J, Caldas C, Brown MA, Lupien M, Kristensen VN, Pharoah PDP, Chenevix-Trench G, French JD, Easton DF and Dunning AM* : Publisher Correction: Evidence that breast cancer risk at the 2q35 locus is mediated through IGFBP5 regulation. *Nat Commun*, 9: 16193,2018.
- 031 *Sakata S, Mizuno T, Dejima H, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y and Sakao Y* : A case of second primary lung cancer diagnosed by surgical resection at salvage setting. *Int Cancer Conf J*, 7: 84-86, 2018.
- 032 *Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y and Hara K* : A Rare Case of Ampullary Goblet Cell Carcinoid. *Intern Med*, 57: 2489-2496, 2018.
- 033 *Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Arimura T, Yatabe Y, Yoshimura K and Sakao Y* : The eighth TNM classification system for lung cancer: A consideration based on the degree of pleural invasion and involved neighboring structures. *Lung Cancer*, 118: 134-138, 2018.
- 034 *Narita Y, Kadowaki S, Oze I, Kito Y, Kawakami T, Machida N, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yasui H and Muro K* : Establishment and validation of prognostic nomograms in first-line metastatic gastric cancer patients. *J Gastrointest Oncol*, 9: 52-63, 2018.
- 035 *Kuroda H, Mori S, Tanaka H, Yoshida T, Mizuno T, Sakakura N, Yatabe Y, Iwata H and Sakao Y* : Prognostic significance of combined radiologic imaging modalities for prognosis of clinical IA adenocarcinomas. *Oncotarget*, 9: 10745-10753, 2018.
- 036 *Nicholson AG, Tsao MS, Travis WD, Patil DT, Galateau-Salle F, Marino M, Dacic S, Beasley MB, Butnor KJ, Yatabe Y, Pass HI, Rusch VW, Detterbeck FC, Asamura H, Rice TW and Rami-Porta R* : Eighth Edition Staging of Thoracic Malignancies: Implications for the Reporting Pathologist. *Arch Pathol Lab Med*, 142: 645-661, 2018.
- 037 *Sakakibara A, Kohno K, Kuroda N, Yorita K, Megahed NA, Eladl AE, Daroontum T, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Satou A, Kato S, Yatabe Y, Asano N and Nakamura S* : Anaplastic variant of diffuse large B-cell lymphoma with hallmark cell appearance: Two cases highlighting a broad diversity in the diagnostics. *Pathol Int*, 68: 251-255, 2018.
- 038 *Thunnissen E, Allen TC, Adam J, Aisner DL, Beasley MB, Borczuk AC, Cagle PT, Capelozzi VL, Cooper W, Hariri LP, Kern I, Lantuejoul S, Miller R, Mino-Kenudson M, Radonic T, Raparia K, Rekhtman N, Roy-Chowdhuri S, Russell P, Schneider F, Sholl LM, Tsao MS, Vivero M and Yatabe Y* : Immunohistochemistry of Pulmonary Biomarkers: A Perspective From Members of the Pulmonary Pathology Society. *Arch Pathol Lab Med*, 142: 408-419, 2018.
- 039 *Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y and Aoki M* : HNRNPLL, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*, 67: 1103-1111, 2018.
- 040 *Sasaki E, Masago K, Fujita S, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hasegawa Y, Yatabe Y and Hanai N* : Epithelioid hemangioendothelioma of the parotid gland: a case report. *Int Cancer Conf J*, 8: 39-42, 2019.
- 041 *Lindeman NI, Cagle PT, Aisner DL, Arcila ME, Beasley MB, Bernicker EH, Colasacco C, Dacic S, Hirsch FR, Kerr K, Kwiatkowski DJ, Ladanyi M, Nowak JA, Sholl L, Temple-Smolkin R, Solomon B, Souter LH, Thunnissen E, Tsao MS, Ventura CB, Wynes MW and Yatabe Y* : Updated Molecular Testing Guideline for the Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors: Guideline From the College of American Pathologists, the International Association for the Study of Lung Cancer, and the Association for Molecular Pathology. *J Mol Diagn*, 20: 129-159, 2018.
- 042 *Lindeman NI, Cagle PT, Aisner DL, Arcila ME, Beasley MB, Bernicker EH, Colasacco C, Dacic S, Hirsch FR, Kerr K, Kwiatkowski DJ, Ladanyi M, Nowak JA, Sholl L, Temple-Smolkin R, Solomon B, Souter LH, Thunnissen E, Tsao MS, Ventura CB, Wynes MW and Yatabe Y* : Updated Molecular Testing Guideline for the Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors: Guideline From the College of American Pathologists, the International Association for the Study of Lung Cancer, and the Association for Molecular Pathol-



- ogy. *J Thorac Oncol*, 13: 323-358, 2018.
- 043 **Lindeman NI, Cagle PT, Aisner DL, Arcila ME, Beasley MB, Bernicker EH, Colasacco C, Dacic S, Hirsch FR, Kerr K, Kwiatkowski DJ, Ladanyi M, Nowak JA, Sholl L, Temple-Smolkin R, Solomon B, Souter LH, Thunnissen E, Tsao MS, Ventura CB, Wynes MW and Yatabe Y** : Updated Molecular Testing Guideline for the Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors: Guideline From the College of American Pathologists, the International Association for the Study of Lung Cancer, and the Association for Molecular Pathology. *Arch Pathol Lab Med*, 142: 321-346, 2018.
- 044 **Masago K, Fujita S, Hata A, Okuda C, Yoshizumi Y, Kaji R, Katakami N, Hirata Y and Yatabe Y** : Validation of the digital PCR system in tyrosine kinase inhibitor-resistant EGFR mutant non-small-cell lung cancer. *Pathol Int*, 68: 167-173, 2018.
- 045 **Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y and Yatabe Y** : Pathologic Diagnosis and Genetic Analysis of a Lung Tumor Needle Biopsy Specimen Obtained Immediately After Radiofrequency Ablation. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 41: 594-602, 2018.
- 046 **Nicholson AG, Torkko K, Viola P, Duhig E, Geisinger K, Borczuk AC, Hiroshima K, Tsao MS, Warth A, Lantuejoul S, Russell PA, Thunnissen E, Marchevsky A, Mino-Kenudson M, Beasley MB, Botling J, Dacic S, Yatabe Y, Noguchi M, Travis WD, Kerr K, Hirsch FR, Chirieac LR, Wistuba, II, Moreira A, Chung JH, Chou TY, Bubendorf L, Chen G, Pelosi G, Poleri C, Detterbeck FC and Franklin WA** : Interobserver Variation among Pathologists and Refinement of Criteria in Distinguishing Separate Primary Tumors from Intrapulmonary Metastases in Lung. *J Thorac Oncol*, 13: 205-217, 2018.
- 047 **Adachi Y, Yoshimura M, Nishida K, Usuki H, Shibata K, Hattori M, Kondo N, Yatabe Y, Iwata H, Kikumori T, Kodera Y and Nakanishi H** : Acute phase dynamics of circulating tumor cells after paclitaxel and doxorubicin chemotherapy in breast cancer mouse models. *Breast Cancer Res Treat*, 167: 439-450, 2018.
- 048 **Sawabe M, Ito H, Takahara T, Oze I, Kawakita D, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S and Matsuo K** : Heterogeneous impact of smoking on major salivary gland cancer according to histopathological subtype: A case-control study. *Cancer*, 124: 118-124, 2018.
- 049 **Kato H, Yamamoto K, Kodaira T, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S and Kinoshita T** : Immunophenotypic analysis of adult patients with T-cell lymphoblastic lymphoma treated with hyper-CVAD. *Hematology*, 23: 83-88, 2018.
- 050 **Okuno Y, Murata T, Sato Y, Muramatsu H, Ito Y, Watanabe T, Okuno T, Murakami N, Yoshida K, Sawada A, Inoue M, Kawa K, Seto M, Ohshima K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Narita Y, Yoshida M, Goshima F, Kawada JI, Nishida T, Kiyoi H, Kato S, Nakamura S, Morishima S, Yoshikawa T, Fujiwara S, Shimizu N, Isobe Y, Noguchi M, Kikuta A, Iwatsuki K, Takahashi Y, Kojima S, Ogawa S, Kimura H** : Defective Epstein-Barr virus in chronic active infection and haematological malignancy. *Nat Microbiol*, 4: 404-413, 2019.
- 051 **Suzuki Y, Sakakibara A, Shimada K, Shimada S, Ishikawa E, Nakamura S, Kato S, Takahara T, Asano N, Satou A, Kohno K** : Immune evasion-related extranodal large B-cell lymphoma: A report of six patients with neoplastic PD-L1-positive extranodal diffuse large B-cell lymphoma. *Pathol Int*, 69: 13-20, 2019.
- 052 **Ishikawa E, Kato S, Shimada K, Tanaka T, Suzuki Y, Satou A, Kohno K, Sakakibara A, Yamamura T, Nakamura M, Miyahara R, Goto H, Nakamura S, Hirooka Y** : Clinicopathological analysis of primary intestinal diffuse large B-cell lymphoma: Prognostic evaluation of CD5, PD-L1, and Epstein-Barr virus on tumor cells. *Cancer Med*, 7: 6051-6063, 2018.
- 053 **Ishikawa E, Tanaka T, Shimada K, Kohno K, Satou A, Eladl AE, Sakakibara A, Furukawa K, Fumasaka K, Miyahara R, Nakamura M, Goto H, Nakamura S, Kato S, Hirooka Y** : A prognostic model, including the EBV status of tumor cells, for primary gastric diffuse large B-cell lymphoma in the rituximab era. *Cancer Med*, doi: 10.1002/cam4.1595. [Epub ahead of print], 2018
- 054 **Yamashita D, Shimada K, Takata K, Miyata-Takata T, Kohno K, Satou A, Sakakibara A, Nakamura S, Asano N, Kato S** : Reappraisal of nodal Epstein-Barr Virus-negative cytotoxic T-cell lymphoma: Identification of indolent CD5(+) diseases. *Cancer Sci*, 109: 2599-2610, 2018.
- 055 **Yamaguchi J, Kato S, Iwata E, Aoki K, Kabeya R, Natsume A, Wakabayashi T** : Pediatric-Type Follicular Lymphoma in the Dura: A Case Report and Literature Review. *World Neurosurg*, 115:176-180, 2018.
- 056 **Ohara Y, Kato S, Yamashita D, Satou A, Shimoyama Y, Hamaie C, Sato M, Ban N, Yamamoto K, Yamada T, Kawai H, Ohshima K, Nakamura S, Toyokuni S** : An autopsy case report: Differences in radiological images correlate with histology in Erdheim-Chester disease. *Pathol Int*, 68: 374-381, 2018.
- 057 **Sakakibara A, Kohno K, Eladl AE, Klaisuwan T, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Takahara T, Kato S, Asano N, Na-**

- kamura S, Satou A* : Immunohistochemical assessment of the diagnostic utility of PD-L1: a preliminary analysis of anti-PD-L1 antibody (SP142) for lymphoproliferative diseases with tumour and non-malignant Hodgkin-Reed-Sternberg (HRS)-like cells. *Histopathology*, 72: 1156-1163, 2018.
- 058 *Mohri T, Ikura Y, Hirakoso A, Okamoto M, Hishizawa M, Takaori-Kondo A, Kato S, Nakamura S, Yoshimura K, Okabe H, Iwai Y* : Classical Hodgkin lymphoma type post-transplant lymphoproliferative disorder in a kidney transplant recipient: a diagnostic pitfall. *Int J Hematol*, 108: 218-227, 2018.
- 059 *Daroontum T, Kohno K, Eladl AE, Satou A, Sakakibara A, Matsukage S, Yakushiji N, Ya-In C, Nakamura S, Asano N, Kato S* : Comparison of Epstein-Barr virus-positive mucocutaneous ulcer associated with treated lymphoma or methotrexate in Japan. *Histopathology*, 72: 1115-1127, 2018.
- 060 *Kunitomi A, Hasegawa Y, Asano N, Kato S, Tokunaga T, Miyata Y, Iida H, Nagai H* : EBV-positive Reactive Hyperplasia Progressed into EBV-positive Diffuse Large B-cell Lymphoma of the Elderly over a 6-year Period. *Intern Med*, 57: 1287-1290, 2018.
- 061 *Kataoka A, Sawaki M, Okumura S, Onishi S, Iwase M, Sugino K, Ishiguro J, Gondo N, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Sasaki E, Yatabe Y, Yoshimura K, Omi K, Iwata H* : Prediction of pathological margin status using preoperative contrast-enhanced MRI in patients with early breast cancer who underwent skin-sparing mastectomy. *Breast J*. 2019 Mar; 25(2): 202-206, 2019.
- 062 *Irie K, Shobu S, Hiratsuji S, Yamasaki Y, Nanjo S, Kokan C, Hata A, Kaji R, Masago K, Fujita S, Okada Y, Katakami N, Fukushima S* : Development and validation of a method for gefitinib quantification in dried blood spots using liquid chromatography-tandem mass spectrometry: Application to finger-prick clinical blood samples of patients with non-small cell lung cancer. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci*, 1087-1088: 1-5, 2018.
- 063 *Masago K, Imamichi F, Masuda Y, Ariga N, Fujitomi K, Fukumine Y, Hatakenaka K, Fujita S, Katakami N* : Team Management of Skin Rash Associated with Use of Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors. *Asia Pac J Oncol Nurs*, 5(4): 430-434, 2018.
- 064 *Fujita S, Masago K, Yatabe Y* : Biopsy of palliative lesions following radiotherapy. *BJR open*, 1: 20180025, 2019.
- 065 *Koshikawa T, Fujita N, Ueda N, Ota Y, Sasaki E, Murakami Y, Hosoda W, Yatabe Y, Hanai N, Higuchi M, Hirokawa M, Miyauchi A* : Important cytological findings for distinction between follicular variant and conventional papillary thyroid carcinoma, including noninvasive follicular thyroid tumors with papillary-like nuclear features. *Endocr J*. 2019 [Epub 2019 Mar 14].
- 066 *真砂勝泰, 藤田史郎, 谷田部 恭* : 【クリニカルシーケンスと病理診断】 Amplicon シークエンス法によるがん遺伝子解析, 病理と臨床. 36(7): 653-659, 2018.
- 067 *真砂勝泰, 藤田史郎, 谷田部 恭* : 【がんの Precision Medicine のための遺伝子診断】 ALK 診断の現状, 炎症と免疫. 26(4): 313-321, 2018.

## 頭頸部外科部

- 001 *Hanai N, Terada H, Hirakawa H, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Hasegawa Y* : Prospective randomized investigation implementing immunonutritional therapy using a nutritional supplement with a high blend ratio of  $\omega$ -3 fatty acids during the perioperative period for head and neck carcinomas. *Jpn J Clin Oncol*, 48(4): 356-361, 2018.
- 002 *Tahara M, Kiyota N, Yokota T, Hasegawa Y, Muro K, Takahashi S, Onoe T, Homma A, Taguchi J, Suzuki M, Minato K, Yane K, Ueda S, Hara H, Saijo K, Yamanaka T* : Phase II trial of combination treatment with paclitaxel, carboplatin and cetuximab (PCE) as first-line treatment in patients with recurrent and/or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (CSPOR-HN02). *Ann Oncol*, 29(4): 1004-1009, 2018.
- 003 *Saida K, Murase T, Ito M, Fujii K, Takino H, Masaki A, Kawakita D, Ijichi K, Tada Y, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Shinomiya H, Nibu KI, Shimozato K, Inagaki H* : Mutation analysis of the EGFR pathway genes, EGFR, RAS, PIK3CA, BRAF, and AKT1, in salivary gland adenoid cystic carcinoma. *Oncotarget*, 9(24): 17043-17055, 2018.
- 004 *Suzuki H, Tamaki T, Nishio M, Nakata Y, Hanai N, Nishikawa D, Koide Y, Hasegawa Y* : Total lesion glycolysis on FDG-PET/CT before salvage surgery predicts survival in laryngeal or pharyngeal cancer. *Oncotarget*, 9(27): 19115-19122, 2018.
- 005 *Suzuki H, Koide Y, Hanai N, Nishikawa D, Beppu S, Mikami S, Hasegawa Y* : Lymph node density in papillary thyroid carcinoma is a prognostic factor after adjusting for pathological stage. *Oncotarget*, 9(42): 26670-26678, 2018.
- 006 *Tahara M, Muro K, Hasegawa Y, Chung H, Lin CC, Keam B, Takahashi K, Cheng JD, Bang YJ* : Pembrolizumab in Asia-Pacific patients with advanced head

- and neck squamous cell carcinoma: Analyses from KEYNOTE-012. *Cancer Sci*, 109(3): 771-776, 2018.
- 007 **Mukoyama N, Suzuki H, Hanai N, Sone M, Hasegawa Y**: Pathological tumor volume predicts survival outcomes in oral squamous cell carcinoma. *Oncol Lett*, 16(2): 2471-2477, 2018.
- 008 **Suzuki H, Tamaki T, Nishio M, Beppu S, Mykoyama N, Hanai N, Nishikawa D, Koide Y, Hasegawa Y**: Peak of standardized uptake value in oral cancer predicts survival adjusting for pathological stage. *In Vivo*, 32(5): 1193-1198, 2018.
- 009 **Koide Y, Teranishi M, Sugiura S, Uchida Y, Nishio N, Kato K, Otake H, Yoshida T, Otsuka R, Ando F, Shimokata H, Hasegawa Y, Nakashima T, Sone M**: Association between Uncoupling Protein 2 Gene Ala55val Polymorphism and Sudden Sensorineural Hearing Loss. *J Int Adv Otol*, 14(2): 166-169, 2018.
- 010 **Suzuki H, Takano G, Hanai N, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Hasegawa Y**: Primary Tumor Size Predicts Distant Metastasis of Mucosal Malignant Melanoma in Head and Neck. *Anticancer Res*. 38(11): 6485-6490, 2018.
- 011 **Suzuki H, Kimura K, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Koide Y, Tanaka H, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Hanai N**: Gross tumor volume in sinonasal tract cancer as a predictor of local recurrence after chemoradiotherapy. *Jpn J Clin Oncol*, 48(12): 1041-1045, 2018.
- 012 **Tanaka K, Hanai N, Eba J, Mizusawa J, Asakage T, Homma A, Kiyota N, Fukuda H, Hayashi R; Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group**: Randomized phase III study to evaluate the value of omission of prophylactic neck dissection for stage I/II tongue cancer: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1601, RESPOND). *Jpn J Clin Oncol*, 48(12): 1105-1108, 2018.
- 013 **Koide Y, Sasaki E, Masago K, Fujita S, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hasegawa Y, Yatabe Y, Hanai N**: Epithelioid hemangi endothelioma of the parotid gland: a case report. *Int Cancer Conf J*, 29: 8(1): 39-42, 2018.
- 014 **Nishikawa D, Suzuki H, Koide Y, Beppu S, Kadowaki S, Sone M, Hanai N**: Prognostic Markers in Head and Neck Cancer Patients Treated with Nivolumab. *Cancers (Basel)*, 10(12). pii: E466, 2018.
- 015 **Hanai N, Sawabe M, Kimura T, Suzuki H, Ozawa T, Hirakawa H, Fukuda Y, Hasegawa Y**: The high-sensitivity modified Glasgow prognostic score is superior to the modified Glasgow prognostic score as a prognostic predictor for head and neck cancer. *Oncotarget*, 9(97): 37008-37016, 2018.
- 016 **Suzuki H, Terada H, Hanai N, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Kodaira T, Tachibana H, Koide Y, Tanaka H, Hasegawa Y**: Treatment package time predicts cancer-specific survival and distant metastasis in laryngeal cancer. *Oncol Lett*, 17(1): 1384-1390, 2019.
- 017 **Suzuki H, Tamaki T, Nishio M, Terada H, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Hanai N**: Uptake of 18F-Fluorodeoxyglucose in Major Salivary Gland Cancer Predicts Survival Adjusting for Pathological Stage. *Anticancer Res*, 39(2): 1043-1049, 2019.
- 018 **Hanai N, Asakage T, Kiyota N, Homma A, Hayashi R**: Controversies in relation to neck management in N0 early oral tongue cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 49(4): 297-305, 2019.
- 019 **Matsuzuka T, Kiyota N, Mizusawa J, Akimoto T, Fujii M, Hasegawa Y, Iwae S, Monden N, Matsuura K, Onozawa Y, Hayashi R, Tahara M**: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Head and Neck Cancer Study Group: Clinical impact of cachexia in unresectable locally advanced head and neck cancer: supplementary analysis of a phase II trial (JCOG0706-S2). *Jpn J Clin Oncol*, 49(1): 37-41, 2019.
- 020 **Hara K, Tsuchiya S, Hagiwara S, Fujio M, Sayo A, Hibi H**: A dentigerous cyst associated with a supernumerary tooth (fourth molar) in the mandibular ramus: A case report. *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology*, 31: 98-102, 2019.
- 021 **別府慎太郎, 越川 卓, 花井信広**: 唾液腺疾患の穿刺吸引細胞診. *JOHNS*, 34(4): 428-431, 2018.
- 022 **別府慎太郎, 花井信広**: 【子どもから大人までの唾液腺疾患 - 鑑別の要点 -】 耳下腺癌の初期病態. *ENTONI*, 222: 58-63, 2018.
- 023 **西川大輔, 花井信広**: 【私はこうしている - 鼻科手術編】 鼻副鼻腔領域外の手術 翼口蓋窩・側頭下窩手術. *JOHNS*, 34(9): 1249-1252, 2018.
- 024 **別府慎太郎, 門脇重憲, 花井信広**: ここまで来た! 頭頸部希少がんの治療戦略 腺様嚢胞癌 - 集学的治療の up-to-date. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 91(2): 144-149, 2019.

## 形成外科部

- 001 **兵藤伊久夫**: マイクロサージャリー 血管剥離 既頸部郭清部位での移植床血管の剥離・同定 形成外科, 61: S6-S10, 2018.

## 呼吸器外科部

- 001 **Kuroda H, Yoshida T, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Yatabe Y, Sakao Y**: Contribution of smoking habit to the prognosis of stage I KRAS-mutated non-small cell lung cancer. *Cancer Biomark*, 23(3):



- 419-426, doi: 10.3233/CBM-181483, 2018.
- 002 **Kuroda H, Sakao Y** : Analgesic management after thoracoscopic surgery: recent studies and our experience. *J Thorac Dis*, S1050-S1054. doi: 10.21037/jtd.2018.04.34, 2018.
- 003 **Kuroda H, Sugita Y, Ohya Y, Yoshida T, Arimura T, Sakakura N, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y** : Importance of avoiding surgery delays after initial discovery of suspected non-small-cell lung cancer in clinical stage IA patients. *Cancer Manag Res*, 11: 107-115. doi: 10.2147/CMARS180757, 2018.
- 004 **Kuroda H, Yoshida T, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y** : Novel development of Spectra-A using indocyanine green for segmental boundary visibility in thoracoscopic segmentectomy. *J Surg Res*, 227: 228-233. doi: 10.1016/j.jss.2018.
- 005 **Sakakura N, Mizuno T, Arimura T, Kuroda H, Sakao Y** : Design variations in vertical muscle-sparing thoracotomy. *J Thorac Dis*, 10(8):5115-5119, doi: 10.21037/jtd.2018.07.100., 2018.
- 006 **Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Arimura T, Yatabe Y, Yoshimura K, Sakao Y** : The eighth TNM classification system for lung cancer: A consideration based on the degree of pleural invasion and involved neighboring structures. *Lung Cancer*, 118: 134-138, doi: 10.1016/j.lungcan.2018.02.009, 2018.
- 007 **Mizuno T, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y, Sakao Y** : Current outcomes of postrecurrence survival in patients after resection of non-small cell lung cancer. *J Thorac Dis*, 10(3): 1788-1796. doi: 10.21037/jtd.2018.01.148, 2018.
- 008 **Matsui T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Arimura T, Yatabe Y, Sakao Y** : Spontaneous regression of lung squamous cell carcinoma with synchronous mediastinal progression: A case report. *Thorac Cancer*, 9(12): 1778-1781, doi: 10.1111/1759-7714.12892, 2018.
- 009 **Sakata S, Mizuno T, Dejima H, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y, Sakao Y** : A case of second primary lung cancer diagnosed by surgical resection at salvage setting. *Int Cancer Conf J*, 6; 7(3): 84-86. doi: 10.1007/s13691-018-0325-2, 2018.
- 010 **Seto K, Kuroda H, Yoshida T, Sakata S, Mizuno T, Sakakura N, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y** : Higher frequency of occult lymph node metastasis in clinical N0 pulmonary adenocarcinoma with ALK rearrangement. *Cancer Manag Res*, 18; 10: 2 117-2124. doi: 10.2147/CMARS147569. eCollection, 2018.
- 011 **Dejima H, Kuroda H, Seto K, Sakata S, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y** : Two cases of combined thoracoscopy and open chest surgery for locally advanced lung carcinoma. *J Thorac Dis*, 10(2): 1138-1143. doi: 10.21037/jtd.2017.12.132, 2018.
- 012 **Dejima H, Nakanishi H, Kuroda H, Yoshimura M, Sakakura N, Ueda N, Ohta Y, Tanaka R, Mori S, Yoshida T, Hida T, Sawabata N, Yatabe Y, Sakao Y** : Detection of abundant megakaryocytes in pulmonary artery blood in lung cancer patients using a microfluidic platform. *Lung Cancer*, 125:128-135. doi: 10.1016/j.lungcan.2018.09.011, 2018.
- 013 **Oya Y, Yoshida T, Uemura T, Murakami Y, Inaba Y, Hida T** : Serum ProGRP and NSE levels predicting small cell lung cancer transformation in a patient with ALK rearrangement-positive non-small cell lung cancer: A case report. *Oncol Lett*, 16(4): 4219-4222. doi: 10.3892/ol.2018.9158, 2018.
- 014 **Furuta H, Uemura T, Yoshida T, Kobara M, Yamaguchi T, Watanabe N, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao, Yatabe Y, Hida T** : Efficacy and Safety Data of Osimertinib in Elderly Patients with NSCLC Who Harbor the EGFR T790M Mutation After Failure of Initial EGFR-TKI Treatment. *Anticancer Res*. 38(9): 5231-5237., doi: 10.21873/anticancer.12847, 2018.
- 015 **An B, Abe T, Uemura N, Higaki E, Hosoi T, Kuroda H, Matsui T, Ishihara M, Kurita Y, Yatabe Y, Shimizu Y** : Simultaneous resections of left lung cancer and esophageal schwannoma using video-assisted thoracoscopic surgery: A case report. *Asian J Endosc Surg*, 30. doi: 10.1111/ases.12643, 2018.
- 016 **Tanaka H, Hijioka S, Iwaya H, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Obata M, Kurita Y, Yasuda M, Shimizu Y, Kuroda H, Sato Y, Haneda M, Sasaki E, Yatabe Y, Hara K.** : Fibrolamellar Hepatocellular Carcinoma with Multiple Lung Metastases Treated with Multidisciplinary Therapy. *Intern Med*, 15; 57(24): 3537-3543. doi: 10.2169/internalmedicine.1243-18, 2018.

## 乳腺科部

- 001 **Akechi T, Yamaguchi T, Uchida M, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Horikoshi M, Furukawa TA, Iwata H, Uchitomi Y** : Smartphone problem-solving and behavioural activation therapy to reduce fear of recurrence among patients with breast cancer (SMartphone Intervention to LEssen fear of cancer recurrence: SMILE project) : protocol for a randomised controlled trial. *BMJ Open*, 8(11): e024794, 2018
- 002 **Horisawa N, Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Terada M, Ozaki Y, Iwata H** : A case of radiation-associated angiosarcoma after breast cancer. *Surg Case Rep*, 4(1): 131, 2018

- 003 **Masuda N, Inoue K, Nakamura R, Rai Y, Mukai H, Ohno S, Hara F, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Huang X, Iwata H** : Palbociclib in combination with fulvestrant in patients with hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer: PALOMA-3 subgroup analysis of Japanese patients. *Int J Clin Oncol*, doi: 10.1007/s10147-018-1359-3. [Epub ahead of print], 2018
- 004 **Schmid P, Adams S, Rugo HS, Schneeweiss A, Barrios CH, Iwata H, Diéras V, Hegg R, Im SA, Shaw Wright G, Henschel V, Molinero L, Chui SY, Funke R, Husain A, Winer EP, Loi S, Emens LA** : IMpassion130 Trial Investigators. Atezolizumab and Nab-Paclitaxel in Advanced Triple-Negative Breast Cancer. *N Engl J Med*, doi: 10.1056/NEJMoa1809615. [Epub ahead of print], 2018
- 005 **Turner NC, Slamon DJ, Ro J, Bondarenko I, Im SA, Masuda N, Colleoni M, DeMichele A, Loi S, Verma S, Iwata H, Harbeck N, Loibl S, André F, PuyanaTheall K, Huang X, Giorgetti C, Huang Bartlett C, Cristofanilli M** : Overall Survival with Palbociclib and Fulvestrant in Advanced Breast Cancer. *N Engl J Med*, 15: 379(20): 1926-1936, 2018
- 006 **Iwata H, Masuda N, Yamamoto Y, Fujisawa T, Toyama T, Kashiwaba M, Ohtani S, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Sakamaki K, Bailey H, Cherbavaz DB, Jakubowski DM, Sugiyama N, Chao C, Ohashi Y** : Validation of the 21-gene test as a predictor of clinical response to neoadjuvant hormonal therapy for ER+, HER2-negative breast cancer: the TransNEOS study. *Breast Cancer Res Treat*, doi: 10.1007/s10549-018-4964-y. [Epub ahead of print], 2018
- 007 **Campone M, Im SA, Iwata H, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, Jagiello-Gruszfeld A, Pistilli B, Tseng LM, Hurvitz S, Masuda N, Cortés J, De Laurentiis M, Arteaga CL, Jiang Z, Jonat W, Le Mouhaër S, Sankaran B, Bourdeau L, El-Hashimy M, Sellami D, Baselga J** : Buparlisib plus fulvestrant versus placebo plus fulvestrant for postmenopausal, hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative, advanced breast cancer. Overall survival results from BELLE-2. *Eur J Cancer*, 103: 147-154, 2018
- 008 **Takada M, Sugimoto M, Masuda N, Iwata H, Kuroi K, Yamashiro H, Ohno S, Ishiguro H, Inamoto T, Toi M** : Prediction of postoperative disease-free survival and brain metastasis for HER2-positive breast cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy plus trastuzumab using a machine learning algorithm. *Breast Cancer Res Treat*, 172(3): 611-618, 2018
- 009 **Noguchi E, Tamura K, Hattori M, Horiguchi J, Sato N, Kanatani K, Matsunaga K, Iwata H, Fujiwara Y** : Trastuzumab emtansine plus pertuzumab in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer. a phase Ib study. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-018-0887-z. [Epub ahead of print], 2018
- 010 **Terada M, Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Naomi G, Kotani H, Iwase M, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Sasaki E, Yatabe Y, Iwata H** : Occult breast cancer may originate from ectopic breast tissue present in axillary lymph nodes. (*Breast Cancer Res Treat*), doi: 10.1007/s10549-018-4898-4. [Epub ahead of print], 2018
- 011 **Yamamoto Y, Iwata H, Ueno T, Taira N, Kashiwaba M, Takahashi M, Tada H, Tsugawa K, Toyama T, Niikura N, Hara F, Fujisawa T, Yoshinami T, Saji S, Takano T, Masuda N, Morita S, Toi M, Ohno S** : A randomized, open-label, Phase III trial of pertuzumab retreatment in HER2-positive locally advanced/metastatic breast cancer patients previously treated with pertuzumab, trastuzumab and chemotherapy. the Japan Breast Cancer Research Group-M05 PRECIOUS study. *Jpn J Clin Oncol*, doi: 10.1093/jco/hyy097. [Epub ahead of print], 2018
- 012 **Sagara Y, Takada M, Ohi Y, Ohtani S, Kurozumi S, Inoue K, Kosaka Y, Hattori M, Yamashita T, Takao S, Sato N, Iwata H, Kurozumi S, Toi M** : Effectiveness of neo-adjuvant systemic therapy with trastuzumab for basal HER2 type breast cancer: results from retrospective cohort study of Japan Breast Cancer Research Group (JBCRG)-C03. *Breast Cancer Res Treat*, doi: 10.1007/s10549-018-4873-0. [Epub ahead of print], 2018
- 013 **Masuda N, Toi M, Yamamoto N, Iwata H, Kuroi K, Bando H, Ohtani S, Takano T, Inoue K, Yanagita Y, Kasai H, Morita S, Sakurai T, Ohno S** : Efficacy and safety of trastuzumab, lapatinib, and paclitaxel neoadjuvant treatment with or without prolonged exposure to anti-HER2 therapy, and with or without hormone therapy for HER2-positive primary breast cancer: a randomised, five-arm, multicentre, open-label phase II trial. *Breast Cancer*, 25(4): 407-415, 2018
- 014 **Iwata H** : Clinical development of CDK4/6 inhibitor for breast cancer. *Breast Cancer*, 25(4):402-406, 2018
- 015 **Toyama T, Yoshimura A, Hayashi T, Kobayashi N, Saito K, Tsuneizumi M, Sawaki M, Hattori M, Nakata T, Yokota I, Iwata H** : A randomized phase II study evaluating pyridoxine for the prevention of hand-foot syndrome associated with capecitabine therapy for advanced or metastatic breast cancer. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-018-0879-z. [Epub ahead of print], 2018

- 016 *Sawaki M, Tamura K, Shimomura A, Taki Y, Nagashima F, Iwata H* : Practice management for elderly patients with breast cancer; Findings from a survey by the Japan Breast Cancer Study Group. *Nagoya J Med Sci*, 80(2): 217-226, 2018
- 017 *Hattori M, Iwata H* : Advances in treatment and care in metastatic breast cancer (MBC): are there MBC patients who are curable?. *Chin Clin Oncol*, 7(3): 23, 2018
- 018 *Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Iwase M, Onishi S, Adachi Y, Gondo N, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H* : The investigation study using a questionnaire about the employment of Japanese breast cancer patients. *Jpn J Clin Oncol*, 48(8): 712-717, 2018
- 019 *Iwase M, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Ishiguro J, Kotani H, Gondo N, Adachi Y, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Iwata H* : Assessing residual cancer cells using MRI and US after preoperative chemotherapy in primary breast cancer to omit surgery. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-018-0856-6. [Epub ahead of print], 2018
- 020 *Ghoussemi M, Edwards SL, Iwata H* : Dunning AM. Publisher Correction: Evidence that breast cancer risk at the 2q35 locus is mediated through IGF1R1 regulation. *Nat Commun*, 9: 16193, 2018
- 021 *Kondo N, Kashiwaba M, Goto R, Hattori M, Iwata H* : A Phase I Combination Dose-Escalation Study of Eribulin Mesylate and Gemcitabine in Japanese Patients with Metastatic Breast Cancer. *癌と化学療法*, 45(8): 1165-1170, 2018
- 022 *Sawaki M, Tamura K, Shimomura A, Taki Y, Nagashima F, Iwata H* : Practice management for elderly patients with breast cancer; findings from a survey by the Japan Breast Cancer Study Group. *Nagoya J Med Sci*, 80: 217-226, 2018
- 023 *Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Iwase M, Onishi S, Adachi Y, Gondo N, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H* : The investigation study using a questionnaire about the employment of Japanese breast cancer patients. *Jpn J Clin Oncol*, 48(8): 712-717, 2018
- 024 *Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda N, Nagino M, Matsuo K* : Impact of germinal center-associated nuclear protein. *Breast Cancer*, [Epub ahead of print], 2019
- 025 *Kataoka A, Sawaki M, Okumura S, Onishi S, Iwase M, Sugino K, Ishiguro J, Gondo N, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Sasaki E, Yatabe Y, Yoshimura K, Omi K, Iwata H* : Prediction of pathological margin status using preoperative contrast-enhanced MRI in patients with early breast cancer who underwent skin-sparing mastectomy. *Breast J*, 25(2): 202-206, 2019
- 026 *Terada M, Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Mori M, Iwata H* : Occult breast cancer may originate from ectopic breast tissue present in axillary lymph nodes. *Breast Cancer Res Treat*, 172(1): 1-7, 2018
- 027 *Terada M* : Challenge for identifying the origin of occult breast cancer for optimizing local therapy. *Breast Cancer Res Treat*, 172(3): 743-744, 2018
- 028 *Mori M, Kotani H, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Terada M, Ozaki Y, Iwata H* : Amyloid tumor of the breast. *Surg Case Rep*, 19: 5(1): 31, 2019
- 029 *Horisawa N, Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Terada M, Ozaki Y, Iwata H* : A case of radiation-associated angiosarcoma after breast cancer. *Surgical Case Reports*, 4(1): 131. doi: 10.1186/s40792-018-0538-9, 2018
- 030 澤木正孝 : 高齢者がん医療の現状と課題 - 高齢者乳がん. *腫瘍内科*, 21: 175-183, 2018
- 031 澤木正孝 : 術前化学療法による病理学的完全奏効の意義. *がん分子標的治療*, 16: 91-94, 2018
- 032 澤木正孝 : がん抗体医薬の新展開 - 新規分子による創薬・治療から副作用対策まで -, HER2抗体医薬 - Trastuzumab と ADC. *医学のあゆみ*, 265: 41-44, 2018
- 033 澤木正孝 : Trastuzumab+Capecitabine療法. *エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック*, 223-225, 2018
- 034 澤木正孝 : Trastuzumab+Vinorelbine療法. *エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック*, 221-222, 2018
- 035 澤木正孝 : 術前・術後ドセタキセル. *乳がん薬物療法ハンドブック*, 35-39, 2019
- 036 澤木正孝 : 転移・再発ドセタキセル. *乳がん薬物療法ハンドブック*, 145-148, 2019
- 037 澤木正孝 : がん抗体医薬の新展開 - 新規分子による創薬・治療から副作用対策まで -, HER2抗体医薬 - Trastuzumab と ADC. *別冊・医学のあゆみ*, 41-44, 2019

## 消化器外科部

[原著]

- 001 *Fujita A, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Okuno N, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Niwa Y* : Utility convex EUS for preoperative vascular evaluation of malignant biliary tract neoplasm. *Mol Clin Oncol*, 8(3), 407-412, 2018.
- 002 *Hagiwara Y, Ohashi Y, Uesaka K, Boku N, Fukutomi A, Okamura Y, Konishi M, Matsumoto I, Kaneko Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sakamoto H, Morinaga S, Kainuma O, Imai K, Sata N, Hishinuma S, Ojima H, Yamaguchi R, Hirano S, Sudo T, JASPACK 01 Study Group* : Health-related quality of



- life of adjuvant chemotherapy with S-1 versus gemcitabine for resected pancreatic cancer: Results from a randomised phase III trial (JASPAC 01). *Eur J Cancer*, 93, 79-88, 2018.
- 003 **Ueno H, Sekine S, Oshiro T, Kanemitsu Y, Hamaguchi T, Shida D, Takashima A, Ishiguro M, Ito E, Hashiguchi Y, Kondo F, Shimazaki H, Mochizuki S, Kajiwara Y, Shinto E, Yamamoto J, Shimada Y** : Disentangling the prognostic heterogeneity of stage III colorectal cancer through histologic stromal categorization. *Surgery*, 163(4), 777-783, 2018.
- 004 **Ito M, Kobayashi A, Fujita S, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Kinugasa Y, Komori K, Ohue M, Ota M, Akazai Y, Shiozawa M, Yamaguchi T, Akasu T, Moriya Y, Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group** : Urinary dysfunction after rectal cancer surgery: Results from a randomized trial comparing mesorectal excision with and without lateral lymph node dissection for clinical stage II or III lower rectal cancer (Japan Clinical Oncology Group Study, JCOG0212). *Eur J Surg Oncol*, 44(4), 463-468, 2018.
- 005 **Abe M, Shivappa N, Ito H, Oze I, Abe T, Shimizu Y, Hasegawa Y, Kiyohara C, Nomura M, Ogawa Y, James R. Hebert, Matsuo K** : Dietary inflammatory index and risk of upper aerodigestive tract cancer in Japanese adults. *Oncotarget*, 9(35), 24028-24040, 2018.
- 006 **Matsuda C, Ishiguro M, Teramukai S, Kajiwara Y, Fujii S, Kinugasa Y, Nakamoto Y, Kotake M, Sakamoto Y, Kurachi K, Maeda A, Komori K, Tomita N, Shimada Y, Takahashi K, Kotake K, Watanabe M, Mochizuki H, Nakagawa Y, Sugihara K, SAKURA Study Group.** : A randomised-controlled trial of 1-year adjuvant chemotherapy with oral tegafur-uracil versus surgery alone in stage II colon cancer: SAKURA trial. *Eur J Cancer*, 96, 54-63, 2018.
- 007 **Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : HNRNPLL, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*, 67(6), 1103-1111, 2018.
- 008 **Tanaka H, Uemura N, Nishikawa D, Oguri K, Abe T, Higaki E, Hosoi T, An B, Hasegawa Y, Shimizu Y** : Boerhaave syndrome due to hypopharyngeal stenosis associated with chemoradiotherapy for hypopharyngeal cancer: a case report. *Surgical Case Reports*, 4(1), 54-59, 2018.
- 009 **Imai T, Abe T, Uemura N, Yoshida K, Shimizu Y** : Immediate extubation after esophagectomy with three-field lymphadenectomy enables early ambulation in patients with thoracic esophageal cancer. *Esophagus*, 15(3), 165-172, 2018.
- 010 **Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : HNRNPLL stabilizes mRNA for DNA replication proteins and promotes cell cycle progression in colorectal cancer cells. *Cancer Sci*, 109(8), 2458-2468, 2018.
- 011 **Oshiro T, Uehara K, Aiba T, Mukai T, Ebata T, Nagino M** : Impact of RAS/BRAF mutation status in locally advanced rectal cancer treated with preoperative chemotherapy. *Int J Clin Oncol*, 23(4), 681-688, 2018.
- 012 **Malakorn S, Ouchi A, Sammour T, Bednarski, BK., Chang, GJ** : Robotic Lateral Pelvic Lymph Node Dissection after Neoadjuvant Chemoradiation: View from the West. *Dis Colon Rectum*, 61(9), 1119-1120, 2018.
- 013 **Abe T, Fukaya M, Nagino M** : Retrosternal salvage reconstruction of esophageal discontinuity for a necrotic gastric tube after esophagectomy: A novel procedure. *J Med Invest*, 65(3.4), 296-298, 2018.
- 014 **Misawa K, Yoshikawa T, Ito S, Cho H, Ito Y, Ogata T** : Safety and Feasibility of Linear Stapling Device with Bioabsorbable Polyglycolic Acid Sheet for Duodenal Closure in Gastric Cancer Surgery: A Multi-institutional Phase II Study. *World Journal of Surgery*, 136(11), 1014-1019, 2018.
- 015 **Maeda H, Okada KI, Fujii T, Oba MS, Kawai M, Hirono S, Kodera Y, Sho M, Akahori T, Shimizu Y, Ambo Y, Kondo N, Murakami Y, Ohuchida J, Eguchi H, Nagano H, Sakamoto J, Yamaue H** : Transition of serum cytokines following pancreaticoduodenectomy: A subsidiary study of JAPAN-PD. *Oncol Lett*, 16(5), 6847-6853, 2018.
- 016 **Shigeyoshi I, Misawa K, Ito S, Ito Y, Komori K, Abe T, Senda Y, Kinoshita T, Uemura N, Natsume S, Oshiro T, Higaki E, Shimizu Y** : [The Case of a Patient with Gastric Cancer Who Showed No Neutropenia Only When Using the Generic S-1 Adjuvant Chemotherapy Formulation]. *GanTo Kagaku Ryoho*, 45(11), 1653-1655, 2018.
- 017 **Ishioka K, Masaoka H, Ito H, Oze I, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Nakamura S, Matsuo K** : Association between ALDH2 and ADH1B polymorphisms, alcohol drinking and gastric cancer: a replication and mediation analysis. *Gastric Cancer*, 21(6), 936-945, 2018.
- 018 **Abe T, Hosoi T, Kawai R, Uemura N, Higaki E, An B, Kawakami J, Saito T, Shimizu Y** : Perioperative enteral supplementation with glutamine, fiber, and oligosaccharide reduces early postoperative surgical stress following esophagectomy for esophageal cancer. *Esophagus*, 16(1), 63-70, 2019.
- 019 **鉄村悠介, Roth Holger, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策** : 機械学習を用いた腹部動脈血管名自動命名における臓器情報および多血管相互関係利用方法の検

- 討. 日本医用画像工学会大会予稿集, 37, 426-428, 2018.
- 020 鈴木拓矢, 道満恵介, 日加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下手術のためのVR手術再観察システムの開発. 日本医用画像工学会大会予稿集, 37, 283-285, 2018.
- 021 小田昌宏, *Roth Holger R*, 北坂孝幸, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: Fully convolutional networkを用いた小構造セグメンテーション方法の検討及び腹部動脈への適用. 日本医用画像工学会大会予稿集, 37, 272-274, 2018.
- 022 館 高基, 小田昌宏, 林雄一郎, 中村嘉彦, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 胃の変形情報を利用した経時リンパ節の自動対応付け手法の精度向上に関する研究. 日本医用画像工学会大会予稿集, 37, 193-195, 2018.
- 023 小澤卓也, 小田紘久, 伊東隼人, 北坂孝幸, *Roth Holger R*, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 伊藤雅昭, 竹下修由, 森 健策: 機械学習による内視鏡動画インスタンスセグメンテーションのための手動アノテーションツールの開発. 日本医用画像工学会大会予稿集, 37, 94-97, 2018.
- 024 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 清水泰博: 手術手技 腹臥位胸腔鏡下食道切除における反回神経周囲郭清の成績と麻痺を減らす工夫. 手術, 72(7), 1167-1174, 2018.
- 025 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 廣野誠子, 千田嘉毅, 柳澤昭夫: 【膵嚢胞診療最前線 - IPMN 国際診療コンセンサスガイドライン改訂を踏まえて -】 IPMN コンセンサスガイドライン最新版 (2017年) Worrisome feature 改訂の要点と診断能. 肝・胆・膵, 77(5), 929-932, 2018.
- [解説]**
- 001 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 特集 胸・腹部サルコーマのすべて 2. 消化管・腸管膜のサルコーマ手術療法. 外科, 80(4), 325-329, 2018.
- 002 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 重吉 到, 清水泰博, 木下 平: 【機能温存と機能再建を目指した消化器外科手術 - 術後QOL向上のために】 早期胃癌に対する機能温存手術 腹腔鏡下幽門保存胃切除・体腔内胃胃端々吻合再建. 臨床外科, 73(4), 437-442, 2018.
- 003 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第4回) 肝臓は語る 肝切除. 消化器外科Nursing, 23(4), 358-360, 2018.
- 004 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第5回) 肝臓は語る 肝切除. 消化器外科Nursing, 23(5), 450-452, 2018.
- 005 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第6回) 肝臓は語る 肝切除後の管理 (その1) おもにバイタルサインの異常について. 消化器外科Nursing, 23(6), 550-552, 2018.
- 006 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第7回) 肝臓は語る 肝切除後の管理 (その2) ドレーン管理について. 消化器外科Nursing, 23(7), 646-648, 2018.
- 007 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第8回) 胆道・膵臓は語る 胆道・膵臓ってこんな臓器. 消化器外科Nursing, 23(8), 740-742, 2018.
- 008 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第9回) 胆道・膵臓は語る 胆道良性疾患の代表的術式. 消化器外科Nursing, 23(9), 834-836, 2018.
- 009 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第10回) 胆道・膵臓は語る 胆道の代表的術式胆道悪性腫瘍. 消化器外科Nursing, 23(10), 934-936, 2018.
- 010 栗田裕介, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 孝田博輝, 小畑雅寛, 清水泰博, 丹羽康正: 【膵嚢胞診療最前線 - IPMN 国際診療コンセンサスガイドライン改訂を踏まえて -】 IPMN コンセンサスガイドライン最新版 (2017年) 嚢胞液解析の現況・有用性. 肝・胆・膵, 77(5), 981-986, 2018.
- 011 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第11回) 胆道・膵臓は語る 膵臓の代表的術式 膵頭十二指腸切除術. 消化器外科Nursing, 23(11), 1028-1030, 2018.
- 012 夏目誠治: ドクター夏目の肝胆膵は語る! (最終回) 胆道・膵臓は語る 膵臓の代表的術式. 消化器外科Nursing, 23(12), 1124-1125, 2018.
- 013 栗田裕介, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 田近正洋, 田中 勉, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 孝田博輝, 小畑雅寛, 谷田部 恭, 清水泰博: 【ここまで来た膵癌の早期診断】 膵癌の早期画像診断 EUSおよびEUS-FNAの有用性. 胆と膵, 39(9), 805-812, 2018.
- 014 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆: 【誌上ディベート 肝胆膵外科におけるcontroversial surgery】 膵頭十二指腸切除における膵消化管吻合 膵腸吻合の立場から. 手術, 73(3), 325-329, 2019.
- [症例検討]**
- 001 *Byonggu An, I Abe T, I Uemura N, Higaki E, Hosoi T, Kuroda H, Matsui T, Ishihara M, Kurita Y, Yatabe Y, Shimizu Y*: Simultaneous resections of left lung cancer and esophageal schwannoma using video-assisted thoracoscopic surgery: A case report. Asian J Endosc Surg, 12(35), 348-353, 2018.
- 002 重吉 到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 胃癌術後補助化学療法においてS-1後発医薬品内服時のみ好中球減少が軽快した1例. 癌と化学療法, 45(11), 1653-1655, 2018.
- 003 内野大倫, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 村上善子, 清水泰博: 隣接臓器合併切除によりsurgical marginを確保し得た後腹膜脱分化型脂肪肉腫の1例. 手術, 72(10), 1553-1558, 2018.
- [図説]**
- 001 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 原 和生: 胆管癌と鑑別を要する良性胆管狭窄 (図説). 胆道, 32(5), 926-930, 2018.

[Q&A]

- 001 清水泰博, 大塚隆生: 分枝型IPMNの手術適応 壁在結節の存在・大きさと悪性診断能について 悪性予測因子を複合的に評価して治療方針を最終決定する必要がある(Q&A). 日本医事新報, (4953), 5960, 2019.

[その他]

- 001 小森康司: デスマイド腫瘍. 中日新聞, 18., 2018.

整形外科部

- 001 *Akiyama T, Ogura K, Gokita T, Tsukushi S, Iwata S, Nakamura T, Matsumine A, Yonemoto T, Nishida Y, Saita K, Kawai A, Matsumoto S, Yamaguchi T*: Analysis of the Infiltrative Features of Chordoma: The Relationship Between Micro-Skip Metastasis and Postoperative Outcomes. *Ann Surg Oncol*, 25(4): 912-919, 2018.
- 002 *Takanari K, Toriyama K, Kambe M, Nakamura R, Nakamura Y, Sato H, Ebisawa K, Tsukushi S, Nishida Y, Kamei Y*: Long-term functional outcome of tibial osteomyelitis reconstruction with free tissue transfer. *J Plast Reconstr Aesthet Surg*, 71(5): 758-760, 2018.
- 003 *Ikuta K, Nishida Y, Sugiura H, Tsukushi S, Yamada K, Urakawa H, Arai E, Hamada S, Ishiguro N*: Predictors of complications in heat-treated autograft reconstruction after intercalary resection for malignant musculoskeletal tumors of the extremity. *J Surg Oncol*, 117(7): 1469-1478, 2018.
- 004 *Urakawa H, Yonemoto T, Matsumoto S, Takagi T, Asanuma K, Watanuki M, Takemoto A, Naka N, Matsumoto Y, Kawai A, Kunisada T, Kubo T, Emori M, Hiraga H, Hatano H, Tsukushi S, Nishida Y, Akisue T, Morii T, Takahashi M, Nagano A, Yoshikawa H, Sato K, Kawano M, Hiraoka K, Tanaka K, Iwamoto Y, Ozaki T*: Clinical outcome of primary giant cell tumor of bone after curettage with or without perioperative denosumab in Japan: from a questionnaire for JCOG 1610 study. *World J Surg Oncol*, 8; 16(1): 160, 2018.
- 005 *Sugiura H, Tsukushi S, Yoshida M, Nishida Y*: What Is the Success of Repeat Surgical Treatment of a Local Recurrence After Initial Wide Resection of Soft Tissue Sarcomas?. *Clin Orthop Relat Res*, 476(9): 1791-1800, 2018.
- 006 *Hayashi T, Sakakura N, Ishimura D, Kozawa E, Yoshida M, Sakao Y, Yamada H, Tsukushi S*: Surgical complication and postoperative pulmonary function in patients undergoing tumor surgery with thoracic wall resection. *Oncol Lett*, 17(3): 3446-3456, 2019.

- 007 *Ogura K, Uehara K, Akiyama T, Shinoda Y, Iwata S, Tsukushi S, Kobayashi E, Hirose T, Yonemoto T, Endo M, Tanzawa Y, Nakatani F, Kawano H, Tanaka S, Kawai A*: Development of a patient-oriented disease specific outcome measure of health-related quality of life (HRQOL) for musculoskeletal oncology patients. *J Orthop Sci*, 24(3): 539-554, 2019.

泌尿器科部

- 001 *Soga N, Furusawa J, Ogura Y*: Long-term management of incidental bladder cancer detected in patients undergoing prostatectomy for prostate cancer. *Current urology*, 2018, in press
- 002 *Soga N, Ogura Y, Wakita T, Kageyama T, Furusawa J*: The GP score, a simplified formula (bioptic Gleason score times prostate specific antigen) as a predictor for biochemical failure after prostatectomy in prostate cancer. *Current urology*, 2018, in press
- 003 *Soga N, Furusawa J, Ogura Y*: Evaluation to differentiate between tumor lesions and the parenchyma in partial nephrectomies for renal tumors based on quantitative fluorescence imaging using indocyanine green dye. *Current urology*, 2018, in press
- 004 *Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Tanaka H, Koide Y, Tachibana H, Kodaira T*: Favorable ten-year outcomes of image-guided intensity-modulated radiotherapy combined with long-term androgen deprivation for Japanese patients with non-metastatic prostate cancer. *Asia Pac J Clin Oncol*. 15: 18-25, 2019
- 005 *Furusawa J, Yamada Y, Soga N, Kuromatsu I*: Optimal monitoring of prostate-specific antigen detects prostate cancer at the localized stage after photoselective vaporization for *benign prostatic hyperplasia*. *Current urology*, 12: 147-152, 2018.
- 006 *Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Shimizu H, Adachi S, Tanaka H, Kato D, Koide Y, Makita C, Tachibana H, Kodaira T*: Effects of dose-escalated radiotherapy in combination with long-term androgen deprivation on prostate cancer. *Br J Radiol*, 91(1083): 20170431, 2018.
- 007 *Kageyama T, Ogura Y, Kondo S, Soga N*: Spontaneous regression of an intramural bladder haematoma in a patient with Osler-Weber-Rendu Syndrome. *Journal of Clinical Urology*, 2018 ePUB
- 008 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: 初回経直腸的生検の最適化: 内側生検を加えることによる有効性 泌尿器外科, 31, 1207-1210, 2018.
- 009 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: ミニマム創内視鏡補助下もしくは, fire fly fluorescence imagingを使用したロボット補助下腎部分切除における, 近赤外蛍光法の評



価, 日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌, 10, 3-7, 2018.

## 婦人科部

- 001 **Tomita N, Mizuno M, Makita C, Kondo S, Mori M, Sakata J, Tsubouchi H, Hirata K, Tachibana H, Kodaira T** : Propensity Score Analysis of Radical Hysterectomy Versus Definitive Chemoradiation for FIGO Stage IIB Cervical Cancer. *Int J Gynecol Cancer*, 28(8): 1576-1583, 2018.
- 002 **Tomita N, Mizuno M, Kondo S, Mori M, Takeshita S, Sakata J, Tsubouchi H, Kodaira T** : Role of Extensive Lymphadenectomy in Early-Stage Cervical Cancer Patients With Radical Hysterectomy Followed by Adjuvant Radiotherapy. *Int J Gynecol Cancer*, 28(6): 1211-1217, 2018.
- 003 **Matoda M, Takeshima N, Michimae H, Iwata T, Yokota H, Torii Y, Yamamoto Y, Takehara K, Nishio S, Takano H, Mizuno M, Takahashi Y, Takei Y, Hasegawa T, Mikami M, Enomoto T, Aoki D, Sugiyama T** : Postoperative chemotherapy for node-positive cervical cancer: Results of a multicenter phase II trial (JGOG1067). *Gynecol Oncol*, 149(3): 513-519, 2018.
- 004 **Kajiyama H, Suzuki S, Yoshihara M, Nishino K, Yoshikawa N, Utsumi F, Niimi K, Mizuno M, Kawai M, Oguchi H, Mizuno K, Yamamuro O, Nagasaka T, Shibata K, Kikkawa F** : The possible existence of occult metastasis in patients with ovarian clear-cell carcinoma who underwent complete resection without any residual tumours. *Oncotarget*, 9(5): 6298-6307, 2018.
- 005 **Ishikawa H, Sakata J, Ando T, Soma D, Yuza K, Toge K, Hirose Y, Katada T, Miura K, Takizawa K, Kobayashi T, Ichikawa H, Nagahashi M, Kamayama H, Wakai T** : Pancreaticoduodenectomy for Recurrent Retroperitoneal Liposarcoma]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 45(13): 1845-1847, 2018.
- 006 **Tomita N, Mizuno M, Makita C, Kondo S, Mori M, Sakata J, Tsubouchi H, Hirata K, Tachibana H, Kodaira T** : Propensity Score Analysis of Radical Hysterectomy Versus Definitive Chemoradiation for FIGO Stage IIB Cervical Cancer. *Int J Gynecol Cancer*, 28(8): 1576-1583, 2018.
- 007 **Yoshikawa N, Teshigawara T, Ikeda Y, Nishino K, Sakata J, Utsumi F, Niimi K, Sekiya R, Suzuki S, Kawai M, Shibata K, Kikkawa F, Kajiyama H** : Fertility-sparing surgery of malignant transformation arising from mature cystic teratoma of the ovary. *Oncotarget*, 8: 9(44): 27564-27573, 2018.
- 008 **Yoshida K, Suzuki S, Sakata J, Utsumi F, Niimi K, Yoshikawa N, Nishino K, Shibata K, Kikkawa F, Kajiyama H** : The upregulated expression of vascular endothelial growth factor in surgically treated patients with recurrent/radioresistant cervical cancer of the uterus. *Oncol Lett*, Jul; 16(1): 515-521, 2018.
- 009 **Tomita N, Mizuno M, Kondo S, Mori M, Takeshita S, Sakata J, Tsubouchi H, Kodaira T** : Role of Extensive Lymphadenectomy in Early-Stage Cervical Cancer Patients With Radical Hysterectomy Followed by Adjuvant Radiotherapy. *Int J Gynecol Cancer*, 28(6): 1211-1217, 2018.
- 010 **Minlikeeva AN, Cannioto R, Jensen A, Kjaer SK, Jordan SJ, Diergaard B, Szender JB, Odunsi K, Almohanna H, Mayor P, Starbuck K, Zsiros E, Bandera EV, Cramer DW, Doherty JA, DeFazio A; Australian Ovarian Cancer Study Group, Edwards R, Goode EL, Goodman MT, Høgdall E, Matsuo K, Mizuno M, Nagle CM, Ness RB, Paddock LE, Pearce CL, Risch HA, Rossing MA, Terry KL, Wu AH, Modugno F, Webb PM, Moysich KB** : Joint exposure to smoking, excessive weight, and physical inactivity and survival of ovarian cancer patients, evidence from the Ovarian Cancer Association Consortium. *Ovarian Cancer Association Consortium. Cancer Causes Control*, 2019.
- 011 **Lawrenson K, Song F, Hazelett DJ, Kar SP, Tyrer J, Phelan CM, Corona RI, Rodríguez-Malavé NI, Seo JH, Adler E, Coetzee SG, Segato F, Fonseca MAS, Amos CI, Carney ME, Chenevix-Trench G, Choi J, Doherty JA, Jia W, Jin GJ, Kim BG, Le ND, Lee J, Li L, Lim BK, Adenan NA, Mizuno M, Park B, Pearce CL, Shan K, Shi Y, Shu XO, Sieh W; Australian Ovarian Cancer Study Group, Thompson PJ, Wilkens LR, Wei Q, Woo YL, Yan L, Karlan BY, Freedman ML, Noushmehr H, Goode EL, Berchuck A, Sellers TA, Teo SH, Zheng W, Matsuo K, Park S, Chen K, Pharoah PDP, Gayther SA, Goodman MT** : Genome-wide association studies identify susceptibility loci for epithelial ovarian cancer in east Asian women. *Gynecol Oncol*, S0090-8258(19)30133-7, 2019.
- 012 **Nomura H, Aoki D, Michimae H, Mizuno M, Nakai H, Arai M, Sasagawa M, Ushijima K, Sugiyama T, Saito M, Tokunaga H, Matoda M, Nakanishi T, Watanabe Y, Takahashi F, Saito T, Yaegashi N; Japanese Gynecologic Oncology Group** : Effect of Taxane Plus Platinum Regimens vs Doxorubicin Plus Cisplatin as Adjuvant Chemotherapy for Endometrial Cancer at a High Risk of Progression: A Randomized Clinical Trial. *JAMA Oncol*, 10.1001/jamaoncol. 2019.
- 013 **Inoue S, Ito H, Hosono S, Hori M, Matsuda T, Mizuno M, Kato K, Matsuo K** : Net Survival of Elderly

- Patients with Gynecological Cancer Aged Over 75 Years in 2006-2008. *Asian Pac J Cancer Prev*, 26; 20(2): 437-442, 2019.
- 014 **Shimokawa M, Hayashi T, Kogawa T, Matsui R, Mizuno M, Kikkawa F, Saeki T, Aiba K, Tamura K** : Evaluation of Combination Antiemetic Therapy on CINV in Patients With Gynecologic Cancer Receiving TC Chemotherapy. *Anticancer Res*, 39(1): 225-230, 2019.
- 015 **Takeuchi F, Kukimoto I, Li Z, Li S, Li N, Hu Z, Takahashi A, Inoue S, Yokoi S, Chen J, Hang D, Kuroda M, Matsuda F, Mizuno M, Mori S, Wu P, Tanaka N, Matsuo K, Kamatani Y, Kubo M, Ma D, Shi Y** : Genome-wide association study of cervical cancer suggests a role for ARRDC3 gene in human papillomavirus infection. *Hum Mol Genet*, 15; 28(2): 341-348, 2019.
- 016 **水野美香** : 子宮頸がん前駆病変に5-aminolevulinic acidとLEDを用いた光線力学療法. 日本工業出版株式会社, 光アライアンス 特集さまざまな医療現場で威力を発揮する光技, 18-22, 2018.

#### 放射線診断・I V R部

- 001 **Hasegawa T, Yamanaka T, Gobara H, Miyazaki M, Takaki H, Sato Y, Inaba Y, Yamakado K** : Radiofrequency ablation versus cryoablation for T1b renal cell carcinoma: a multi-center study. *Japanese Journal of Radiology*, 36, 551-558, 2018
- 002 **Yamaguchi T, Shimizu J, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Yatabe Y, Hida T** : Pre-existing pulmonary fibrosis is a risk factor for anti-PD-1-related pneumonitis in patients with non-small cell lung cancer: a retrospective analysis. *Lung Cancer* 125, 212-217, 2018
- 003 **Sato Y, Inaba Y** : Metallic Stent for Malignant Colorectal Obstruction. *Digestive Disease Interventions*. 2, 1-7, 2018
- 004 **Murata S, Matushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Hasegawa T, Muro K, Inaba Y** : Predicting chemotherapeutic response for colorectal liver metastases using relative tumor enhancement of adoxetic acid disodium-enhanced magnetic resonance imaging. *Abdominal Radiology*. 43, 3301-3306, 2018
- 005 **Inaba Y, Arai Y, Sone M, Aramaki T, Osuga K, Tanaka H, Kanemasa K** : Clinical trial for development of a aterable microcatheter. *Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies*. 28, 1-5, 2019
- 006 **Kimbara Y, Sato Y, Hasegawa T, Morinaga H, Murata S, Imai Y, Hara K, Okuno N, Inaba Y** : Covered stent placement for emergency repair of a ruptured superior mesenteric artery pseudoaneurysm in advanced pancreatic head cancer. *Radiology Case Reports* 14, 133-135, 2019
- 007 **Dejima H, Kuroda H, Oya Y, Sakakura N, Inaba Y, Tamaki T, Yatabe Y, Sakao Y** : Evaluation of lobar lymph node metastasis in non-small cell lung carcinoma using modified total lesion glycolysis. *Journal of Thoracic Disease*, 10, 6932-6941, 2018
- 008 **Hasegawa T, Kuroda H, Sato Y, Matsuo K, Sakata S, Yashiro H, Sakakura N, Mizuno T, Arimura T, Yamaura H, Murata S, Imai Y, Sakao Y, Inaba Y** : The utility of indigo carmine and lipiodol mixture for preoperative pulmonary nodule localization before video-assisted thoracic surgery. *Journal of Vascular and Interventional Radiology*. 30, 446-452, 2019
- 009 **佐藤洋造, 村田慎一, 浅井 翼, 米澤祐司, 服部寿史, 長谷川貴章, 稲葉吉隆** : 肝細胞がんに対するTACEの現状. *インナービジョン* 33, 41-43, 2018
- 010 **稲葉吉隆** : マイクロスフィアを安全に使用するために留意しなければならないこと. *クリニシアン* 63, 343-350, 2018
- 011 **佐藤洋造, 稲葉吉隆, 村田慎一, 長谷川貴章** : 分子標的薬とDEB - TACEの使い分け. *クリニシアン* 65, 26-32, 2018
- 012 **村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆** : 手技詳説 - 非血管I V R - 腹部 尿路閉塞、水腎症. *臨床放射線* 63 (臨時増刊号), 1574-1577, 2018
- 013 **長谷川貴章, 今井勇伍, 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆** : 手技詳説 - 非血管I V R - 腹部 急性胆嚢炎, 胆管炎. *臨床放射線* 63 (臨時増刊号), 1546-1549, 2018
- 014 **佐藤洋造, 稲葉吉隆, 長谷川貴章, 村田慎一** : 手技詳説 - 非血管I V R - 腹部 輸入脚閉塞. *臨床放射線* 63 (臨時増刊号), 1562-1565, 2018
- 015 **加藤弥菜** : ソラフェニブ. *消化器がん化学療法レジメンブック* 4版, 日本医事新報社, 234-237, 2018
- 016 **長谷川貴章, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 中塚豊真, 山中隆嗣, 杉野雄一, 高木治行, 山門享一郎** : IVR後の画像診断腎腫瘍に対するアブレーション前後の画像評価. *IVR* 33, 23-29, 2018
- 017 **佐藤洋造, 橋本直弥, 村田慎一, 長谷川貴章, 稲葉吉隆** : 当科におけるレンバチニブの使用経験 - 薬剤師介入による副作用マネジメントを含めて -. *レンバチニブによる肝細胞癌治療, アークメディア*, 206-210, 2019
- 018 **佐藤洋造, 渡辺裕一** : mRECISTの評価方法とは. *クリニシアン* 66, 101-07, 2019

#### 放射線治療部

- 001 **Kodaira T, Kagami Y, Shibata T, Shikama N, Nishimura Y, Ishikura S, Nakamura K, Saito Y, Matsumoto Y, Teshima T, Ito Y, Akimoto T, Nakata K, Toshiyasu T, Nakagawa K, Nagata Y, Nishimura T, Uno T, Kataoka M, Yoroze A and Hiraoka M** : for the Radiation Therapy Study Group of

- the Japan Clinical Oncology Group. Results of a multi-institutional, randomized, non-inferiority, phase 3 trial of accelerated fractionation versus standard fractionation in radiation therapy for T1-2N0M0 glottic cancer: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0701). *Annals of Oncology*, 29(4), 992-997, 2018.
- 002 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Shimizu H, Adachi S, Tanaka H, Kato D, Koide Y, Makita C, Tachibana H, Kodaira T** : Effects of dose-escalated radiotherapy in combination with long-term androgen deprivation on prostate cancer. *Br J Radiol*, 91(10983), 2018.
- 003 **Shimizu H, Sasaki K, Sugi K, Fukuma H, Nakabayashi T, Isomura T, Tachibana H, Kodaira T** : Variations in tomotherapy beam outputs: a multiple-institutional investigation. *International Journal of Medical Physics. Clinical Engineering and Radiation Oncology* 7, 87-99, 2018.
- 004 **Ito M, Shimizu H, Aoyama T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Koide Y, Kato D, Ishiguchi T, Kodaira T** : Efficacy of virtual block objects in reducing the lung dose in helical tomotherapy planning for cervical oesophageal cancer. a planning study. *Radiat Oncol*, 13(1): 62, Apr 4, 2018.
- 005 **Tomita N, Mizuno M, Kondo S, Mori M, Takeshita S, Sakata J, Tsubouchi H, Kodaira T** : Role of Extensive Lymphadenectomy in Early-Stage Cervical Cancer Patients With Radical Hysterectomy Followed by Adjuvant Radiotherapy. *Int J Gynecol Cancer*, 28(6), 1211-1217, 2018.
- 006 **Shimizu H, Sasaki K, Kubota T, Fukuma H, Aoyama T, Iwata T, Tachibana H, Kodaira T** : Interfacility variation in treatment planning parameters in tomotherapy: field width, pitch, and modulation factor. *J of Radiat Research*, 59(5), 664-668, 2018.
- 007 **Tomita N, Mizuno M, Makita C, Kondo S, Mori M, Sakata J, Tsubouchi H, Hirata K, Tachibana H, Kodaira T** : Propensity Score Analysis of Radical Hysterectomy Versus Definitive Chemoradiation for FIGO Stage IIB Cervical Cancer. *Int J Gynecol Cancer*, 28(8), 1576-1583, 2018.
- 008 **Sasaki T, Seto T, Yamanaka T, Kunitake N, Shimizu J, Kodaira T, Nishio M, Kozuka T, Takahashi T, Harada H, Yoshimura N, Tsutsumi S, Kitajima H, Kataoka M, Ichinose Y, Nakagawa K, Nishimura Y, Yamamoto N, Nakanishi Y** : A randomised phase II trial of S-1 plus cisplatin versus vinorelbine plus cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy for unresectable, locally advanced non-small cell lung cancer: WJOG5008L. *Br J Cancer*, 119(6), 675-82, 2018.
- 009 **Aoyama T, Shimizu H, Shimizu I, Teramoto A, Kaneda N, Nakamura K, Nakamura M, Kodaira T** : Geometric distortion in magnetic resonance imaging systems assessed using an open-source plugin for scientific image analysis. *Radiol Phys Technol*, 11(4), 467-72, 2018.
- 010 **Suzuki H, Kimura K, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Koide Y, Tanaka H, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Hanai N** : Gross tumor volume in sinonasal tract cancer as a predictor of local recurrence after chemoradiotherapy. *Jpn J Clin Oncol*, 48(12), 1041-45, 2018.
- 011 **古平 毅** : 9. 放射線治療概論. 新臨床腫瘍学改訂5版, 南江堂, 日本臨床腫瘍学会, 編集委員会, 219-230, 2018.
- 012 **古平 毅** : 2章 放射線治療で起こる副作用の病態と実臨床での具体的対処法 7節 唾液腺障害. 癌治療で起こる副作用・合併症の治療法と薬物開発, 技術情報協会, 231-236, 2018.
- 013 **古平 毅** : 特集 どこが変わった頭頸部癌TNM分類各論 上咽頭癌. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 89(13), 1074-79, 2018.
- 014 **古平 毅** : 特集 頭頸部がんに対する薬物療法—最新情報— 4) 上咽頭がんに対する化学療法. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 90(3), 228-232, 2018.
- 015 **古平 毅** : 質疑応答 プロからプロへ 放射線科分野 頭頸部癌における強度変調放射線治療の有用性. 日本医事新報, 4910, 55, 2018.
- 016 **古平 毅** : Current Organ Topics III. 放射線治療の現状と展望. 癌と化学療法, 45(7), 1052-55, 2018.
- 017 **古平 毅** : どこが変わった頭頸部癌診療ガイドライン 3) 上咽頭癌, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 90(10), 810-814, 2018.
- 018 **古平 毅** : どこが変わった頭頸部癌診療ガイドライン 10) 放射線治療 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 90(10), 850-854, 2018.
- 019 **青山貴洋, 清水秀年** : 誌上講座: 放射線治療の現状③体外照射編—トモセラピー—. 日本診療放射線技師会誌, 65, 738-743, 2018.

## 緩和ケア部

- 001 **下山理史** : 身体症状の緩和(POINT 1) 呼吸困難の症状と緩和. *YORi-SOUがんナーシング*, 春季増刊: 82-83, 2019.
- 002 **下山理史** : 身体症状の緩和(POINT 2) 呼吸困難の原因と緩和(1) 胸水貯留. *YORi-SOUがんナーシング*, 春季増刊: 84-87, 2019.
- 003 **下山理史** : 身体症状の緩和(POINT 3) 呼吸困難の症状と緩和 薬物療法(オピオイド). *YORi-SOUがんナーシング*, 春季増刊: 88-90, 2019.
- 004 **下山理史** : 身体症状の緩和(POINT 4) 呼吸困難の症状と緩和 酸素療法. *YORi-SOUがんナーシング*, 春季増刊: 91-94, 2019.



- 005 下山理史：身体症状の緩和(POINT 5) 消化器症状の緩和 閉塞. YORi-SOUがんナーシング, 春季増刊: 96-98, 2019.
- 006 下山理史：身体症状の緩和(POINT 6) 消化器症状の緩和 腹水. YORi-SOUがんナーシング, 春季増刊: 99-101, 2019.
- 007 下山理史：身体症状の緩和(POINT 7) 消化器症状の緩和 悪心. YORi-SOUがんナーシング, 春季増刊: 102-105, 2019.
- 008 下山理史：身体症状の緩和(POINT 8) 消化器症状の緩和 食欲不振. YORi-SOUがんナーシング, 春季増刊: 106-108, 2019.
- 009 下山理史：身体症状の緩和(POINT 9) 消化器症状の緩和 便秘. YORi-SOUがんナーシング, 春季増刊: 109-112, 2019.
- 010 下山理史：症例から考える(症例5) 呼吸困難と便秘 呼吸困難に有効なのはモルヒネだけ?便秘ありは便秘ではない?. YORi-SOUがんナーシング, 春季増刊: 240-241, 2019.
- 011 下山理史：その患者に一番あったオピオイドを見つける 6+1通りに分けて考える使い分け. 緩和ケア, 29: 143-145, 2019.

## 精神腫瘍科部

### [学会誌への発表]

- 001 小森康永：書評 モラン『がんサバイバー』. 質的心理学研究, 17: 232-233, 2018

### [その他誌上への発表]

- 001 M. ホワイト(小森康永訳)：ナラティヴ・セラピー・クラシックス. 金剛出版, 2018
- 002 小森康永：書評『迷走する緩和ケア』岸本寛史. 精神療法, 45(1): 134, 2019

## 看護部

- 001 向井未年子：Q&A 支持療法 Q16 抗がん剤と麻薬(オピオイド鎮痛薬)の併用は可能か? またどのような点に注意が必要か?. 消化器がん化学療法レジメンブック(第4版). 日本医事新報社: 400-403, 2018.
- 002 向井未年子：がん看護学. 臨床に活かすがん看護の基礎と実践(第2版), ヌーヴェルヒロカワ: 118-120, 2018
- 003 西尾里美(共著)：専門看護師の看護実践能力向上に向けた聖隷CNS事例検討会の活動について. 聖隷クリストファー大学紀要, 2019
- 004 藤田 恵：特集知らないと危ない! 看護ケアのギモン Part2 Part2輸液管理・薬剤 Q2オピオイドを開始したら眠気が出現! これはオーバードーズ(過剰投与)? .Expert Nurse 34(9): 106 -107, 2018

- 005 久保 知：がん放射線療法ケアガイドー病棟・外来・治療室で行うアセスメントと患者サポート(改定第3版). 中山出版: P162-169, 2018
- 006 久保 知：オンコロ・ジャーナル. UPRI-SOUがんナーシング, 8(3): 68-69, 2018
- 007 中島貴子：放射線療法を受ける消化器がんの入院患者の治療前後のケア. 消化器看護, 23(12-1): 28-34, 2018

## 薬剤部

- 001 *Hasimoto Naoya, Mitani S, Taniguchi H, Narita Y, Kato K, Masuishi T, Kadowaki S, Onshi S, Tajika M, Takahashi S, Shimomura K, Takahata C, Hotta E, Kobara M, Muro K* : A prospective trial evaluating the safety of a shortened infusion ramucirumab in patients with gastrointestinal cancer. *Oncologist*, 24: 159-166, 2019
- 002 *Maeda A, Irie K, Ando H, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Aoki M, Inaguma K, Kajita M, Fujimura A, Fukushima S* : Associations among regorafenib concentrations, severe adverse reactions, and ABCG2 and OATP1B1 polymorphisms. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83:107-113, 2019.
- 003 橋本直弥, 立松三千子, 稲熊一英, 水野靖也：レンパチニブの投与量別における副作用発現状況と relative dose intensity への影響に関する調査. 日本病院薬学会雑誌, 54, 983-991, 2018
- 004 橋本直弥：第5章 支持療法 3.心・血管系 3-1 高血圧. 臨床腫瘍薬学, 651-656, 2019
- 005 立松三千子：第7章 実務 2.がん薬物療法におけるチーム医療 2-1 チーム医療の概要 4) チーム医療の実際. 臨床腫瘍薬学, 918-922, 2019

## 6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

### がん情報・対策研究分野

- 001 *Horisaki K, Takahashi K, Ito H, Matsui S* : A Dose-Response Meta-analysis of Coffee Consumption and Colorectal Cancer Risk in the Japanese Population: Application of a Cubic-Spline Model. *Journal of epidemiology*, doi: 10.2188/jea. JE20170201, 2018.
- 002 *Yoshimura A, Ito H, Nishino Y, Hattori M, Matsuda T, Miyashiro I, Nakayama T, Iwata H, Matsuo K, Tanaka H, Ito Y* : Recent Improvement in the Long-term Survival of Breast Cancer Patients by Age and Stage in Japan. *Journal of epidemiology*. 28(10): 420-7, 2018.
- 003 *Tanikawa C, Kamatani Y, Toyoshima O, Sakamoto H, Ito H, Takahashi A, Momozawa Y, Hirata M, Fuse N, Takai-Igarashi T, Shimizu A, Sasaki M, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Naito M, Hishida A, Wakai K, Furusyo N, Murakami Y, Nakamura Y, Imoto I, Inazawa J, Oze I, Sato N, Tanioka F, Sugimura H, Hirose H, Yoshida T, Matsuo K, Kubo M, Matsuda K* : Genome-wide association study identifies gastric cancer susceptibility loci at 12q24.11-12 and 20q11.21. *Cancer science*, 109(12): 4015-24, 2018.
- 004 *Inoue S, Ito H, Hosono S, Hori M, Matsuda T, Mizuno M, Kato K, Matsuo K* : Net Survival of Elderly Patients with Gynecological Cancer Aged Over 75 Years in 2006-2008. *Asian Pacific journal of cancer prevention: APJCP*, 20(2): 437-42, 2019.
- 005 *Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda N, Nagino M, Matsuo K* : Impact of germinal center-associated nuclear protein polymorphisms on breast cancer risk and prognosis in a Japanese population. *Breast cancer (Tokyo, Japan)*, doi: 10.1007/s12282-019-00956-5, 2019.

### がん予防研究分野

- 001 *Hara M, Hachiya T, Sutoh Y, Matsuo K, Nishida Y, Shimanoe C, Tanaka K, Shimizu A, Ohnaka K, Kawaguchi T, Oze I, Matsuda F, Ito H, Kawai S, Hishida A, Okada R, Sasakabe T, Hirata A, Ibusuki R, Nindita Y, Furusyo N, Ikezaki H, Kuriyama N, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Hosono A, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Endoh K, Takashima N, Kadota A, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Naito M, Wakai K* : Genomewide

Association Study of Leisure-Time Exercise Behavior in Japanese Adults. *Medicine and science in sports and exercise*, 50(12): 2433-41, 2018.

- 002 *Hatta Y, Mizuta S, Matsuo K, Ohtake S, Iwanaga M, Sugiura I, Doki N, Kanamori H, Ueda Y, Yoshida C, Dobashi N, Maeda T, Yujiri T, Monma F, Ito Y, Hayakawa F, Takeuchi J, Kiyoi H, Miyazaki Y, Naoe T* : Final analysis of the JALSG Ph+ALL202 study: tyrosine kinase inhibitor-combined chemotherapy for Ph+ALL. *Annals of hematology*, 97(9): 1535-45, 2018.
- 003 *Hayakawa J, Miyamura D, Kimura SI, Gomyo A, Tamaki M, Akahoshi Y, Harada N, Ugai T, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Kanda Y* : Negative impact of chronic graft-versus-host disease and glucocorticoid on the recovery of physical function after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone marrow transplantation*, doi: 10.1038/s41409-018-0365-4, 2018.
- 004 *Hishida A, Nakatochi M, Akiyama M, Kamatani Y, Nishiyama T, Ito H, Oze I, Nishida Y, Hara M, Takashima N, Turin TC, Watanabe M, Suzuki S, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Nakamura Y, Mikami H, Ikezaki H, Furusyo N, Kuriki K, Endoh K, Koyama T, Matsui D, Uemura H, Arisawa K, Sasakabe T, Okada R, Kawai S, Naito M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K* : Genome-Wide Association Study of Renal Function Traits: Results from the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *American journal of nephrology*, 47(5): 304-16, 2018.
- 005 *Hiwa R, Ikari K, Ohmura K, Nakabo S, Matsuo K, Saji H, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Taniguchi A, Yamanaka H, Matsuda F, Mimori T, Terao C* : HLA-DRB1 Analysis Identified a Genetically Unique Subset within Rheumatoid Arthritis and Distinct Genetic Background of Rheumatoid Factor Levels from Anticyclic Citrullinated Peptide Antibodies. *The Journal of rheumatology*, 45(4): 470-80, 2018.
- 006 *Inoko A, Yano T, Miyamoto T, Matsuura S, Kiyono T, Goshima N, Inagaki M, Hayashi Y* : Albatross/FBF1 contributes to both centriole duplication and centrosome separation. *Genes to cells: devoted to molecular & cellular mechanisms*, 23(12): 1023-42, 2018.
- 007 *Ishioka K, Masaoka H, Ito H, Oze I, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Nakamura S, Matsuo K* : Association between ALDH2 and ADH1B polymorphisms, alcohol drinking and gastric cancer: a replication and mediation analysis. *Gastric cancer: official journal of the International Gastric Cancer Association and the*

- Japanese Gastric Cancer Association, 21(6): 936-45, 2018.
- 008 **Kashino I, Akter S, Mizoue T, Sawada N, Kotemori A, Matsuo K, Oze I, Ito H, Naito M, Nakayama T, Kitamura Y, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Inoue M, Nagata C, Sadakane A, Tanaka K, Tsugane S, Shimazu T** : Coffee drinking and colorectal cancer and its subsites: A pooled analysis of 8 cohort studies in Japan. *International journal of cancer*, 143(2): 307-16, 2018.
- 009 **Koyanagi YN, Matsuo K, Ito H, Tamakoshi A, Sugawara Y, Hidaka A, Wada K, Oze I, Kitamura Y, Liu R, Mizoue T, Sawada N, Nagata C, Wakai K, Nakayama T, Sadakane A, Tanaka K, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S** : Body-Mass Index and Pancreatic Cancer Incidence: A Pooled Analysis of Nine Population-Based Cohort Studies With More Than 340,000 Japanese Subjects. *Journal of epidemiology*, 28(5): 245-52, 2018.
- 010 **Kusuda M, Kimura SI, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Hayakawa J, Tamaki M, Akahoshi Y, Ugai T, Kameda K, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Tanihara A, Kanda Y** : Association between Activated Partial Thromboplastin Time and the Amount of Infused Heparin at Bone Marrow Transplantation. *Biology of blood and marrow transplantation: journal of the American Society for Blood and Marrow Transplantation*, 24(7): 1367-71, 2018.
- 011 **Leoncini E, Vukovic V, Cadoni G, Giraldo L, Pastorino R, Arzani D, Petrelli L, Wunsch-Filho V, Toporcov TN, Moyses RA, Matsuo K, Bosetti C, La Vecchia C, Serraino D, Simonato L, Merletti F, Boffetta P, Hashibe M, Lee YA, Boccia S** : Tumour stage and gender predict recurrence and second primary malignancies in head and neck cancer: a multicentre study within the INHANCE consortium. *European journal of epidemiology*, 33(12): 1205-18, 2018.
- 012 **Makimoto G, Ichihara E, Hotta K, Ninomiya K, Oze I, Minami D, Ninomiya T, Kubo T, Ohashi K, Tabata M, Maeda Y, Kiura K** : Randomized Phase II Study Comparing Mannitol with Furosemide for the Prevention of Renal Toxicity Induced by Cisplatin-based Chemotherapy with Short-term Low-volume Hydration in Advanced Non-small Cell Lung Cancer: The OLC-SG1406 Study Protocol. *Acta medica Okayama*, 72(3): 319-23, 2018.
- 013 **Miki A, Sakurada Y, Tanaka K, Semba K, Mitamura Y, Yuzawa M, Tajima A, Nakatochi M, Yamamoto K, Matsuo K, Imoto I, Honda S** : Genome-Wide Association Study to Identify a New Susceptibility Locus for Central Serous Chorioretinopathy in the Japanese Population. *Investigative ophthalmology & visual science*, 59(13): 5542-7, 2018.
- 014 **Nakatochi M, Lin Y, Ito H, Hara K, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao H, Wang C, Nishiyama T, Kawaguchi T, Takahashi M, Matsuda F, Kikuchi S, Matsuo K** : Prediction model for pancreatic cancer risk in the general Japanese population. *PLoS one*, 13(9): e0203386, 2018.
- 015 **Oze I, Ito H, Nishino Y, Hattori M, Nakayama T, Miyashiro I, Matsuo K, Ito Y** : Trends in Small-Cell Lung Cancer Survival in 1993-2006 Based on Population-Based Cancer Registry Data in Japan. *Journal of epidemiology*, doi: 10.2188/jea. JE20180112, 2018.
- 016 **Sasakabe T, Wakai K, Kawai S, Hishida A, Naito M, Suzuki S, Nindita Y, Arisawa K, Kita Y, Hara M, Kuriyama N, Hirata A, Mikami H, Oze I, Kubo M, Tanaka H, Hamajima N** : Modification of the Associations of Alcohol Intake With Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Triglycerides by ALDH2 and ADH1B Polymorphisms in Japanese Men. *Journal of epidemiology*, 28(4): 185-93, 2018.
- 017 **Shiga Y, Akiyama M, Nishiguchi KM, Sato K, Shimozawa N, Takahashi A, Momozawa Y, Hirata M, Matsuda K, Yamaji T, Iwasaki M, Tsugane S, Oze I, Mikami H, Naito M, Wakai K, Yoshikawa M, Miyake M, Yamashiro K, Kashiwagi K, Iwata T, Mabuchi F, Takamoto M, Ozaki M, Kawase K, Aihara M, Araie M, Yamamoto T, Kiuchi Y, Nakamura M, Ikeda Y, Sonoda KH, Ishibashi T, Nitta K, Iwase A, Shirato S, Oka Y, Satoh M, Sasaki M, Fuse N, Suzuki Y, Cheng CY, Khor CC, Baskaran M, Perera S, Aung T, Vithana EN, Cooke Bailey JN, Kang JH, Pasquale LR, Haines JL, Wiggs JL, Burdon KP, Gharahkhani P, Hewitt AW, Mackey DA, MacGregor S, Craig JE, Allingham RR, Hauser M, Ashaye A, Budenz DL, Akafo S, Williams SEI, Kamatani Y, Nakazawa T, Kubo M** : Genome-wide association study identifies seven novel susceptibility loci for primary open-angle glaucoma. *Human molecular genetics*, 27(8): 1486-96, 2018.
- 018 **Shimizu Y, Hijioka S, Hirono S, Kin T, Ohtsuka T, Kanno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Matsuo K, Yanagisawa A, Yamaue H, Sugiyama M, Okazaki K** : New Model for Predicting Malignancy in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. *Annals of surgery*, doi: 10.1097/sla.0000000000003108, 2018.
- 019 **Tamura T, Kadomatsu Y, Tsukamoto M, Okada R, Sasakabe T, Kawai S, Hishida A, Hara M, Tanaka K, Shimoshikiryo I, Takezaki T, Watanabe I, Mat-**



- sui D, Nishiyama T, Suzuki S, Endoh K, Kuriki K, Kita Y, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Ikezaki H, Furusyo N, Koyanagi YN, Oze I, Nakamura Y, Mikami H, Naito M, Wakai K* : Association of exposure level to passive smoking with hypertension among lifetime nonsmokers in Japan: a cross-sectional study. *Medicine*, 97(48): e13241, 2018.
- 020 *Taniguchi C, Tanaka H, Saka H, Oze I, Tachibana K, Nozaki Y, Suzuki Y, Sakakibara H* : Changes in self-efficacy associated with success in quitting smoking in participants in Japanese smoking cessation therapy. *International journal of nursing practice*, 24(4): e12647, 2018.
- 021 *Terao C, Yoshifuji H, Matsumura T, Naruse TK, Ishii T, Nakaoka Y, Kirino Y, Matsuo K, Origuchi T, Shimizu M, Maejima Y, Amiya E, Tamura N, Kawaguchi T, Takahashi M, Setoh K, Ohmura K, Watanabe R, Horita T, Atsumi T, Matsukura M, Miyata T, Kochi Y, Suda T, Tanemoto K, Meguro A, Okada Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayamada S, Saito K, Kuwana M, Mizuki N, Tabara Y, Ueda A, Komuro I, Kimura A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F* : Genetic determinants and an epistasis of LILRA3 and HLA-B\*52 in Takayasu arteritis. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 115(51) :13045-50, 2018.
- 022 *Toyooka S, Okumura N, Nakamura H, Nakata M, Yamashita M, Tada H, Kajiwara S, Watanabe N, Okada M, Sakamoto J, Aoe M, Soh J, Miyoshi S, Hotta K, Matsuo K, Date H* : A Multicenter Randomized Controlled Study of Paclitaxel plus Carboplatin versus Oral Uracil-Tegafur as the Adjuvant Chemotherapy in Resected Non-Small Cell Lung Cancer. *Journal of thoracic oncology: official publication of the International Association for the Study of Lung Cancer*, 13(5): 699-706, 2018.
- 023 *Wada H, Kanda J, Akahoshi Y, Nakano H, Ugai T, Yamasaki R, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Ashizawa M, Sato M, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Yamazaki R, Kako S, Tanihara A, Nishida J, Kanda Y* : Impact of estimated glomerular filtration rate based on plasma cystatin C and serum creatinine levels before allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Hematology (Amsterdam, Netherlands)*, 23(5): 271-6, 2018.
- 024 *Wakahashi S, Kawakami F, Wakahashi K, Minagawa K, Matsuo K, Katayama Y, Yamada H, Matsui T, Sudo T* : Transformed Follicular Lymphoma (TFL) Predicts Outcome in Advanced Endometrial Cancer. *Cancer epidemiology, biomarkers & prevention: a publication of the American Association for Cancer Research, cosponsored by the American Society of Preventive Oncology*, 27(8): 963-9, 2018.
- 025 *Akizuki S, Ishigaki K, Kochi Y, Law SM, Matsuo K, Ohmura K, Suzuki A, Nakayama M, Izuka Y, Koseki H, Ohara O, Hirata J, Kamatani Y, Matsuda F, Sunida T, Yamamoto K, Okada Y, Mimori T, Terao C* : PLD4 is a genetic determinant to systemic lupus erythematosus and involved in murine autoimmune phenotypes. *Annals of the rheumatic diseases*, 78(4): 509-18, 2019.
- 026 *Brenner DR, Fehring G, Zhang ZF, Lee YA, Meyers T, Matsuo K, Ito H, Vineis P, Stucker I, Boffetta P, Brennan P, Christiani DC, Diao N, Hong YC, Landi MT, Morgenstern H, Schwartz AG, Rennert G, Saliba W, McLaughlin JR, Harris CC, Orlow I, Barros Dios JM, Ruano Ravina A, Siemiatycki J, Koushik A, Cote M, Lazarus P, Fernandez-Tardon G, Tardon A, Le Marchand L, Brenner H, Saum KU, Duell EJ, Andrew AS, Consonni D, Olsson A, Hung RJ, Straif K* : Alcohol consumption and lung cancer risk: A pooled analysis from the International Lung Cancer Consortium and the SYNERGY study. *Cancer epidemiology*, 58: 25-32, 2018.
- 027 *Hasegawa T, Kuroda H, Sato Y, Matsuo K, Sakata S, Yashiro H, Sakakura N, Mizuno T, Arimura T, Yamaura H, Murata S, Imai Y, Sakao Y, Inaba Y* : The Utility of Indigo Carmine and Lipiodol Mixture for Preoperative Pulmonary Nodule Localization before Video-Assisted Thoracic Surgery. *Journal of vascular and interventional radiology: JVIR*, 30(3): 446-52, 2018.
- 028 *Hishida A, Ugai T, Fujii R, Nakatochi M, Wu MC, Ito H, Oze I, Masahiro T, Yasumasa N, Nishiyama T, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Koyama T, Matsui D, Watanabe Y, Kawaguchi T, Matsuda F, Momozawa Y, Kubo M, Naito M, Matsuo K, Wakai K* : GWAS analysis reveals a significant contribution of PSCA to the risk of *Helicobacter pylori*-induced gastric atrophy. *Carcinogenesis*, doi: 10.1093/carcin/bgz016, 2019.
- 029 *Kako S, Gomyo A, Akahoshi Y, Harada N, Kameda K, Ugai T, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Kanda J, Kanda Y* : Haploidentical transplantation using low-dose alemtuzumab: Comparison with haploidentical transplantation using low-dose thymoglobulin. *European journal of haematology*, 102(3): 256-64, 2019.
- 030 *Kameda K, Kimura SI, Misaki Y, Yoshimura K, Gomyo A, Hayakawa J, Tamaki M, Kusuda M, Akahoshi Y, Ugai T, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Tanihara A, Wada H, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Kanda Y* : Associations between febrile neutropenia-related

- parameters and the risk of acute GVHD or non-relapse mortality after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone marrow transplantation*, 54(5): 707-16, 2019.
- 031 *Kikuchi H, Kuwahara K, Kiyohara K, Villalonga-Olives E, Brewer N, Aman-Oloniyo A, Aggarwal P, Restrepo-Mendez MC, Hara A, Kakizaki M, Akiyama Y, Onishi K, Kurotani K, Haseda M, Amagasa S, Oze I* : Perceived Barriers to Career Progression Among Early-Career Epidemiologists: Report of a Workshop at the 22nd World Congress of Epidemiology. *Journal of epidemiology*, 29(1): 38-41, 2019.
- 032 *Lawrenson K, Song F, Hazelett DJ, Kar SP, Tyrer J, Phelan CM, Corona RI, Rodriguez-Malave NI, Seo JH, Adler E, Coetzee SG, Segato F, Fonseca MAS, Amos CI, Carney ME, Chenevix-Trench G, Choi J, Doherty JA, Jia W, Jin GJ, Kim BG, Le ND, Lee J, Li L, Lim BK, Adenan NA, Mizuno M, Park B, Pearce CL, Shan K, Shi Y, Shu XO, Sieh W, Thompson PJ, Wilkens LR, Wei Q, Woo YL, Yan L, Karlan BY, Freedman ML, Noushmehr H, Goode EL, Berchuck A, Sellers TA, Teo SH, Zheng W, Matsuo K, Park S, Chen K, Pharoah PDP, Gayther SA, Goodman MT* : Genome-wide association studies identify susceptibility loci for epithelial ovarian cancer in east Asian women. *Gynecologic oncology*, 153(2): 343-55, 2019.
- 033 *Lu Y, Kweon SS, Tanikawa C, Jia WH, Xiang YB, Cai Q, Zeng C, Schmit SL, Shin A, Matsuo K, Jee SH, Kim DH, Kim J, Wen W, Shi J, Guo X, Li B, Wang N, Zhang B, Li X, Shin MH, Li HL, Ren Z, Oh JH, Oze I, Ahn YO, Jung KJ, Conti DV, Schumacher FR, Rennert G, Jenkins MA, Campbell PT, Hoffmeister M, Casey G, Gruber SB, Gao J, Gao YT, Pan ZZ, Kamatani Y, Zeng YX, Shu XO, Long J, Matsuda K, Zheng W* : Large-Scale Genome-Wide Association Study of East Asians Identifies Loci Associated With Risk for Colorectal Cancer. *Gastroenterology*, 156(5): 1455-66, 2019.
- 034 *Maeda Y, Ugai T, Kondo E, Ikegame K, Murata M, Uchida N, Miyamoto T, Takahashi S, Ohashi K, Nakamae H, Fukuda T, Onizuka M, Eto T, Ota S, Hirokawa M, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y, Kanda J* : HLA discrepancy between graft and host rather than that graft and first donor impact the second transplant outcome. *Haematologica*, 104(5): 1055-61, 2019.
- 035 *Mori M, Hira A, Yoshida K, Muramatsu H, Okuno Y, Shiraishi Y, Anmae M, Yasuda J, Tadaka S, Kinoshita K, Osumi T, Noguchi Y, Adachi S, Kobayashi R, Kawabata H, Imai K, Morio T, Tamura K, Takaori-Kondo A, Yamamoto M, Miyano S, Kojima S, Ito E, Ogawa S, Matsuo K, Yabe H, Yabe M, Takata M* : Pathogenic mutations identified by a multi-modality approach in 117 Japanese Fanconi anemia patients. *Haematologica*, doi: 10.3324/haematol.2018.207241, 2019.
- 036 *Nakatochi M, Kanai M, Nakayama A, Hishida A, Kawamura Y, Ichihara S, Akiyama M, Ikezaki H, Furusyo N, Shimizu S, Yamamoto K, Hirata M, Okada R, Kawai S, Kawaguchi M, Nishida Y, Shimanoe C, Ibusuki R, Takezaki T, Nakajima M, Takao M, Ozaki E, Matsui D, Nishiyama T, Suzuki S, Takashima N, Kita Y, Endoh K, Kuriki K, Uemura H, Arisawa K, Oze I, Matsuo K, Nakamura Y, Mikami H, Tamura T, Nakashima H, Nakamura T, Kato N, Matsuda K, Murakami Y, Matsubara T, Naito M, Kubo M, Kamatani Y, Shinomiya N, Yokota M, Wakai K, Okada Y, Matsuo H* : Genome-wide meta-analysis identifies multiple novel loci associated with serum uric acid levels in Japanese individuals. *Communications biology*, doi: 10.1038/s42003-019-0339-0, 2019.
- 037 *Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Hijioka S, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K* : Conversion surgery only for highly selected patients with unresectable pancreatic cancer: a satisfactory outcome in exchange for a lower resection rate. *Surgery today*, doi: 10.1007/s00595-019-01776-y, 2019.
- 038 *Ninomiya T, Ishikawa N, Inoue K, Kubo T, Yasugi M, Shibayama T, Maeda T, Fujitaka K, Kodani M, Yokoyama T, Kuyama S, Ochi N, Ueda Y, Miyoshi S, Kozuki T, Amano Y, Kubota T, Sugimoto K, Bessho A, Ishii T, Watanabe K, Oze I, Hotta K, Kiura K* : Phase 2 Study of Afatinib Alone or Combined With Bevacizumab in Chemo-naïve Patients With Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer Harboring EGFR Mutations: AfaBev-CS Study Protocol. *Clinical lung cancer*, 20(2): 134-8, 2019.
- 039 *Onishi S, Sawaki M, Ishiguro J, Kataoka A, Iwase M, Sugino K, Adachi Y, Gondo N, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Matsuo K, Yatabe Y, Iwata H* : The overall survival of breast cancer patients without adjuvant therapy. *Surgery today*, 49(7): 610-20, 2019.
- 040 *Ranjit M, Hirano M, Aoki K, Okuno Y, Ohka F, Yamamichi A, Kato A, Maeda S, Motomura K, Matsuo K, Enomoto A, Ino Y, Todo T, Takahashi M, Wakabayashi T, Kato T, Natsume A* : Aberrant Active cis-Regulatory Elements Associated with Downregulation of RET Finger Protein Overcome Chemoresistance in Glioblastoma. *Cell reports*, 26(9): 2274-81.e5, 2019.
- 041 *Sado J, Kitamura T, Kitamura Y, Liu R, Ando E, Sobue T, Sugawara Y, Matsuo K, Nakayama T,*

- Tsuji I, Ito H, Suzuki T, Katanoda K, Tominaga S* : Coffee Consumption and All-Cause and Cardiovascular Mortality- Three-Prefecture Cohort in Japan. *Circulation journal: official journal of the Japanese Circulation Society*, 83(4): 757-66, 2019.
- 042 *Schmit SL, Edlund CK, Schumacher FR, Gong J, Harrison TA, Huyghe JR, Qu C, Melas M, Van Den Berg DJ, Wang H, Tring S, Plummer SJ, Albanes D, Alonso MH, Amos CI, Anton K, Aragaki AK, Arndt V, Barry EL, Berndt SI, Bezieau S, Bien S, Bloomer A, Boehm J, Boutron-Ruault MC, Brenner H, Brezina S, Buchanan DD, Butterbach K, Caan BJ, Campbell PT, Carlson CS, Castelao JE, Chan AT, Chang-Claude J, Chanock SJ, Cheng I, Cheng YW, Chin LS, Church JM, Church T, Coetzee GA, Cotterchio M, Cruz Correa M, Curtis KR, Duggan D, Easton DF, English D, Feskens EJM, Fischer R, FitzGerald LM, Fortini BK, Fritsche LG, Fuchs CS, Gago-Dominguez M, Gala M, Gallinger SJ, Gauderman WJ, Giles GG, Giovannucci EL, Gogarten SM, Gonzalez-Villalpando C, Gonzalez-Villalpando EM, Grady WM, Greenson JK, Gsur A, Gunter M, Haiman CA, Hampe J, Harlid S, Harju JF, Hayes RB, Hofer P, Hoffmeister M, Hopper JL, Huang SC, Huerta JM, Hudson TJ, Hunter DJ, Idos GE, Iwasaki M, Jackson RD, Jacobs EJ, Jee SH, Jenkins MA, Jia WH, Jiao S, Joshi AD, Kolonel LN, Kono S, Kooperberg C, Krogh V, Kuehn T, Kury S, LaCroix A, Laurie CA, Lejbkovicz F, Lemire M, Lenz HJ, Levine D, Li CI, Li L, Lieb W, Lin Y, Lindor NM, Liu YR, Loupakis F, Lu Y, Luh F, Ma J, Mancao C, Manion FJ, Markowitz SD, Martin V, Matsuda K, Matsuo K, McDonnell KJ, McNeil CE, Milne R, Molina AJ, Mukherjee B, Murphy N, Newcomb PA, Offit K, Omichessan H, Palli D, Cotore JPP, Perez-Mayoral J, Pharoah PD, Potter JD, Qu C, Raskin L, Rennert G, Rennert HS, Riggs BM, Schafmayer C, Schoen RE, Sellers TA, Seminara D, Severi G, Shi W, Shibata D, Shu XO, Siegel EM, Slattery ML, Southey M, Stadler ZK, Stern MC, Stintzing S, Taverna D, Thibodeau SN, Thomas DC, Trichopoulou A, Tsugane S, Ulrich CM, van Duijnhoven FJB, van Guelpan B, Vijai J, Virtamo J, Weinstein SJ, White E, Win AK, Wolk A, Woods M, Wu AH, Wu K, Xiang YB, Yen Y, Zanke BW, Zeng YX, Zhang B, Zubair N, Kweon SS, Figueiredo JC, Zheng W, Marchand LL, Lindblom A, Moreno V, Peters U, Casey G, Hsu L, Conti DV, Gruber SB* : Novel Common Genetic Susceptibility Loci for Colorectal Cancer. *Journal of the National Cancer Institute*, 111(2): 146-57, 2019.
- 043 *Sueoka E, Watanabe T, Mashima T, Shirakami Y, Komori A, Matsuo K, Yoshikawa HY, Cho KA, Park TJ, Seimiya H, Kim EG, Suganuma M, Chung J* : Meeting report of the 14th Japan-Korea joint symposium on cancer and aging research: current status of translational research and approaches to precision medicine. *Journal of cancer research and clinical oncology*, 145(5): 1263-71, 2019.
- 044 *Sugita J, Kagaya Y, Miyamoto T, Shibasaki Y, Nagafuji K, Ota S, Furukawa T, Nara M, Akashi K, Taniguchi S, Harada M, Matsuo K, Teshima T* : Myeloablative and reduced-intensity conditioning in HLA-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation using post-transplant cyclophosphamide. *Bone marrow transplantation*, 54(3): 432-41, 2019.
- 045 *Takeuchi F, Kukimoto I, Li Z, Li S, Li N, Hu Z, Takahashi A, Inoue S, Yokoi S, Chen J, Hang D, Kuroda M, Matsuda F, Mizuno M, Mori S, Wu P, Tanaka N, Matsuo K, Kamatani Y, Kubo M, Ma D, Shi Y* : Genome-wide association study of cervical cancer suggests a role for ARRDC3 gene in human papillomavirus infection. *Human molecular genetics*, 28(2): 341-8, 2019.
- 046 *Wahiduzzaman M, Karnan S, Ota A, Hanamura I, Murakami H, Inoko A, Rahman ML, Hyodo T, Konishi H, Tsuzuki S, Hosokawa Y* : Establishment and characterization of CRISPR/Cas9-mediated NF2 (-/-) human mesothelial cell line: Molecular insight into fibroblast growth factor receptor 2 in malignant pleural mesothelioma. *Cancer science*, 110(1): 180-93, 2019.
- 047 *Yabe M, Koike T, Ohtsubo K, Imai E, Morimoto T, Takakura H, Koh K, Yoshida K, Ogawa S, Ito E, Okuno Y, Muramatsu H, Kojima S, Matsuo K, Mori M, Hira A, Takata M, Yabe H* : Associations of complementation group, ALDH2 genotype, and clonal abnormalities with hematological outcome in Japanese patients with Fanconi anemia. *Annals of hematology*, 98(2): 271-80, 2019.
- 048 *Yamagishi K, Iso H, Shimazu T, Tamakoshi A, Sawada N, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nakayama T, Kitamura Y, Sado J, Tsuji I, Sugawara Y, Mizoue T, Inoue M, Nagata C, Sadakane A, Tanaka K, Tsugane S, Sasazuki S* : Fish intake and risk of mortality due to aortic dissection and aneurysm: A pooled analysis of the Japan cohort consortium. *Clinical nutrition (Edinburgh, Scotland)*, 38(4): 1678-83, 2019.
- 049 *Yang JJ, Yu D, Wen W, Shu XO, Saito E, Rahman S, Gupta PC, He J, Tsugane S, Xiang YB, Gao YT, Koh WP, Tamakoshi A, Irie F, Sadakane A, Tsuji I, Kanemura S, Matsuo K, Nagata C, Chen CJ, Yuan JM, Shin MH, Park SK, Pan WH, Qiao YL, Pednekar MS, Gu D, Sawada N, Li HL, Gao J, Cai H, Grant E, Tomata Y, Sugawara Y, Ito H, Wada*



- K, Shen CY, Wang R, Ahn YO, You SL, Yoo KY, Ashan H, Chia KS, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter JD, Zheng W : Tobacco Smoking and Mortality in Asia: A Pooled Meta-analysis. *JAMA network open*, doi: 10.1001/jamanetworkopen.2019.1474, 2019.
- 050 Yang Y, Wu L, Shu X, Lu Y, Shu XO, Cai Q, Beeghly-Fadiel A, Li B, Ye F, Berchuck A, Anton-Culver H, Banerjee S, Benitez J, Bjorge L, Brenton JD, Butzow R, Campbell IG, Chang-Claude J, Chen K, Cook LS, Cramer DW, deFazio A, Dennis J, Doherty JA, Dork T, Eccles DM, Edwards DV, Fasching PA, Fortner RT, Gayther SA, Giles GG, Glasspool RM, Goode EL, Goodman MT, Gronwald J, Harris HR, Heitz F, Hildebrandt MA, Hogdall E, Hogdall CK, Huntsman DG, Kar SP, Karlan BY, Kelemen LE, Kiemeny LA, Kjaer SK, Koushik A, Lambrechts D, Le ND, Levine DA, Massuger LF, Matsuo K, May T, McNeish IA, Menon U, Modugno F, Monteiro AN, Moorman PG, Moysich KB, Ness RB, Nevanlinna H, Olsson H, Onland-Moret NC, Park SK, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Phelan CM, Pike MC, Ramus SJ, Riboli E, Rodriguez-Antona C, Romieu I, Sandler DP, Schildkraut JM, Setiawan VW, Shan K, Siddiqui N, Sieh W, Stampfer MJ, Sutphen R, Swerdlow AJ, Szafron LM, Teo SH, Tworoger SS, Tyrer JP, Webb PM, Wentzensen N, White E, Willett WC, Wolk A, Woo YL, Wu AH, Yan L, Yannoukakos D, Chenevix-Trench G, Sellers TA, Pharoah PDP, Zheng W, Long J : Genetic Data from Nearly 63,000 Women of European Descent Predicts DNA Methylation Biomarkers and Epithelial Ovarian Cancer Risk. *Cancer research*, 79(3): 505-17, 2019.
- 051 Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Furukawa M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Sakaguchi M, Ishii H, Kojima Y, Matsuo K, Yoshitomi H, Nakamori S, Yanagimoto H, Yatabe Y, Furuse J, Mizuno N : Surgery for Pancreatic Neuroendocrine Tumor G3 and Carcinoma G3 Should be Considered Separately. *Annals of surgical oncology*, 26(5): 1385-93, 2019.
- 002 Tanikawa C, Kamatani Y, Toyoshima O, Sakamoto H, Ito H, Takahashi A, Momozawa Y, Hirata M, Fuse N, Takai-Igarashi T, Shimizu A, Sasaki M, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Naito M, Hishida A, Wakai K, Furusyo N, Murakami Y, Nakamura Y, Imoto I, Inazawa J, Oze I, Sato N, Tanioka F, Sugimura H, Hirose H, Yoshida T, Matsuo K, Kubo M, Matsuda K : A GWAS identifies gastric cancer susceptibility loci at 12q24.11-12 and 20q11.21. *Cancer Sci*, 109(12): 4015-4024, 2018.
- 003 Miki A, Sakurada Y, Tanaka K, Semba K, Mitamura Y, Yuzawa M, Tajima A, Nakatochi M, Yamamoto K, Matsuo K, Imoto I, Honda S : Genome-wide association study to identify a new susceptibility locus for central serous chorioretinopathy in the Japanese population. *Invest Ophthalmol Vis Sci*, 59(13): 5542-5547, 2018.
- 004 Hara T, Phuong PT, Fukuda D, Yamaguchi K, Murata C, Nishimoto S, Yagi S, Kusunose K, Yamada H, Soeki T, Wakatsuki T, Imoto I, Shimabukuro M, Sata M : Protease-activated receptor-2 plays a critical role in vascular inflammation and atherosclerosis in apolipoprotein e-deficient mice. *Circulation*, 38(16): 1706-1719, 2018.
- 005 Sato Y, Tajima A, Sato T, Nozawa S, Yoshiike M, Imoto I, Yamauchi A, Iwamoto T : Genome-wide association study identifies ERBB4 on 2q34 as a novel locus associated with sperm motility in Japanese men. *J Med Genet*, 55(6): 415-421, 2018.
- 006 Okamoto N, Kohmoto T, Naruto T, Masuda K, Imoto I : Primary microcephaly caused by novel compound heterozygous mutations in ASPM. *Hum Genome Var*, 5: 18015, 2018.

## がん病態生理学分野

[原著]

## 分子遺伝学分野

- 001 Okano S, Makita Y, Katada A, Harabuchi Y, Kohmoto T, Naruto T, Masuda K, Imoto I : Novel compound heterozygous CDH23 variants in a patient with Usher syndrome type I. *Hum Genome Var*, 6: 8, 2019
- 002 Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M : HNRNPLL, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*, 67: 1103-1111, 2018.
- 003 Hijioka S, Sakuma K, Aoki M, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Hara K, Yatabe Y : Clinical and in vitro studies of the correlation between MGMT and the effect of streptozocin in pancreatic NET. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83: 43-52, 2019.

- 004 *Matsushita, A., Sato, T., Mukai, S., Fujishita, T., Mishiro, E, Aoki, M., Hasegawa, Y., Sekodo, Y* : TAZ activation by Hippo pathway dysregulation induces cytokine gene expression and promotes mesothelial cell transformation. *Oncogene*, 38: 1966-1978, 2019.
- 005 *Maeda A, Irie K, Ando H, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Aoki M, Inaguma K, Kajita M, Fujimura A, Fukushima S* : Associations among regorafenib concentrations, severe adverse reactions, and ABCG2 and OATP1B1 polymorphisms. *Cancer Chemother Pharmacol*, 83: 107-113, 2019.

### 分子腫瘍学分野

- 001 *Tanaka I, Sato M, Kato T, Goto D, Kakumu T, Miyazawa A, Yogo N, Hase T, Morise M, Sekido Y, Girard L, Minna JD, Byers LA, Heymach JV, Coombes KR, Kondo M, Hasegawa Y* : eIF2 $\beta$ , a Subunit of Translation-Initiation Factor EIF2, Is a Potential Therapeutic Target for Non-Small Cell Lung Cancer. *Cancer Sci*, 109(6): 1843-1852, 2018.
- 002 *Ohara Y, Chew SH, Misawa N, Wang S, Somiya D, Nakamura K, Kajiyama H, Kikkawa F, Tsuyuki Y, Jiang L, Yamashita K, Sekido Y, Lipson KE, Toyokuni S* : Connective tissue growth factor-specific monoclonal antibody inhibits growth of malignant mesothelioma in an orthotopic mouse model. *Oncotarget*, 9(26): 18494-18509, 2018.
- 003 *Hmeljak J, Sanchez-Vega F, Hoadley KA, Shih J, Stewart C, Heiman DI, Tarpey P, Danilova L, Drill E, Gibb EA, Bowlby R, Kanchi R, Osmanbeyoglu HU, Sekido Y, Takeshita J, Newton Y, Graim K, Gupta M, Gay CM, Diao L, Gibbs DL, Thorsson V, Iype L, Kantheti HS, Severson DT, Ravagnani G, Desmeules P, Jungbluth AA, Travis WD, Dacic S, Chirieac LR, Galateau-Salle F, Fujimoto J, Husain AN, Silveira HC, Rusch VW, Rintoul RC, Pass H, Kindler H, Zauderer MG, Kwiatkowski DJ, Bueno R, Tsao AS, Creaney J, Lichtenberg T, Leraas K, Bowen J, Research Network T, Felau I, Zenklusen JC, Akbani R, Cherniack AD, Byers LA, Noble MS, Fletcher JA, Robertson G, Shen R, Aburatani H, Robinson BW, Campbell P, Ladanyi M* : Integrative Molecular Characterization of Malignant Pleural Mesothelioma. *Cancer Discov*, 8(12): 1548-1565, 2018.
- 004 *Matsushita A, Sato T, Mukai S, Fujishita T, Mishiro-Sato E, Okuda M, Aoki M, Hasegawa Y, Sekido Y* : TAZ activation by Hippo pathway dysregulation induces cytokine gene expression and promotes mesothelial cell transformation. *Oncogene*, 38(11): 1966-1978, 2019.
- 005 *Zong C, Kimura Y, Kinoshita K, Takasu S, Zhang X, Sakurai T, Sekido Y, Ichihara S, Endo G, Ichihara G* : Exposure to 1,2-dichloropropane upregulates the expression of activation-induced cytidine deaminase (AID) in human cholangiocytes co-cultured with macrophages. *Toxicol Sci*, 168(1): 137-148, 2019.
- 006 *Shishido Y, Tomoike F, Kuwata K, Fujikawa H, Sekido Y, Murakami-Tonami Y, Kameda T, Abe N, Kimura Y, Shuto S, Abe H* : A Covalent Inhibitor for Glutathione S-Transferase Pi (GSTP1-1) in Human Cells. *ChemBiochem*, 20(7): 900-905, 2019.
- 007 *Nozaki M, Yabuta N, Fukuzawa M, Mukai S, Okamoto A, Sasakura T, Fukushima K, Naito Y, Longmore GD, Nojima H* : LATS1/2 kinases trigger self-renewal of cancer stem cells in aggressive oral cancer. *Oncotarget*, 10(10): 1014-1030, 2019.
- 008 *Yoshida M, Ogino H, Iwata H, Hattori Y, Hashimoto S, Nakajima K, Sasaki S, Hara M, Sekido Y, Mizoe JE, Shibamoto Y* : Transient increases in serum  $\alpha$  fetoprotein and protein induced by vitamin K antagonist II levels following proton therapy does not necessarily indicate progression of hepatocellular carcinoma. *Oncol Lett*, 17(3): 3026-3034, 2019.
- 009 *Wu L, Dell'Anno I, Lapidot M, Sekido Y, Chan ML, Kohno M, Serre-Beinier V, Felley-Bosco E, de Perrot M* : Progress of malignant mesothelioma research in basic science: A review of the 14th international conference of the international mesothelioma interest group (iMig2018). *Lung Cancer*, 127: 138-145, 2019.

### システム解析学分野

- 001 *Moriyama T, Imoto S, Hayashi S, Shiraishi Y, Miyano S, Yamaguchi R* : A Bayesian model integration for mutation calling through data partitioning. *Bioinformatics*, btz233, 2019.

### 腫瘍制御学分野

- 001 *Kokuda R, Watanabe R, Okuzaki D, Akamatsu H, Oneyama C* : MicroRNA-137-mediated Src oncogenic signaling promotes cancer progression. *Genes Cells*, 23(8): 688-701, 2018.
- 002 *Hikita T, Miyata M, Watanabe R, Oneyama C* : Sensitive and rapid quantification of exosomes by fusing luciferase to exosome marker proteins. *Sci Rep*, 8: 14035, 2018.
- 003 *Hikita T, Kuwahara A, Watanabe R, Miyata M, Oneyama C* : Src in endosomal membranes promotes

exosome secretion and tumor progression. *Sci Rep*, 9: 3265, 2019.

## 腫瘍免疫応答研究分野

[原著]

- 001 *Ohta R, Demachi-Okamura A, Akatsuka Y, Fujiwara H, Kuzushima K*. : Improving TCR affinity on 293T cells. *J Immunol Methods*. 466: 1, 2019.
- 002 *Ueda N, Uemura Y, Zhang R, Kitayama S, Iriguchi S, Kawai Y, Yasui Y, Tatsumi M, Ueda T, Liu TY, Mizoro Y, Okada C, Watanabe A, Nakanishi M, Senju S, Nishimura Y, Kuzushima K, Kiyoi H, Naoe T, Kaneko S*. : Generation of TCR-Expressing Innate Lymphoid-like Helper Cells that Induce Cytotoxic T Cell-Mediated Anti-leukemic Cell Response. *Stem Cell Reports*. 10(6): 1935, 2018.
- 003 *Akahori Y, Wang L, Yoneyama M, Seo N, Okumura S, Miyahara Y, Amaishi Y, Okamoto S, Mineno J, Ikeda H, Maki T, Fujiwara H, Akatsuka Y, Kato T, Shiku H*. : Antitumor activity of CAR-T cells targeting the intracellular oncoprotein WT1 can be enhanced by vaccination. *Blood*. 132(11): 1134, 2018.
- 004 *Abe A, Yamamoto Y, Katsumi A, Okamoto A, Tokuda M, Inaguma Y, Yamamoto K, Yanada M, Kanie T, Tomita A, Akatsuka Y, Okamoto M, Kamayama T, Mayeda A, Emi N*. : Rearrangement of VPS13B, a causative gene of Cohen syndrome, in a case of RUNX1-RUNX1T1 leukemia with t (8;12;21). *Int J Hematol*. 108(2): 208, 2018.

## 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Nejo T, Matsushita H, Karasaki T, Nomura M, Saito K, Tanaka S, Takayanagi S, Hana T, Takahashi S, Kitagawa Y, Koike T, Kobayashi Y, Nagae G, Yamamoto S, Ueda H, Tatsuno K, Narita Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Aburatani H, Mukasa A, Saito N, Kakimi K*. : Reduced Neoantigen Expression Revealed by Longitudinal Multiomics as a Possible Immune Evasion Mechanism in Glioma. *Cancer Immunol Res*, 7: 1148-1161, 2019
- 002 宮井まなみ, 松下博和 : がん治療における免疫療法. *保健の科学*, 61: 481-486, 2019

## 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Guida F, Sun N, Bantis LE, Muller DC, Li P, Taguchi A, Dhillon D, Kundnani DL, Patel NJ, Yan Q, Byrnes G, Moons KGM, Tjønneland A, Panico S, Agnoli C, Vineis P, Palli D, Bueno-de-Mesquita B, Peeters PH, Agudo A, Huerta JM, Dorronsoro M, Barranco MR, Ardanaz E, Travis RC, Byrne KS, Boeing H, Steffen A, Kaaks R, Hüsing A, Trichopoulou A, Lagiou P, La Vecchia C, Severi G, Boutron-Ruault MC, Sandanger TM, Weiderpass E, Nøst TH, Tsilidis K, Riboli E, Grankvist K, Johansson M, Goodman GE, Feng Z, Brennan P, Johansson M, Hanash SM*. : Assessment of Lung Cancer Risk on the Basis of a Biomarker Panel of Circulating Proteins. *JAMA Oncol*, 4: e182078, 2018.
- 002 *Capello M, Vykoukal JV, Katayama H, Bantis LE, Wang H, Kundnani DL, Aguilar-Bonavides C, Aguilar M, Tripathi SC, Dhillon DS, Momin AA, Peters H, Katz MH, Alvarez H, Bernard V, Ferri-Borgogno S, Brand R, Adler DG, Firpo MA, Mulvihill SJ, Mollndrem JJ, Feng Z, Taguchi A, Maitra A, Hanash SM*. : Exosomes harbor B cell targets in pancreatic adenocarcinoma and exert decoy function against complement-mediated cytotoxicity. *Nat Commun*, 10: 254, 2019.

## がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Saad MI, Alhanyani S, McLeod L, Liang Yu L, Alanazi M, Deswaerte V, Tang K, Jarde T, Smith JA, Prodanovic Z, Tate MD, Balic JJ, Watkins DM, Cain JE, Bozinovski S, Algar E, Kohmoto T, Ebi H, Ferlin W, Garbers C, Ruwanpura S, Sagi I, Rose-John S, Jenkins BJ*. : ADAM17 selectively activates the IL-6 trans-signaling/ERK MAPK axis in KRAS-addicted lung cancer. *EMBO Molecular Medicine*, 11(4): e9976, 2019
- 002 *Kondoh C, Horio Y, Hayashi Y, Ebi H, Hida T, Hasegawa Y, Yatabe Y*. : ALK Expression in Small Cell Lung Cancer. *Histopathology*, 75(1): 20-28, 2019
- 003 *Song KA, Hosono Y, Turner C, Jacob S, Lochmann TL, Murakami Y, Patel NU, Ham J, Hu B, Powell KM, Coon CM, Windle B, Oya Y, Koblinski JE, Harada H, Levenson JD, Souers AJ, Hata AN, Boikos SA, Yatabe Y, Ebi H\*, Faber AC\**. (\*; *Corresponding Author*) : Increased synthesis of MCL-1 protein underlies initial survival of EGFR mutant lung cancer to EGFR inhibitors and provides a novel drug target. *Clin Cancer Res*, 24: 5658-5672, 2018



- 004 *Kotani H, Adachi Y, Kitai H, Tomida S, Bando H, Faber AC, Yoshino T, Voon DC, Yano S, Ebi H* : Distinct dependencies on receptor tyrosine kinases in the regulation of MAPK signaling between BRAF V600E and non-V600E mutant lung cancers. *Oncogene*, 37: 1775-1787, 2018
- 005 *Yoshino T, Arnold D, Taniguchi H, Pentheroudakis G, Yamazaki K, Xu RH, Kim TW, Ismail F, Tan IB, Yeh KH, Grothey A, Zhang S, Ahn JB, Chong D, Chen LT, Kopetz S, Eguchi-Nakajima T, Ebi H, Ohtsu A, Cervantes A, Muro K, Tabernero J, Minami H, Ciardiello F, Douillard JY* : Pan-Asian adapted ESMO consensus guidelines for the management of patients with metastatic colorectal cancer; A JSMO - ESMO initiative endorsed by CSCO, KACO, MOS, SSO and TOS. *Ann Oncol*, 29: 44-70, 2018
- 006 衣斐寛倫 : 特集 呼吸器病学 TOPICS 2018-19 7.腫瘍ドライバー遺伝子異常を有する希少肺がんの治療.分子呼吸器病, 23 : 54-56, 2019.
- 007 衣斐寛倫 : RAS/MAPK系に対する治療開発と課題.実験医学, 36: 2530-2534, 2018.
- 008 衣斐寛倫 : KRAS 遺伝子変異肺がんに対する分子標的治療.最新医学, 73: 983-988, 2018.

